

第Ⅰ章 土器

はじめに

2003年の報告Ⅰでは、遺物報告編として、埋積浅谷（旧河道）資料、わけても26地区出土資料を中心に、取り上げ層位ごとに検出した土器群の事実報告を記載した。そして本文編として、それらの資料に若干の遺構資料を加え、時間軸設定に向けた考古学的な検討を行った。このように、報告Ⅰでは旧河道調査区の限られた資料を基にしていたが、層位ごとに把握した土器様相の変化を時間軸に置き換え、八日市地方1～10期という10段階区分の骨子を組むことができた。また、遺構資料を加えても、概ねこの土器様相の変遷には大きな変更がない見通しももっていた。しかし、埋積浅谷からの報告資料自体は、集落Ⅰ期に数量的な偏りを見せており、集落Ⅱ期およびⅢ期については、遺構資料、つまり今回報告資料によって、補足されるべきとしていたものである。

本章では、まず、遺構ごとに出土土器を提示し、従前の10期区分にしたがって各遺構の所属時期を検証する。その記載にあたっては、同一遺構内における出土資料の一括性や、あるいは、異系統土器（搬入土器）の共伴関係に留意した。報告Ⅰで基準とした埋積浅谷の層位による土器の共伴関係を基準としていたが、遺構における共伴関係を追認するためである。そして最後の第4節では、報告Ⅰの本文編に対応する分析として、従前の10期区分を軸に、今回の報告によって資料の増補が可能となった集落Ⅱ期とⅢ期を主眼に据えた系統及び様相の変遷を再検討する。方法論的には、多種多様な地域の要素を取り込みながら、時間の流れとともに変化する姿をたどっていくもので、特に、形と文様の変化に加えて、整形手法・施文方法など、できるだけ細やかで多面的な視点からアクセスを試みる報告Ⅰの方向性を踏襲した。

土器の観察や図化の方法等については、基本的には報告Ⅰに準拠しているが、提示方法で異なる点もあるため、以下、本書における土器の掲載方法や、土器観察結果の表現手法等について、留意点をあらかじめ記載する。

a. 基本事項

土器図版は、拓本資料も含めてすべてS=1/4とした。トレース作業に関しては、数点を除きすべてAdobe Illustratorを使用している。したがって、付属のDVD収録図はベクトルデータである。

尚、掲載番号とともに併記した整理番号（S-〇〇）は、整理作業における実測番号（整理番号=ID）を示している。将来の台帳管理や図面照合、資料調査等との整合性を図るために記載した。

b. 遺構名称について

発掘調査時点では、調査区ごとに遺構名が設定されていたが（以下「旧遺構名」という）、報告Ⅱの遺構編刊行に伴い、環濠と方形周溝墓に新たな遺構名を付している。まず、複数の調査区にまたがる環濠については、遺跡全体の中で位置づけるため、「環濠01」のように新たな通しの遺構名を付している。方形周溝墓に関しては、調査時に複数の溝や土坑としたもので構成されている場合が多く、調査区単位での表記は変わらないが、「〇〇地区SX〇〇」のように、新たな遺構名で再編している。

今回の土器編では、その新しい遺構名に準拠して掲載し、括弧書きで旧遺構名も併記した。長期にわたる出土品の記名や実測、木製品の観察表等は、旧遺構名で行われており、実際、製玉編及び木器編の報告では、旧遺構名のまま報告している。わかりにくい結果となつたが、報告Ⅱ遺構編では、新遺構名に旧遺構名も併記しており、将来の遺物照合や資料調査に混乱が生じないよう配慮している。

c. 掲載順序

掲載順序は、環濠からはじまり、方形周溝墓、その他の遺構資料（平地式建物跡、土坑等）の順とした。複数の調査区にまたがる環濠や方形周溝墓等に関しては、調査区ごとに遺物の取り上げ手法等が異なるため、同一遺構であっても調査区別に、さらに規模が大きい環濠の場合では、取り上げ範囲（区画設定のない場合は Gr 範囲）ごとに区分して掲載しているものもある。環濠の出土資料では、同一溝だからといって、排水など環濠としての機能を失った後に廃絶・埋没していく過程は、その周囲の空間利用形態（例えば居住域か墓域など）に左右されている可能性が高く、溝の全体が同時に埋まっているとは限らないと考えているからである。

各遺構の位置については、環濠に関しては本書第2図、方形周溝墓やその他の遺構位置に関しては、報告II第一部 遺構編（2013）、あるいは付属のDVDにも収録しているので、参照されたい。

なお、遺構編に掲載していない遺構、今回の報告によって必要となった遺構の位置に関しても、新たに補足図をDVDに収録している。また、遺構編では提示できなかった方形周溝墓における遺物の出土状況図については、必要に応じて本文中に図面を掲載した。

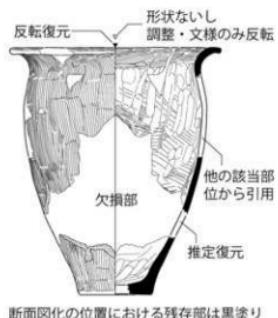
d. 器種名称について

形をもとに壺形土器、甕形土器、鉢形土器、高杯形土器を主に区分し、文章及び観察表内では、省略して壺、甕、鉢、高杯とした。また、前期の遺物である深鉢形土器も甕として掲載する。

e. 実測・図化について

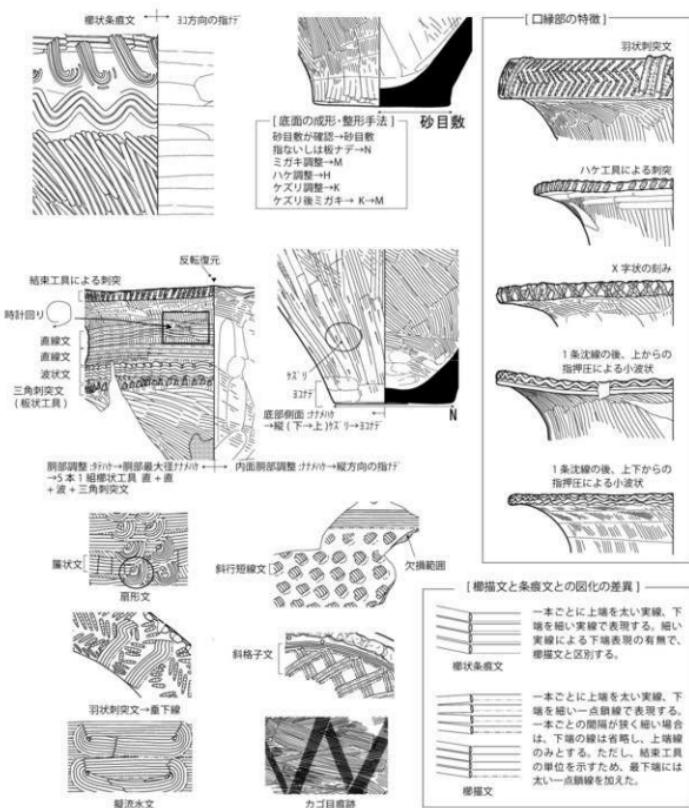
実測はすべて肉眼観察で行い、図化の指示は、すべて下漬が土器中央位置を定め、調整の読み取りを指示した。土器の調整方法等、読み取った情報をなるべく網羅して図化することを試み、表現手法も統一を心掛けた。

八日市地方遺跡の土器は、ゆがみの多いものが大半である。その状況下で立体の土器を1/4ずつ外面、内面として図化する際、遺存率が3/4以上あるものは、器面調整や文様の表現、単位文に重点を置いて正面とし、そのまま図化している。遺存率が2/3以下になると、形状か、あるいは器面調整や文様か、どちらを重視するかを決定し、形状ないしは調整・文様のみを反転して図化している（この際、正中線上に▽を付す）。また、遺存率が1/3以下になると、全体を反転復元して図化している（この際、正中線上に▼を付す）。断面は、土器の厚みを忠実に表現できるように黒塗りとした。ただし、図化用に正置した状態で計測できた部分のみを黒塗りで表現し、欠損している箇所で、隣接部位等から復元できる場合は、白抜きで表現している。その他、調整等の表現手法や、観察表における調整の記載は、第3図に事例を提示した。



f. 観察表について

実測・土器観察によって得られた所見については、第3図で示したとおり、実測図上での表現手法と掲載した土器観察表における記載で、ほぼ網羅できるよう努めた。ただし、本文中に掲載した観察表は、紙幅の関係もあって、実測図と照合しながら相互補完的に必要と思われる項目に絞ってある。1Dや出土地点に関する基本情報、色調・法量・胎土の項目を加えた正式な土器観察表は、付録のDVDに収録している。



第3図 土器の図化方法と用語使用例

凡例

- ・模描文と条痕文は、意図的に違う表現手法で図化している。一点鎖線は模描文にのみ用いており、結束工具の単位がわかるように留意した。
- ・模描文と条痕文は本東工具の組合せは、何本束ねているか力強さを取るものとし、読み取れたものに囲むには觀察表に記す。
- ・土器の表面が摩耗して調整が読み取れない以外は図化し、觀察表には「**ギ**」、「**ギキ**」、「**ギヤ**」など調整を記し、調整範囲は→で記す。
- ・模描文や条痕文調整は、模描文系土器は頭部から底部へと上から下へ施すが、条痕文系土器は頭部最大径から頭部に向けて下から上へと文様を描いていくものや、直線文で区画した後、波状文、撥上げ文などを施すものもみられ、系統差における施文順序に意味をもつものとし、歯力、施文順序がわかるように図化している。
- ・底部付近の成形・整形手法や底面の調整等の觀察は、非常に重要と考えており、多様な手法を実測図自体にも記載している。

第1節 環濠資料

1. 環濠01(13地区 SD13)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第8節第129図参照)

掲載図化した土器は1~4である。

環濠01は、当遺跡の中でいち早く埋没する環濠である。環濠01からの出土量は13地区、17地区とともにコンテナ1箱でも満たさず、極めて少量である。出土土器は、5期を主体とするが、1期以前の土器が混入している。

2. 環濠02(13地区 SD29)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第8節第130図参照)

掲載図化した土器は5~52である。

環濠02(13地区 SD29)は、埋積浅谷に流れ込む形状で検出しており、埋積浅谷と重なるD-9Gr内10層と互層をなす黄褐色砂層(報告Ⅱ 2013 遺構編第130図参照)には、5期以前の破片資料がみられる。またEJ-9Gr上層として取上げているものには、9期に位置づけられるもの(7~9)がみられる。こうした出土土器の様相は、平地式建物(SX01・02)と環濠02が重複しているためである。

また、上層で取上げている破片資料には、5期以前の条痕文系土器が散見するが、6期併行資料が主体を占める。その中に貝田町式細頸壺(32)もみられる。

F-9Gr下層、粘土ブロックとともに取上げられている一群(44~52)は一括りが高く、これらを6期の好資料としたい。47~52は、器面が全く摩耗しておらず、使用されずに廃棄されたものと考えられる。この6点の中でも47~50は施文工具が同一であるため、同一製作によるものと考えている。また、51、52の2点は、先述した4点と類似しているが、施文工具が別であり、近似した関係をもつ別の同一製作者の可能性があげられる。

遺構間接合したものとしては39があげられ、F11-02B-Kと接合している。

3. 環濠02(17地区 SD46)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第6節参照)

掲載図化した土器は53~138である。17地区では、環濠を土層断面設定箇所に合わせて、北から南へと1区から10区まで区分けし、遺物はこの区割りを利用して層位ごとに取り上げている。当環濠は、6期以降の廃絶後に、9期以降の土坑や方形周溝墓(SX06・SX04)との重複がみられる。こうした遺構間の切り合いによる混入が認められるため、区割りごとに掲載する。

もっとも資料が多くみられるのは、4~5区であり、方形周溝墓と重複しない箇所に該当する。

1区 53~64である。2~3期併行(53)や4期併行(64)もみられるが、その他は5~6期に位置づけられる。

2区 65~71である。5~6期に位置づけられる。

3区 72~77である。大型の条痕文系壺75は5期の範疇でもよいと考えるが、共伴する資料から5~6期にまたがる資料としたい。

4区 78~104である。90は、上・中層取り上げ資料であり、4区の中では5期まで古くなる可能性をもつ資料である。注目される資料としては、近江地方搬入と考えられる(78)があげられる。その他、沈潜文系土器継承壺(87)、櫛描文系無文の壺(93~97・101~103・104)、櫛描文系有文(81~83・89・91)と充実しており、他地域との併行関係を考えるには好資料である。

なお、82・88は4区以外の6~7区から出土したものと接合している。

5区 105~120である。2~3期併行(105)もあるが、その他は5~6期に位置づけられる。

6区 121～132である。5～6期に位置づけられる。130のように、口縁内面に指押圧がみられる資料は、上下からの押圧により作られる小波状口縁に先行する資料であり、5～6期にみられるものである。また、当区内には、貝田町式細頸壺の模倣品(124)が出土しているため、他地域との併行関係を確認できる好資料といえる。

7区 133～135である。5～6期に位置づけられる。

8区 136である。6期に位置づけられる。

9区 137～139である。5～6期に位置づけられる。

4. 環濠03A・03B(12地区 SD16・SD20)(報告II 2013遺構編 第8節第120図参照)

環濠03が2条に分かれて確認できる箇所は12地区のみであったため、他の地区での状況を加味して、1つ名称としているが、遺構の切り合いや出土する土器からも判断し、環濠03A→03Bへと造り替えがあったと考えている。

環濠03A 掲載図化した資料は140～143である。140・143は5～6期とやや古く、141・142は6期併行と考えられる。

環濠03B 144・145である。144は櫛描文系有文であるが、在地の器形ではなく異質である。145は、胸部下半ミガキ調整を施すくの字壺であり、搬入品の可能性が高い。どちらも7期と考えられる。

5. 環濠03(17地区 44)(報告II 2013遺構編 第6節参照)

掲載図化した土器は146～176である。17地区SD46同様に、北から南へ1区から12区まで区分しておらず、遺物はこの区割りを利用して、層位ごとに取り上げている。

12地区と違い、17地区では、2条の環濠はほぼ重なり、E-5Gr周辺の4・5区で部分的に切り合いが確認できるのみである。よって、12地区でみられた環濠03Bと併行する時期が廃絶時期でありながらも、環濠03Aの土器の混入がみられるものと考えている。また、I-2Gr周辺の11・12区では環濠02との重なりがみられる。

1区 146～150である。6～7期に位置づけられ、胸部下半ハケ調整のくの字壺(148)がみられる。胎土は花崗岩質であり、搬入品と考えられる。搬入先の候補としては、因幡東部から北近畿を考えている。150の無頸壺の蓋は、摩耗が激しく調整等は不明瞭であり、詳細な時期は不明である。取上げ層位は下層であるため、方形周溝茎の混入ではないものとしたい。5区出土の無頸壺(162)と蓋穴の位置とも合致し、セットになる可能性が高い。

2区 151～156である。151・152・154はaアゼ内からの出土であり、同一層からの取上げである。土層断面から判断して、中層からの出土であることがわかる。いずれも6～7期に位置づけられる。下層から出土したものの中には、ハケ調整のみの無文の壺口縁に小波状手法を取り入れたもの(151)がみられるのは興味深い。

3区 157である。157は大型壺の底部である。底面に砂目敷が残ることや、調整から判断し、6～7期に収まるものとして考えている。

4区 157～160である。158はbアゼ内からの出土であり、土層断面図から判断し上層からの出土であることがわかる。頸部下は欠失しており、破損後の補修痕がみられる資料である。159、160も含めて、6～7期に位置づけられる。

5区 161・162である。どちらも上層からの出土である。

6区 163～166である。いずれも上・中層からの出土であり、165・166は6～7期に、163・164は7期に位置づけられる。

7・8区 7区から167、8区から168が出土している。7～8区の土器量が少量であるのは、SX03・06周溝との重複する箇所であることが要因と考えられる。どちらも6～7期の範囲内に位置づけられる。

9・10区 169～173がある。9区は環濠02と03が重なりを見せはじめるところであり、環濠02と03の混在を示す可能性が高い。169は、7期までは下らないと考えられる櫛描文系無文の甕である。170～173は6～7期の範疇に収まるものと考えられる。また173は4区出土の破片とも接合している。

11・12区 174～176である。いずれも7期までは下らないと思われる資料である。

6. 環濠02・03(17地区 SD39)(報告II 2013 遺構編 第6節参照)

17地区 SD39は、環濠02・03が重複しているため、1条の溝として調査している。分岐していた17地区 SD46やSD44の土層状況とは異なり、砂質が僅かで粘性土が主体の覆土である。

掲載図化したのは177～188である。177・178は8～9期に位置づけられ、環濠名で取上げられているものの、環濠上面に築造された方形周溝墓の供獻土器である可能性が高い。179～181・184・185は古い様相を示しており、7期までは下らない5～6期の資料である。どちらかといふと環濠02併行の資料と考えられる。182・183・188も6期と考えられ、先述した土器同様に環濠02出土のものとして遜色ない。その中で型式的に新出にみえるものが櫛描文系有文甕(186)であるが、取上げ層位は、184・188と同様であるため、6期の範疇に入るものとしたい。

7. 環濠02・03(28地区 SD02)(報告II 2013 遺構編 第1章・第1節参照)

28地区は、17地区とは隣接しておらず、17地区から約30m西に位置している。28地区 SD02は17地区 SD46・44が合流した延長上の環濠であると判断している。

掲載図化したものは189～197である。192・193は上・中層から、189・194・195・197は中層から、189・190は中・下層出土である。194・195は7期までは下らない5～6期の資料であり、192・193は6～7期の範疇に収まる資料であるため、様相的には、若干の時期幅をもつものと思われる。

8. 環濠04(12地区 SD01)(報告II 2013 遺構編 第8節参照)

12地区 SD01は、ドットでのとり上げと層位での取り上げが混在しており、区割りによる取上げではしていない。しかし、調査区内検出範囲が30m内に収まることや、ドット資料と層位取り上げのものとの接合状況がみられるため、層位での取上げを重視し掲載した。

1層 198～206である。198～201・204は、7期までは遜らぬ8～9期に位置づけられる資料であり、環濠04の最終埋没時期を示しているものと思われる。それ以外の202・203・205・206は、以下説明する2層出土のものと同様で、6期併行資料である。

2層 207～242である。この中には1層より出土したものや、ドット取上げによるものも含まれるが、2層より出土した資料との接合があるため、2層としている。211・213を除いて6期併行と考えている。沈線文系継承型(215・216)や小波状口縁無文甕、櫛描文系無文甕も数多く出土しており、6期を示す好資料である。

よって、2層は6期を主体とし7期を含まず、1層に8期以降の資料がみられるものとしたい。211は条痕文継承型の受け口状大型壺の口縁部片であり、1層出土のものとドット中層相当出土と考えられる破片が接合しているものである。胎土も密であり、焼成も良好である。当初、1層併行時期のものとして捉えていたが、164が7期併行にあることや、6期から口縁装飾としてハケ工具による羽状刺突文がみられること、口縁形状が内傾することから、口縁下頸部を指押さえではなく、ハケ工具の刻みであるものでも、6期の範疇にはいる資料として再考している。

9. 環濠04(16地区SD08)(報告II 2013遺構編第7節参照)

16地区SD08は調査区の北西部に一部、かかるのみである。SD08より出土した土器は、北から南へと設定したAからD区の区割りを利用して取り上げられている。

A区 243である。ハケ調整の後、口縁外面及び頸部～口縁内面に櫛状条痕の調整がみられ、条痕成型ではない6期併行を示す好資料である。

B区 244～249である。上層から下層出土のものがみられるが、すべて6期併行である。

C・D区 250～260である。C区とD区出土で接合しているものが多いため、合わせて説明する。当区は、6期併行を主体とするが、7期にまで下がる様相のみえるものとして、250・252・253・257・258・260があげられる。

10. 環濠04(17地区SD02)(報告II 2013遺構編第1章、第6節参照)

掲載資料は261～275である。261・268を除いて、6期併行である。268は、E-11Gr内上層出土である。ここは方形周溝墓(SX17)との重複がみられる箇所に相当する。

土器の特徴は、口縁端部に1条沈線を入れた後、上方からのハケ工具による刺突がみられる櫛描文系無文表であることから、型的には7期以降のものとしたい。273は、外面ハケ調整の後、丁寧に縱方向のミガキ調整が施されており、口縁部を欠失するが、くの字表の脣部と考えている。

11. 環濠05(17地区SD12)(報告II 2013遺構編第6節参照)

環濠05は環濠04に附設する溝である。居住域から離れている箇所になるため、当環濠より出土した資料はコンテナ2箱と少量である。掲載資料は276～278である。いずれも6～7期の範疇に収まるものとしたい。

12. 環濠05(17地区SD38)(報告II 2013遺構編第6節参照)

方形周溝墓との重複がみられる箇所である。掲載資料は279～281である。279・280は上層位であり、環濠に位置づけられるものというよりは、方形周溝墓(SX13)の供獻土器の可能性が高い。いずれも9期併行である。281は、中層以下より出土した資料であり、本来の環濠05廃絶時期を示すものとして考えている。2方向に把手が付く大型鉢である。6～7期併行である。

13. 環濠06(11地区SD24)(報告II 2013第9節参照)

土器はコンテナ20箱出土しており、掲載した土器は、遺存率が高いものと、環濠廃絶時期より古相を示す土器片、破片でも特徴的なものである。当環濠は、居住域内に掘削された溝であり、廃絶後に住居や土坑、方形周溝墓の重複がみられるため、可能な限り、Grごとに紹介していくものである。

M-N-2Gr 282～284である。3点とも下層出土のものと接合しており、6～7期に位置づけられる。

の中でも 282 はほぼ完形であり、胎土は在地であるものの西日本系の土器と考えている。

M・N-4～6Gr 267～295 である。遺存率が高いものとして 294・295 があげられ、6～7期併行である。288・290 は 7 期までは下らない資料であり、5～6 期併行である。

N-7Gr 296～298 である。296・297 ともに完形に近い壺であり、6～7 期併行である。298 は条痕文系縁の破片資料であり、6 期以降には下らない資料である。

M・N-9・10Gr 299～310 である。基本として 6～7 期併行である。299 は上層出土であり、平地式建物との重複もみられる事から環濠埋没時以降と考えられ、9 期に位置づけている。300 は 1 期以前の縄文晩期併行壺片である。301 は 6 期以降には遡らない資料で、条痕文系縁口縁片である。西日本系の土器(305・308)と貝田町式の土器(304)が、隣接した箇所の下層よりみられるのは、広域な併行関係を示す資料と考えている。306 は下層で取上げられているもので、様相区分としては 6 期に位置づけられる。土器の残りも良く、混入というよりは、当溝埋没時に伴う資料として考えている。

14. 環濠 06(15 地区 2 イコウ)(報告Ⅱ 2013 遺構編第7節参照)

2 イコウという名称は、環濠や土坑の認識ができず、土器集中区として捉えて遺物を取り上げているためである。そういう状況下で、環濠 11 と合流するところから北に向けて A から F 区に区割りされており、環濠にあたる空間部分 A・B・E・F 区を環濠資料として掲載している。

掲載資料は 311～318 である。A・B 区としては、311～313・316・318 があげられ、型式的に 7 期に下る資料である。E～G 区としては 314・315・317 があげられ、6 期併行である。

15. 環濠 06(16 地区 SD07)(報告Ⅱ 2013 遺構編第7節参照)

環濠 11 と合流した南側に位置する。対象資料は 319～326 である。7 期を主体しながら、型式的に前後するようにみられる。319・320・324・325 は上層出土であり、7～8 期にまたがるものと考えられる。321～323 は中層出土であり、6～7 期に該当する。323 は、器形、文様等だけでなく、胎土からも搬入品であることがわかり、在地の土器様相から 6～7 期併行としたい。

16. 環濠 06(17 地区 SD01)(報告Ⅱ 2013 遺構編第7節参照)

17 地区 SD01 は、方形周溝墓(SX01)をきっているため、最終埋没時は墓よりも後出と考えられる。居住域から離れることから土器量も少ない。掲載資料は 327・328 である。いずれも 9 期併行に位置づけられる。

17. 環濠 05・06(28 地区 SD01)(報告Ⅱ 2013 遺構編第1節参照)

329 があげられる。9 期併行としたい。先述した 17 地区 SD01 と同時期と考えられる。

18. 環濠 07(11 地区 SD22)(報告Ⅱ 2013 遺構編第9節参照)

土器はコンテナ 20 箱分出土している。掲載対象は遺存率が高い資料及び特徴的な破片資料である。当環濠は、居住域内に掘削された溝であり、廃絶後に住居や土坑、方形周溝墓の重複がみられるため、北から南へ設定された a 区から g 区の区割りを基準に紹介していく。

a 区 330～335 である。上層より出土のものとして 330・332・334 があげられる。330・332 は栗林系と考えられ、いずれも 9 期併行である。中・下層としては 331・333・335 があげられ、いずれも 7～8 期併行に収まる。上層出土である 334 は、中・下層資料同様の 7～8 期と考えている。

b区 336～345である。上層より出土したものとして、337・338・340・345があげられる。337・345を除き、9期併行と考えている。b-d区に拡散するものとして341があげられるが、栗林式擴入品であり、9期と考えている。上・中層出土のものとしては、339・340があげられ、いずれも栗林系土器、9期併行のものと考えている。下層出土として、336・342があげられる。342は底部側面及び底面にはケズリ調整がみられ、形状から9期併行と考えている。

よって、b区内で取上げられているものは、下層からも9期のものがみられ、上、中層にわたり混在している。

c-d区 346～349である。上層出土のものとして348・349があげられる。349は栗林式擴入品であり、9期併行のものと考えている。下層出土のものとしては、346・347があげられる。どちらも7～8期併行と考えている。

e区 350～358である。環濠だけではなく隣接する土坑も同名称で取上げられている。環濠出土は350～356と考えられ、357・358は土坑に伴うものと考えている。350は遺構検出時から出土しており、環濠06・07上の平地式建物周溝ないしは土坑に伴うものと考えられる。土器の時期は9期併行である。351～355は7～8期併行、356は8期併行と考えている。



350 検出状況 環濠07(SD22e) 内

19. 環濠07(15地区SD05・07)(報告II 2013 遺構編 第7節参照)

15地区内環濠07は、SX08の周溝にきられた箇所を境に、別名称SD05・SD07としているものが該当する。掲載資料は359～364である。360・362は複数の遺構間接合しているもので、360は6期併行、362は7～8期併行と考えられる。359・361・363・364は、7～8期の範囲で考えられ、環濠07の埋没時の資料と考えられる。

20. 環濠09(6地区SD01)(報告II 2013 遺構編 第4節参照)

掲載資料は365～368である。いずれも7～8期内に収まる資料である。貝田町式土器の模倣品(366)や西日本系突付鉢(368)、沈線文系縦承型(367)が共伴しており、広域併行関係を考える上で好資料である。

21. 環濠6・10(16地区SD07C・D)(報告II 2013 遺構編 第7節参照)

掲載資料は372～375である。C区は環濠06と合流箇所、D区は環濠10に該当する。372～374はC区出土である。そのうち372・373は上層から出土しているが、7～8期に該当する。374は8～9期併行と考えられる。375はD区内上層出土で、9期併行である。SX03に伴う資料か。

22. 環濠11(15地区SD18)(報告II 2013 遺構編 第7節参照)

掲載資料は376～378で、いずれも6期併行である。378は内外面に粗圧痕が多く残る資料である。

第2節 方形周溝墓資料

1. 28地区 SX02・03(SD21)(報告II 2013遺構編 第1節第10,11図参照)

掲載資料は379～395である。

SX02・03は03が02をきて造墓している。しかし両遺構はほとんど時期差ではなく、共有した2個1対の関係をもつ墓としてとらえている。遺物は、調査区内で確認した周溝内から、まんべんなくみつかっており、すべて後から築造したSX03に伴うものと考えている。

その中でドットとして取上げたものは、385を除いてすべてである。ドットで取上げられている資料は、いずれも9期単純として位置づけられる好資料である。

385は43-81Gr内西側土器集中区の上面にある。内外面明瞭なケズリ調整がみられ、様相的には10期まで下がってもよい資料である。



2. 31地区 SX02(SD1-b)(報告II 2013遺構編 第1節第17図参照)

掲載資料は396～398である。

SX02は環濠12が埋まった後に造墓されたものである。いずれも時期は9期と考えられる。

3. II次・III次 SX08・SX01・SX10(報告II 2013遺構編 第3節第29,30図参照)

掲載資料は399～403である。

II次・III次調査区内の方形周溝墓は、環濠09東側に付設するように造墓している。墓に伴う土器として現地で取上げられているものはない。辛うじて出土地点から墓に伴うものとして提示できたものは、SX08に伴う399・400と、SX01に伴う401、SX10に伴う402・403である。

東海系模倣土器(399)、400はいずれも8期併行と考えられる。401は7～8期の範疇で考えられる。402・403は、2点とも小型の壺であり、ほぼ完形である。時期は、402は7～8期併行、403は7期併行と考えられる。

4. 6地区 SX01(SK03)、SX07(SK20)、SX08(SK24,25)、SX09(SK49)(報告II 2013遺構編 第4節第40-46図参照)

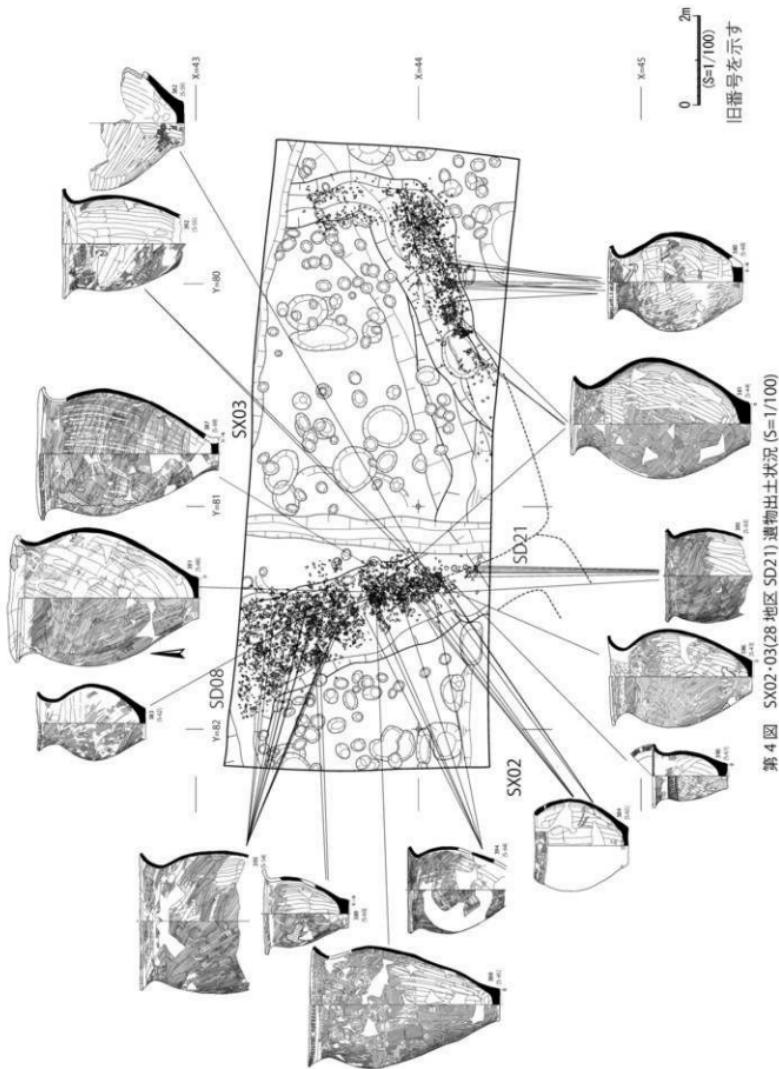
SX01掲載資料は404である。SX01はSK03(南西溝)とSK02(南東溝)と2つの溝で構成され、404はSK03から出土している。404は櫛描文系無文の小型甕であり、8期の範疇で考えられる。

SX07掲載資料は405である。

SX07は、環濠09を利用しながら造墓しており、SK21(西溝)とSK20(北溝)、SK22(南溝)で構成している。405はSK20から出土している。405は櫛描文系無文の小型甕であり、8期の範疇で考えられる。

SX08掲載資料は406～410である。

SX08は、北側周溝(SK25)と南側周溝(SK24)の2条で構成されている。北溝からは410が出土している。406～409の4点は南溝出土したものであり、その中でも、409は408に入れ子になつてみつかっている。408・409は8期併行と考えられる。406・407・410は7～8期の範疇に収るも



第4図 SX02-03(28地区 SD21)遺物出土状況(S=1/100)

のと考えられ、個々で詳細な時期を決定するのは困難であるが、408・409と同時期の8期と捉えたい。

SX09 掲載資料は411である。

方形周溝墓の北周溝と考えられるSK50からは組み物（フォーラム成果報告2第27図-91）が出土している。東周溝と考えられるSK49からは、411がみられる。いずれも時期は、9～10期併行と考えられる。

5. 8地区 SX01(SK23・SK20) (報告II 2013 遺構編 第4節第57図参照)

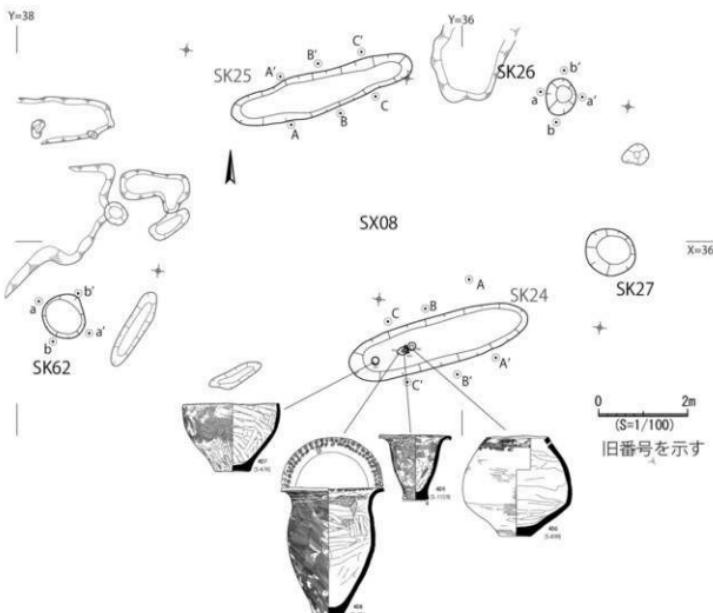
掲載資料は412～414である。

412はSX01の東溝(SK23)、413・414は南溝(SK20)から出土している。412は8期の新相に位置づけられるが、414のハケ調整無文の壺は、四線文出現期以降にみられるもので、9期併行と考えられる。

6. 18地区 SX08・09(SD04・SD02)・SX02(報告II 2013 遺構編 第5節第65図参照)

掲載資料は415～417である。SX09は環濠08に付設する形で造墓している。416はSX09 東南側周溝(SD02)より出土しており、415はSX09 東南側周溝(SD02)及びSX08 北西周溝(SD04)から出土している。415は8期併行と考えられ、コの字重ね文を施す無頸壺も同様の時期と捉えたい。

417はSX02から出土している。7～8期併行と考えられる。



第5図 SX08 南周溝遺物検出状況 (S=1/100)

7. 20 地区 SX01・SX02・SX04・SX14・SX16 (報告 II 2013 遺構編 第5節参照)

SX01 418～421 である。すべて東側周溝から出土している。小型の土器であり、特徴を捉えにくいが、9期併行と考えられる。

SX02 ほとんどが破片資料であり、図化したものは 422 である。7期併行と考えられる。

SX04 423～425 である。北西側周溝から出土しており、SX01 同様、すべて小型の土器である。9期併行と考えられる。

SX14 427・428 である。2点とも南側周溝から出土している。428 は古相の様相もみられ、6～7期併行、428 は 7期併行と考えられる。

SX16 426 である。東側周溝から出土しており、6～7期併行と考えられる。

8. 17 地区 SX02～SX06・SX08・SX09・SX14・SX16(報告 II 2013 遺構編 第6節参照)

SX02 掲載資料は 429～450 である。SX02 は環濠 03 上、環濠 04 に隣接して造墓しており、古相を示す環濠の混入遺物がみられる。方形周溝墓の時期を示す資料として、429～437 があげられる。429・430・433 は南側周溝から、431・432・434～436 は北側周溝から出土している。両者とも 9期併行に位置づけられるものと考えている。

混入遺物としてあげられるのは 438～450 である。

438～423・448・450 は、環濠 04 と隣接する箇所から出土している。438 は 1期以前と考えられる。その他は 5～6期併行の範疇に収まるものと考えられる。444～447 は環濠 03 と重複する箇所から出土しており、5～6期併行と考えられる。

SX03 掲載資料は 451～456 である。SX03 として取上げられているが、451、453～456 は、SX06 と重複する箇所から出土しており、SX06 に伴う可能性が高い。452 は、南側周溝から出土している。いずれも 9期併行と考えられる。

SX04 掲載資料は 457・458 である。457 は北側周溝からみつかっており、胴部下半には、焼成後穿孔がみられる。9期併行と考えられる。458 は環濠 03 と重複する箇所からみつかっており、本来、環濠 03 に伴うものと考えられ、6～7期に位置づけられる。

SX05 掲載資料は 459 である。459 は東側周溝より出土している。9期併行と考えられる。

SX06 掲載資料は 460～478 である。土器は区割りごとに取上げられている。区割り方法は、土層断面を設定した地点ごとに、南側周溝から時計回りに a 区から g 区まで設定している。

460～462 は a 区出土である。463～467 は b 区出土で、環濠 02・03 と重複する南側周溝にある。468～476 は c 区出土である。477～478 は d 区出土である。いずれも 9期併行と考えられる。

SX08 掲載資料は 479～481 である。SX08 は SX02 に付設し造墓しており、SX08 に伴うものとしては、北西側周溝から 3 点とも出土している。479 は搬入品と考えられ、山陰・山陽との併行関係を考えるのに好資料である。481 は 6～7期併行の甕の底部であり、環濠 03 の混入物と考えられる。

よって、479・480 が SX08 の時期を示す資料であり、10期併行と考えられる。

SX09 掲載資料は 482・483 である。5～6期



459 検出状況 H-2Gr 内 SX05(南から)

併行に位置づけられる。どちらも方形周溝墓の時期には伴わない資料であり、環濠 02 の混入物と考えられる。

SX14 掲載資料は 484・485 である。いずれも南西側周溝からの出土で、7～8 期併行である。

SX16 掲載資料は 486 である。9 期併行と考えられる。

9. 15・16 地区 SX04・SX02・SX03・SX05・SX09(報告 II 2013 遺構編 第 7 節参照)

SX04 掲載資料は 487～491 である。487～490 は南側周溝出土である。491 は西側周溝出土である。いずれも 9 期併行と考えられる。

SX02 掲載資料は 492 である。南側周溝出土である。9～10 期併行と考えられる。

SX03 掲載資料は 493・494 である。いずれも北側周溝出土である。8～9 期併行と考えられる。

SX05 掲載資料は 495～501 である。すべて北側周溝から出土しており、西側から B 区、C 区と取上げられている。495～497 は B 区、498～501 は C 区から出土している。いずれも 9 期併行と考えられる。

SX09 掲載資料は 502・503 である。502 は南側周溝から出土している。9 期併行に位置づけられる。503 は SX09 周溝と重複する土坑である SK10 から出土している。時期は 8 期併行と考えられ、方形周溝墓に伴うものではないと思われる。

SX11 掲載資料は 504 である。西側周溝から、ほぼ完形の小型壺が出土している。8 期併行である。

10. 11 地区 SX01(SD34.36a)(報告 II 2013 遺構編 第 11 節第 137 図参照)

505 は、北側周溝と東側周溝から出土しており、9 期併行と考えられる。また、西側周溝からは人形土製品(報告 I 第 100 図-17)が出土しており、出土土器と同時期の 9 期併行と考えている。



504 検出状況 SX11 西側周溝内

第 3 節 その他の遺構資料

1. 28 地区③ A 地区

掲載資料は 506～509 である。506・507 は長方形土坑(SD13)から出土している。508 は 36-80-01K、509 は落ち込み状から出土している。掲載したものは、いずれも 9 期併行と考えられる。

2. 28 地区③ B 地区

掲載資料は 510 である。当概調査区のほとんどの出土資料は SX02・03 内からであり、510 は調査区北西側縁から出土している。4 期併行と考えられる。

3. 1 次地区

掲載資料は 511・512 である。いずれも SK02 出土である。土坑は調査区西側から見つかっている。2 点とも 8 期併行と考えられる。

4. 28 地区

D2-01-K 掲載資料は 513 である。ほぼ完形の鉢であり、9期併行と考えられる。

E4-01-K 掲載資料は 514 である。完形の小型壺であり、時期の指標となる特徴がなく、詳細な時期は不明である。7～8期併行か。

C3-01-K 掲載資料は 515 である。土坑は近世以降の溝にきられており、全形は不明である。515 は遺存率は低いものの、口縁から底部近くまで破片が接合しており、凡そその形状は確認できる。底部下半には放射状縦ハケメが確認できることや口縁端部の刻み手法から 9期併行と考えられる。

F4-01-K 掲載資料は 516 である。ほぼ完形の鉢であり、8～9期併行と考えられる。

F4-02-K 掲載資料は 517 である。ほぼ完形の鉢であり、8～9期併行か。

I3-01-K 掲載資料は 518・519 である。2点とも残りが良く、7～8期併行に位置づけられる。

D4-06-K 掲載資料は 520 である。9期併行と考えられる。

SD08 掲載資料は 521・522 である。どちらも遺存がよく、9期併行と考えられる。

5. 26 地区

SI01・SD13(報告Ⅱ 2013 第2節第22図参照) SI01 は SD13 上に作られた圓円方形の小堅穴状遺構である。SD13 出土資料は近接する SK102 だけでなく、SK25・SK80・SK27・SK107 と広範囲の土坑資料との接合がみられる。523～526 は、SI01 及び SD13 から出土している。527～537 は SD13 から出土しており、その中でも 528 は SK80、529 は SK25、533 は SK107、534 は SK27 とそれぞれ接合している。土器の時期は SI01 に伴う資料は 9-10 期とやや後出の様相がみられ、SD13 資料は 9期併行と考えられる。

SD14 G-H-6Gr 内 SK77 と SK93 と重複する形で検出した L 字状の溝である。掲載資料か 538～540 である。539 はおそらく壺の口縁片と思われるが、当遺跡内では類例がないものである。見込みにあたる箇所は丁寧にミガキ調整が施されている。いずれも 9期併行と考えている。

SD15 G-3・4Gr 内、SK106・SK86 の検出面は、同一の黒色砂層覆土であったため、一連の遺構として SD15 としている。そして、土坑形状がみえてきたところから、土器は個別土坑名で取り上げている。

掲載資料は 541～562 である。541～546 は SD15、547～562 は SK86 から出土している。547・549・552 は、SK86 と SD15 から出土している。563 は SK106 と SD15 から出土している。土坑出土のものを含めて、大型壺片である 541・548 は 8～9 期と古相に位置づけられる感もあるが、中国地方の搬入品と考えられる 545 や 549、在地のハケ調整無文甕(543)のように頸部屈曲しているものがあることから、相対的に 10 期併行として捉えたい。なお、552 は頸部に貼付突帯をもつ甕で、在地ではない特徴をもつ。

SK08 掲載資料は 564～567 である。いずれも 9～10 期と考えられる。

SK77 掲載資料は 568～571 である。栗林系搬入品(568)と西日本系甕(570)在地の甕(569・571)が共伴する好資料である。いずれも 9期併行と考えている。

SK81 掲載資料は 572～577 である。575・576 はくの字甕の模倣品である。8期新併行と考えられる。

SK129 掲載資料は 578～579 である。578 は 8～9 期、579 は 7 期以前と考えられる。

なお、SK129 は埋積浅谷 viii 層堆積後造られた土坑であることから、578 が土坑の時期を示し、579 は x-xi 層資料の混入物と思われる。

SK50 掲載資料は 580 である。580 は 8 ~ 9 期に位置づけられる。

SK140 掲載資料は 581 である。ほぼ完形資料であり、1 点のみの出土である。在地の土器との共伴がみられず、時期確定は困難であるが、埋積浅谷 viii 層堆積後造られている土坑であることから、8 期以降に位置づけられるものと捉えたい。

SK43 掲載資料は 582・583 である。582 はほぼ完形であり、底部側面は横方向にケズリ調整がみられる。いずれも 9 ~ 10 期併行と考えている。

SK181 掲載資料は 585 である。埋積浅谷 viii 層堆積後作られている土坑であることから、8 期以降に位置づけられ、様的に 9 期併行と考えられる。

SK24・SK29・SK6・SK72 584 は SK6、586 は SK29、587 は SK24、589 は SK72 出土である。SK29 は、SK27 同様、SK20 にきられている土坑である。SK27 は先述したとおり、SD13 と接合関係がみられる土坑である。SK6・SK24・SK72 は黒褐色層を覆土とし、遺構検出時から明瞭確認できた土坑である。584・586・587・589 はともに 9 期併行と考えられ、SK27・SK25・SD13 等と同時期のものと捉えたい。

SK73 掲載資料は 588 である。8 期併行と考えられる。

SK124 掲載資料は 590 ~ 594 である。593 は、590 の壺に被さる形でみつかっている。コナラ節の根元に作られた土坑である。出土土器は 6 期に位置づけられる。一括性の高い好資料である。

SK93、SK120 掲載資料の 595 は SK120 から、596 は SK93 から出土している。いずれも 6 期併行と考えている。



26 地区 SK124 遺物検出状況(東から)

6. II 次調査区

SD02 掲載資料は 597 ~ 602 である。599 や 601 はやや古相の様相を残すが、相対的に 9 期併行と考えられる。

SK01 掲載資料は 603・604 である。どちらも底部は欠しており、辛うじて、口縁から脇部の状況がわかる。603 は 8 期併行と考えられ、604 は古相にみえるものの、口縁端部を立ち上げて端部にハケ工具の刺突が施されている。603 同様、8 期併行のものと捉えたい。

SK05 掲載資料は 605 である。脇部下半は欠している。7 期併行と考えられる。

7. 4 地区

SD01・SD02(報告 II 2013 遺構編第 3 節第 34 図参照) 方形周溝墓の周溝の可能性があるものとして提示された遺構である。掲載資料は 606 ~ 606 は SD01、607 は SD02、608・609 は SD02・03 から出土している。いずれも 9 期併行と考えられる。

SK11 掲載資料は 610・611 である。2 点とも横倒し状態でまとまって黒褐色砂壌土からみつかっている。610 は、頸部から上は欠失しているが、頸部以下底部までの遺存はよい。無文の大型壺であり、六ツ目編み痕が全面にみられる。610・611 はいずれも 9 期併行と考えられる。

SK27(報告 II 2013 遺構編第 3 節第 34 図参照) 掲載資料は 612 である。平地式建物内土坑と考えられる。平地式建物の周溝である SD03 は方形周溝墓の可能性が問われる SD02 にきられており、

SD02とは、同時期もしくは古相を示すものと考えられる。ハケ調整無文の表であり、底部を欠失している。時期は8~9期併行と考えられる。

SK02 掲載資料は613～615である。いずれも6期併行と考えられ、一括性の高い好資料である。

SK33・37 捲載資料は619・620である。どちらも両土坑から出土している。8~9期併行と考えられる。

SK32 掲載資料は621・622である。621はSK32及びSK33・34と隣接した土坑資料と接合している。どちらも脇部内外面下半はミガキ調整が施されており、西日本系土器である。9期併行と考えられる。

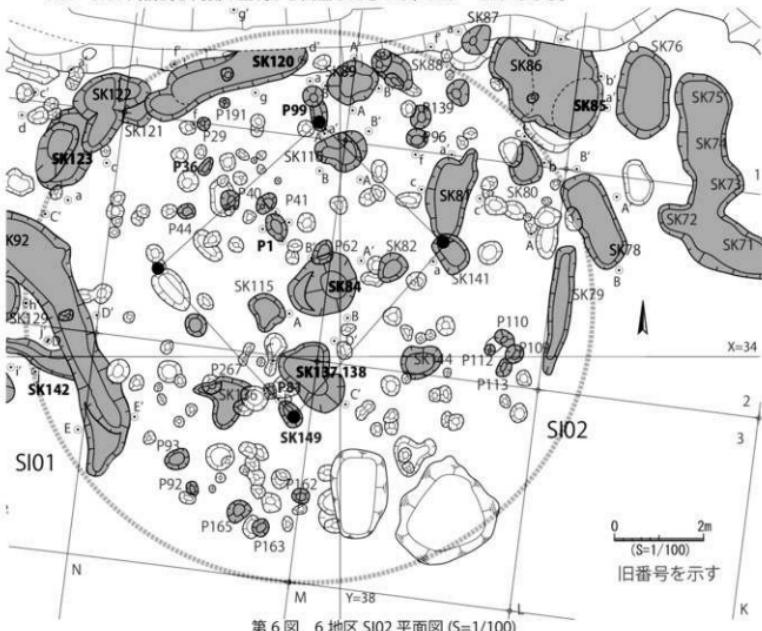


4地区 SK02 遺物検出状況(南から)

8. 6 地区

SiO₂は樹種同定の成果から主柱穴が確認できたため再掲し(第6図参照)、SiO1・SK43・45・63・64の位置に関しては、報告Ⅱ 2013 遺構編第4節第46・48図を参照されたい。

S101 S101周溝及び内側の土坑から出土したものは、623～629である。



第6図 6地区 SiO₂ 平面図 (S=1/100)

623 は SK95、624・625 は SK65、626 は SK92、627 は SK109 及び SK124・125、628・629 は SK109 からそれぞれ出土している。623～625、628 は 7～8 期の範疇として考えられ、626 は 6～7 期の範疇、627・629 は 7 期併行と考えられる。玉作工程資料を伴う建物跡 SI01 は、前述した土坑資料から、6 期～8 期の範疇であり、7 期を主体とした時期と考えられる。

SI02 柱根の再整理及び樹種同定の成果から、主柱と考えられる 4 本が判明した。その中の 2 本 (SK149・P99) は、クリ材芯持ちの丸木材が利用されていることがわかった。

掲載資料は、630～636 である。630・631 は SK78、632 は SK137・138、633 は SK122、634 は SK85、SK44、635 は SK85、636 は SK120 から出土している。630・632・635 は 8～9 期併行と考えられ、631・633・634 は 7 期併行と考えられる。636 は 6 期以前と考えられる。

SI02 に伴う土坑から出土したこれらの土器は、6 期から 9 期までと時期幅が長いが、9 期併行は SI02 墓葬後の時期であると考えられ、SI01 同様、SI02 は 7 期を主体とした時期と考えたい。

SK64・43 掲載資料は 641～644 である。641 は SK43・SK64、642 は SK43、643・644 は SK64 から出土している。両土坑は隣接し、641 は両土坑から出土している。貝田町式土器搬入品 (641) と在地の土器 (642～644) の共伴がみられる好資料である。いずれも時期は、8 期併行と考えている。

SK15 掲載資料は 637 であり、7 期併行と考えられる。

SK26 掲載資料は 639 である。小型土器であるため、詳細な時期は不明であるが、8 期以降の可能性が高い。

SK34・SK97・SK63・SK54・SK52 638 は SK34、640 は SK97、645・646 は SK63、652～654 は SK54、655 は SK52 から出土したものであり、すべて 9～10 期併行と考えられる。

SK58・SK56・SK45 647～649 は SK58、650 は SK56、651 は SK56・SK58、656・657 は SK45 からそれぞれ出土したものである。651 は SK56 と SK58 から出土したものが接合しており、両土坑は同時期の可能性が高い。すべて 9 期併行と考えられる。

SK44 掲載資料は 658 である。658 は、SI02 周溝に囲まれた中にある SK120 より出土したものとの接合関係がみられる。小型土器であるため、詳細な時期は不明瞭であるが、8 期以降のものと考えられる。こうした状況から、SK120 に伴う 9 期の資料と同時期と考えられる。

SK48 掲載資料は 659 である。小波状口縁をもつ無文のハケ甕であり、6～7 期併行と考えられる。

9. 8 地区(報告 II 2013 遺構編第 4 節第 52 図参照)

SD11 掲載資料は 660～663 があげられる。環濠 09 に併走している溝であり、方形周溝墓の周溝である可能性が高い。すべて 7 期併行に位置づけられる。

SK12 掲載資料は 664 があげられる。6～7 期併行と考えられる。

10. 18 地区(報告 II 2013 遺構編第 5 節第 68 図参照)

SD03 掲載資料は 665～667 である。すべて 8 期新段階と考えられる。

SD05・42・43・1K 668・669 は 42-43-1K、670・671 は SD05 から出土している。すべて 8 期併行と考えられる。

なお、前述のこれらの遺構は方形周溝墓の可能性もあるが、現地で確認した方形周溝墓と、別扱いとするため、その他の遺構資料に掲載した。

11. 17 地区

SD49(報告Ⅱ 2013 遺構編第6節第103図参照)

SD49は、環濠01・環濠02に併走する布掘状の細い溝である。SX05にきかれている。掲載資料は672、673である。どちらも5期併行と考えられる。

SX10(SD45-C8-02-K・SD51)・報告Ⅱ 2013 遺構編第6節第90図参照)

674～677はSD45、678・679はSD51、680・681はC8-02-Kから出土したものである。平地式建物の周溝から出土している674・675・678～691は6期併行である。676・677は9期併行である。9期併行のものは混入物である可能性が高い。

C5-01-K・F1-01-K・F2-06-K・D5-04-K(第12図参照) 682はC5-01-K、683はF1-01-K、684はF2-06-K、685はD5-04-Kより出土したものである。すべて6期併行と考えられる。また、D5-04-Kからはトチの実が多量に出土しており、トチの実の貯蔵穴と考えられる。

B-11GrSK03内pit 掲載資料は686である。4期併行と考えられる。

SD11-D-7・8Gr 686はD-7・8Gr内、689はSD11から出土している。どちらも5～6期併行であり、方形周溝墓が築造される領域の周辺から出土している。

D5-01-K 掲載資料は690である。8期併行と考えられる。

G6-02-K 掲載資料は692である。胸部下半の剥離が激しいが、放射状縦ハケメが確認できる。9期併行と考えられる。SX03をきる土坑であるがSX03と時期差はほとんどない。

なお、樹種同定の成果から、SB01・SB02の柱根は、すべて、スギ製剤材であることがわかっている。また、C-1・2 G r内には、トネリコ節、シオジ節を柱根とした建物跡があることが判明し、SB04とした。DVDに添付した17地区遺構図を参照されたい。

12. 15 地区

SK07 掲載資料は694・695である。いずれも6～7期併行と考えられる。

C-1Gr 掲載資料は693である。1イコウC区と土器集中範囲で取り上げられているものと接合した資料である。6～7期併行と考えられる。

SK14 SX05と重複する遺構である。掲載資料は696である。時期は7期併行と考えられる。出土遺物の時期から、SK14はSX05より古相と考えられる。SK07と同様に、方形周溝墓の造墓前の遺構と考えられる。

15地区建物跡(SD10・SD14・SD17・SD11) SX06にきられる平地式建物跡と考えられる。

697～699はSD10、700はSD14、701はSD17、704はSD11から出土している。699・701は6～7期併行、697・698・700・704は8～9期併行と考えられる。同一遺構内からの出土であっても、SD10のように時期にばらつきがみられる。15地区方形周溝墓の造営時期は、8期以降9期を主体とするを考える。よって、前述したSD10やSD14でみられた8期以降の土器に関しては、方形周溝墓に関連するものとし、平地式建物跡は6～7期併行である可能性が高いものと推測する。

SK17・SK20 702はSK17、703はSK20から出土している。いずれも7～8期併行と考えられる。

SD24・SD21 SD21は環濠10と同一の可能性がある溝である。掲載資料は705・706がある。いずれも8期併行と考えられる。

13. 12 地区

SX01 710は周溝1区、711は周溝2区、712は周溝2区と30-64-04-Kから出土している。

712は8～9期とやや古相であり、710・711は9期併行と考えられる。

SX02(SD18・33-64-04K) 713～716はSD18、717は33-64-04-Kから出土している。台付小型壺は古相にもみえるが、共伴している近江系の土器(714・715)や在地の無文壺から判断し、いずれも10期併行と考えている。

SD14-SD15-SD17 707～709はSD17、718はSD14、719はSD15から出土している。718は水差し形土器の把手部片である。辛うじて櫛状工具による直線文と波状文が施されていたことがわかる。719は栗林式壺の模倣品胴部片である。いずれも9期併行と考えられる。

30-65-02K 掲載資料は720～721である。721は外面底部側面が縱方向にケズリ調整が施されおり、10期併行と考えられる。共伴する720は頸部片で残りが悪いものの、同時期のものとして捉えたい。

33-65-02K 環濠03Aと重複する土坑である。環濠の廃絶時期は6～7期であるため、環濠埋没後の8期以降の遺構と考えられる。掲載資料は723～730である。栗林系模倣の壺(724)や記号文がみられる壺(727)など良好な一括資料である。730は6～7期併行と考えられ、環濠03の混入物と考えたい。よって、730を除いた土器群を9期併行と考えている。

35-65-02K 環濠03Aと重なる土坑である。掲載資料は731～737である。731・732・734・735は7期新段階併行と考えられる。733は環濠03の混入物と考えられ6～7期併行である。736・737は7期併行と考えられる。よって、当土坑の時期は、7期新段階を主体として、7期併行に位置づけられる。

なお、今年度、小松式土器フォーラムで確認された人面付土器(1130)も当土坑から出土している。人面付土器に関しては、第7部補遺編を参照されたい。

33-64-06K 土坑は完全に環濠03Bと重なりをみせる。掲載資料は738、739である。土坑名称で取り上げられているが、土器は6～7期併行と考えられ、環濠03Bに伴うものと考えたい。

27-58-30K 掲載資料は740である。6期併行と考えられる。

31-65-05K・32-65-04K・SD03 741は31-65-05K、744は32-65-04K、748はSD03から出土したものである。いずれも7期併行と考えられる。

30-62-02K・28-59-01K 742は30-62-02K及び30-64-05K、743は28-59-01Kから出土している。いずれも8～9期併行と考えられる。

32-64-14P・34-65-10P・30-64-37P いずれの柱穴も土器が1点のみ出土している。745は8～9期、746・747は7～8期併行と考えられる。

14. 13地区

E10-02-K 掲載資料は749・750である。749は9期、750は7期以前のものと考えられる。750は埋積浅谷内の資料が混入したものと考えている。

E3-02-K 掲載資料は751・752である。どちらも残りがよい。9～10期併行と考えられる。

SX02周溝内(F11-01B-K・F11-01A-K・G11-10-K・F10-01-K・F11-02B-K・F11-02-K)

753～767はF11-01B-K、768～771はF11-01A-K、778～782はG11-10-K、788はF10-01-K、787はSX02周溝内、812・813はF11-02B-K、814～821はF11-02-Kからそれぞれ出土したものである。第15図のように、周溝の内側で検出された土坑の出土土器は、H11-02-K・H11-03-K・H9-06-K・J6-02-K・G10-01-K・SD32・J10-02-Kと広範囲に接合がみられる。F11-01B-K・F11-01A-K・G11-10-K・F10-01-Kは10期を主体とした一括性の高い資料と考えられる。

なお、西日本系の鉢(782)は口縁片である。8期併行と考えられ、F11-02-K及びF11-02B-K出土資料は、それぞれ7～8期、6～7期併行と考えられる。よって、これらの遺構はSX02には伴わない古い時期の遺構と考えられる。

H11-02-K・H9-06-K 772～777はH11-02-K、783～786はH9-06-Kから出土したものである。H11-02-Kは9～10期、H9-06-Kは10期併行と考えられる。G11-10-K出土の779はH11-02-Kと、786はF11-01A-Kと接合しており、いずれもSX02周溝内側の土坑と同一時期と考えられる。

G10-01-K 掲載資料は789～806である。遺構はSX02周溝と重複がみられる。801・805・806は9～10期、その他は8～9期併行であり、9～10期併行のものは、SX02周溝に伴うものであり、土坑の主体時期は、8～9期併行と捉えたい。

SD32 掲載資料は808～811である。7期新段階併行と考えている。808は当土坑以外にH11-14-K・H11-02.03-K・H6-04-K・H10-05-K・H10-10-Pより出土したものと接合関係がみられ、拡散して出土している。

SX01周溝内(J10-02-K・J10-02B-K・J10-02A-K・J10-08-K・J10-03-K・J10-04K・J10-05-K)

822～826はSX01周溝、827～828はJ10-02B-K、829～831はJ10-02-K、832～851はJ10-02A-K、855～859はJ10-02A-K・J10-08-K、860～882はJ10-08-K、883はJ10-03-K、884はJ10-04-Kからそれぞれ出土している。SX01周溝・J10-05-K出土資料は9～10期併行と考えられる。J10-02B-K・J10-02-K・J10-02A-K・J10-03-Kは7期新段階併行と考えられる。831はJ10-02A-K・G10-01-K・SX02・F11-02-Kより出土したとの接合関係がみられ、拡散して出土している。接合関係を示す土坑のうちでF11-02-Kは、J10-02-K・J10-02A-Kとほぼ同時期であると考えられる。

J10-08-KはJ10-02A-Kと重複がみられる遺構である。出土した土器は7～8期と、時期の幅域と考えられる。J10-04-Kは4期に併行する櫛描文系無文の甕である。

総じて、SX01は9期以降と考えられ、周溝内側の土坑資料J10-05-Kを除いて、SX01に伴う時期ではなく、住居築造前の遺構と考えられる。

F9-01-K 掲載資料は885～889である。小片ばかりである。885と887は7期以前、886、888、889は9～10期併行と考えられる。

F9-02-K・F9-03-K・F9-04-K 890～898はF9-02-K、899～909はF9-03-K、910～912はF9-04-Kより出土したものである。890～897、902～909、910～912は9～10期併行と考えられる。898・899・900は7期以前であり、901は7～8期併行と、時期が混在して出土している。F9-03-KはF9-04-Kにきられています。おそらくF9-02-K及びF9-04-Kは9期併行の土坑であり、F9-03-Kは7～8期併行の土坑と考えられる。

H9-01-K・H9-03-K 913～935はH9-01-K、1000・1001はF9-03-K出土である。どちらも環濠02と重複がみられ、築造時期は7期以降と考えられる。出土した土器は916・917・922は6期併行、933・935は9期併行、その他は7～8期併行と考えられる。6期併行のものは、環濠02の混入遺物と考えられる。また、H9-03-Kは7期併行の土坑である。H9-01-Kの時期は9期併行と考えており、H9-01-Kより出土した土器のち、7～8期併行の土器は、7混入したものと考えられる。

G9-01-K・G9-02-K・G9-03-K 936・937はG9-01-K、938～941はG9-02-K、943～947はG9-03-Kから出土しており、942は3つの土坑から出土したものの接合資料である。945～947は9～10期併行に位置づけられる。H9-01-Kより出土したものとの接合関係があることから、G9-03-Kは9～10期の土坑と考えている。また938・939・941は9期併行と考えられる。940のような古相を示す資料もみられるが、G9-02-Kは9期併行の遺構と考えたい。936・937は7期併行であり、G9-

01-K は 7 期併行の遺構と考えられる。

大穴 遺物取上げ名称として大穴としている遺構である。掲載資料は 948 ~ 963 である。951・952・954・956・957 を除いて、その他は 9 ~ 10 期併行と考えられる。

SD2 SD2 は大穴と重複する遺構である。大型の落ち込み部分を大穴とし、溝状の部分を SD2 とし、それぞれ遺物を取上げており、ここでは SD2 より出土したものを報告している。掲載資料は 964 ~ 969 である。964 は 8 ~ 9 期と古相である。その他のものは、9 期まで遡る可能性をもつものも含まれるが、主体は 10 期併行と考えている。

G5-02-K(報告 II 第 8 節第 132 図参照) 掲載資料は 970 ~ 972 である。銅鐸形土製品(報告 I 第 101 図-25) や槽(報告 II 2014 木器編 345) も出土している。時期は 9 期併行と考えられる。

G・H-10-11 土器だまり 掲載資料は 973 ~ 982 である。973 ~ 976 は 7 ~ 8 期併行である。977 ~ 980 は、古相の 977 を含んでいるが、相対的に 10 期併行と考えられる。

SD25 掲載資料は 983 ~ 984 である。9 期併行と考えられる。

SD5 掲載資料は 985・986 である。7 ~ 8 期併行と考えられる。

SD22 掲載資料は 987・988 である。8 期併行と考えられる。

I2-20-K 掲載資料は 990・991 である。991 は SD4 より出土したものも接合している。時期は 9 期併行と考えられる。

H10-05-K・I9-01-K 992 ~ 996 は H10-05-K より出土したものであり、997 は H10-05-K と I9-01-K から出土したものの接合資料である。時期はすべて 7 期併行と考えられる。

F5-02-K・E6-24-K・F8-03-K・F4-03-K・G6-01-K・H7-36-K・H8-06-K・H5-06-K 998・999 は F5-02-K、1002 は E6-24-K、1003 は F8-03-K、1004 は F4-03-K、1005 は G6-01-K、1006 は H7-36-K、1007 は H8-06-K、1012 は H5-06-K よりそれぞれ出土したものである。いずれも時期は 9 期併行と考えられる。

G9-09-K・E4-03-K・I3-55-K・H11-04-K 1008 は G9-09-K、1009 は E4-03-K、1010 は I3-55-K、1011 は H11-04-K よりそれぞれ出土したものである。いずれも 7 ~ 8 期併行と考えられる。

I5-20-K 掲載資料は 1013 である。17 地区環濠 02(SD46_2 区) より出土したものと接合する。沈線文系の跡あるいは縫であり 6 期以前のものと考えられ、環濠 02 の時期と同時期と考えている。

pit 掲載資料 1016 ~ 1029 はそれぞれ柱穴から出土したものである。それぞれ 1 点のずつの出土であるが、外来系土器や集落 1 期併行がみられるものを抽出している。

1021・1022・1024 ~ 1026 は、5 ~ 6 期、1027 ~ 1029 は 6 期併行、1016・1019・1020・1023 は 7 ~ 8 期併行、1017・1018 は 9 期併行と考えられる。

15. 11 地区

J10-05-K・SK91・SK29・N9-01-K・SK130・SK31・SD20・SD45・SK41 1030 ~ 1033 は J10-05K、1037 ~ 1040 は SK91、1044 ~ 1046 は SK29、1047 は N9-01-K、1048 は SK130、1050 は SK31、1051 は SD20、1056 は SD45、1093 は SK41 よりそれぞれ出土したものである。1033・1056 は脛部内面ケズリ調整が施されており、新相の特徴を示す。この 2 点は 10 期併行と考えているが、それ以外のものは、9 期併行と考えている。

J10-03-K・J6-01-K・M6-02-K・SK3a・SK72 1036 は J10-03-K、1052 ~ 1055・1057 は J6-01-K、1059 は M6-02-K、1074・1075 は SK3a、1081 は SK72 よりそれぞれ出土したものである。いずれも 7 期併行と考えられる。ただし、J6-01-K は、J7-04-K・SD45 は接合関係をもち、前述したとおり、

SD45 は 10 期併行に位置づけられ、J6-01-K には 7 期併行以外に 10 期併行が混在するものと考えられる。

J6-01-K 掲載した 1060 は、6 期併行と考えられる。

SK02 1063～1066 は、7 期併行と考えられ、いずれも良好な一括資料である。

SK38・SK67・SK65・SD16・SD21 1068～1070 は SK38、1083 は SK67、1087 は SK65、1091～1093 は SD16、1094・1095 は SD21 よりそれぞれ出土したものである。すべて 8 期併行と考えられる。特に SK38、SD16 より出土した土器は、良好な一括資料である。

SK34 1071～1072 は、6～7 期併行と考えられる。

J8-08-K・J9-08-K 1096 は J8-08-K、1077～1080 は J9-08-K よりそれぞれ出土したものである。1076～1078 は 7～8 期、1079 は 9 期、1080 は 7 期併行と考えられる。

SK87・SD09 1085・1086 は SK87、1111 は SD09 よりそれぞれ出土したものである。いずれも 5～6 期併行と考えられる。

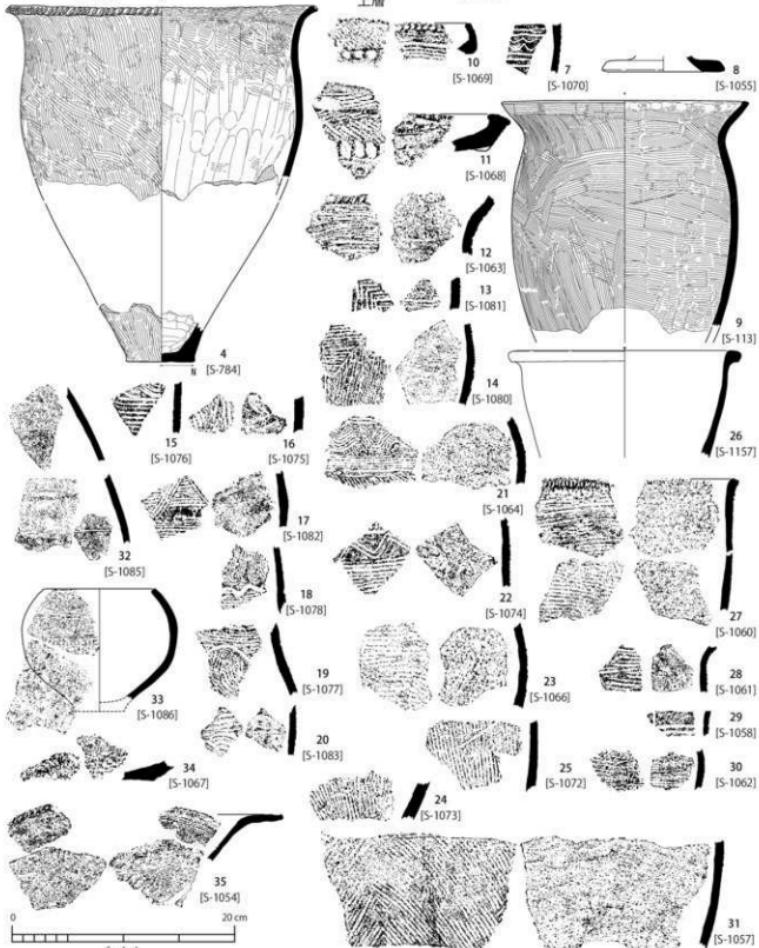
SD07・SD08 1097～1099 は SD08、1101～1108 は SD07 出土である。この 2 つの土坑は重複しており、SD07 が SD08 をきっている。SD08 資料は 7 期、SD07 資料は 8 期併行と捉えたい。SD08 出土資料は、二枚貝腹縁を利用した施文をする外来要素の強い特徴的な土器 (1097) や、中国地方を出自とする 2 条突縁をもつ鉢 (1100) が、沈線文系縦承型壺 (1099) と共に伴する。7 期併行の一括性が高い好資料といえる。

H9-02-K 1112 は 15 地区 SD07b(環濠 06) より出土したものとの接合資料である。ここでは図化掲載していないが、当土坑は 7 期から 9 期まで土器が混在して出土している。1112 に関しては、環濠 06 の時期である 7 期併行と捉えたい。

環濠 01(13 地区 SD13)



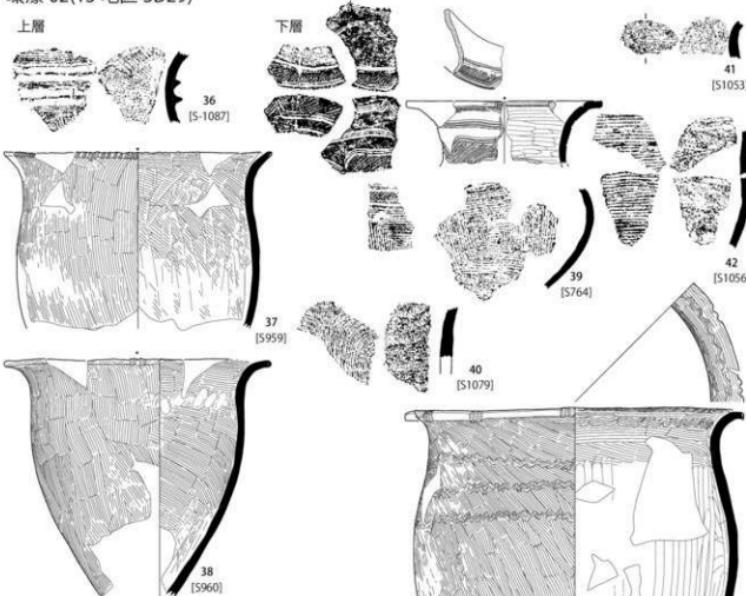
環濠 02(13 地区 SD29)



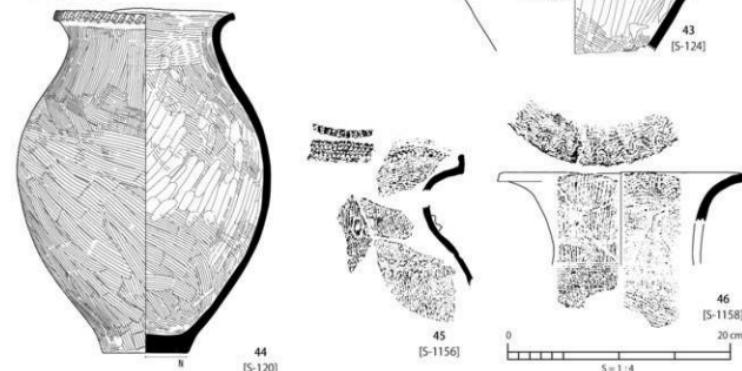
第 7 図 環濠 01, 環濠 02 出土器 (S=1/4)

環濠 02(13 地区 SD29)

上層

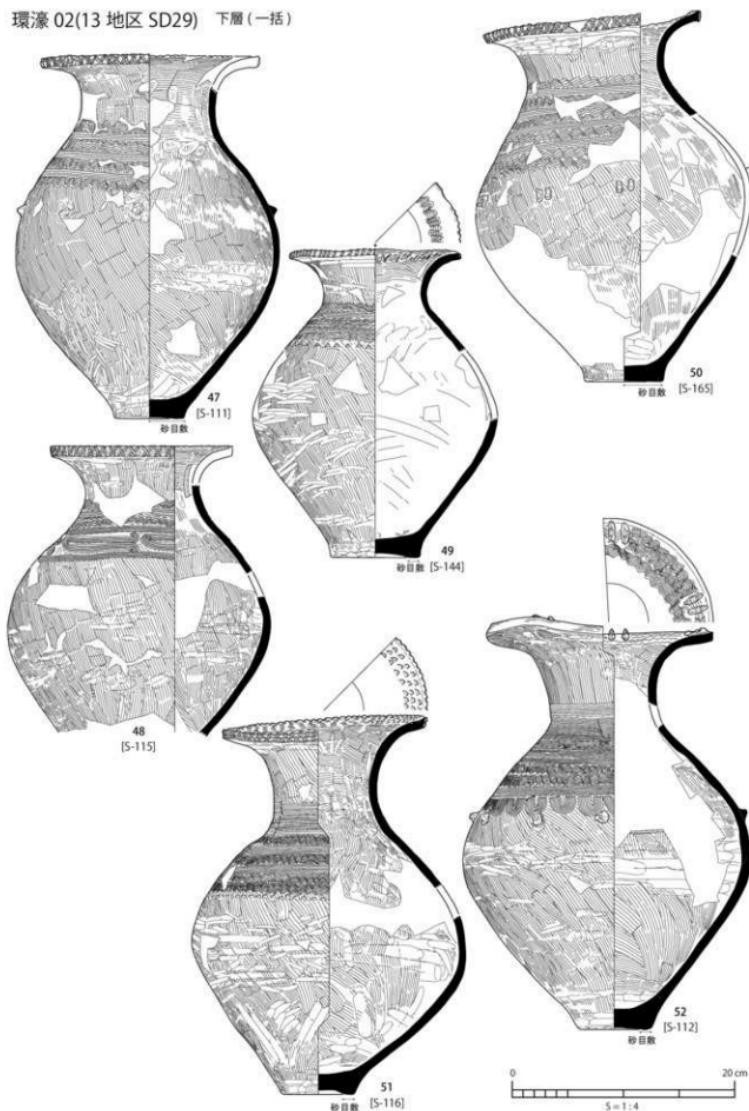


下層 (一括)



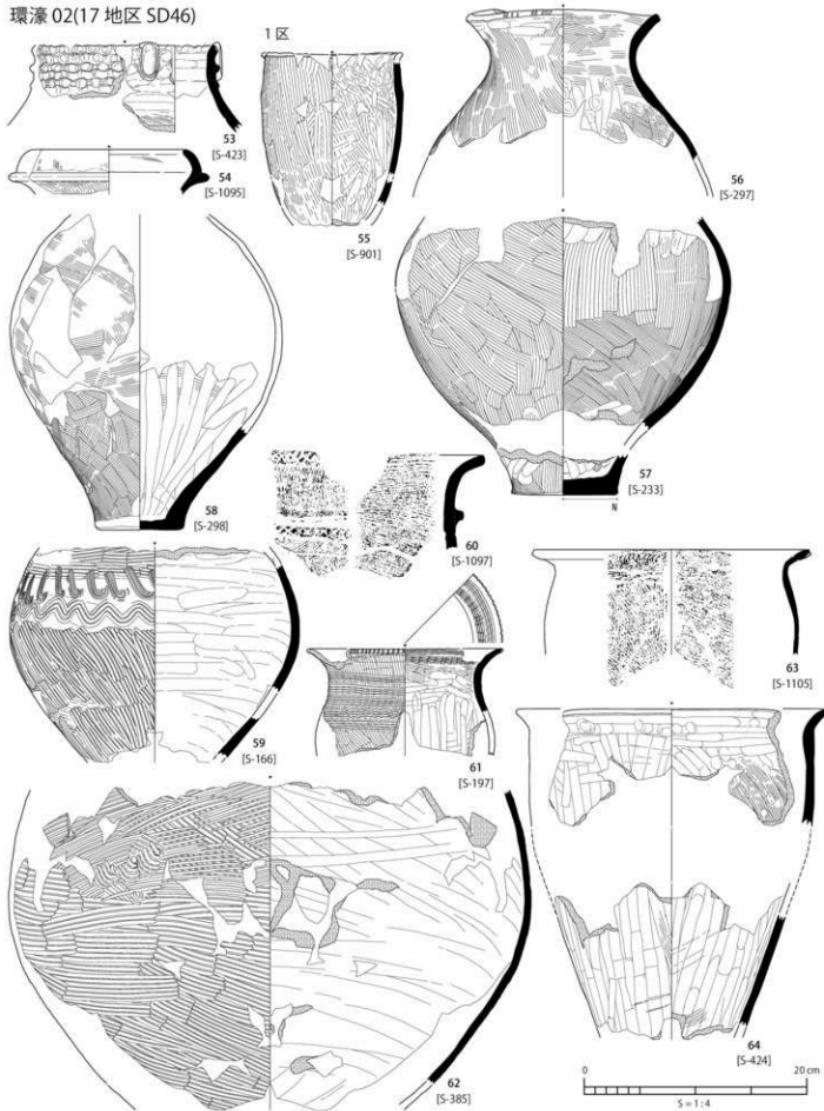
第 8 図 環濠 02 出土土器 2(S=1/4)

環濠 02(13 地区 SD29) 下層(一括)



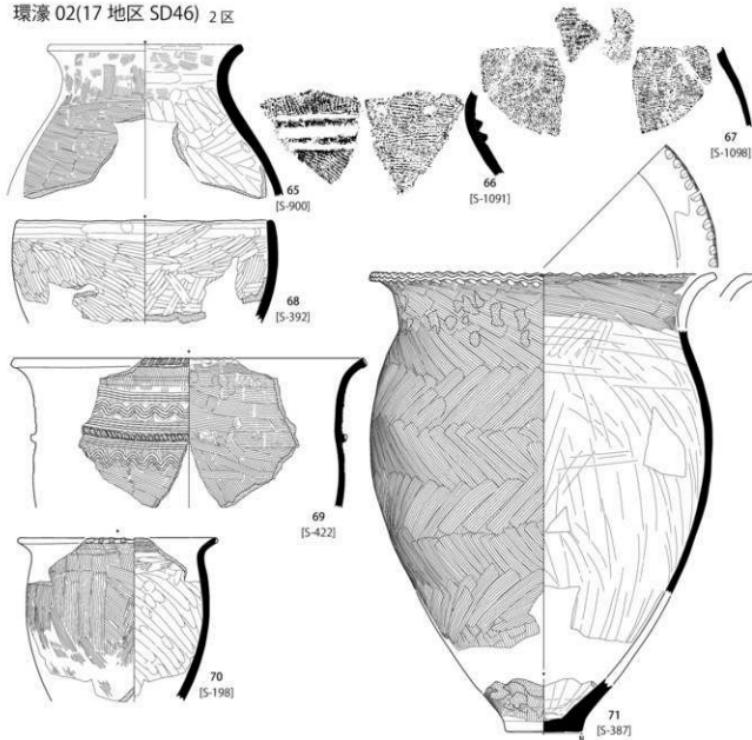
第9図 環濠 02 出土土器 3(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46)

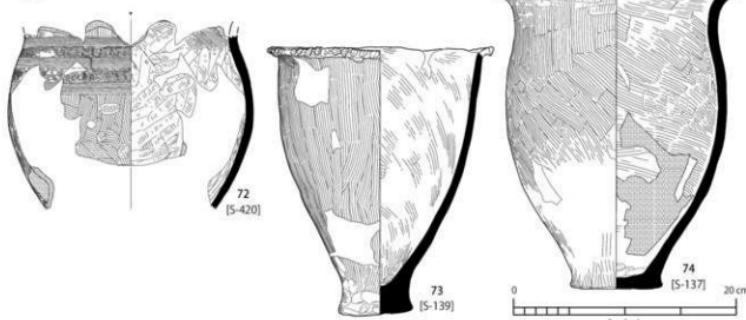


第 10 図 環濠 02 出土土器 4(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46) 2 区



3 区



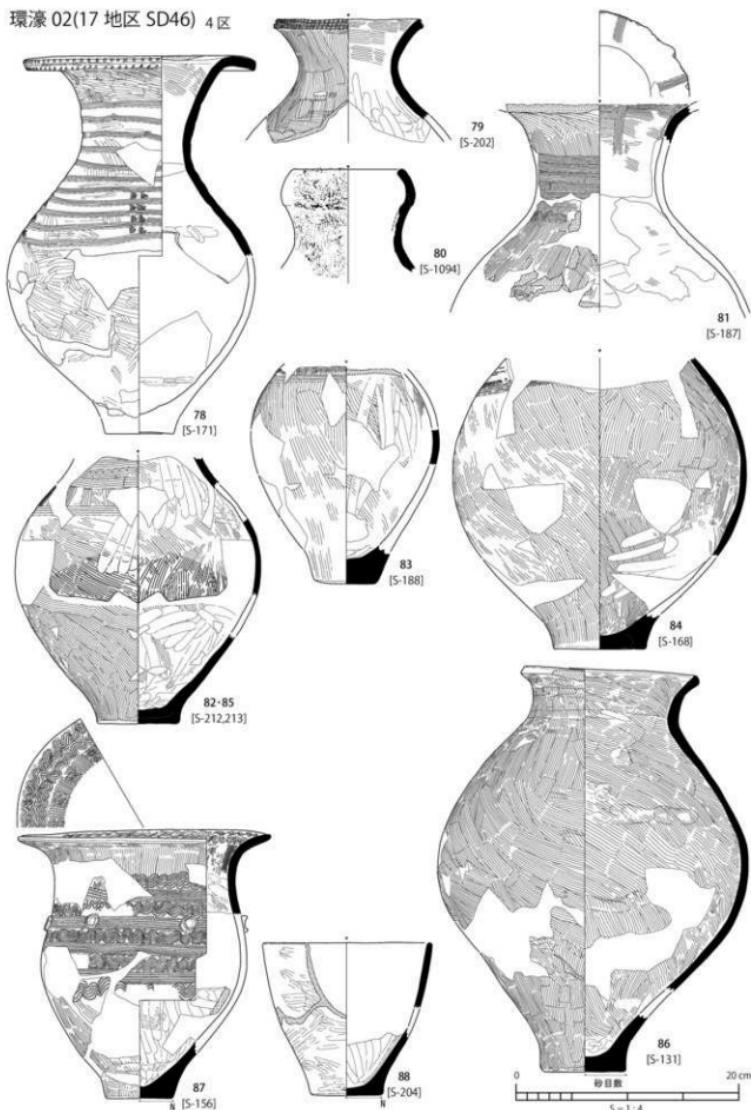
第 11 図 環濠 02 出土土器 5(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46) 3 区



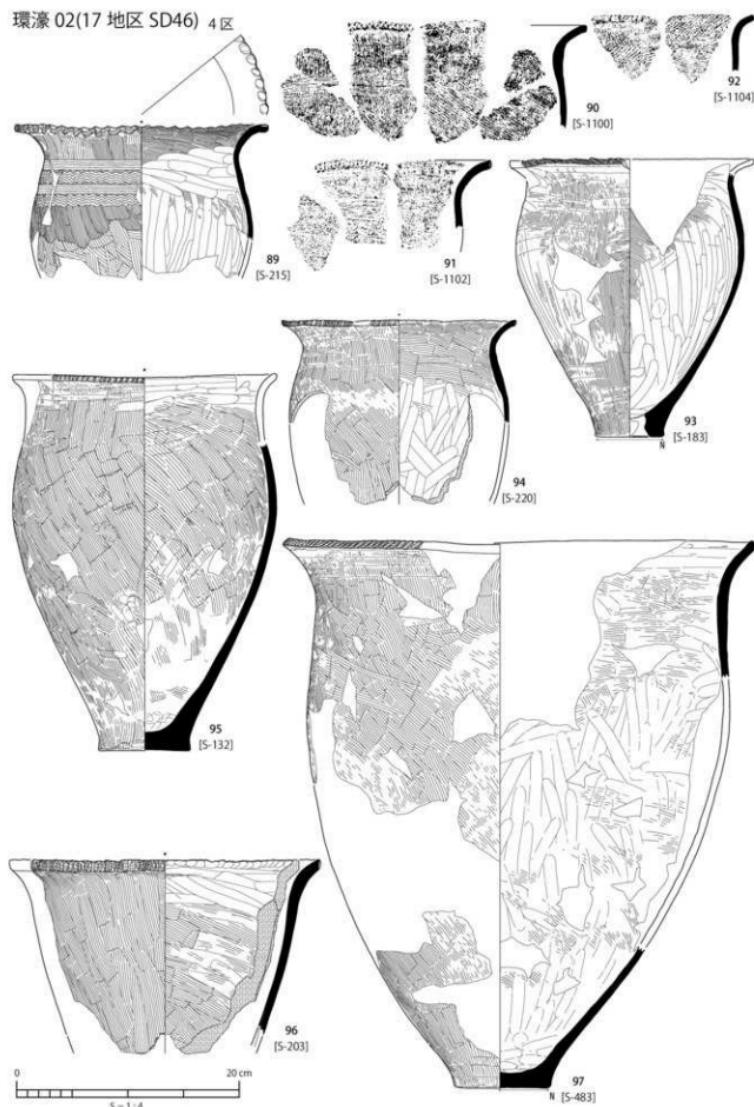
第 12 図 環濠 02 出土土器 6(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46) 4 区



第 13 図 環濠 02 出土土器 7(S=1/4)

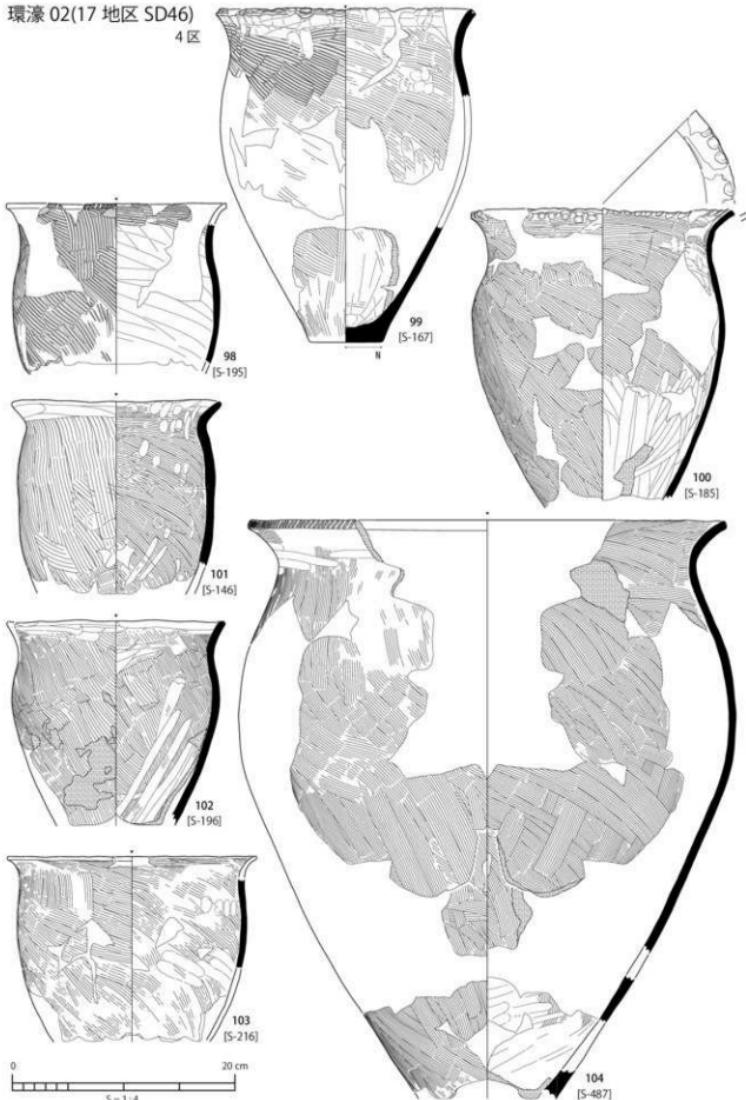
環濠 02(17 地区 SD46) 4 区



第 14 図 環濠 02 出土土器 8(S=1/4)

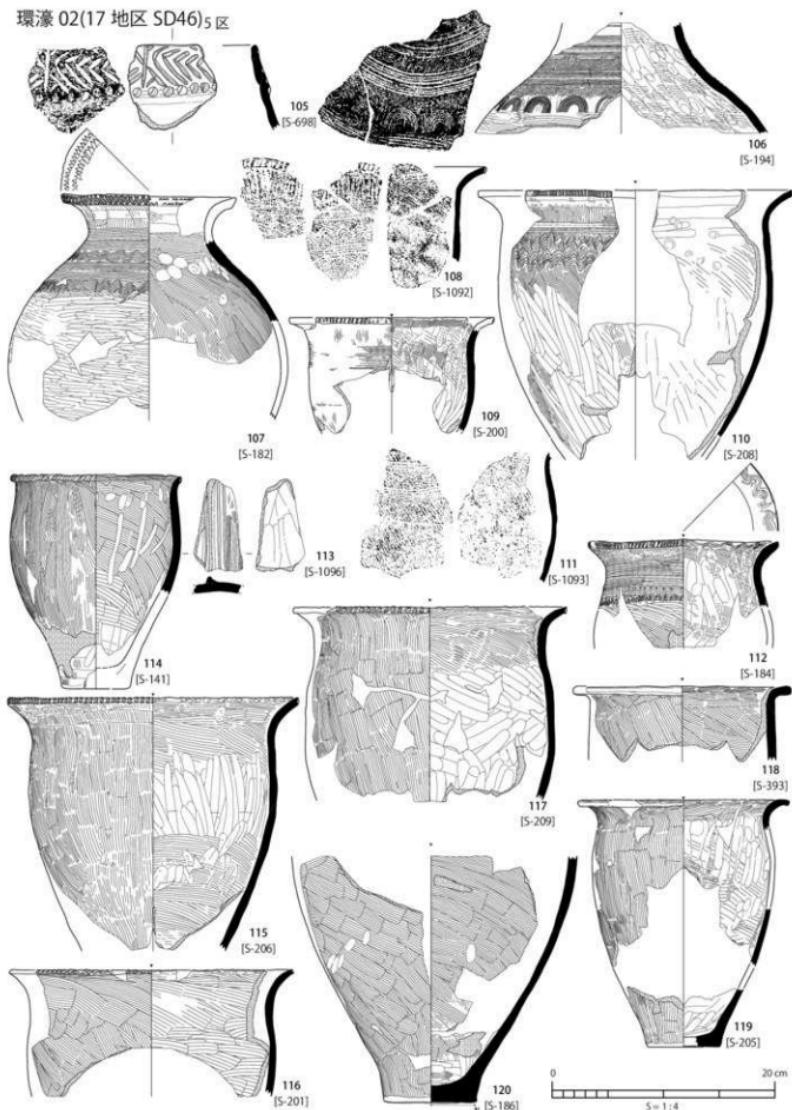
環濠 02(17 地区 SD46)

4 区



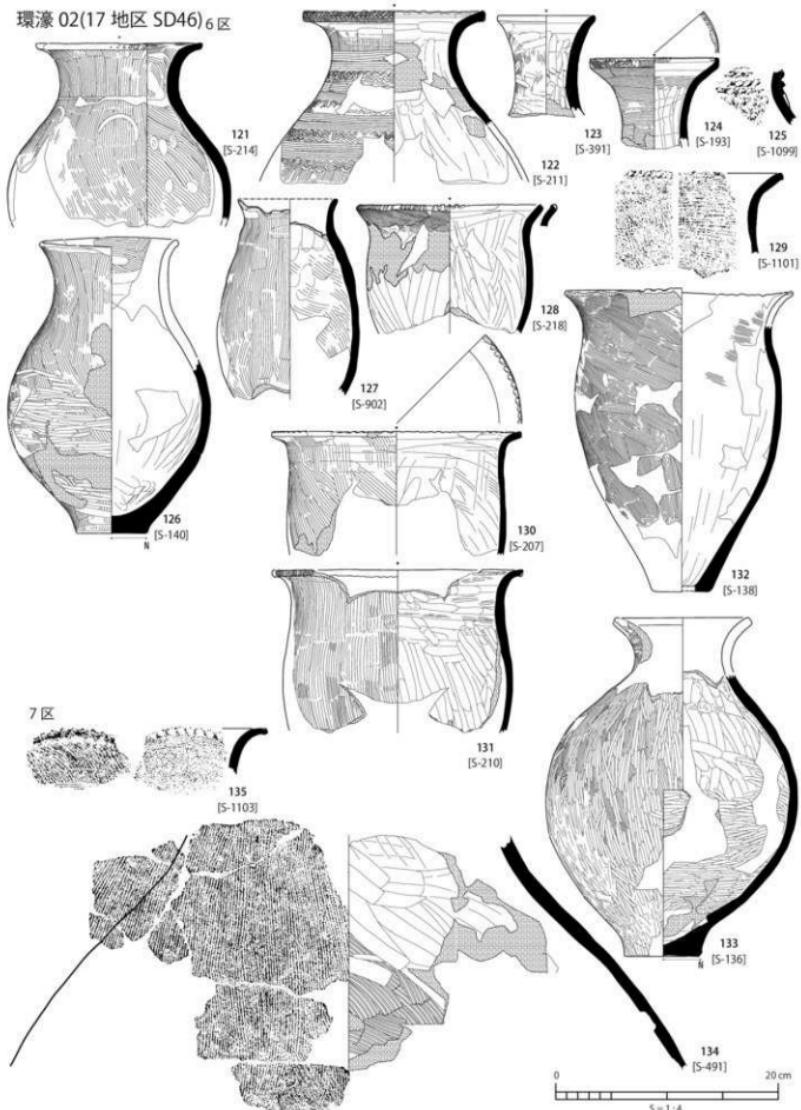
第 15 図 環濠 02 出土土器 9(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46)5 区



第 16 図 環濠 02 出土土器 10(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46) 6 区



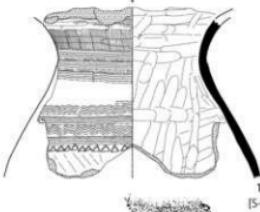
第 17 図 環濠 02 出土土器 11(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46)

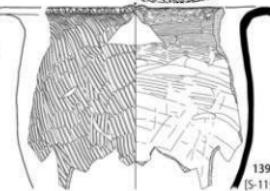
8 区



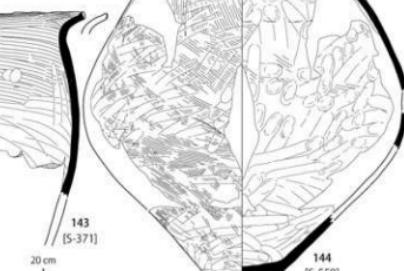
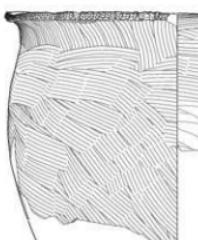
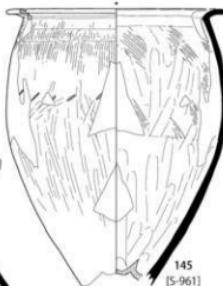
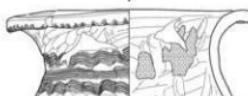
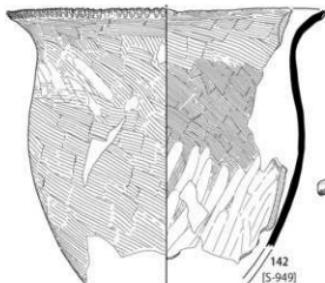
9 区



環濠 03A(12 地区 SD16)



環濠 03B(12 地区 SD20)

144
[S-558]

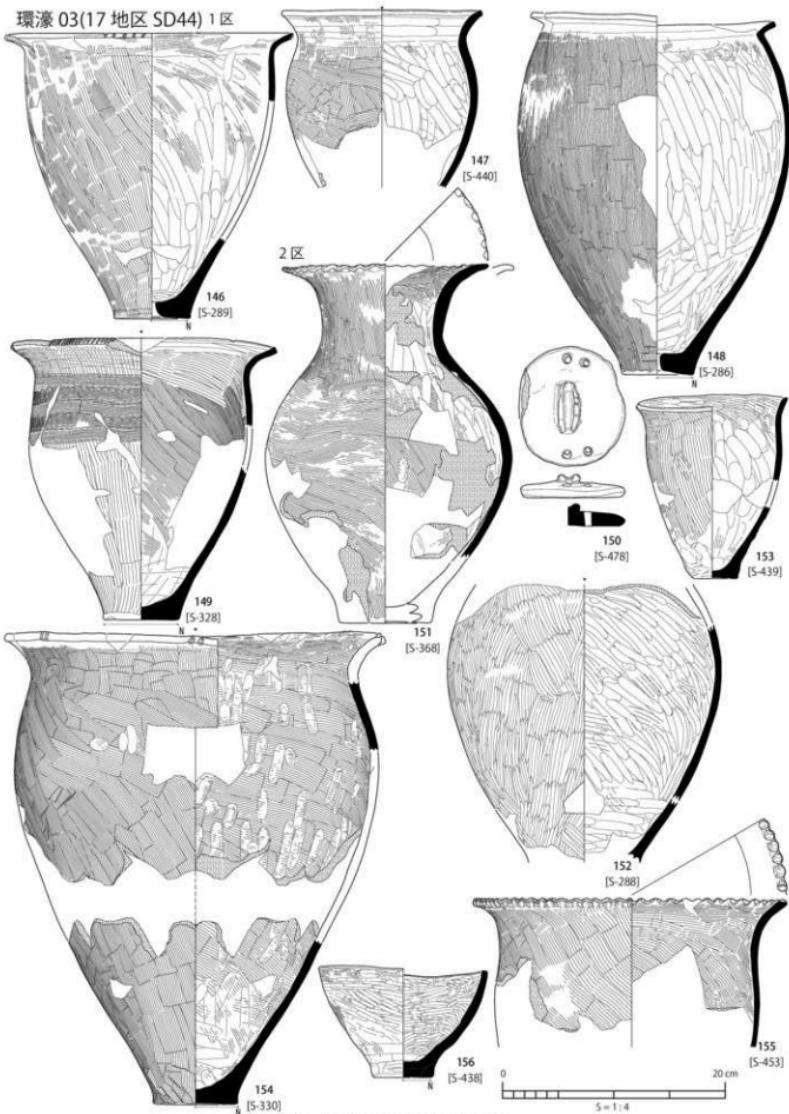
0

20 cm

5 : 1 : 4

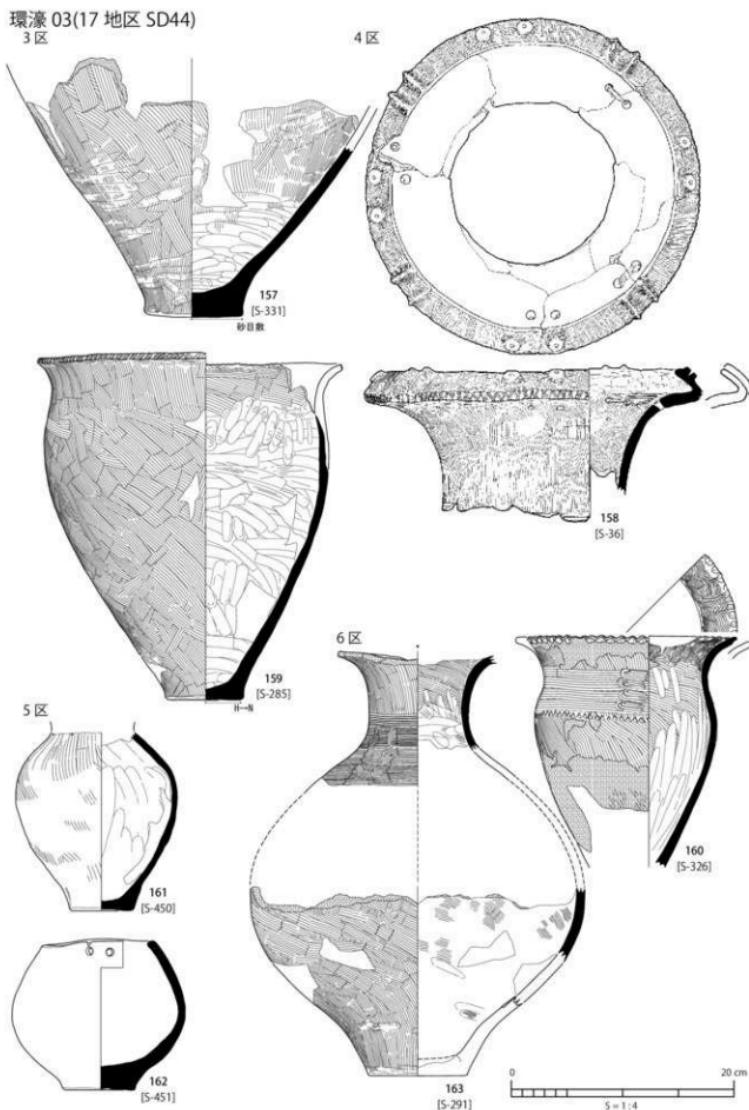
第 18 図 環濠 02, 環濠 03 出土土器 (S=1/4)

環濠 03(17 地区 SD44) 1 区



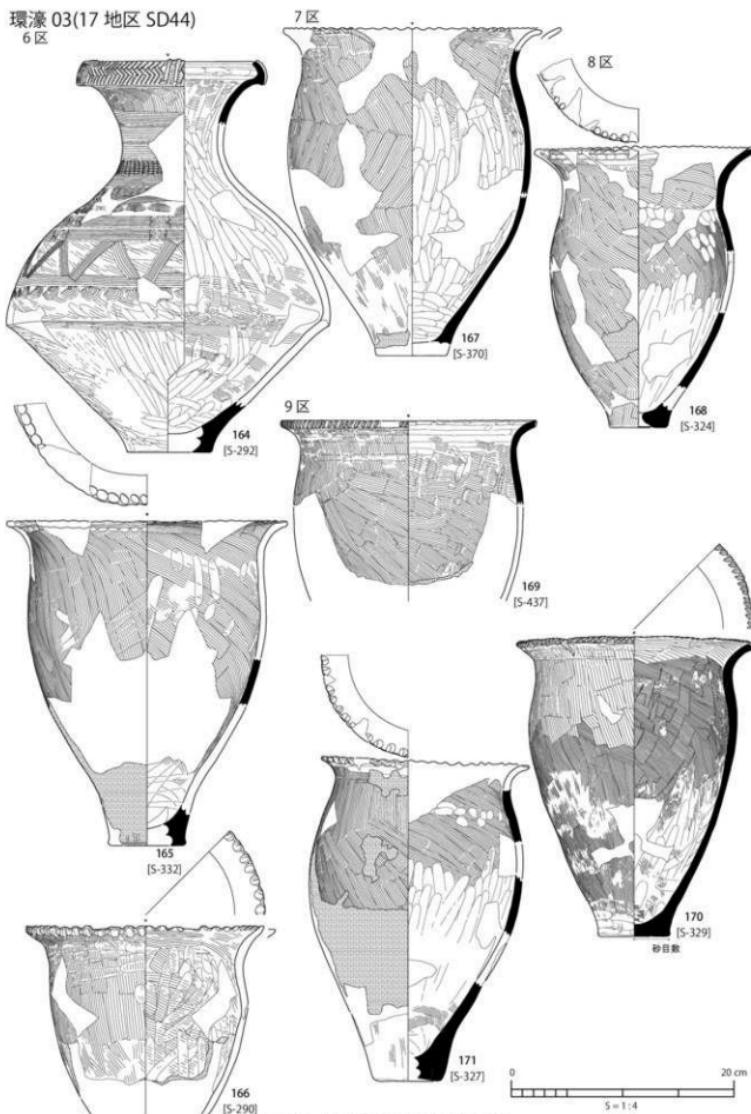
第 19 図 環濠 03 出土土器 2 (S=1/4)

環濠 03(17 地区 SD44)
3 区

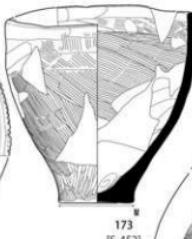


第 20 図 環濠 03 出土土器 3(S=1/4)

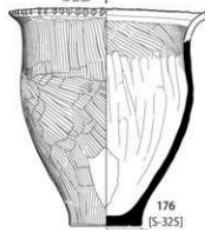
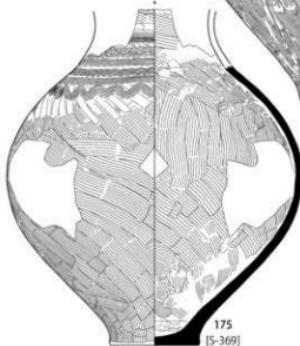
環濠 03(17 地区 SD44)
6 区



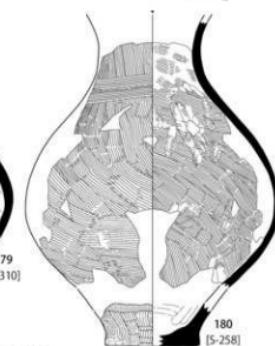
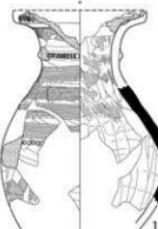
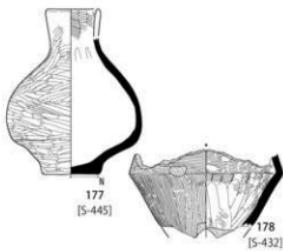
第 21 図 環濠 03 出土土器 4(S=1/4)

環濠 03(17 地区 SD44)
9 区

11 区



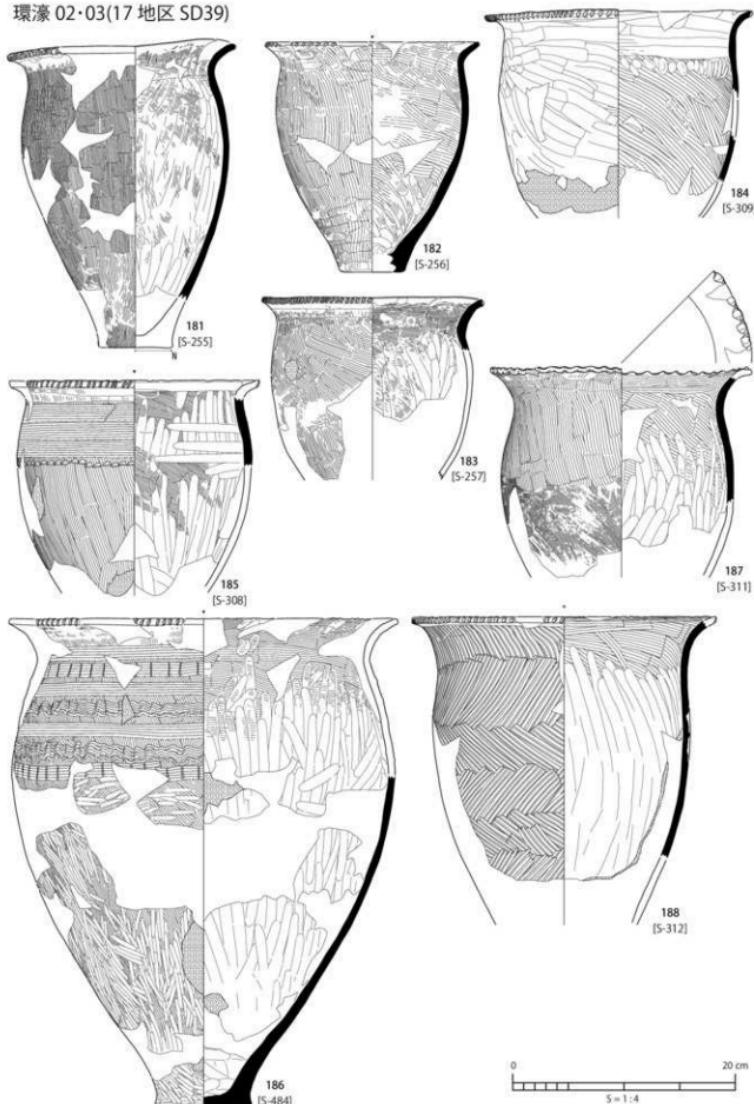
環濠 02・03(17 地区 SD39)

180
[S-258]

0
20 cm
S = 1:4

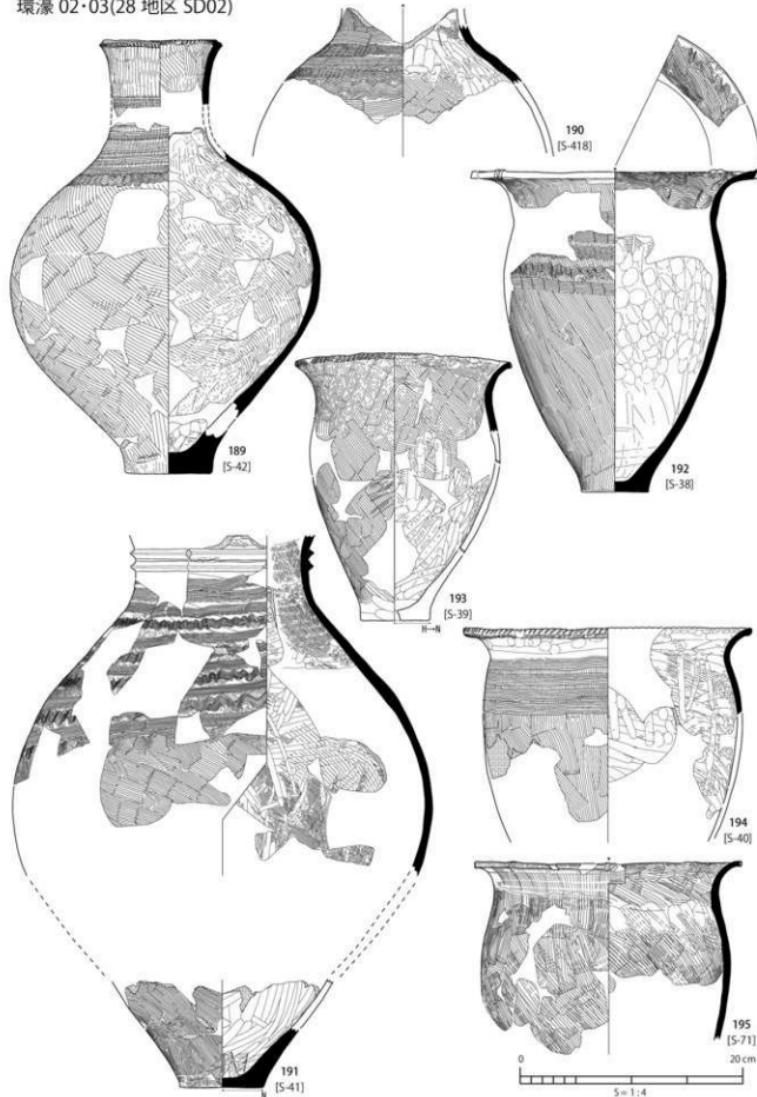
第 22 図 環濠 03 出土土器 5(S=1/4)

環濠 02・03(17 地区 SD39)



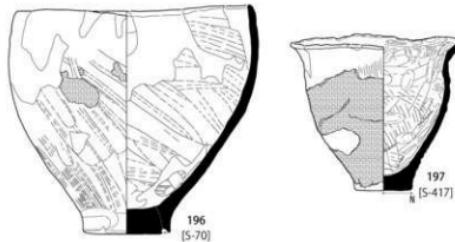
第 23 図 環濠 02・03 出土土器 (S=1/4)

環濠 02・03(28 地区 SD02)

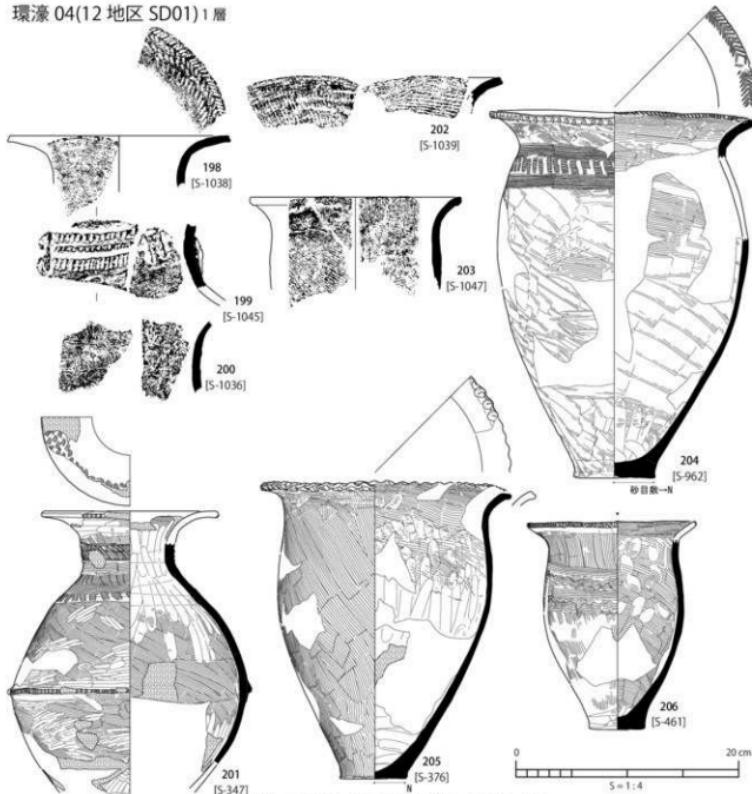


第 24 図 環濠 02・03 出土土器 2(S=1/4)

環濠 02・03(28 地区 SD02)

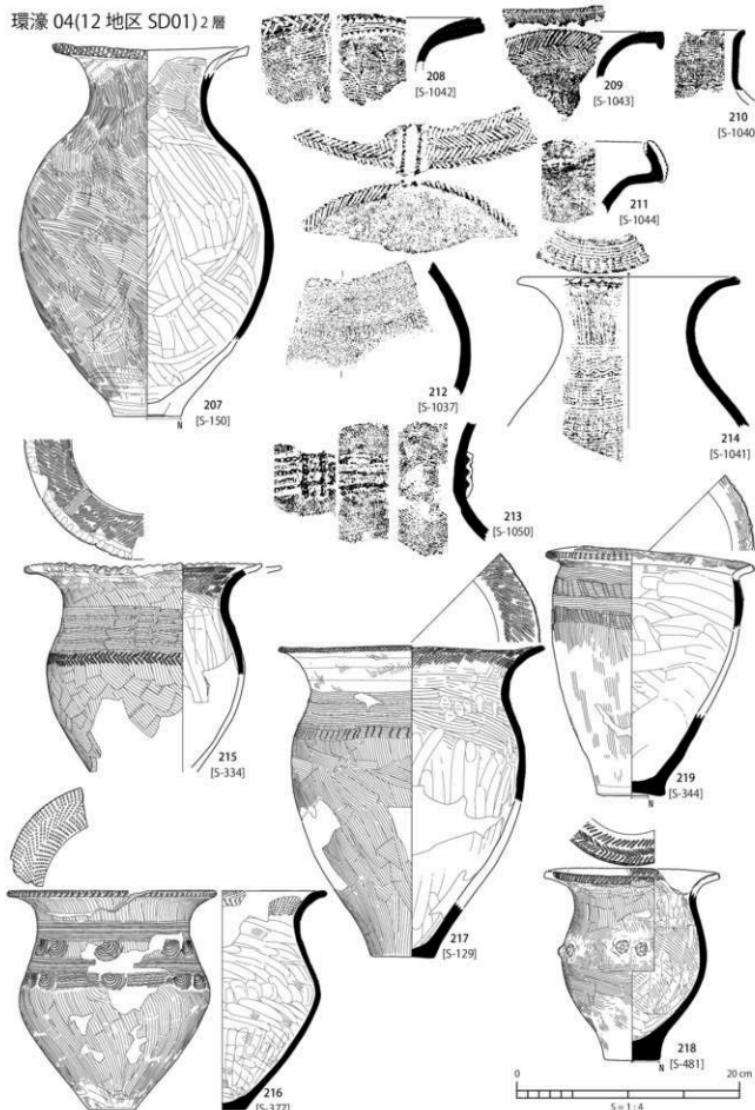


環濠 04(12 地区 SD01)1 层



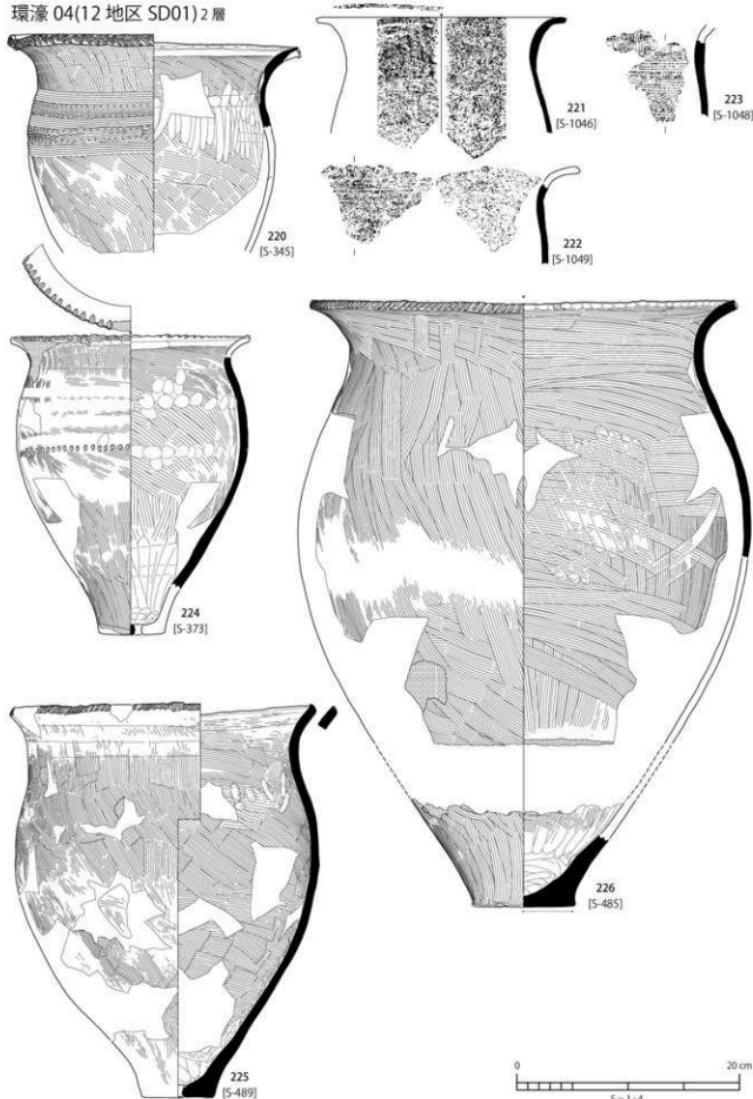
第 25 図 環濠 02・03, 環濠 04 出土土器 (S=1/4)

環濠 04(12 地区 SD01)2 层



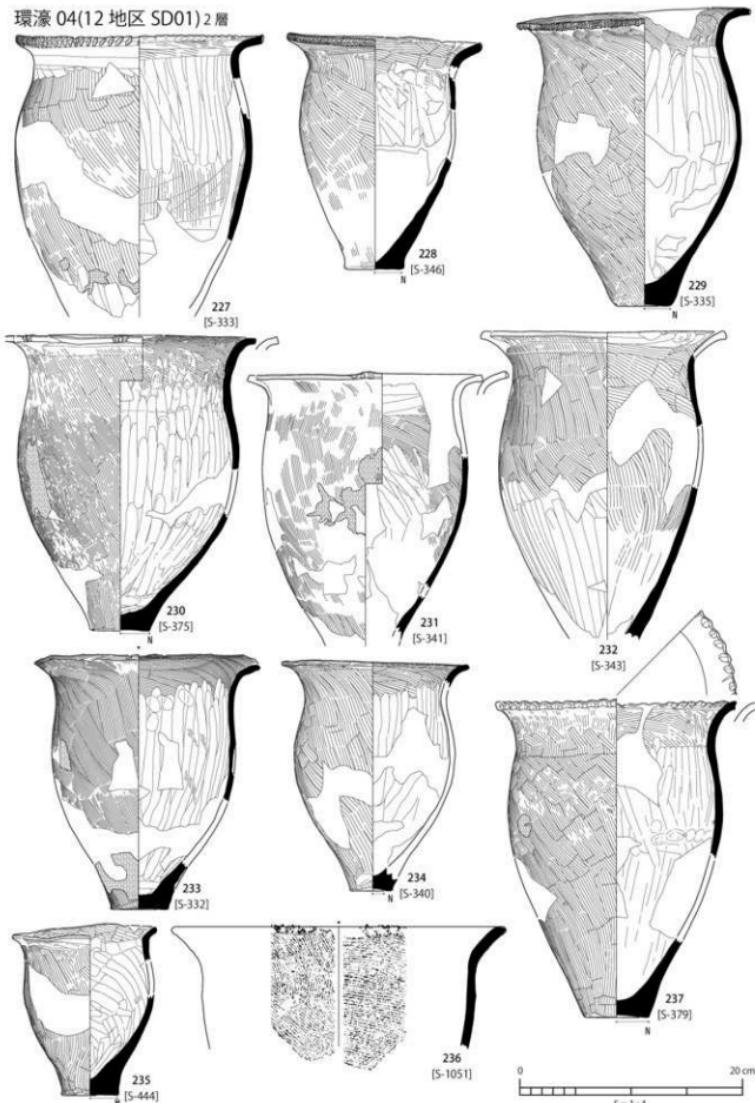
第 26 図 環濠 04 出土器 2(S=1/4)

環濠 04(12 地区 SD01)2 层



第 27 図 環濠 04 出土土器 3(S=1/4)

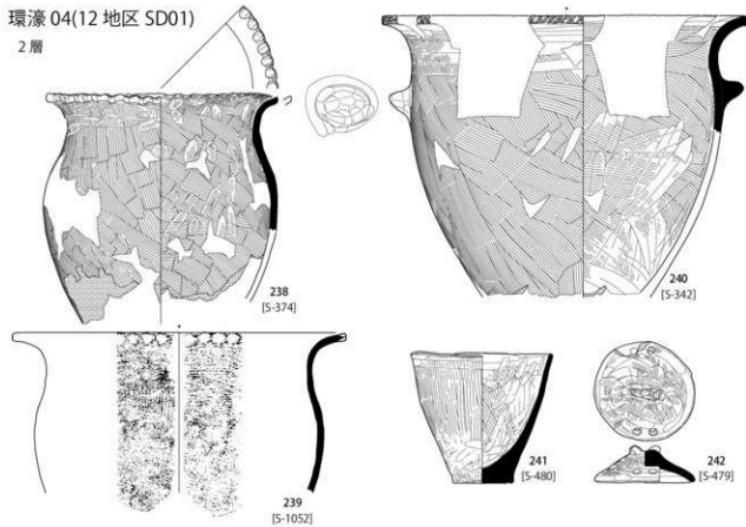
環濠 04(12 地区 SD01)2 層



第 28 図 環濠 04 出土土器 4(S=1/4)

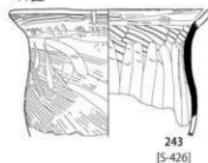
環濠 04(12 地区 SD01)

2層

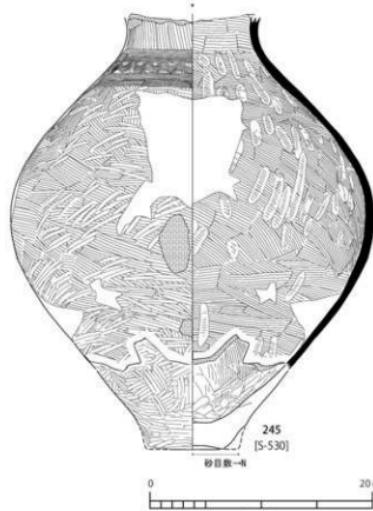
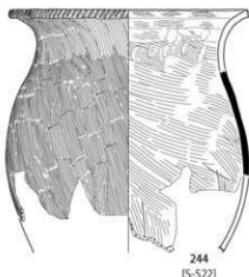


環濠 04(16 地区 SD8)

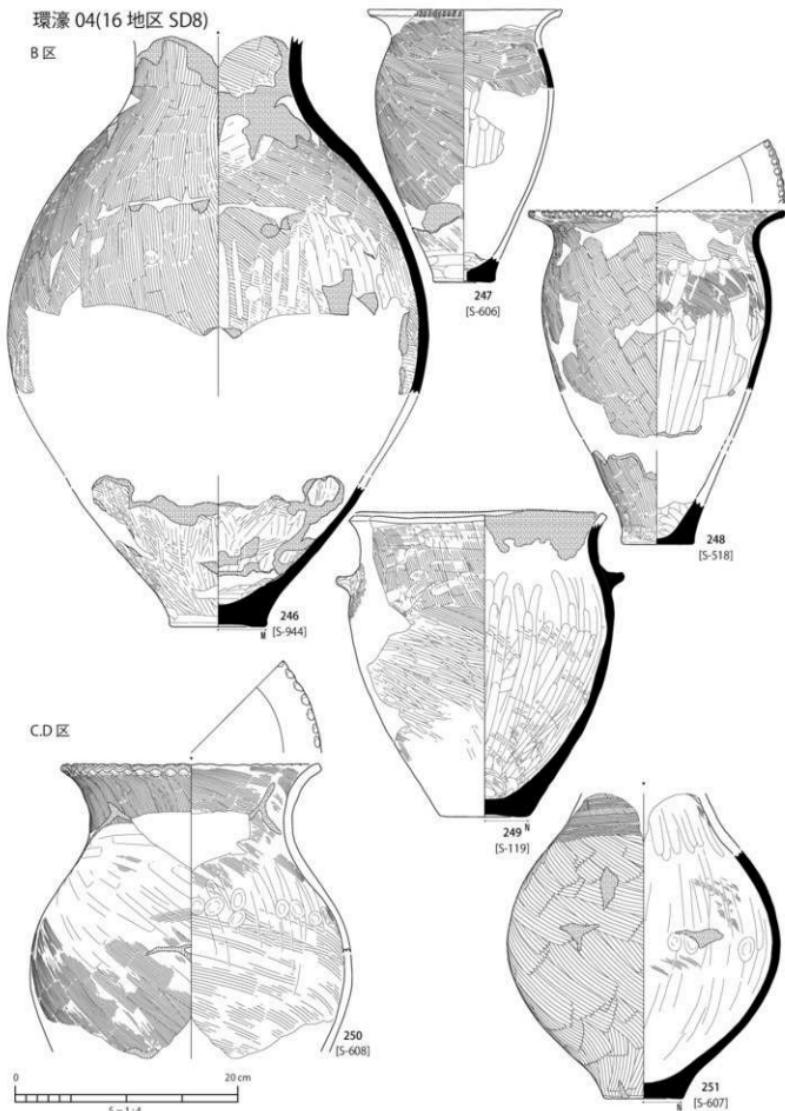
A 区



B 区



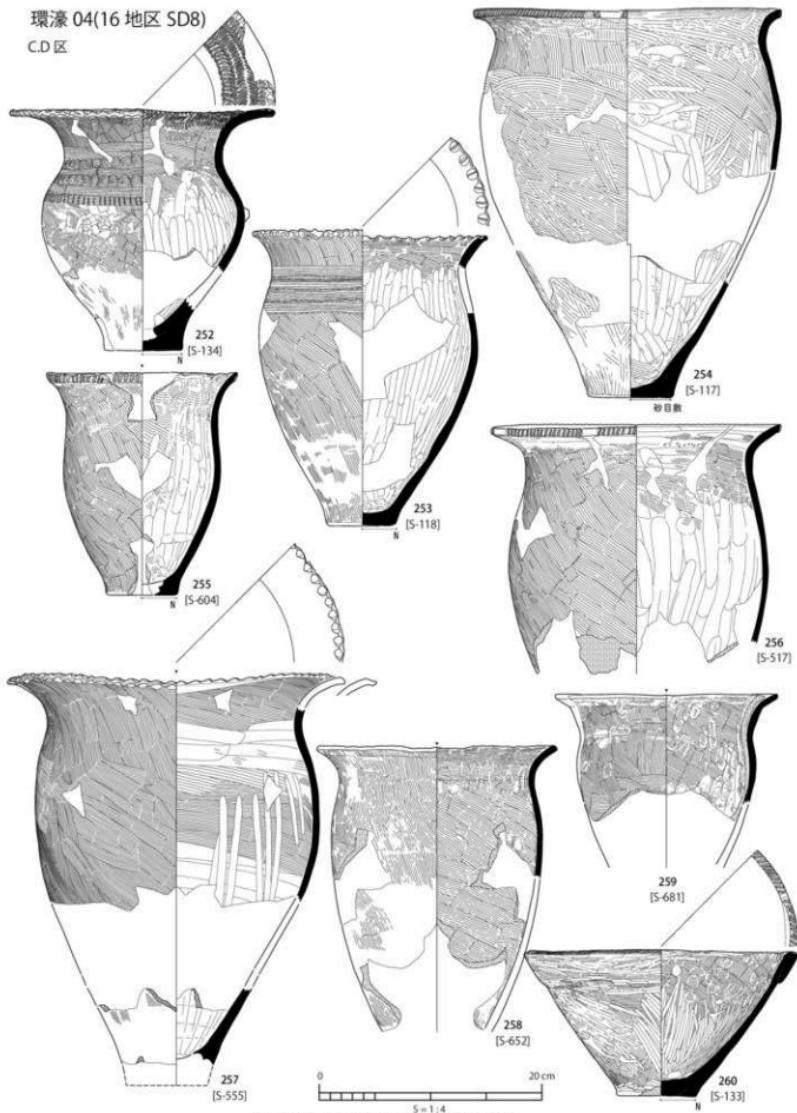
第 29 図 環濠 04 出土土器 5(S=1/4)



第 30 図 環濠 04 出土土器 6(S=1/4)

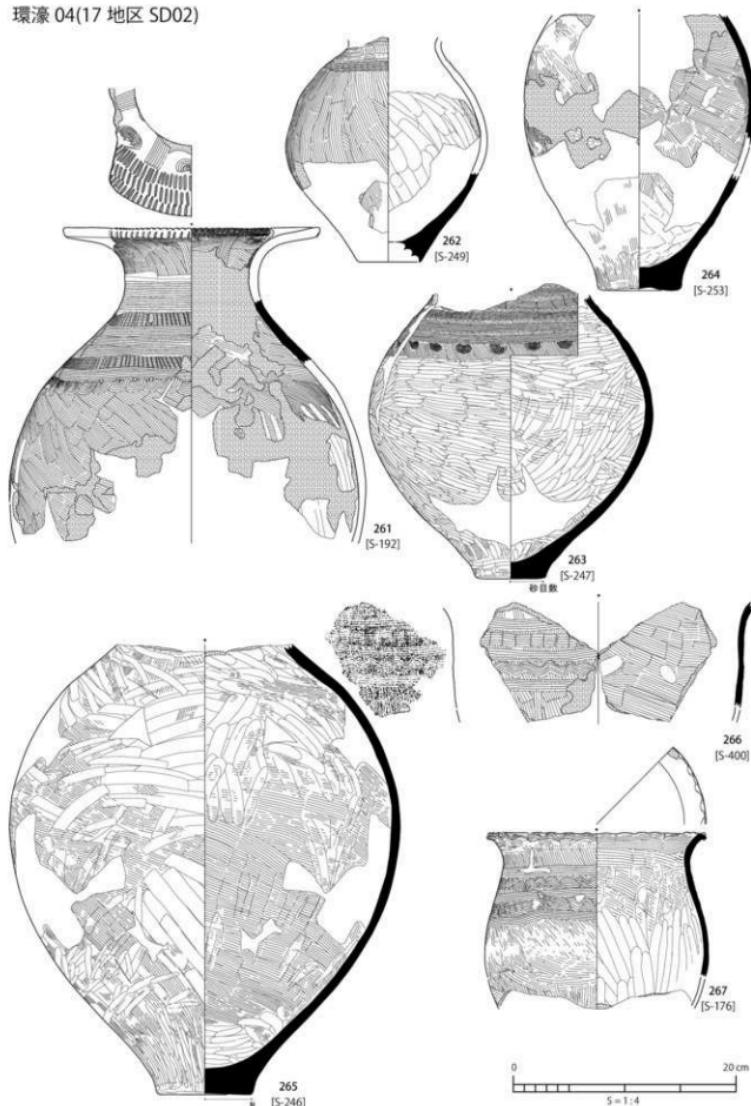
環濠 04(16 地区 SD8)

C.D 区

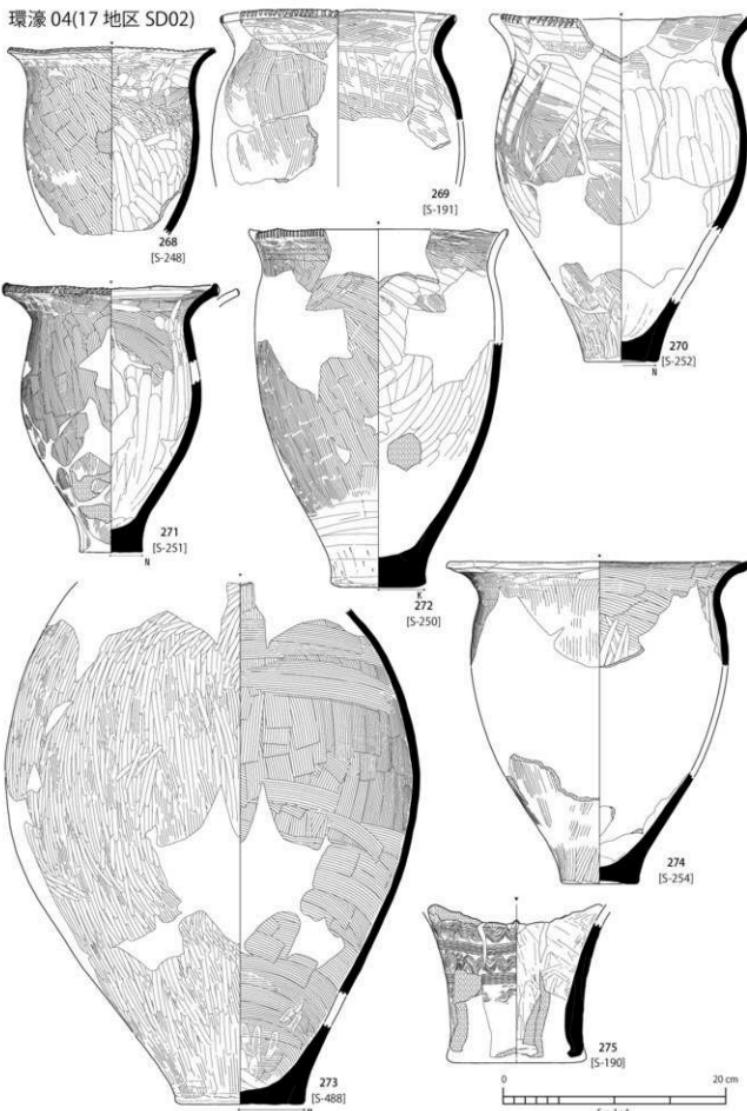


第 31 図 環濠 04 出土土器 7(S=1/4)

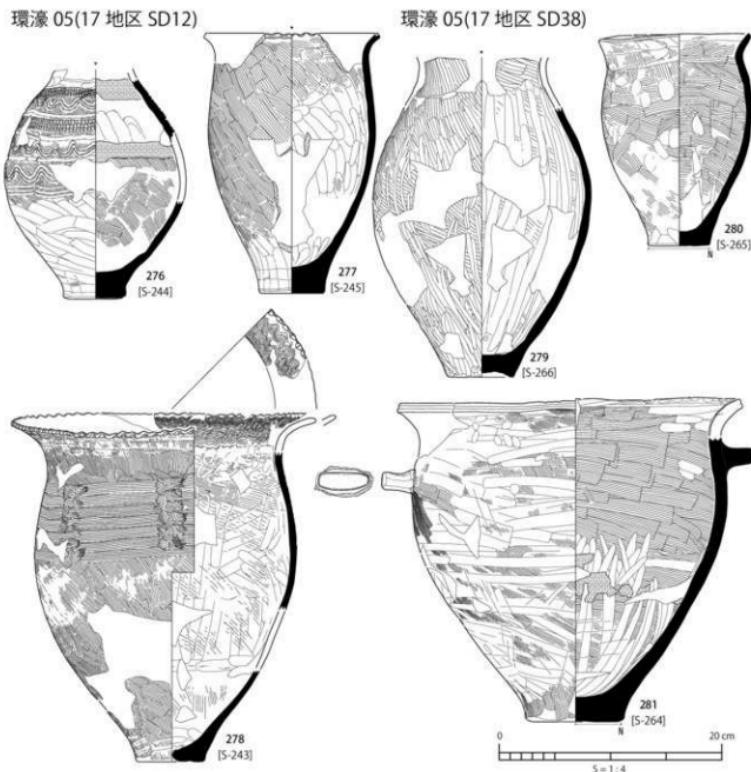
環濠 04(17 地区 SD02)



第 32 図 環濠 04 出土土器 8(S=1/4)



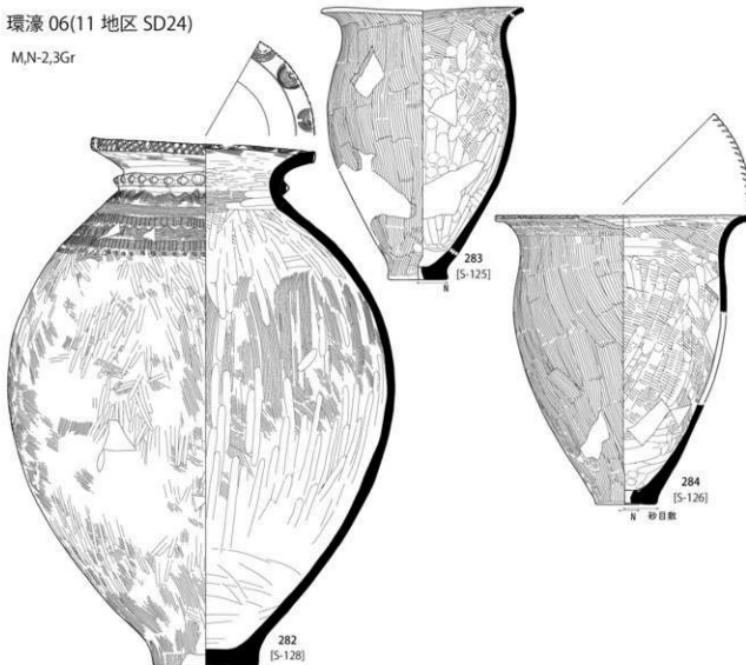
第 33 図 環濠 04 出土土器 9(S=1/4)



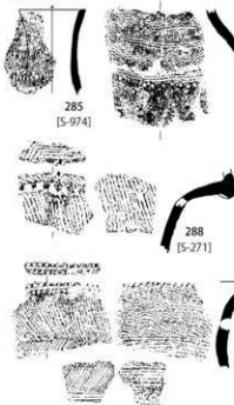
第34図 環濠 05 出土土器 (S=1/4)

環濠 06(11 地区 SD24)

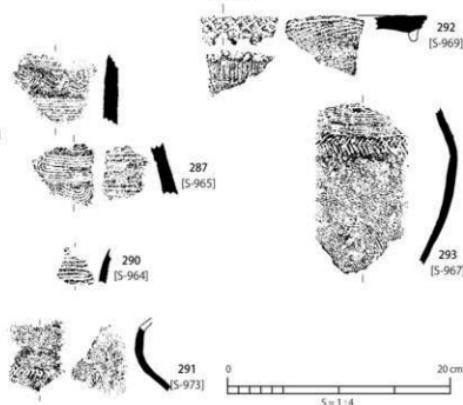
M,N-2,3Gr



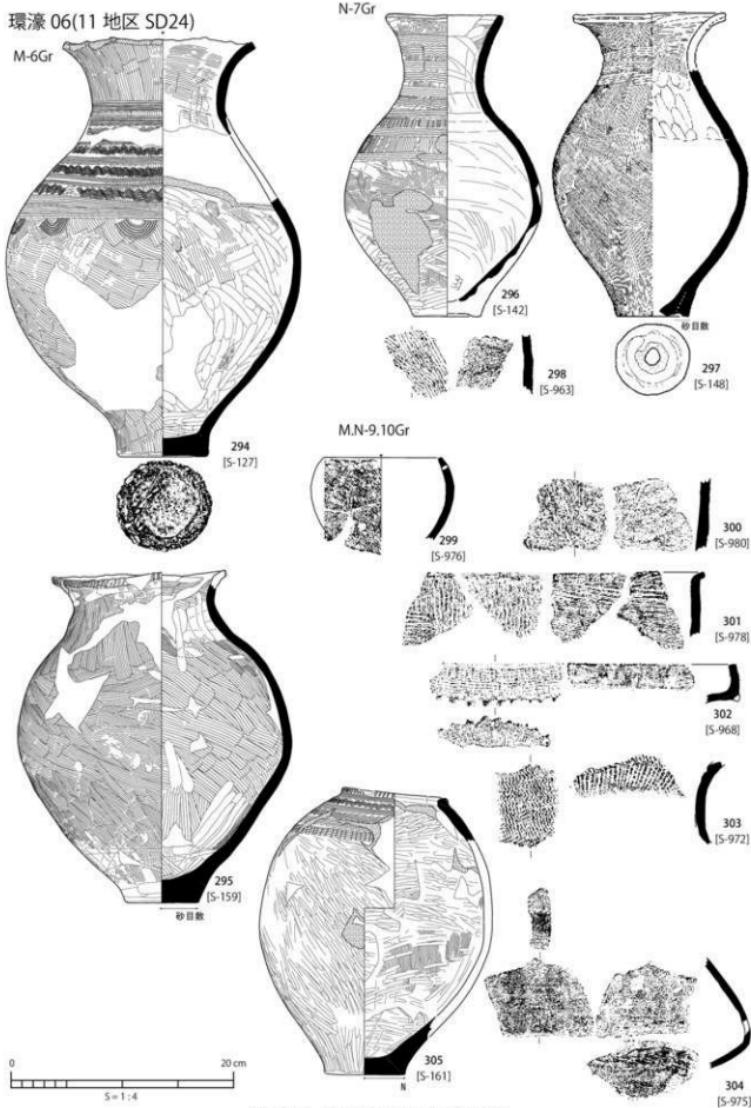
M-4,5Gr



M-6,7Gr

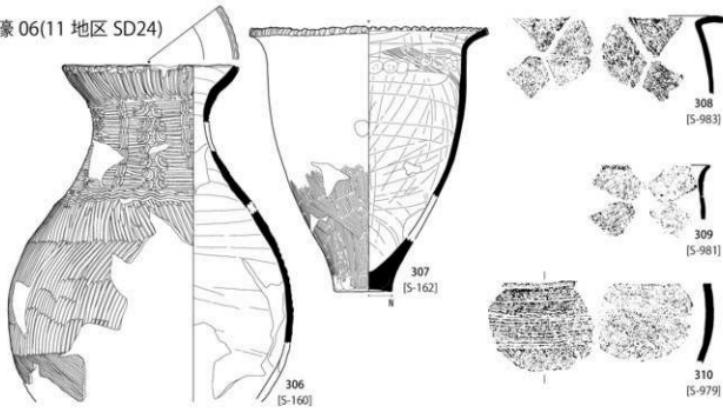


第 35 図 環濠 06 出土土器 1(S=1/4)

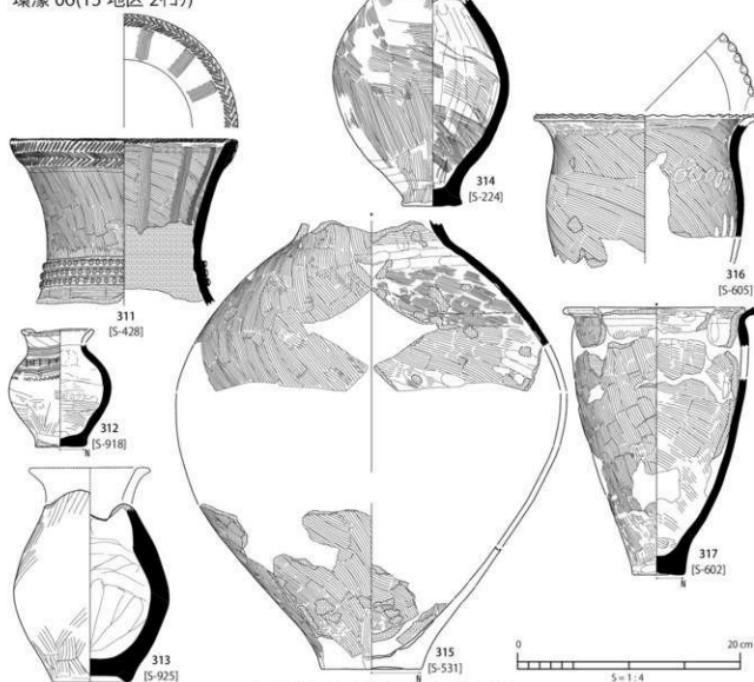


第 36 図 環濠 06 出土土器 2(S=1/4)

環濠 06(11 地区 SD24)

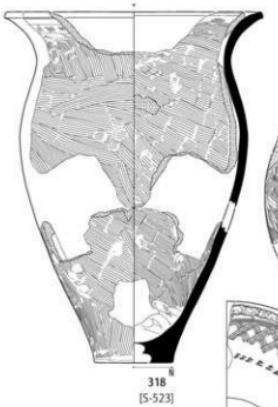


環濠 06(15 地区 2 号)

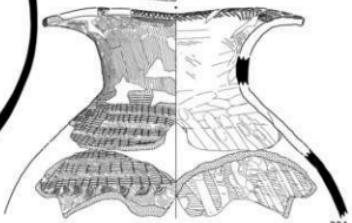
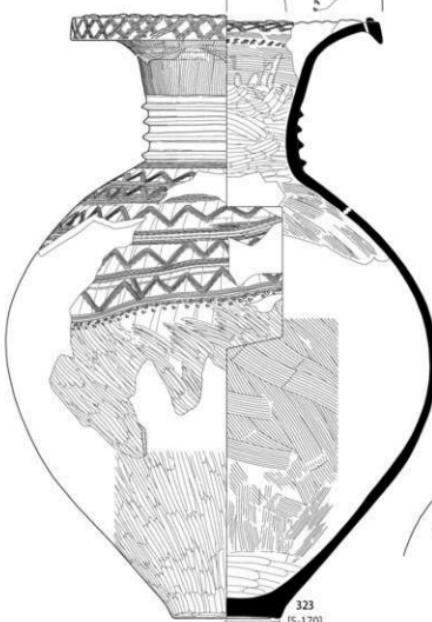
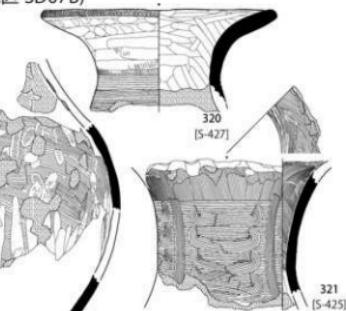
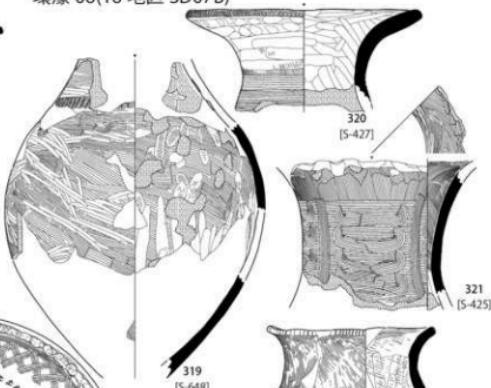


第 37 図 環濠 06 出土土器 3(S=1/4)

環濠 06(15 地区 2 号)

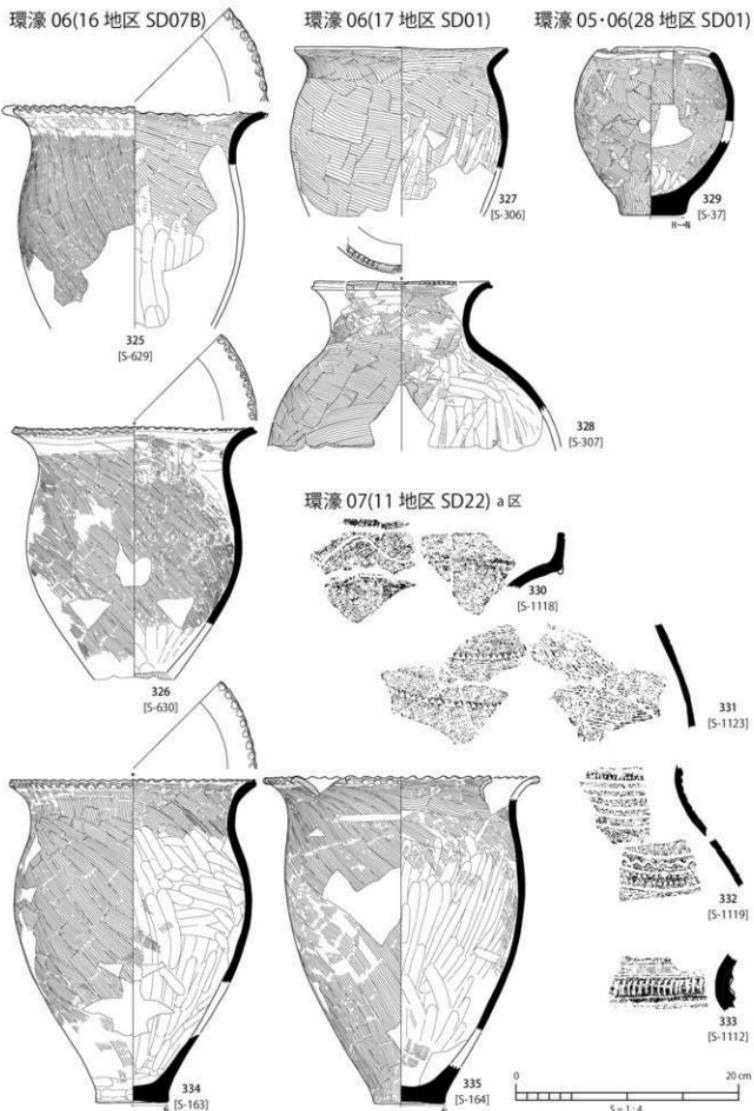


環濠 06(16 地区 SD07B)



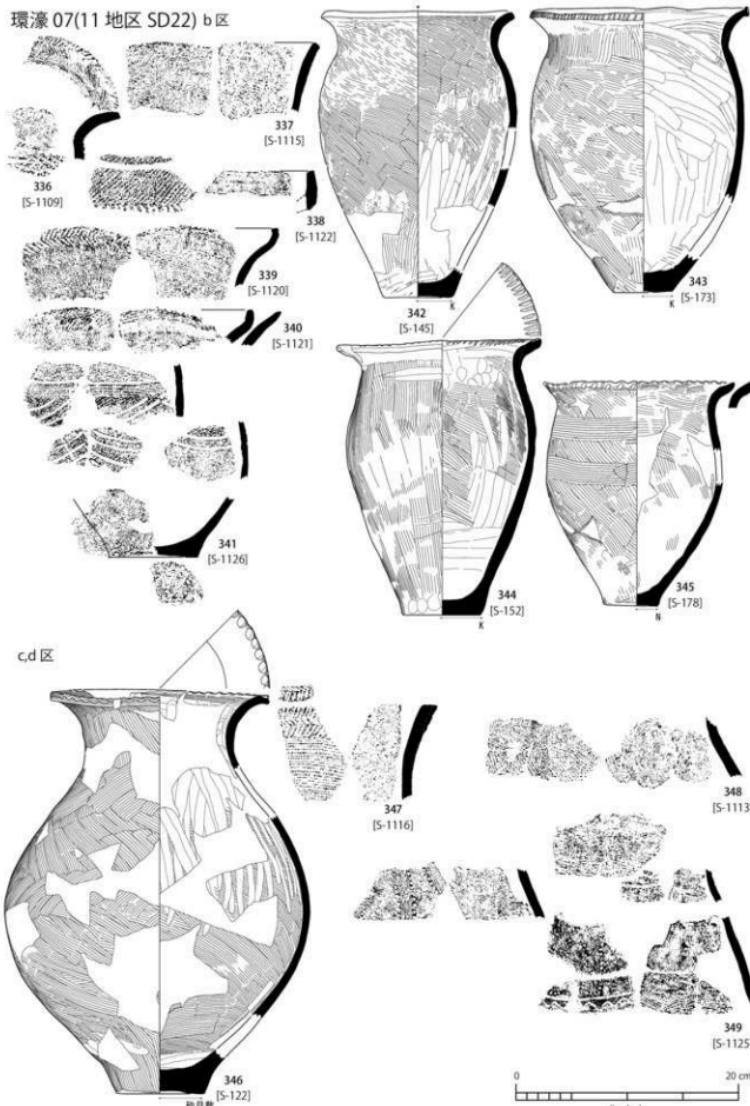
0
5 20 cm
1:4

第 38 図 環濠 06 出土土器 4(S=1/4)



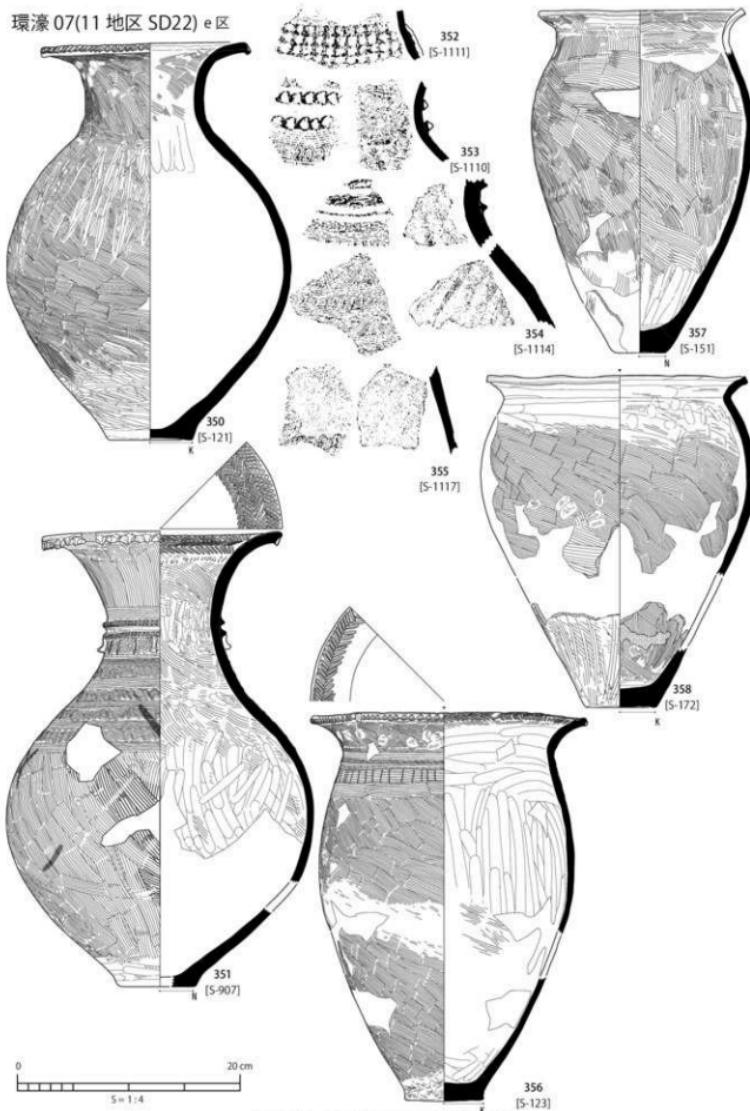
第 39 図 環濠 06, 環濠 05·06, 環濠 07 出土土器 (S=1/4)

環濠 07(11 地区 SD22) b 区



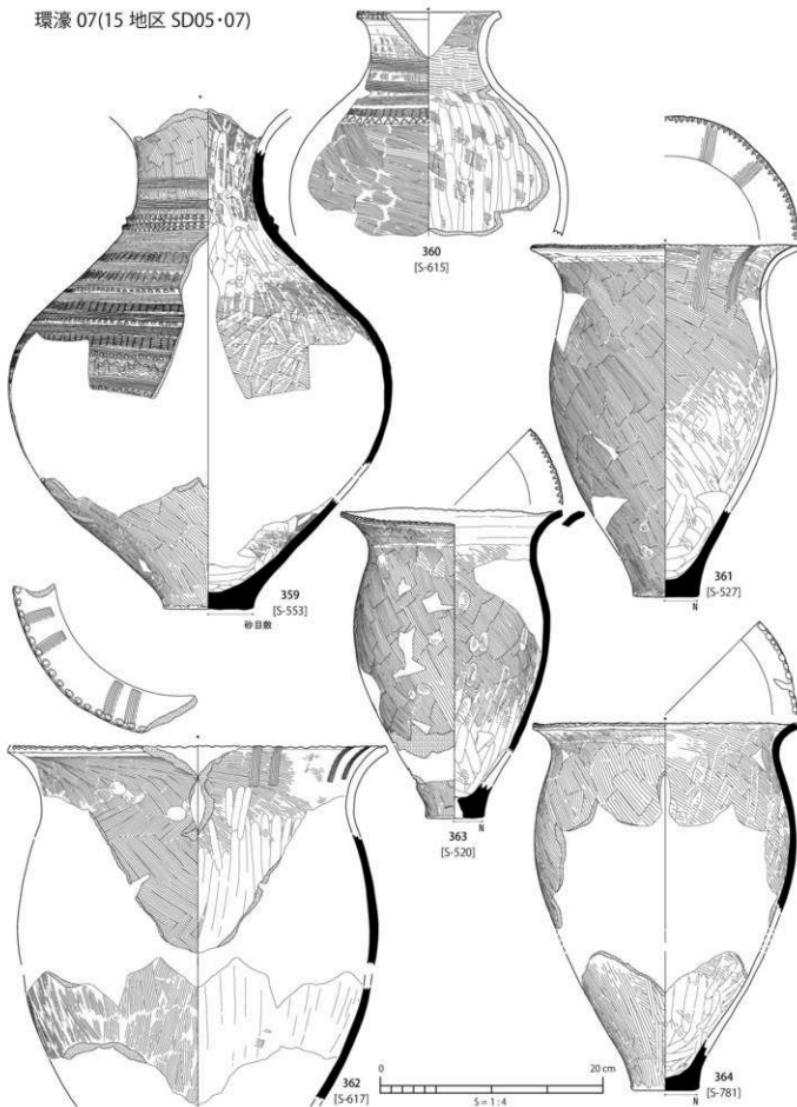
第 40 図 環濠 07 出土土器 2(S=1/4)

環濠 07(11 地区 SD22) e 区

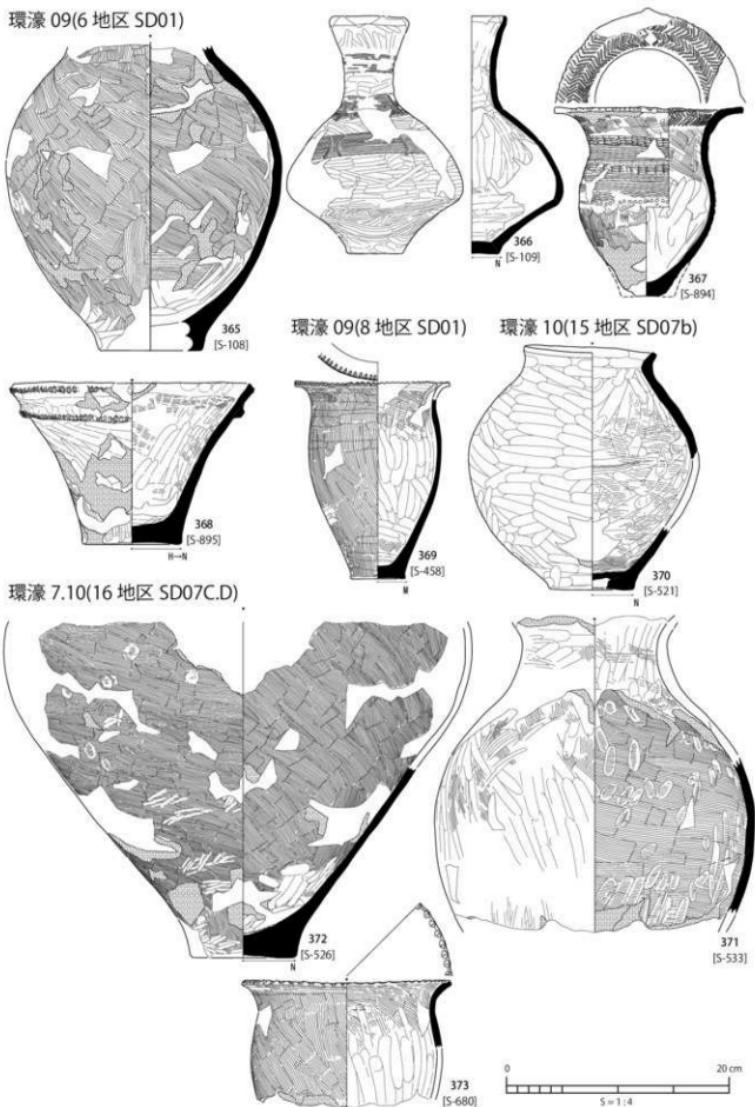


第 41 図 環濠 07 出土土器 3(S=1/4)

環濠 07(15 地区 SD05·07)

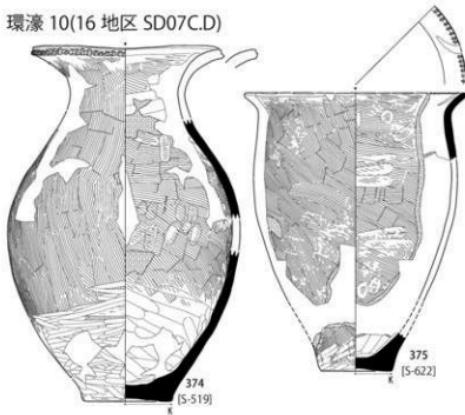


第 42 図 環濠 07 出土土器 4(S=1/4)

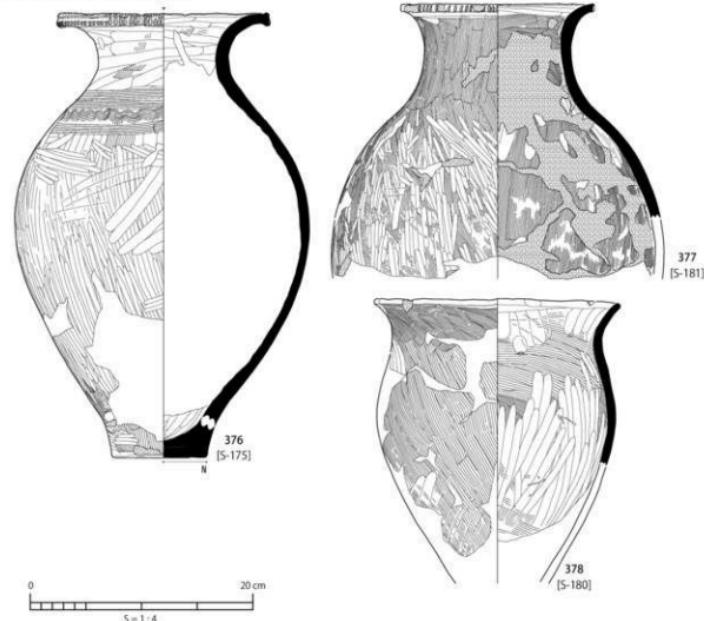


第43図 環濠09,10出土土器 (S=1/4)

環濠 10(16 地区 SD07C.D.)

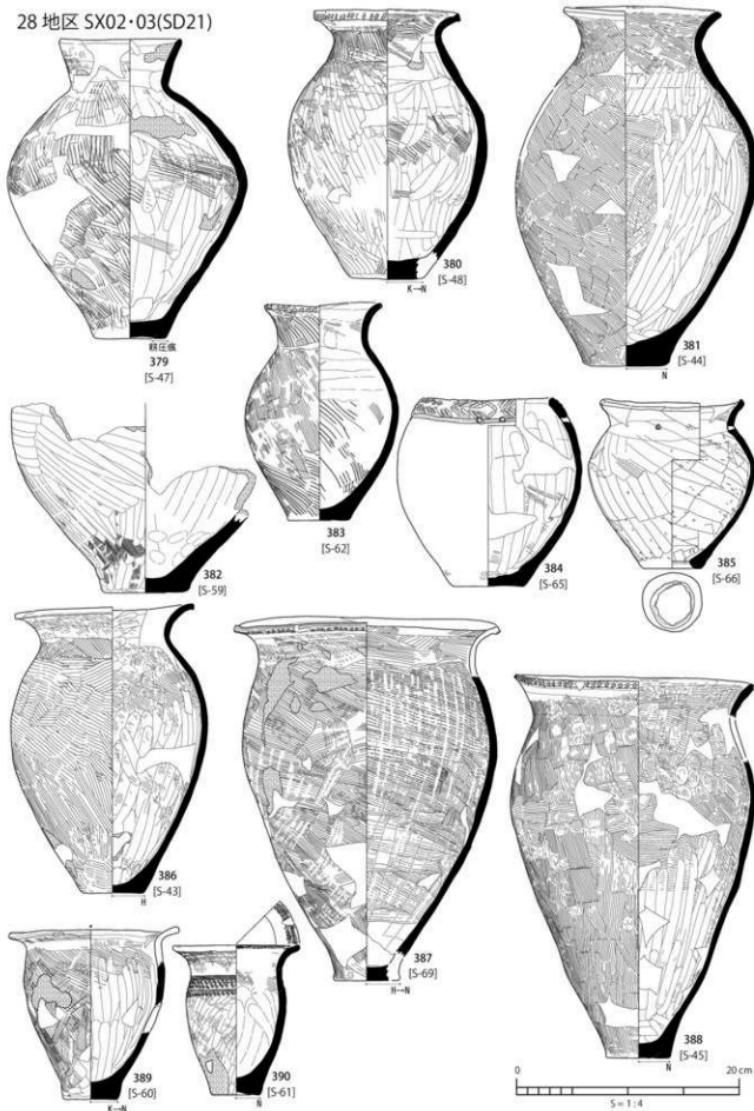


環濠 11(15 地区 SD18)



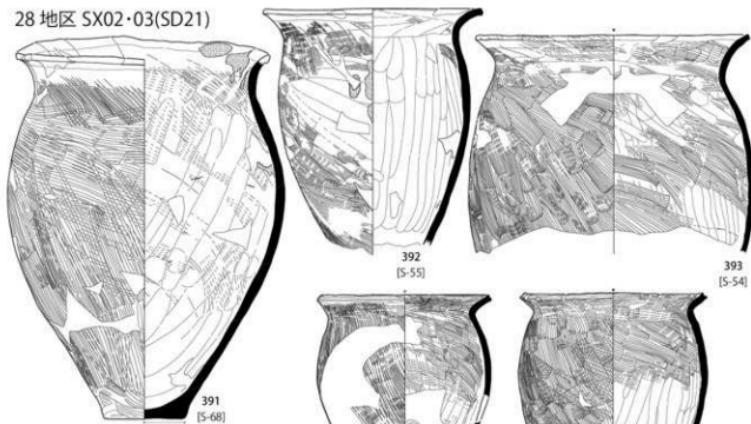
第 44 図 環濠 10,11 出土土器 (S=1/4)

28 地区 SX02·03(SD21)

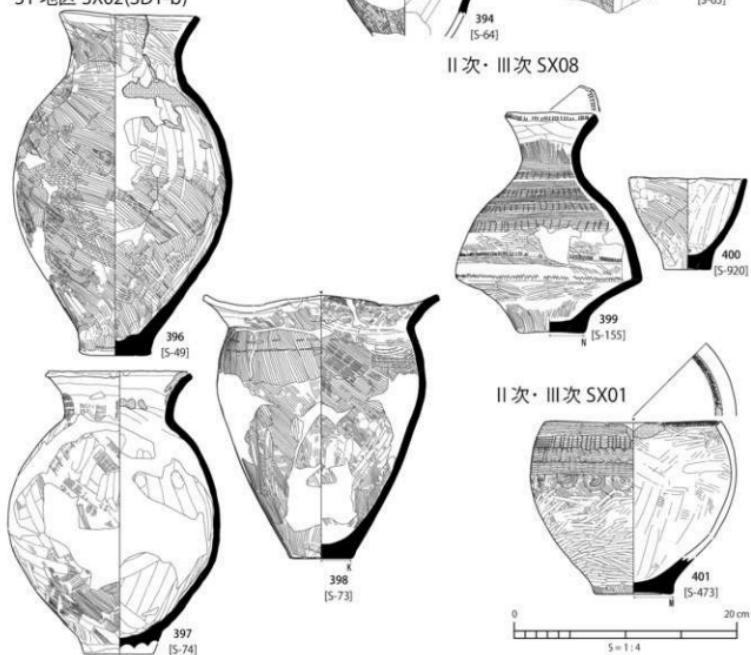


第 45 図 28 地区 SX02·03 方形周溝墓出土土器 (S=1/4)

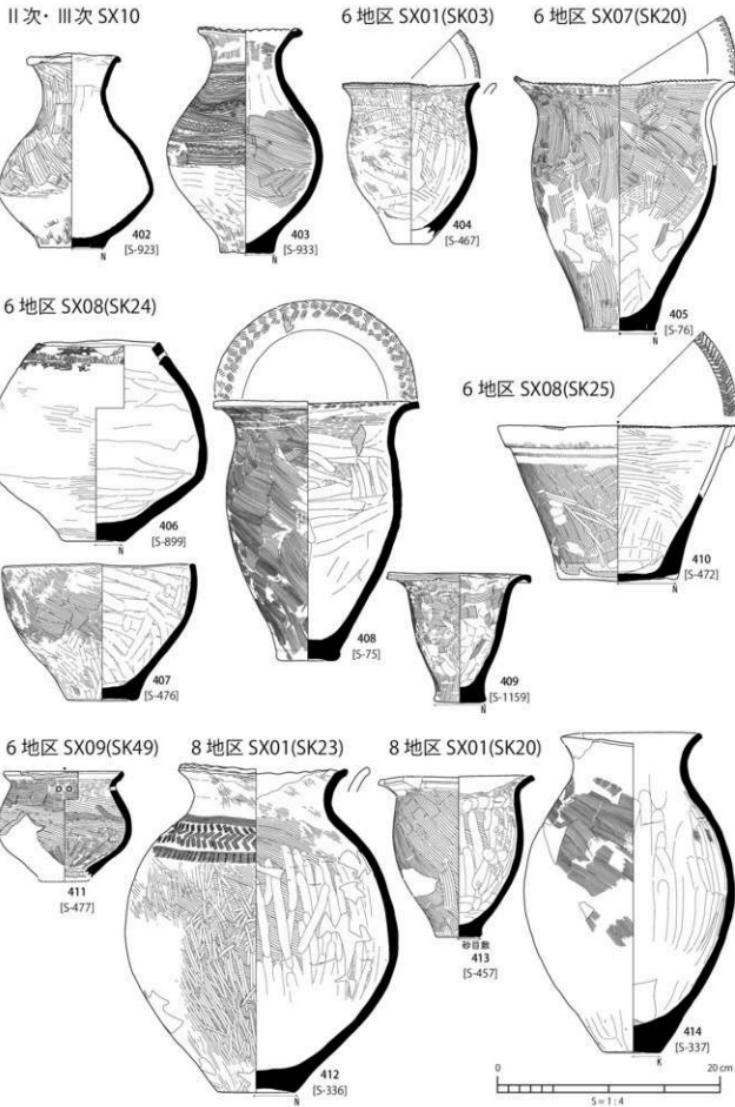
28 地区 SX02・03(SD21)



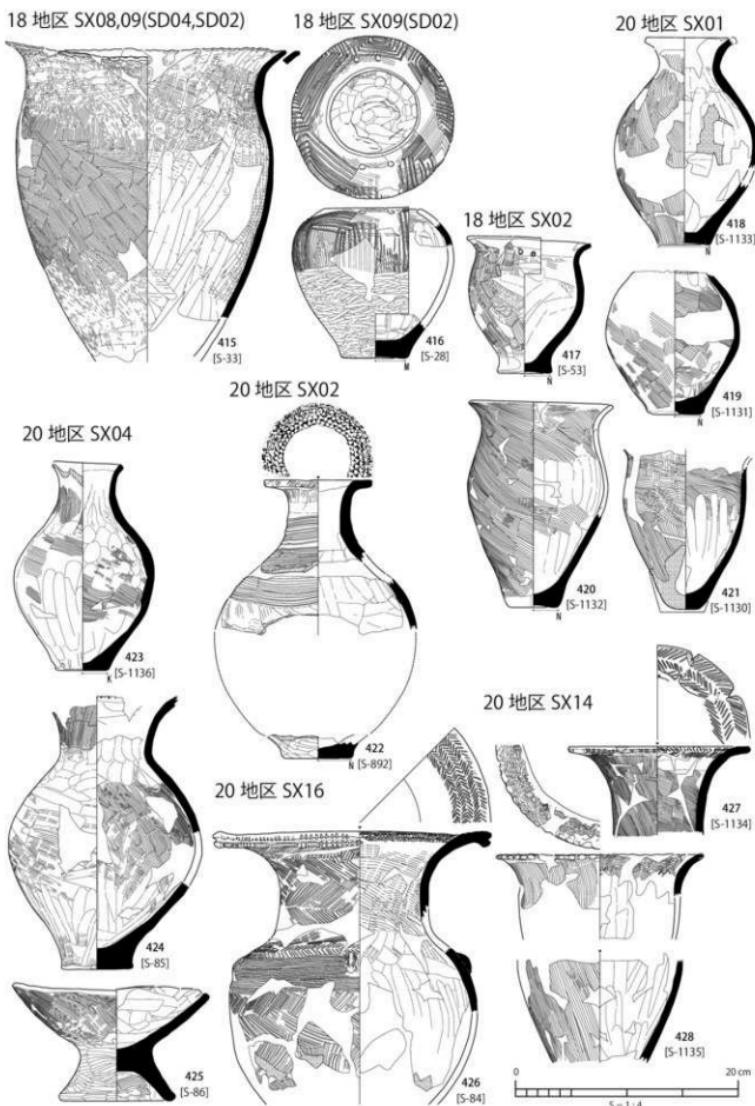
31 地区 SX02(SD1-b)



第 46 図 28,31 地区, II・III 次方形周溝墓出土土器 (S=1/4)

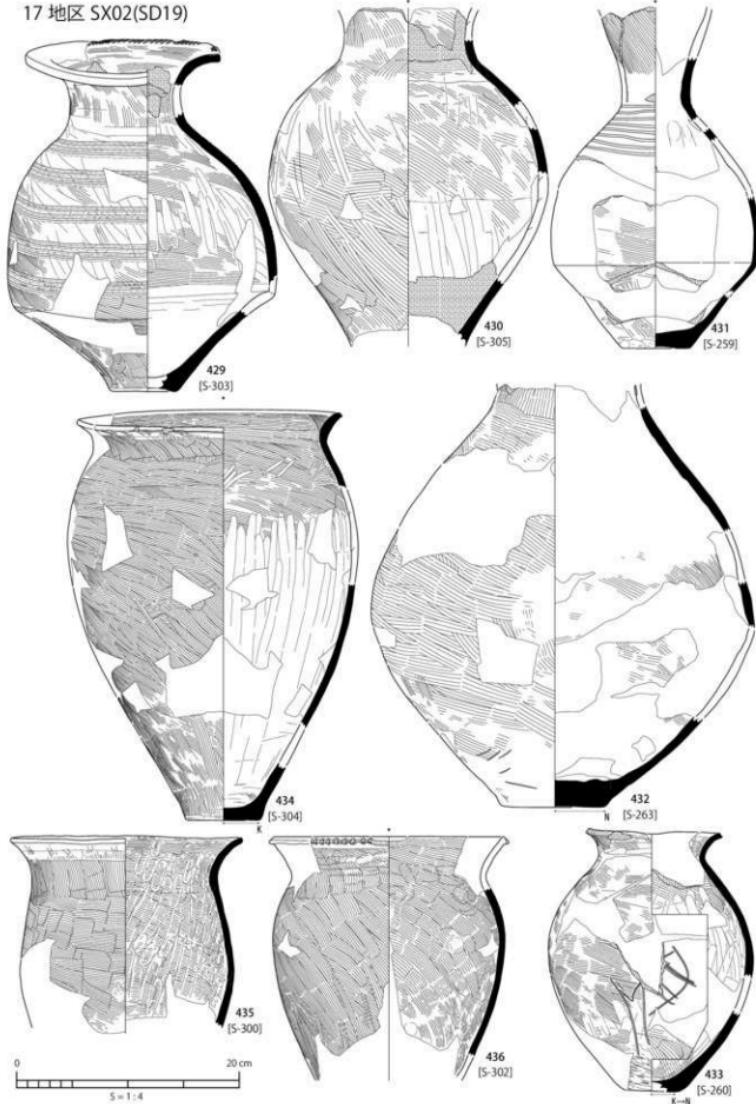


第47図 II・III次, 6,8 地区方形周溝墓出土土器 (S=1/4)



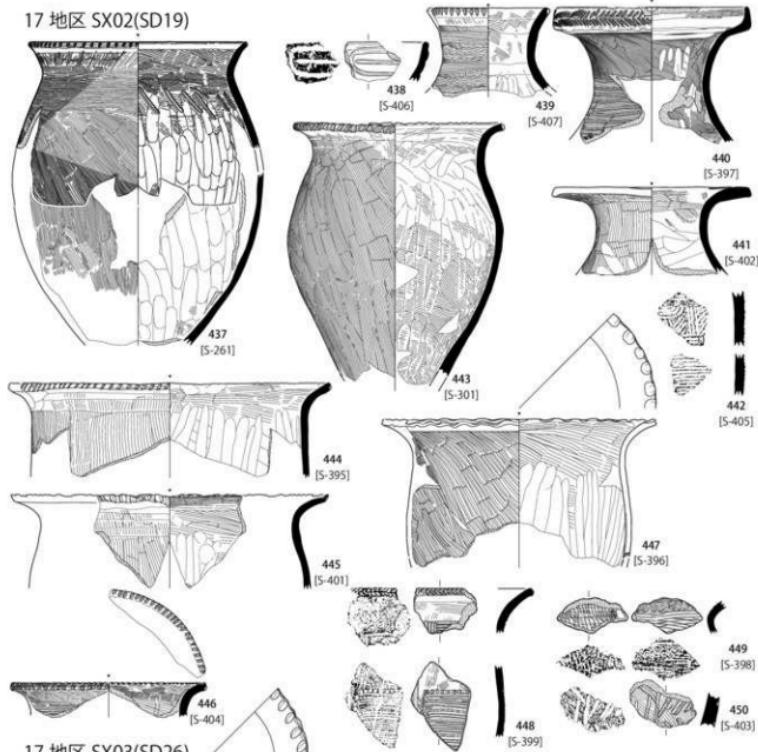
第 48 图 18,20 地区方形周溝墓出土土器 (S=1/4)

17 地区 SX02(SD19)

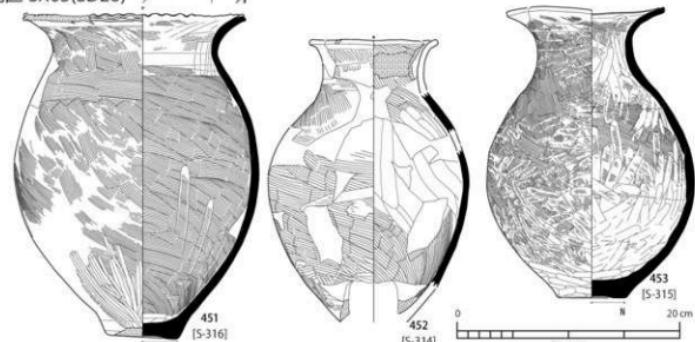


第49図 17地区方形周溝墓出土土器 (S=1/4)

17 地区 SX02(SD19)

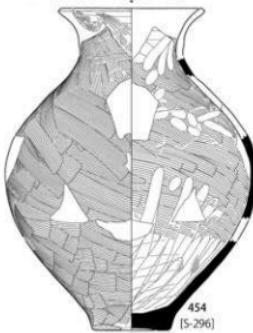


17 地区 SX03(SD26)

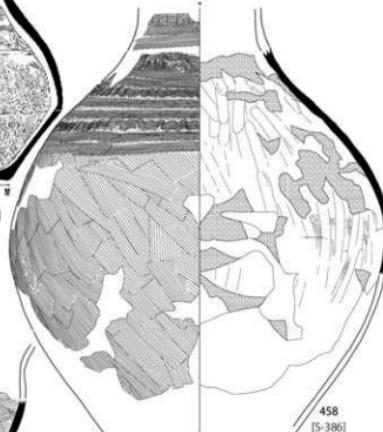


第 50 図 17 地区方形周溝墓出土土器 2 (S=1/4)

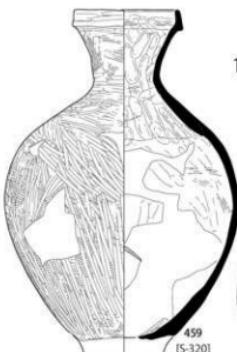
17 地区 SX03(SD26)



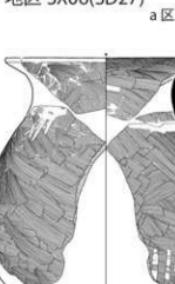
17 地区 SX04(SD28)



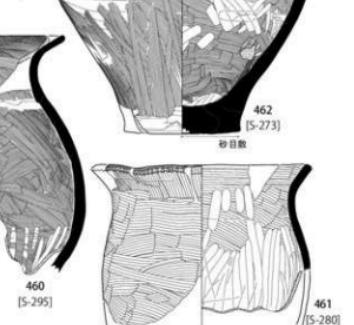
17 地区 SX05(SD30)



17 地区 SX06(SD27)



a 区



462
[S-273]

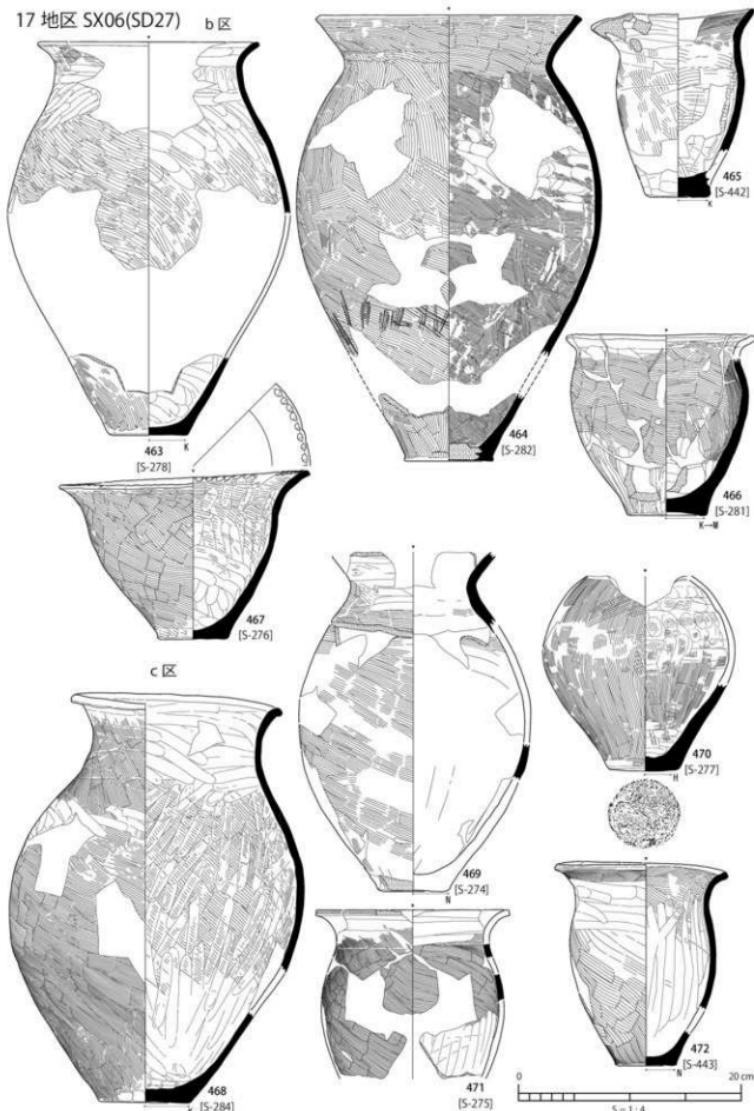
番号

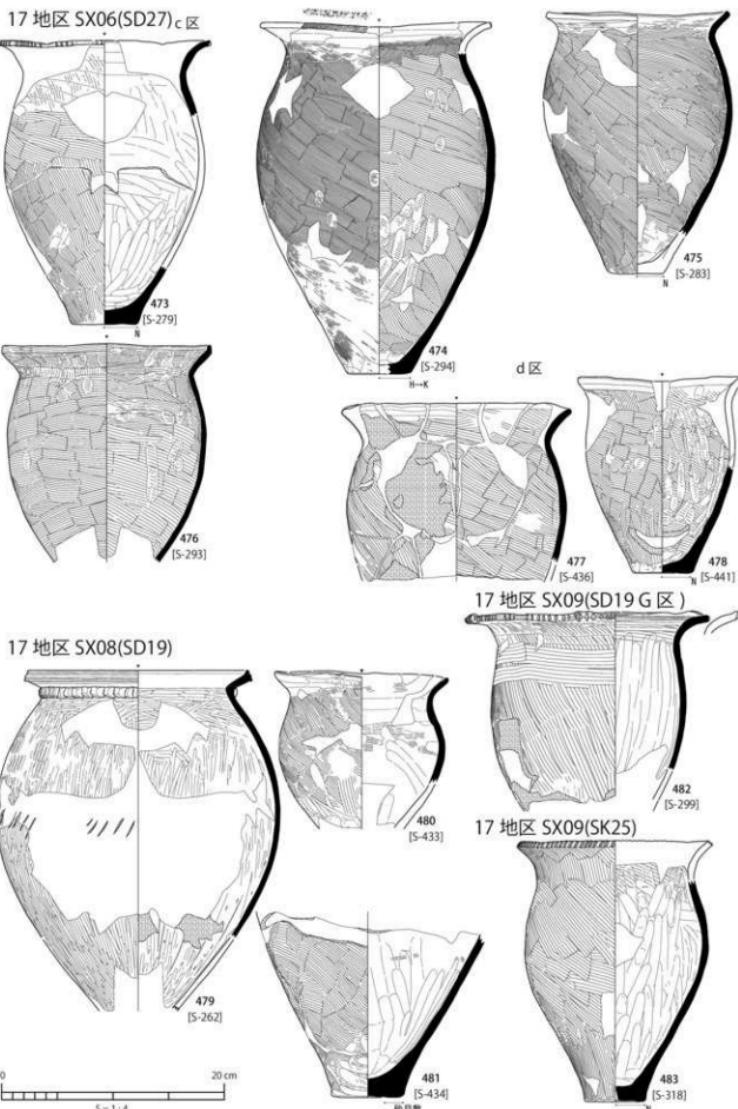
第 51 図 17 地区方形周溝墓出土土器 3(S=1/4)

0

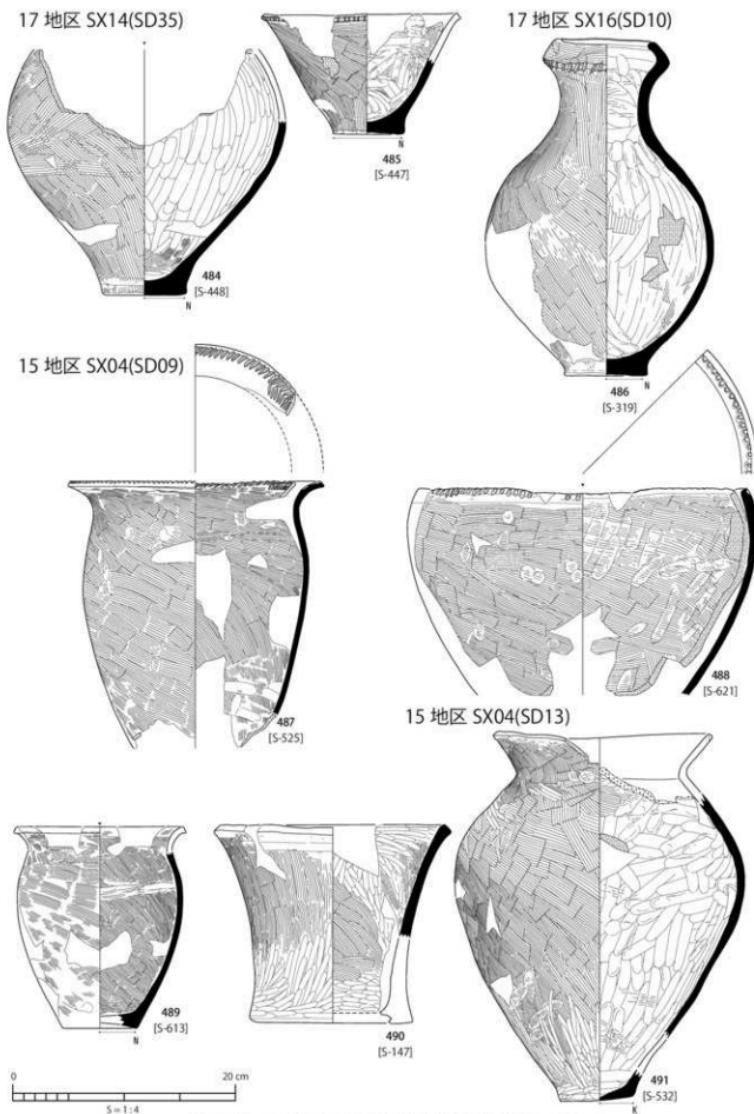
S = 1:4

20 cm



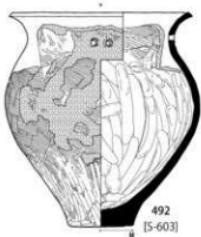


第 53 図 17 地区方形周溝墓出土土器 5(S=1/4)



第54図 17地区,15地区方形周溝墓出土土器 (S=1/4)

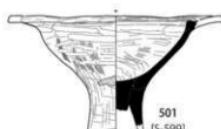
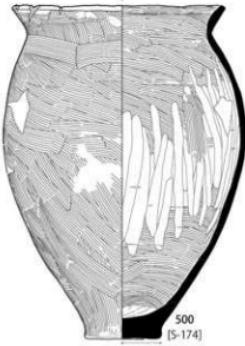
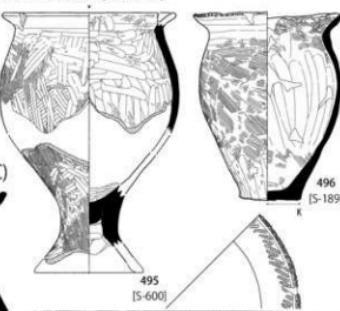
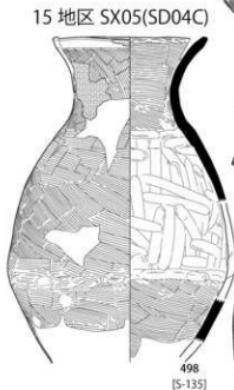
15 地区 SX02(SD2)



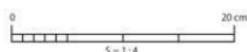
15 地区 SX03(SD7c)

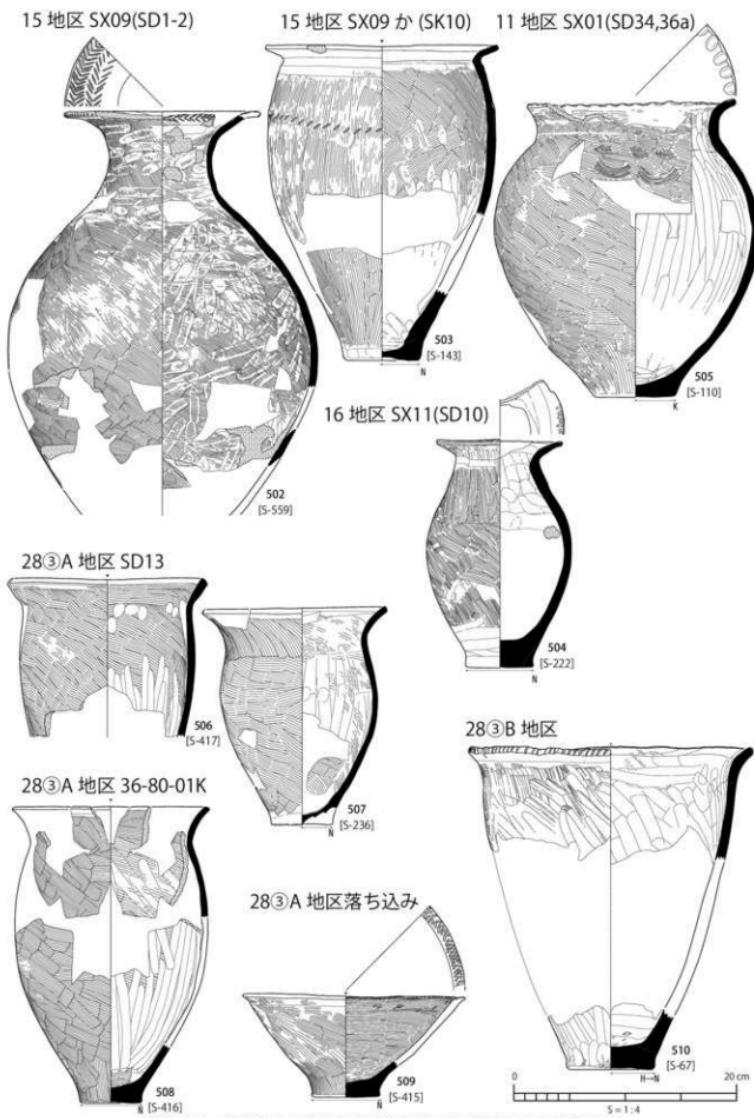


15 地区 SX05(SD04C)

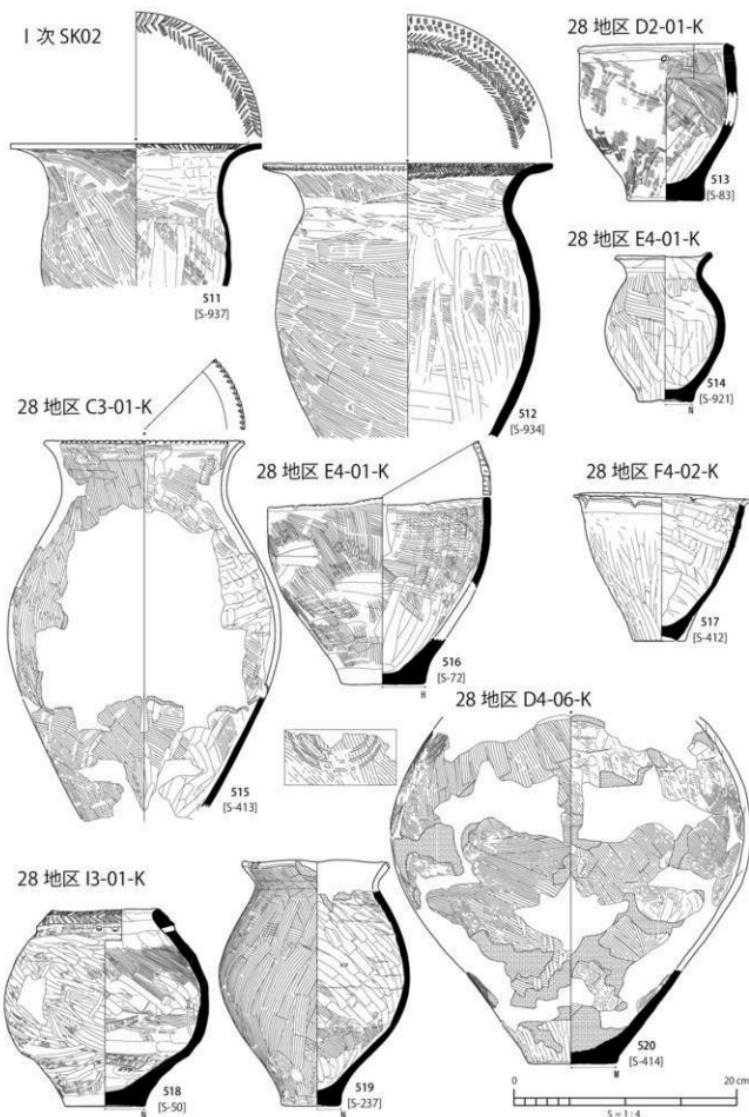


第 55 図 15 地区方形周溝基出土土器 2(S=1/4)

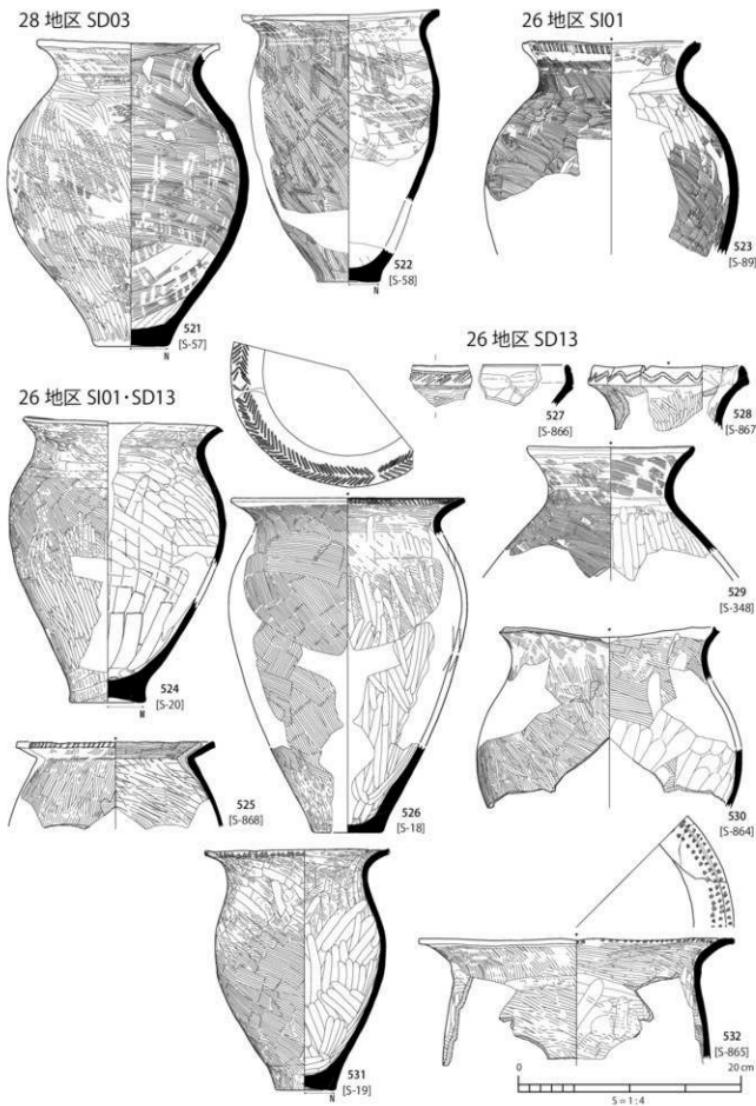




第56図 15地区, 11地区方形周溝墓, 28地区遺構出土土器 (S=1/4)

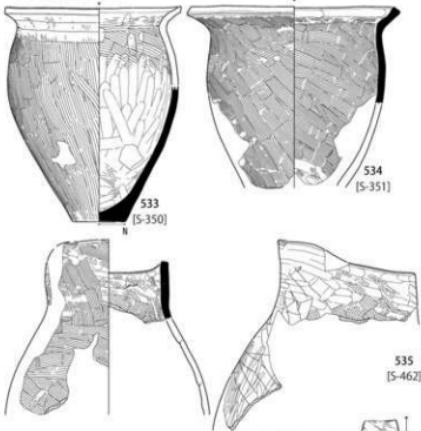


第 57 図 I 次 ,28 地区遺構出土土器 (S=1/4)

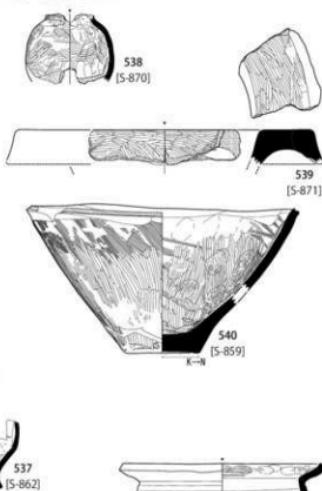


第 58 図 26 地区遺構出土土器 (S=1/4)

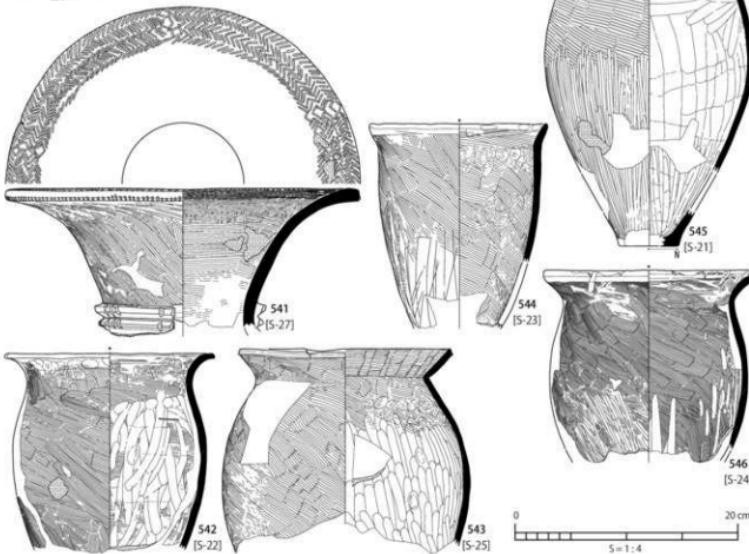
26 地区 SD13



26 地区 SD14

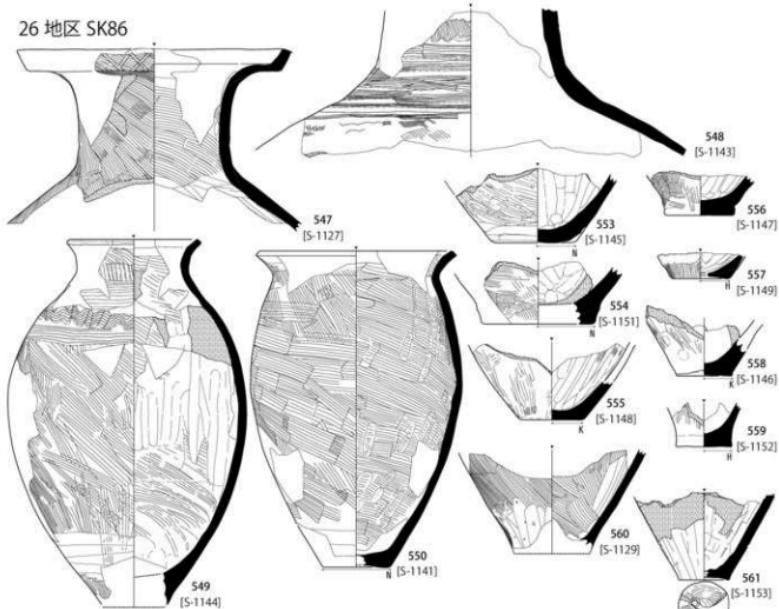


26 地区 SD15

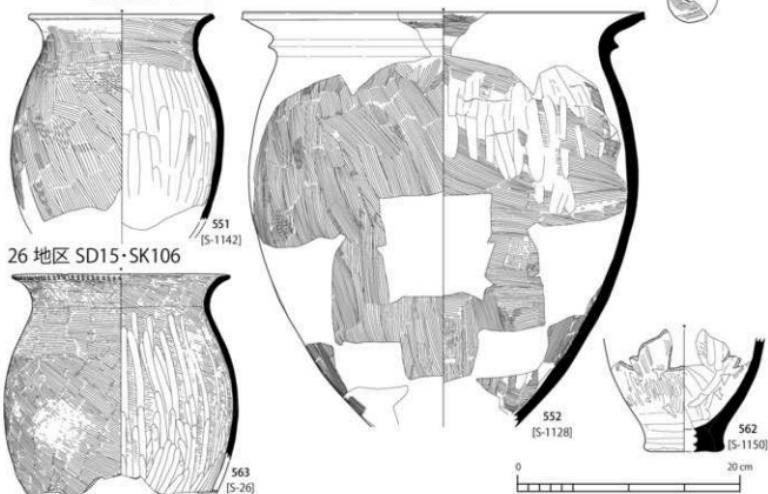


第 59 図 26 地区遺構出土土器 2 (S=1/4)

26 地区 SK86

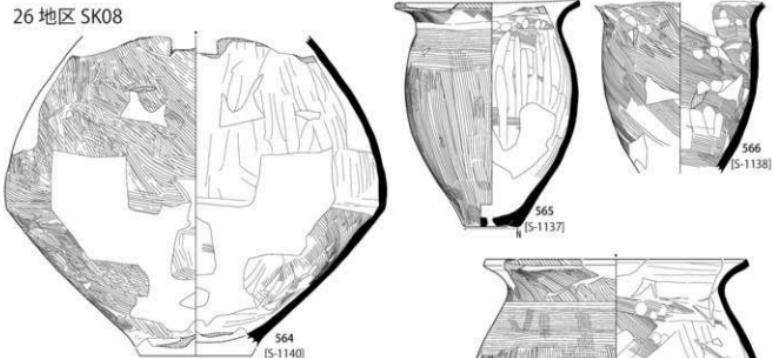


26 地区 SD15・SK106

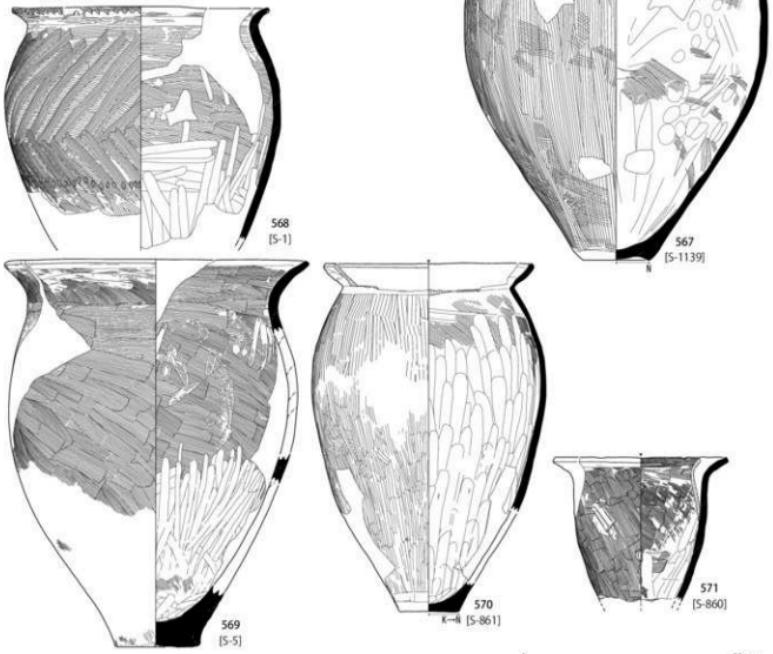


第60図 26地区遺構出土土器 3(S=1/4)

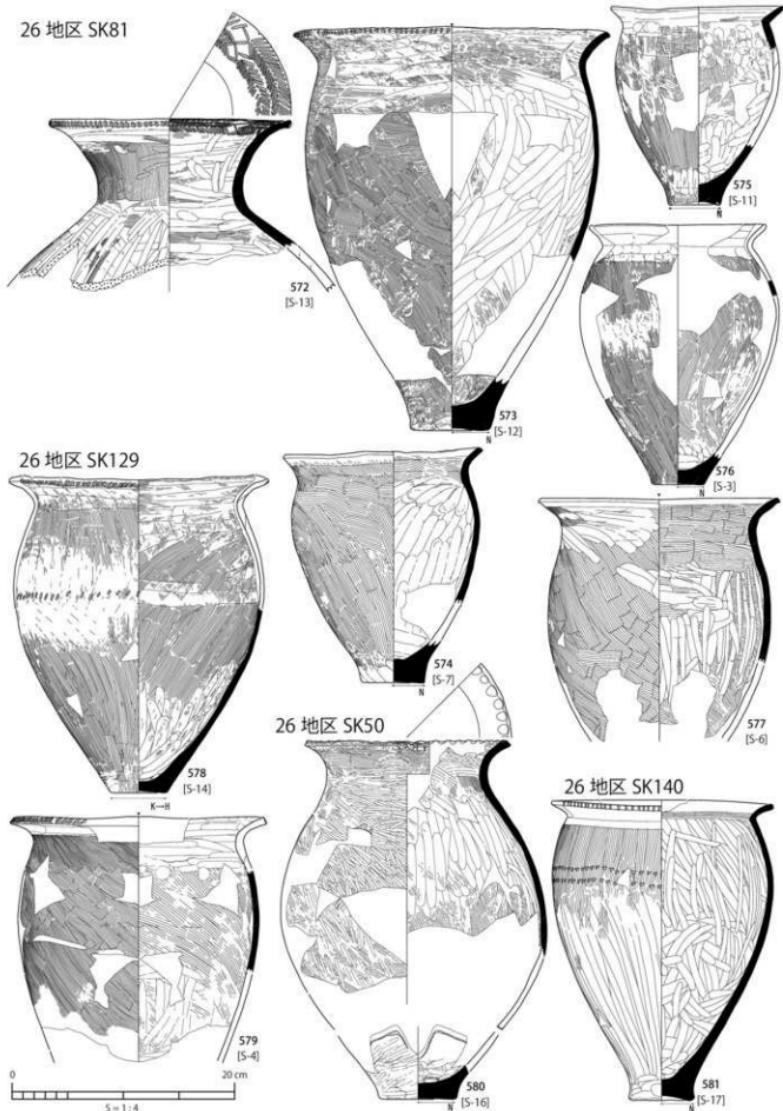
26 地区 SK08



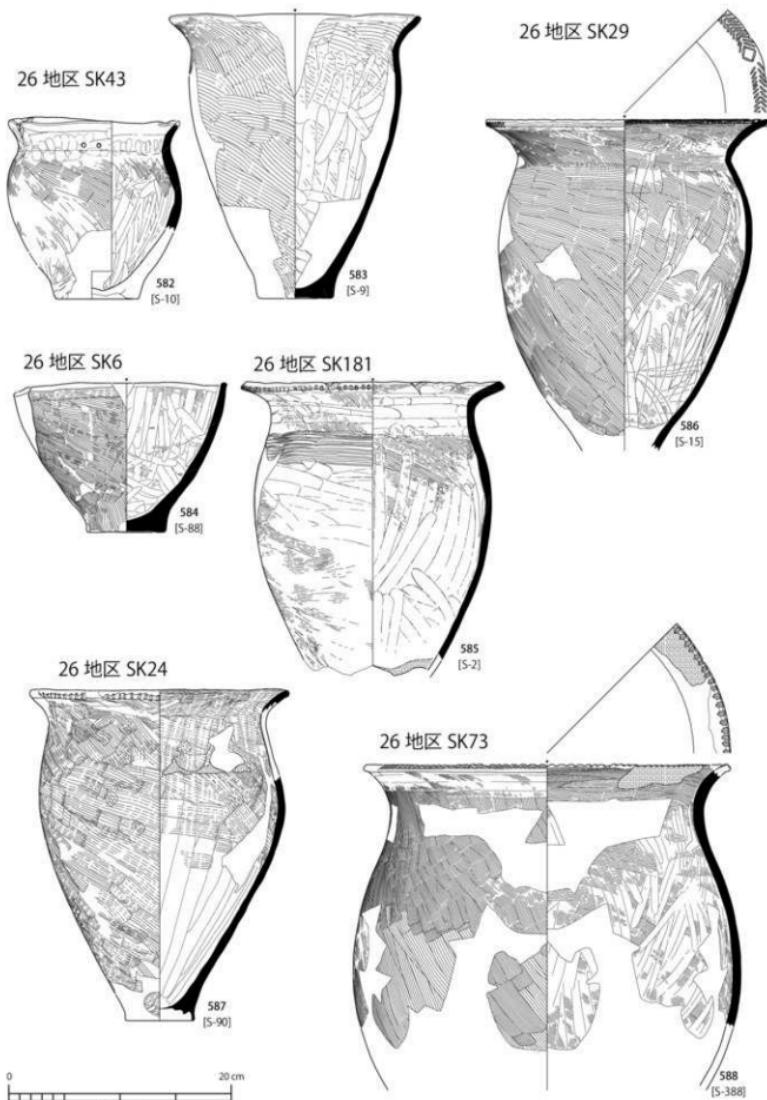
26 地区 SK77



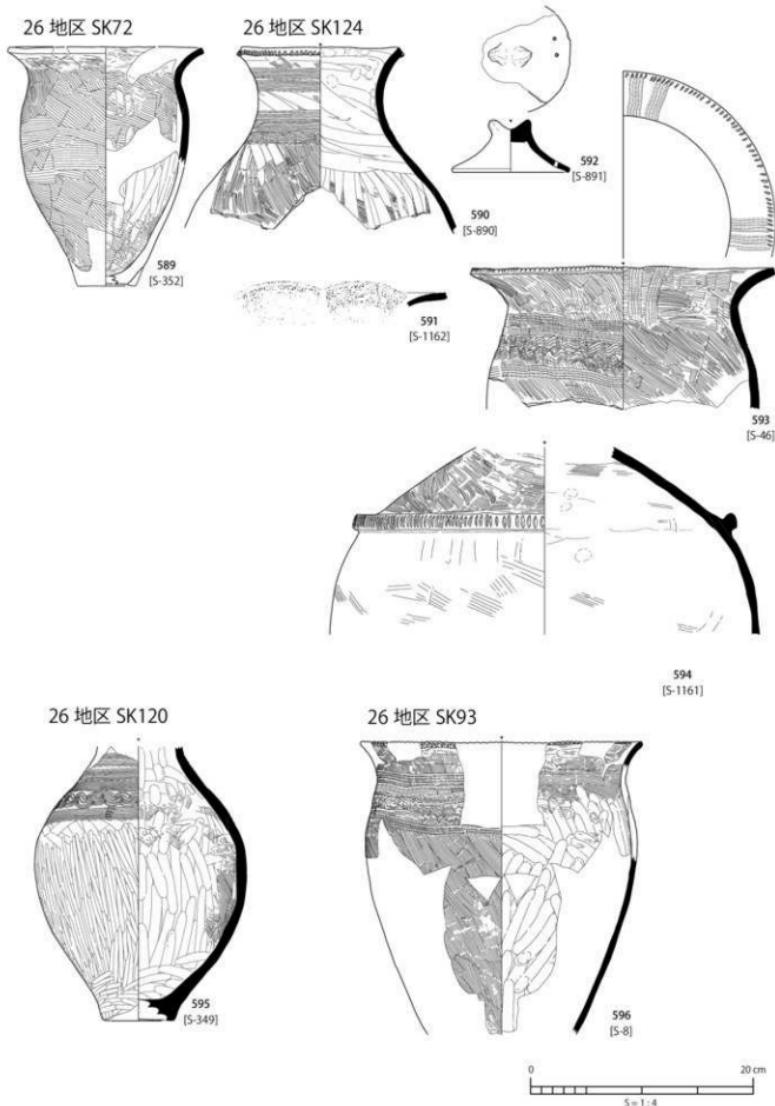
第 61 図 26 地区遺構出土土器 4(S=1/4)



第62図 26地区遺構出土土器 5(S=1/4)

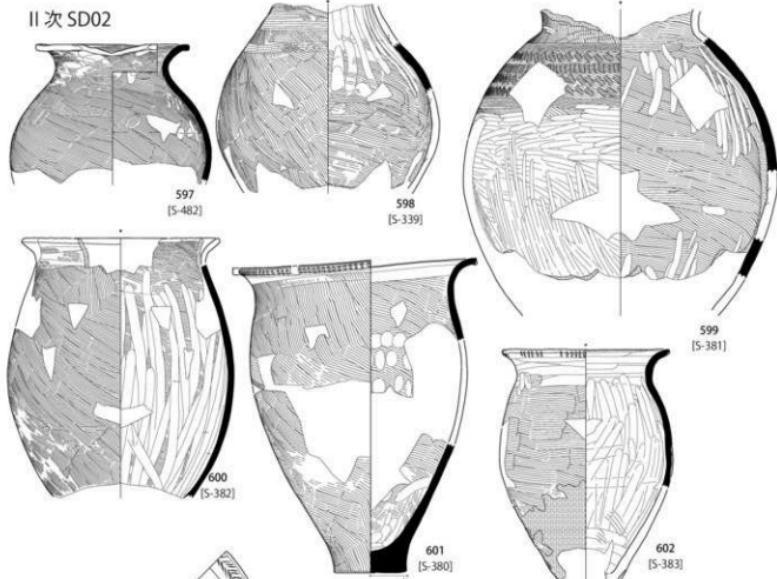


第 63 図 26 地区遺構出土土器 6(S=1/4)

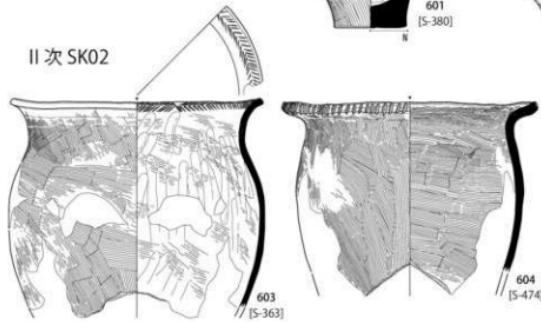


第 64 図 26 地区遺構出土土器 7(S=1/4)

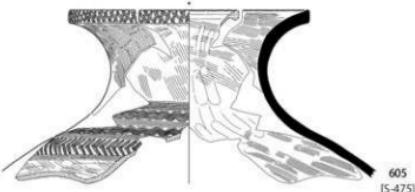
II 次 SD02



II 次 SK02

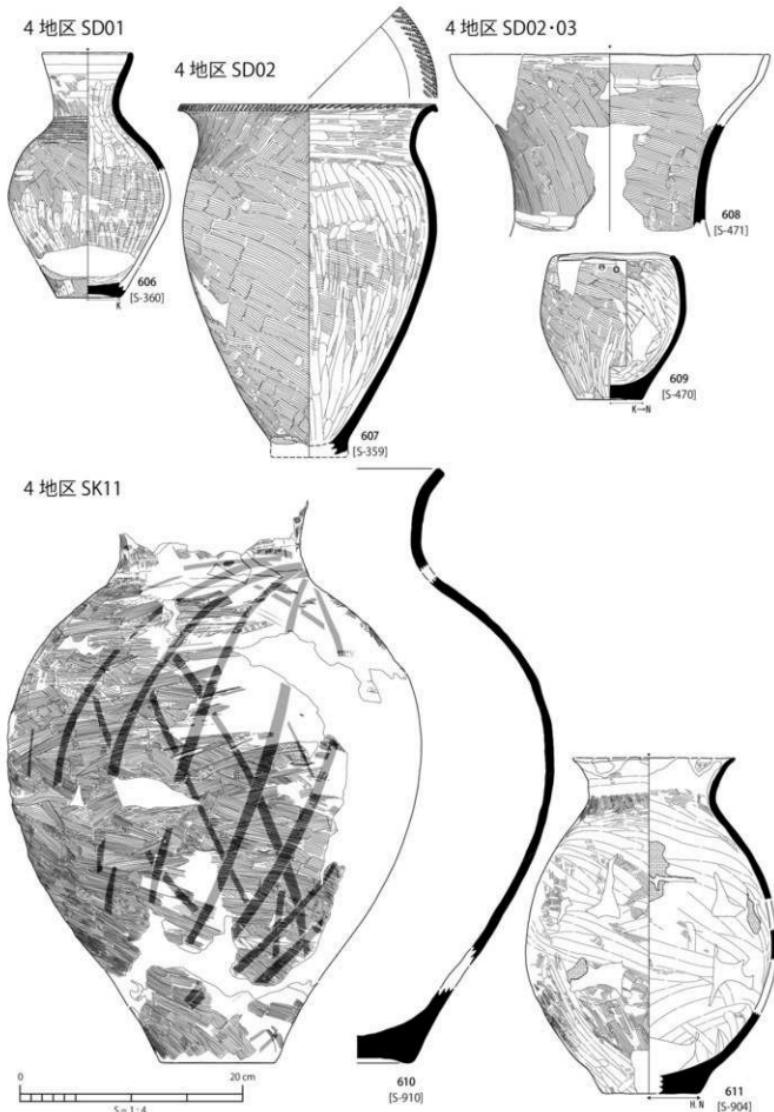


II 次 SK05



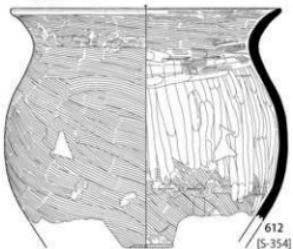
0 20 cm
5 = 1:4

第 65 図 II 次 遺構出土土器 (S=1/4)

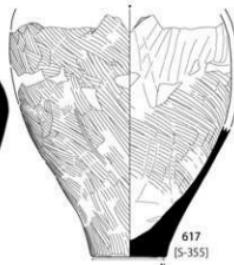
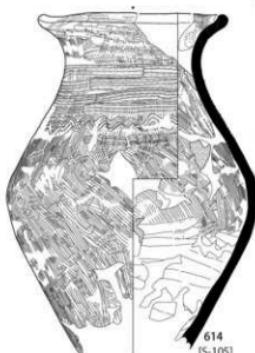
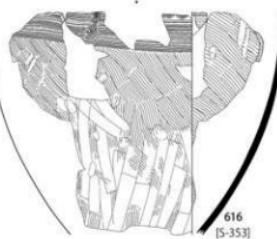
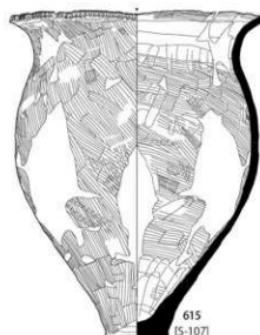
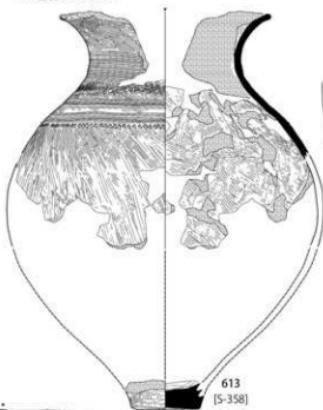


第66図 4地区遺構出土土器 (S=1/4)

4地区 SK27



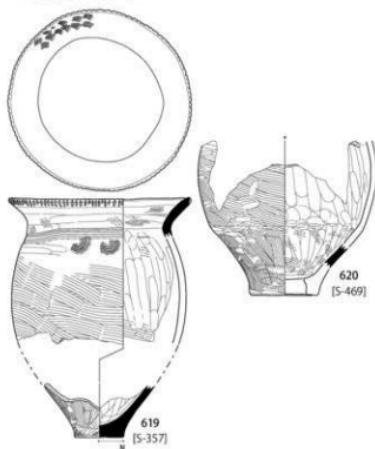
4地区 SK02



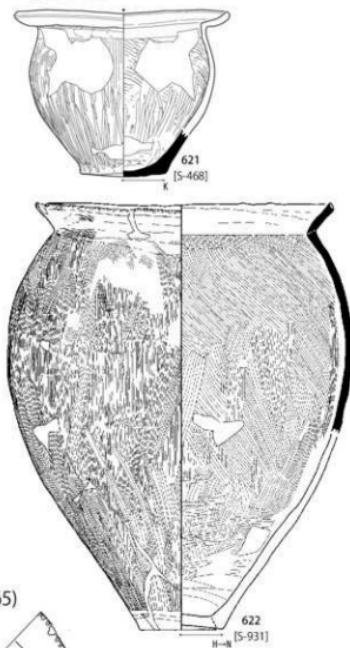
0
20 cm
5 = 1 : 4

第67図 4地区遺構出土土器 2(S=1/4)

4 地区 SK33・37



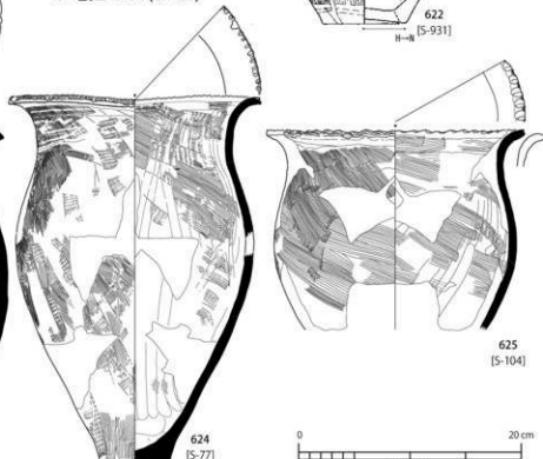
4 地区 SK32



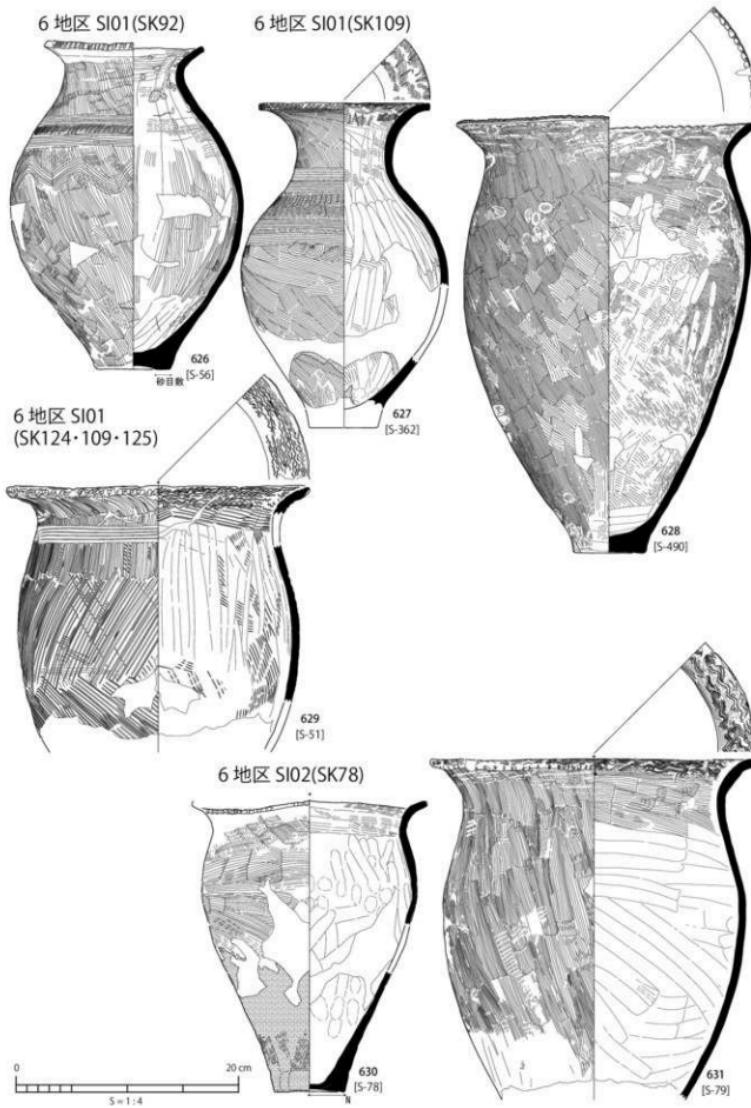
6 地区 SI01(SK95)



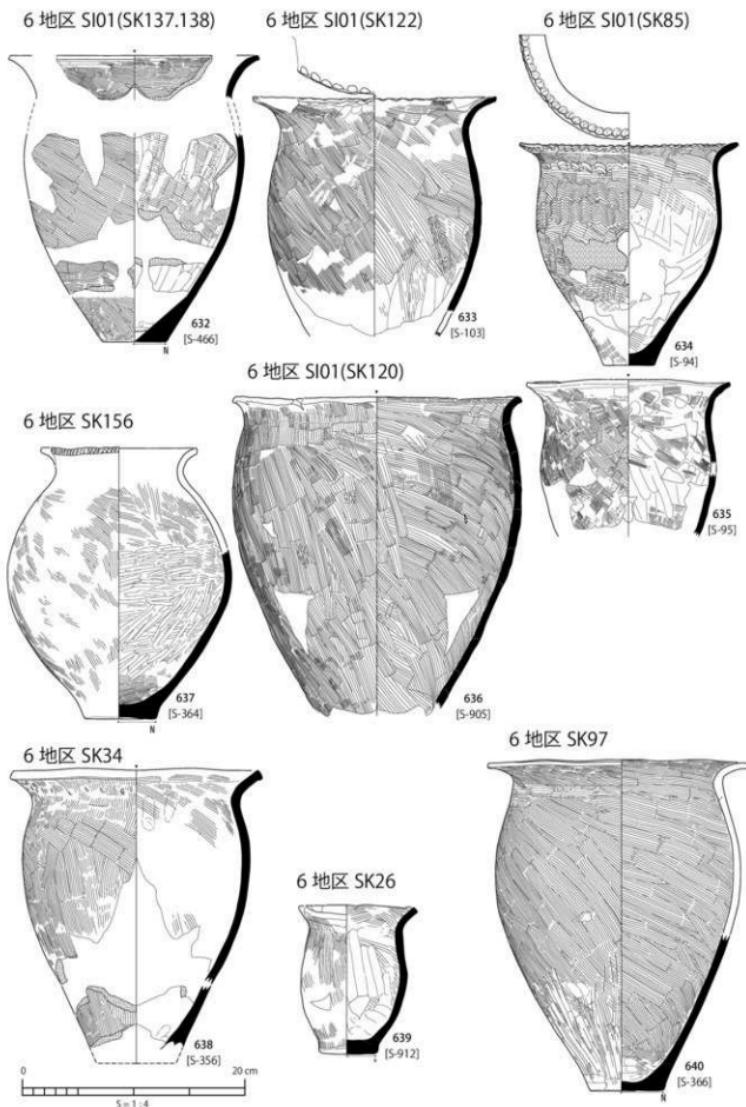
6 地区 SI01(SK65)



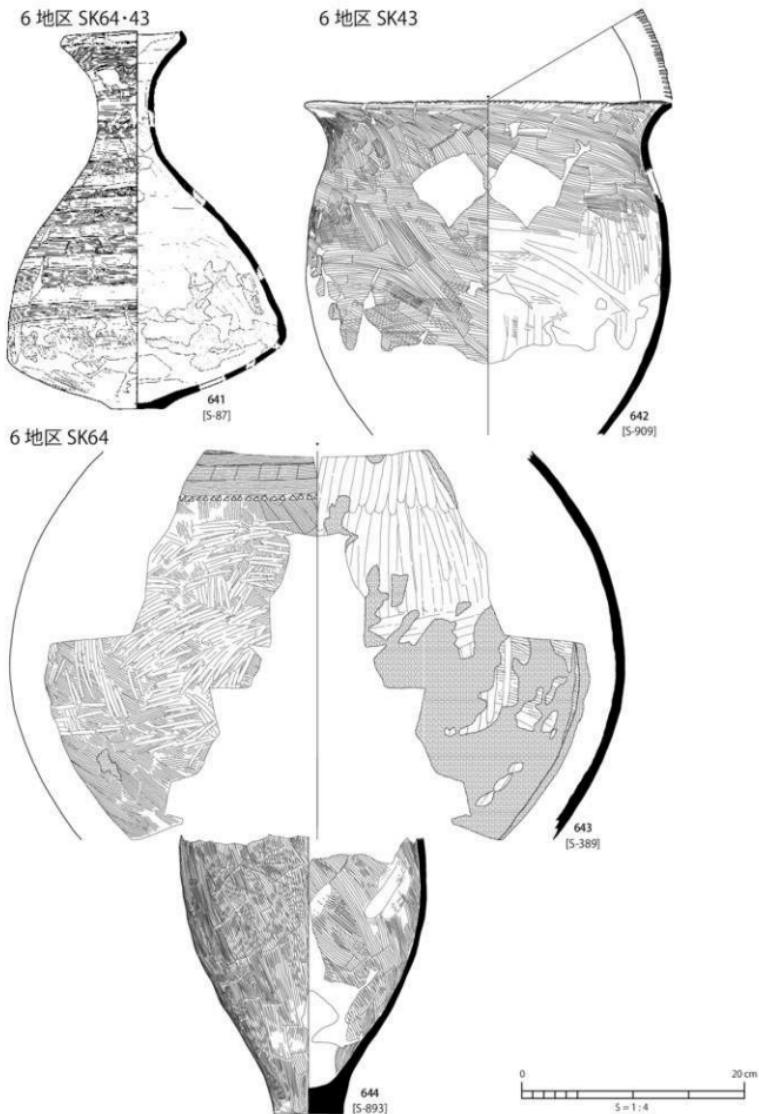
第 68 図 4 地区, 6 地区遺構出土土器 (S=1/4)



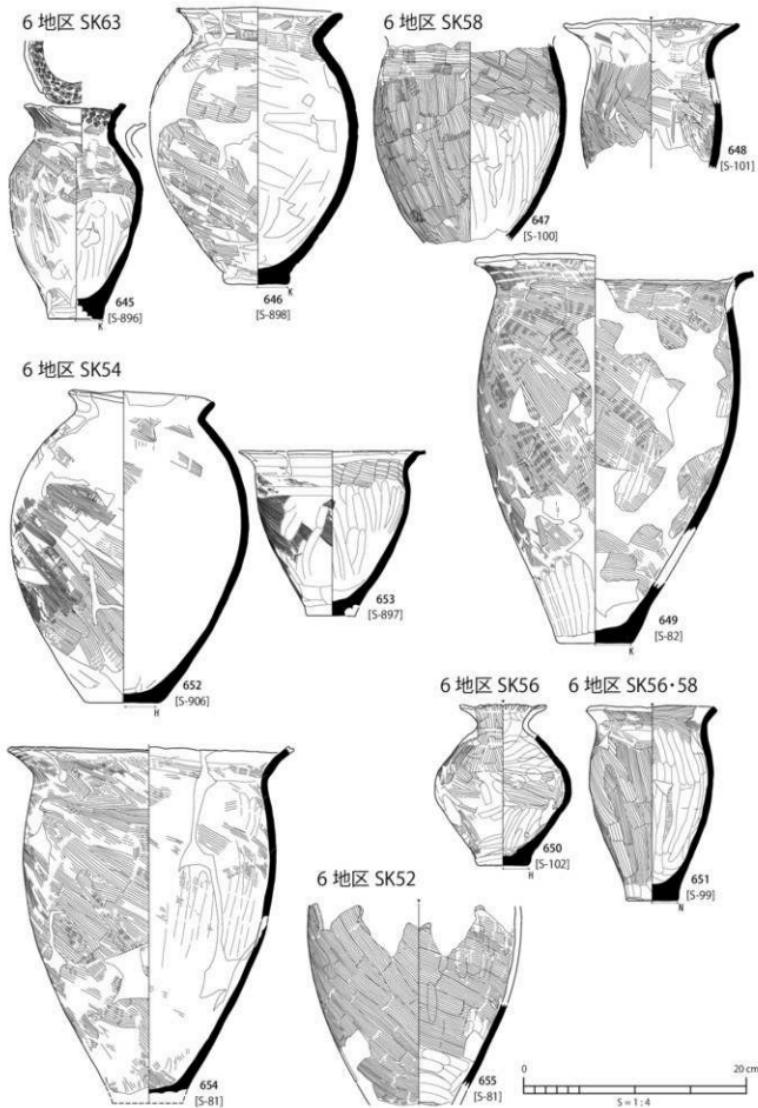
第 69 図 6 地区遺構出土土器 2(S=1/4)



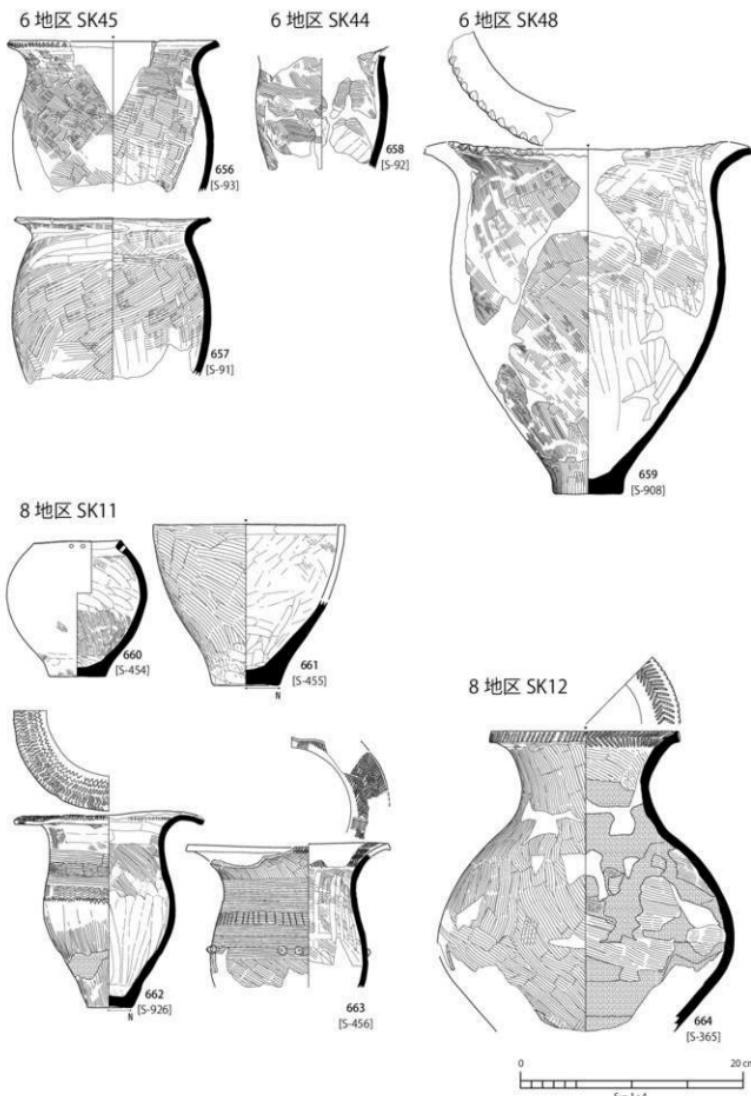
第 70 図 6 地区遺構出土土器 3(S=1/4)



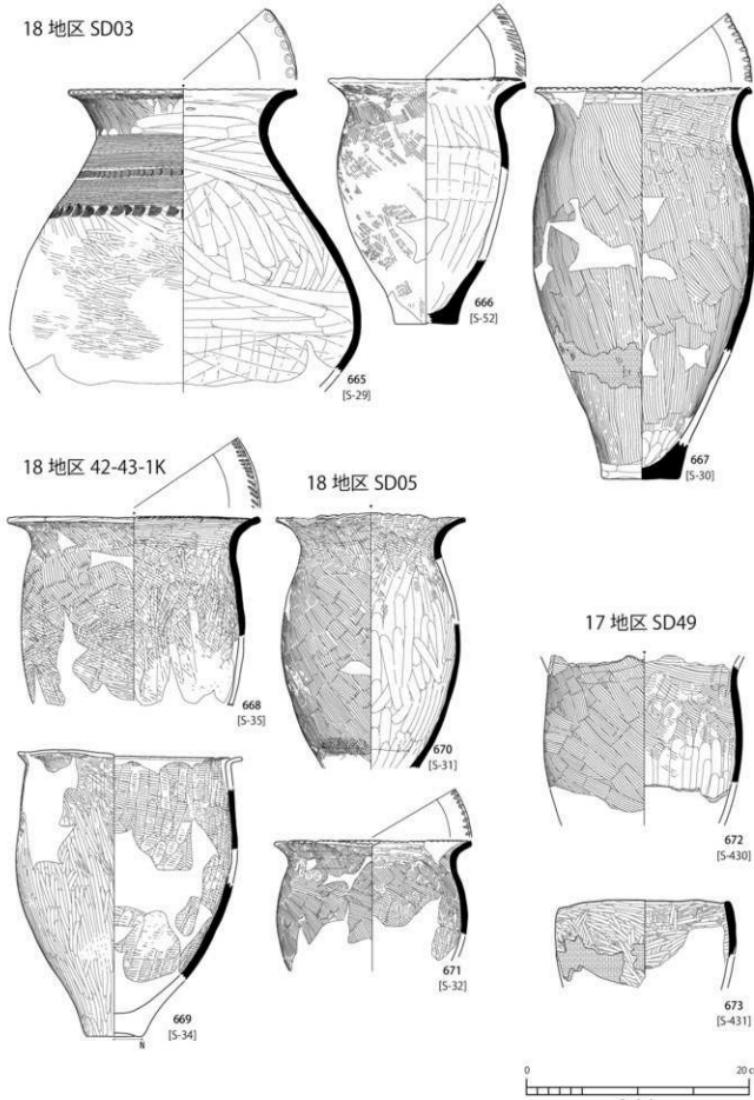
第 71 図 6 地区遺構出土土器 4(S=1/4)



第72図 6地区遺構出土土器 5(S=1/4)

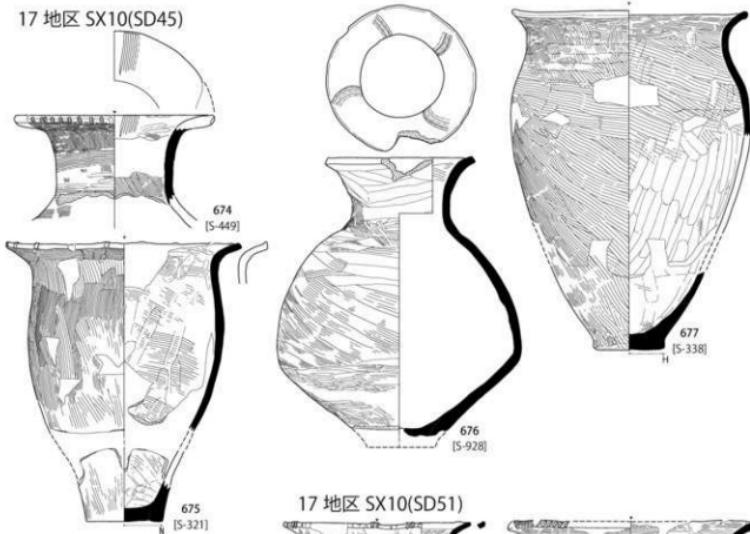


第73図 6地区,8地区遺構出土土器 (S=1/4)

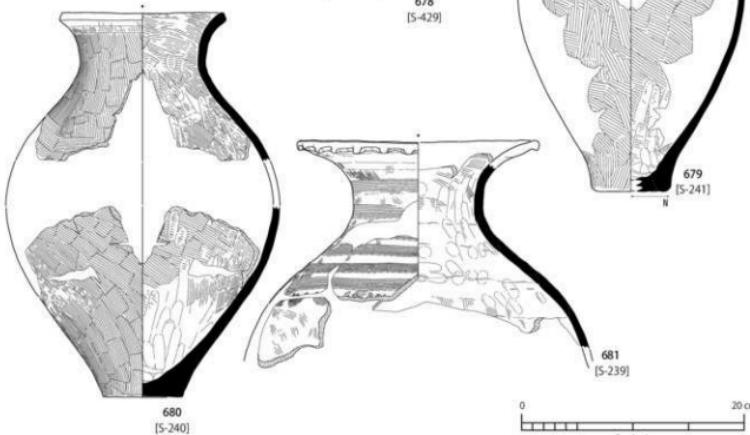


第 74 図 18 地区 ,17 地区遺構出土土器 (S=1/4)

17 地区 SX10(SD45)

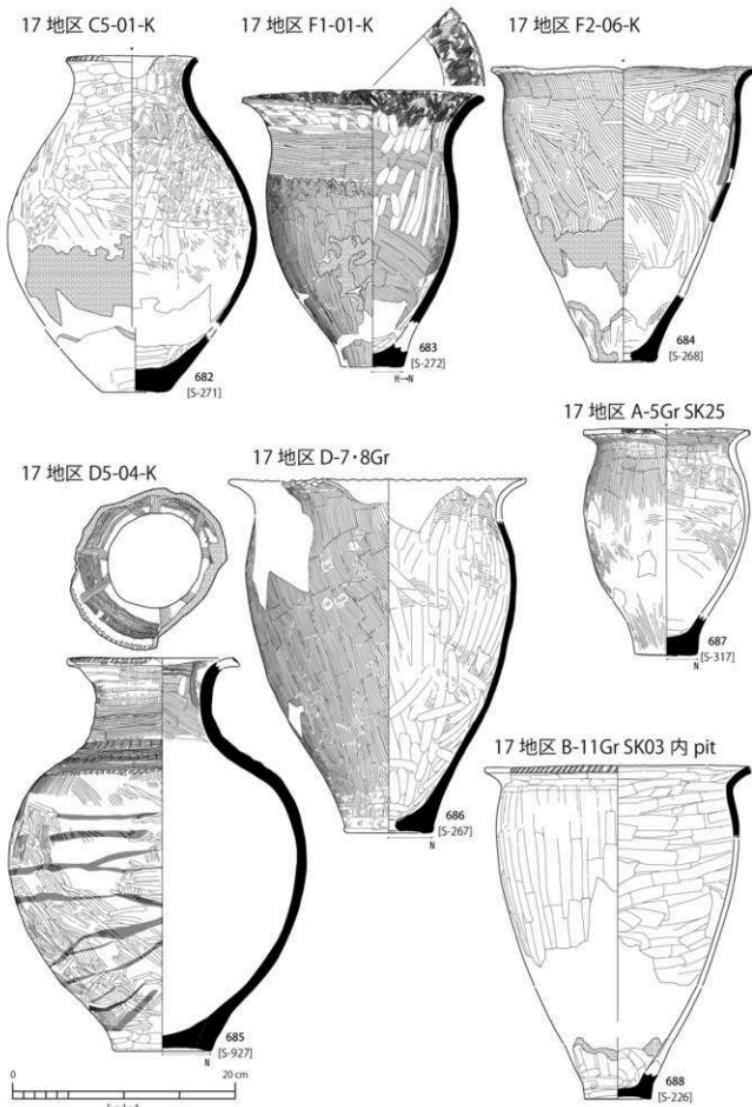


17 地区 SX10(C8-02-K)

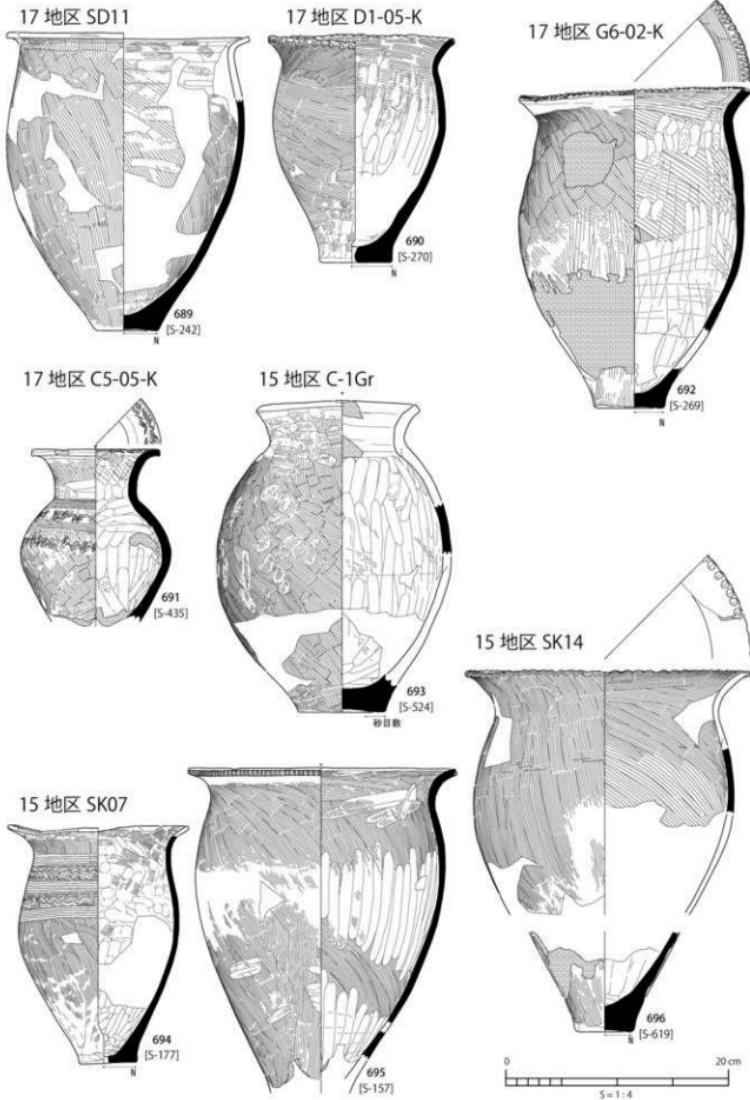


0 20 cm
S = 1:4

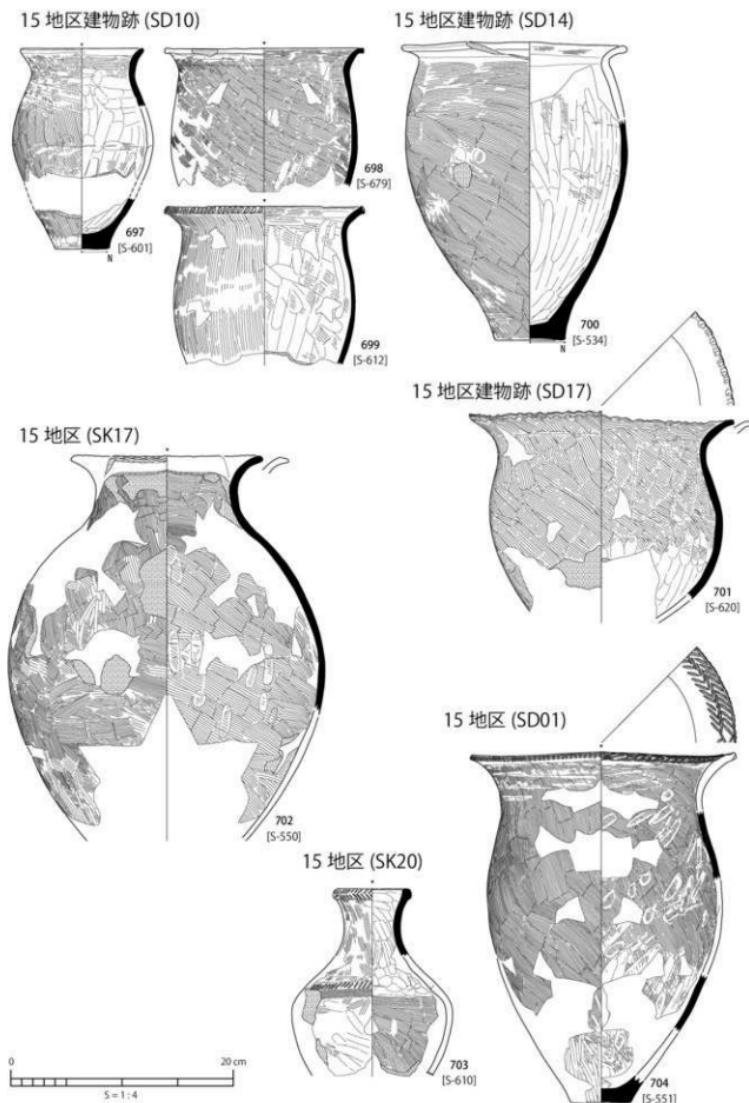
第 75 図 17 地区遺構出土土器 2(S=1/4)



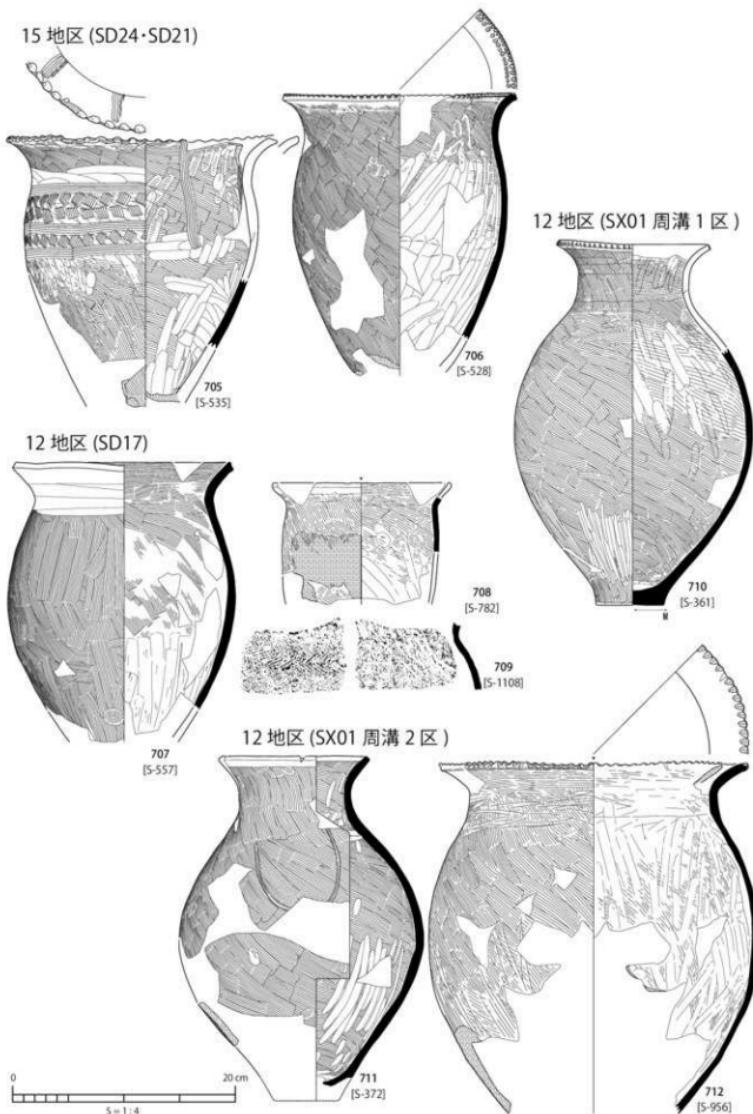
第 76 図 17 地区遺構出土土器 3(S=1/4)



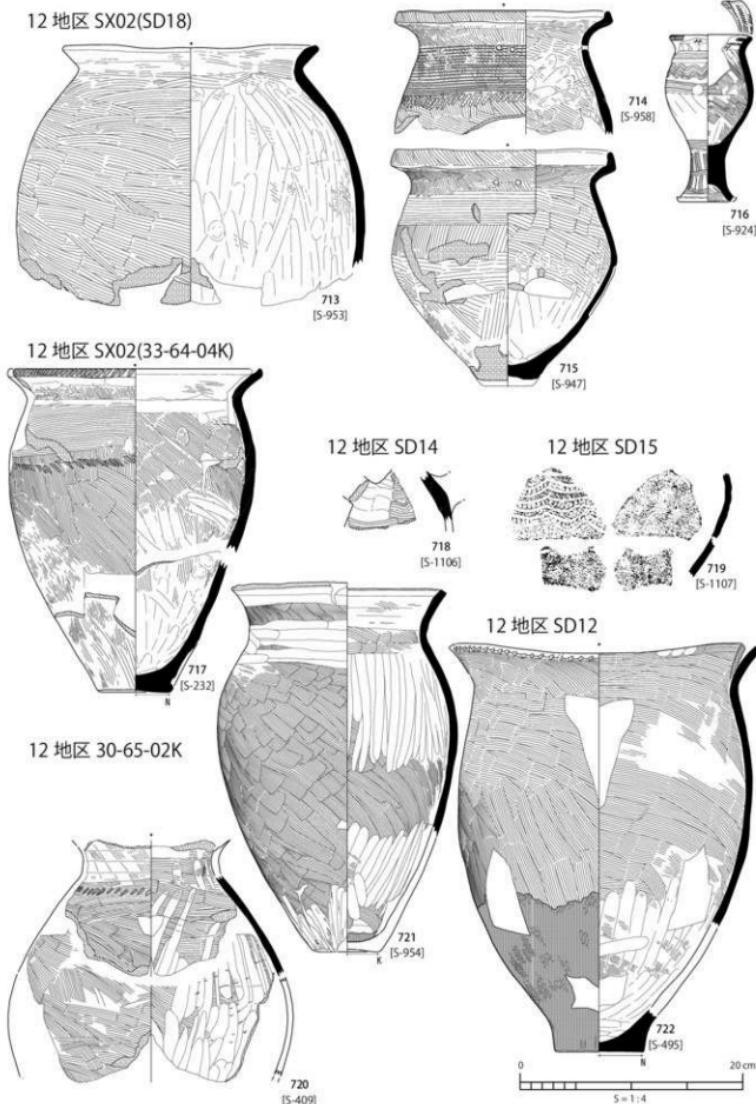
第 77 図 17 地区, 15 地区遺構出土土器 (S=1/4)



第78図 15地区遺構出土土器2(S=1/4)

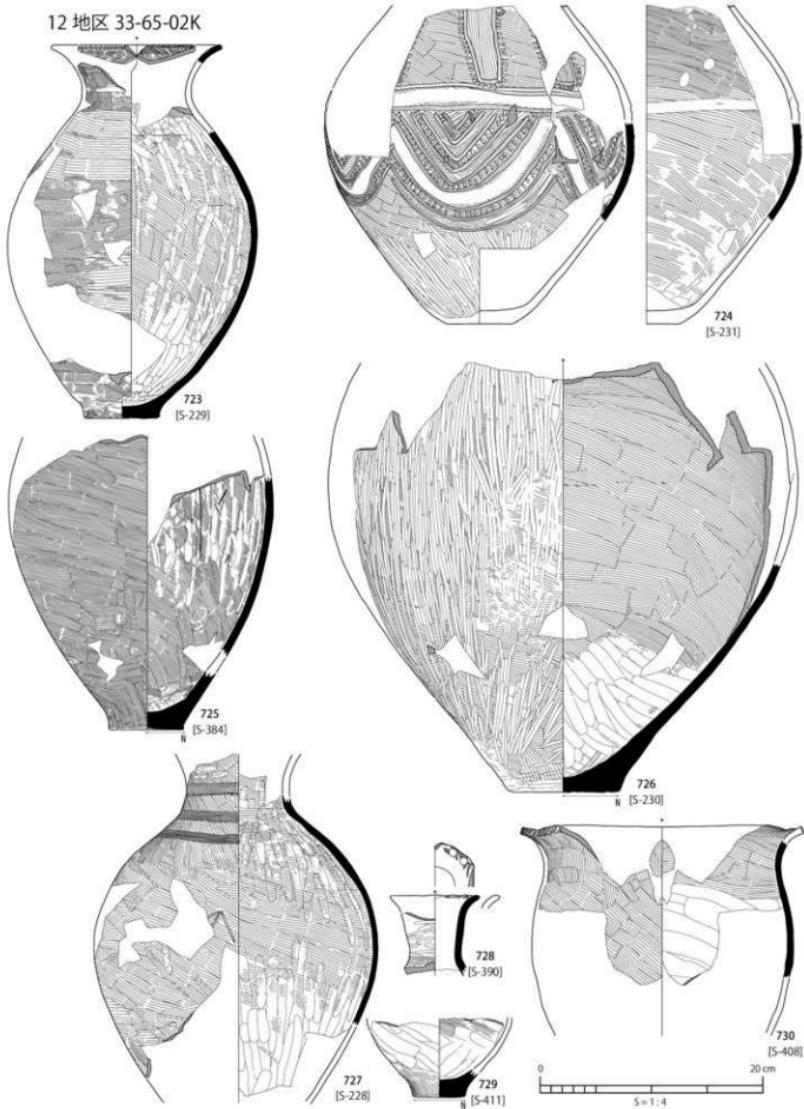


第79図 15地区,12地区遺構出土土器 (S=1/4)

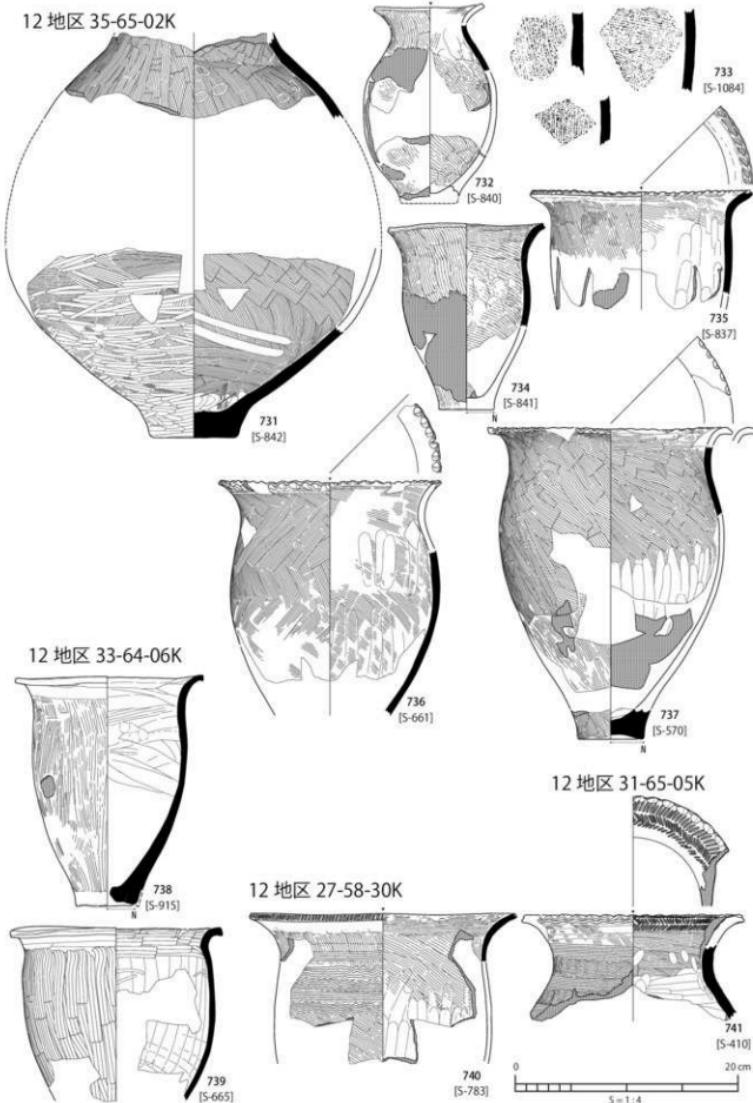


第 80 図 12 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

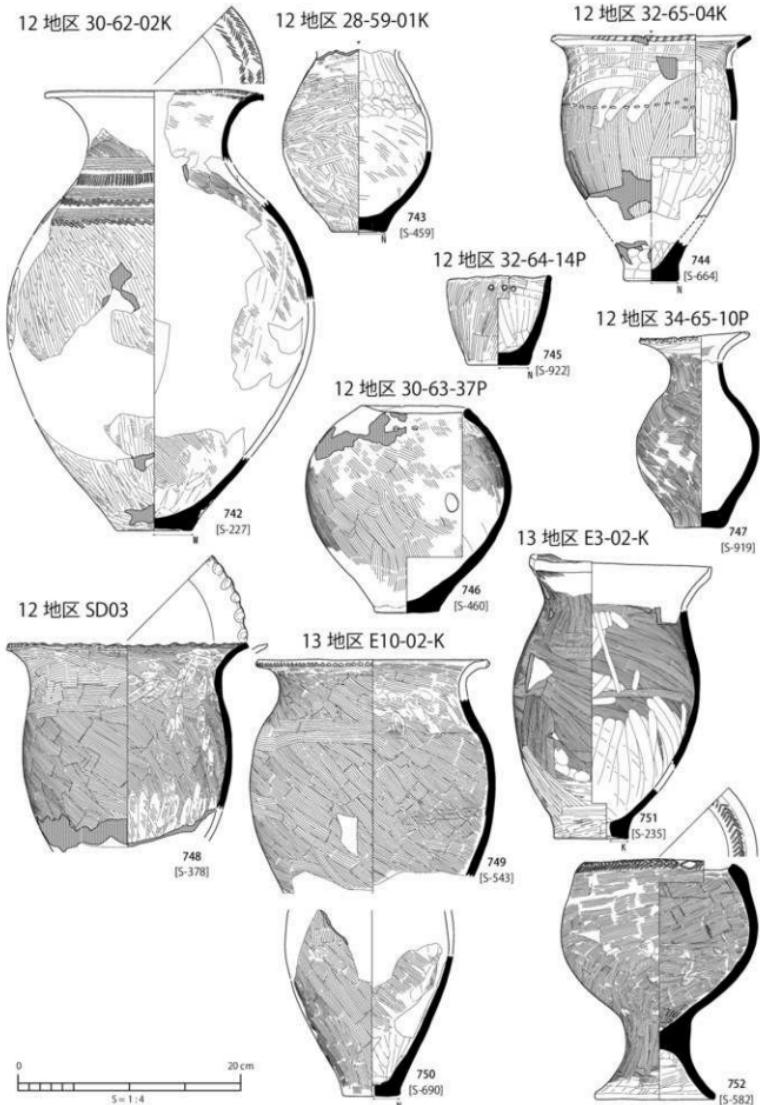
12 地区 33-65-02K



第 81 図 12 地区遺構出土土器 3 (S=1/4)

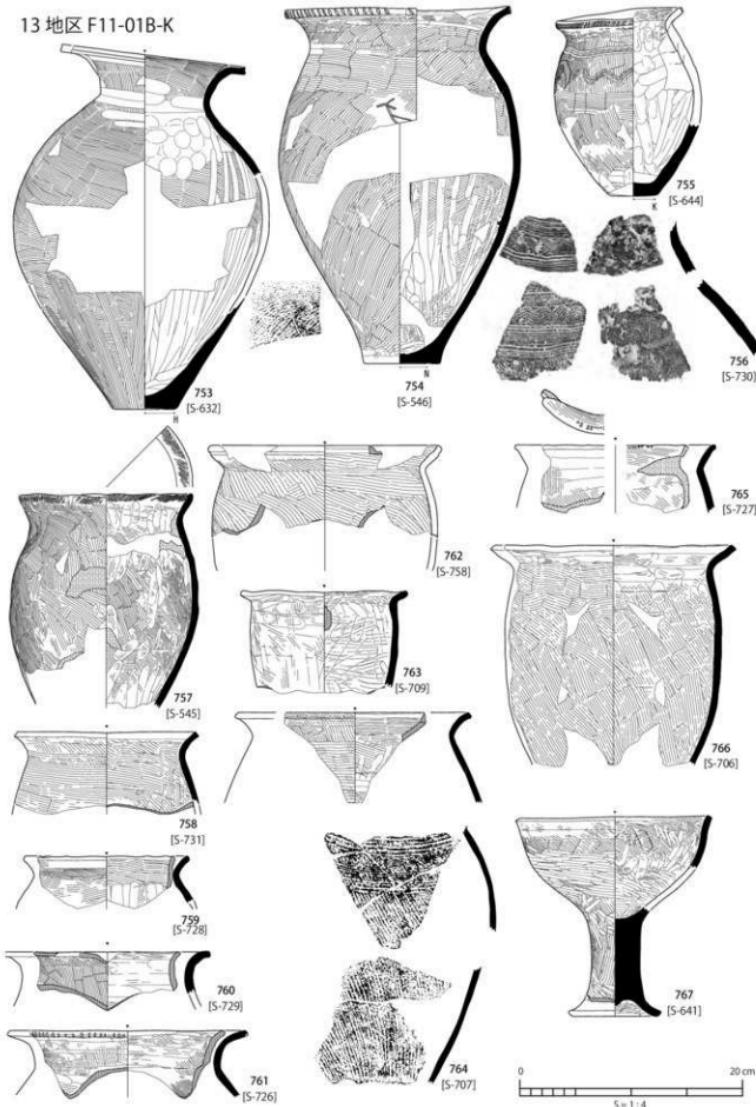


第 82 図 12 地区遺構出土土器 4 (S=1/4)



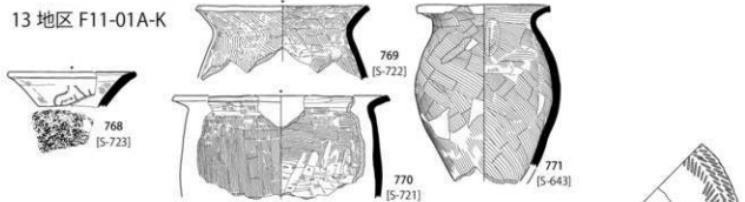
第 83 図 12 地区, 13 地区遺構出土土器 (S=1/4)

13 地区 F11-01B-K

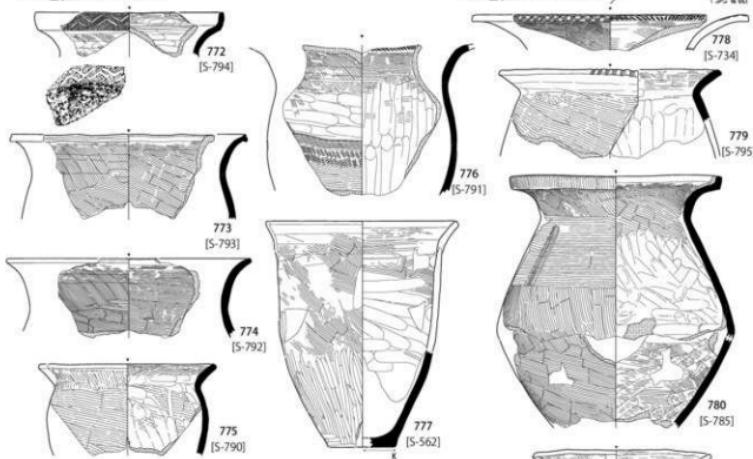


第 84 図 13 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

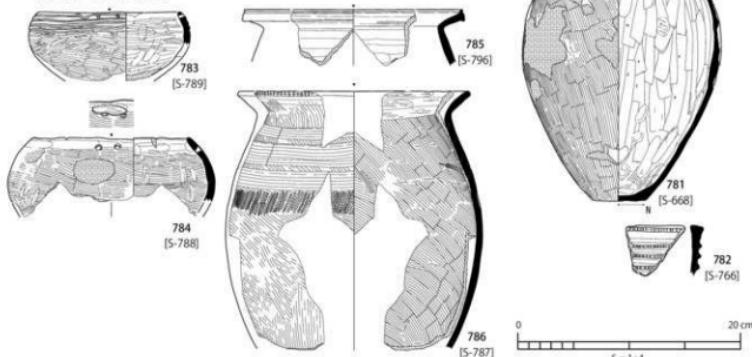
13 地区 F11-01A-K



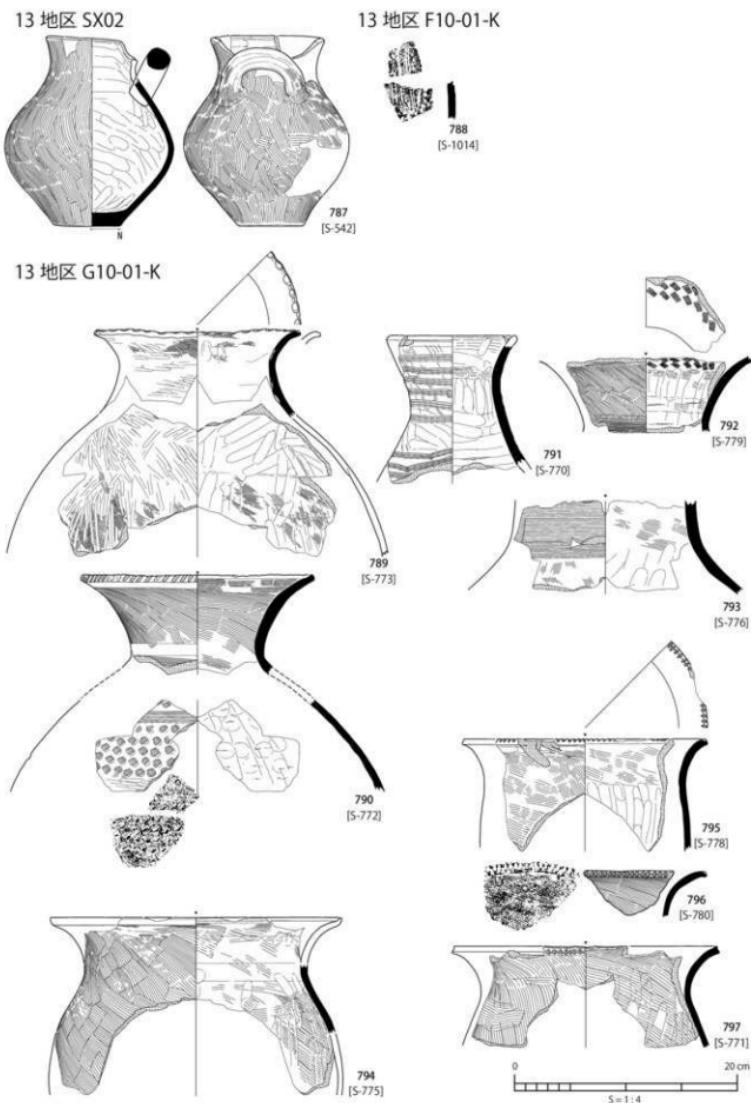
13 地区 H11-02-K



13 地区 H9-06-K

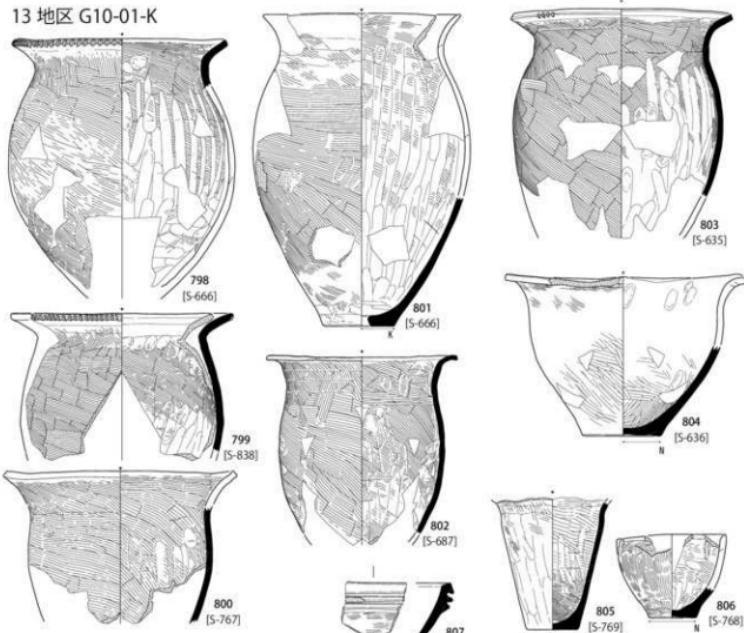


第 85 図 13 地区遺構出土土器 3 (S=1/4)

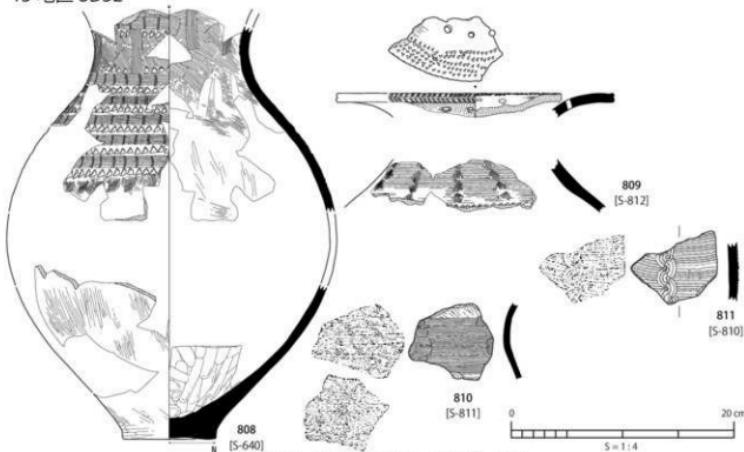


第 86 図 13 地区遺構出土土器 4(S=1/4)

13 地区 G10-01-K

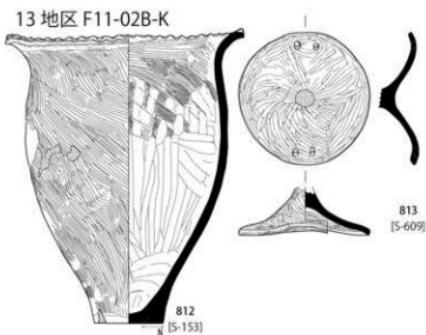


13 地区 SD32

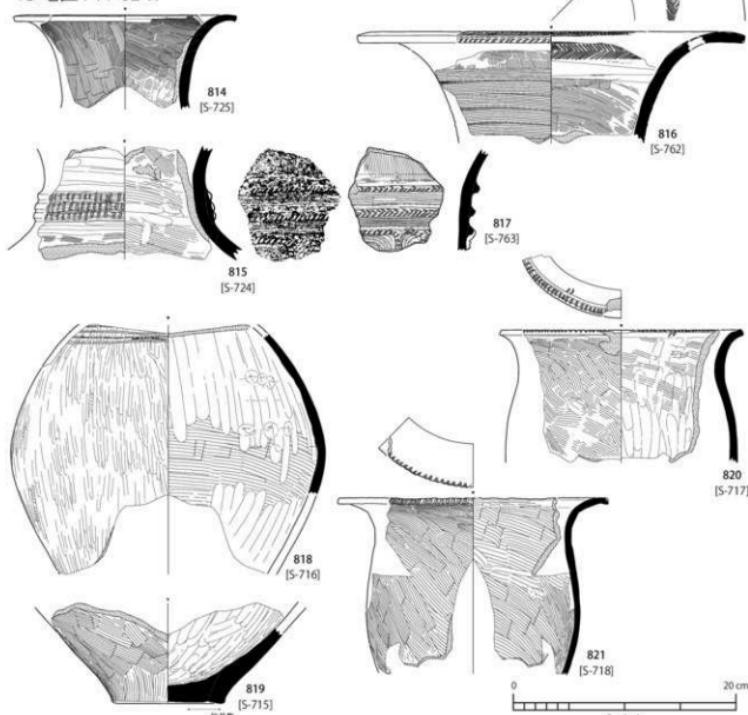


第 87 図 13 地区遺構出土土器 5 (S=1/4)

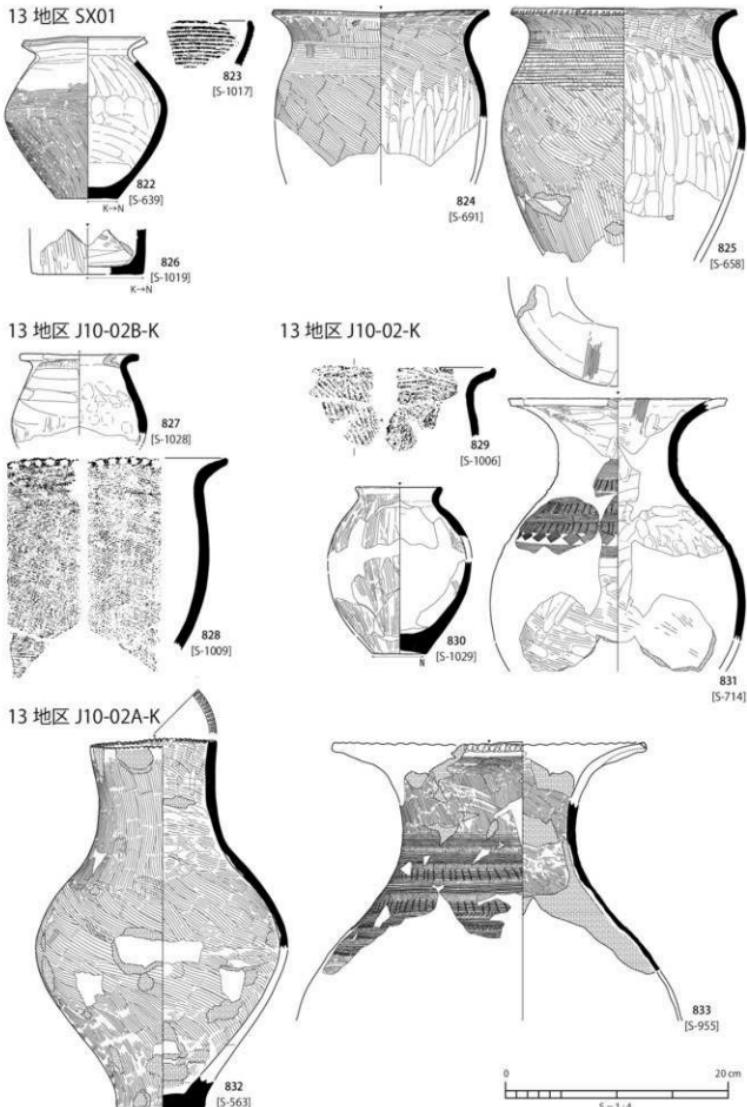
13 地区 F11-02B-K



13 地区 F11-02-K

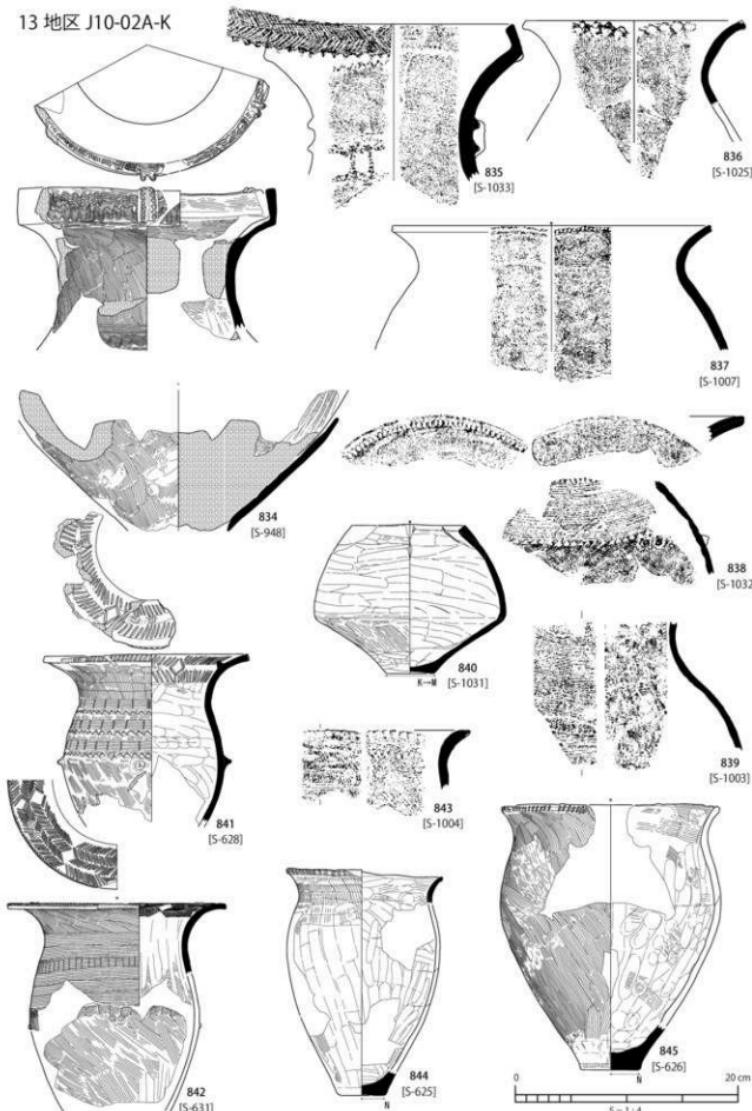


第 88 図 13 地区遺構出土土器 6 (S=1/4)



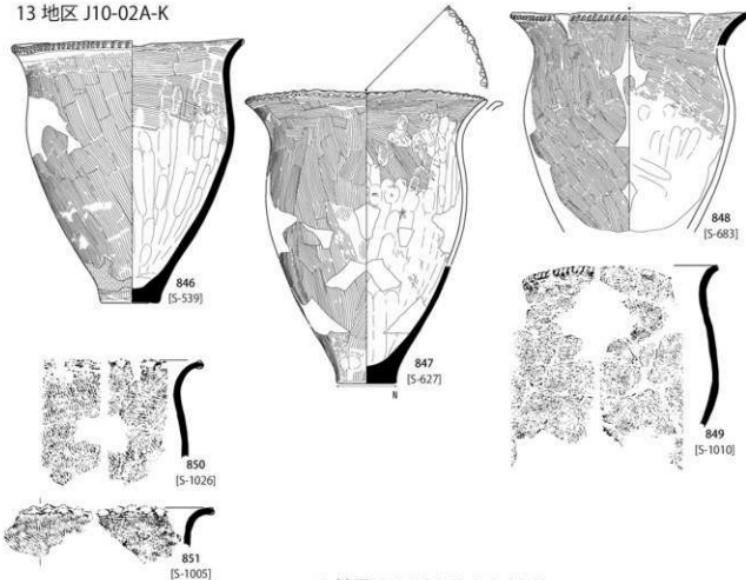
第 89 図 13 地区遺構出土土器 7(S=1/4)

13 地区 J10-02A-K

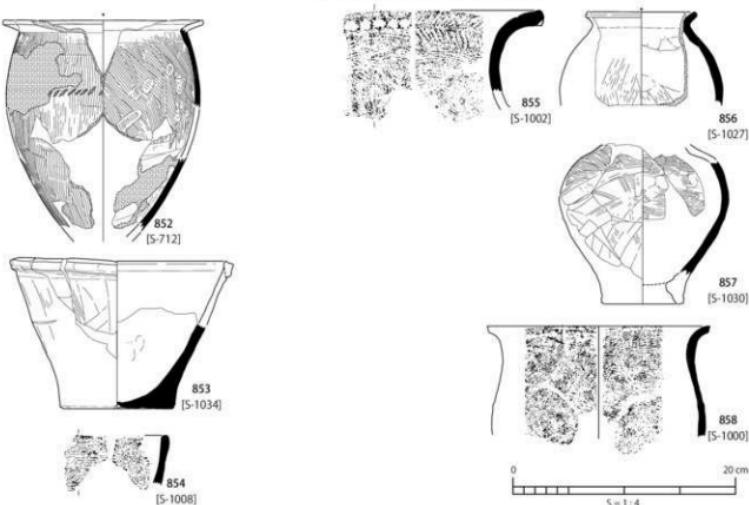


第 90 図 13 地区遺構出土土器 8(S=1/4)

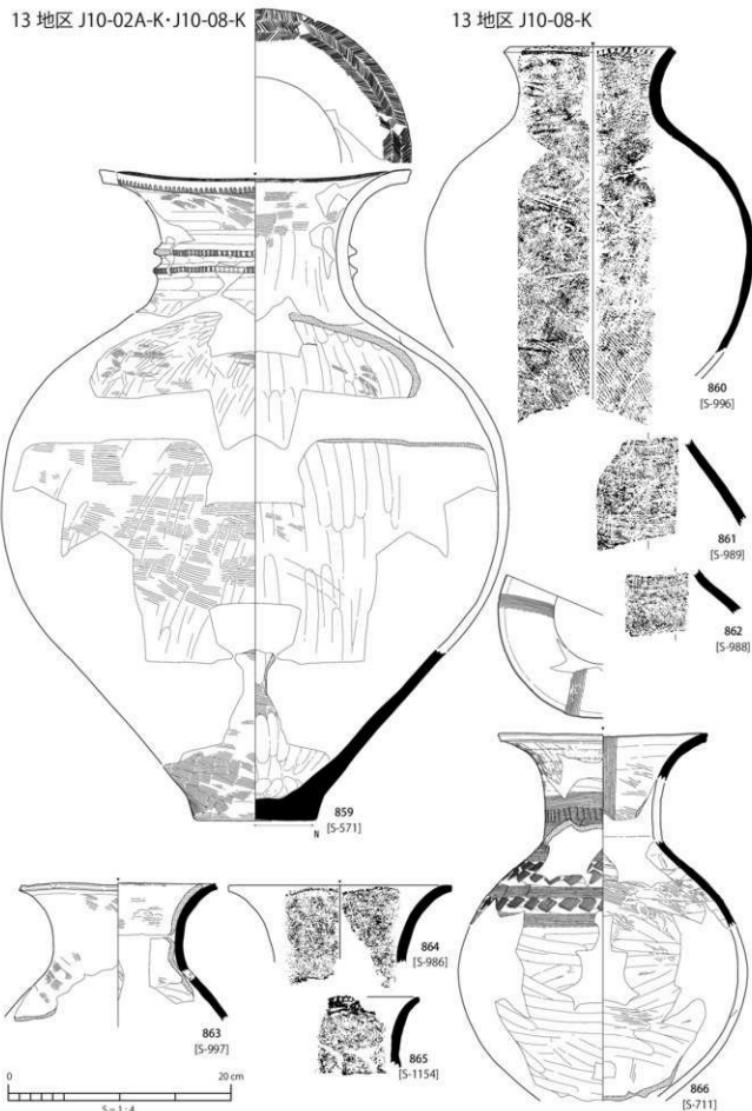
13 地区 J10-02A-K



13 地区 J10-02A-K・J10-08-K

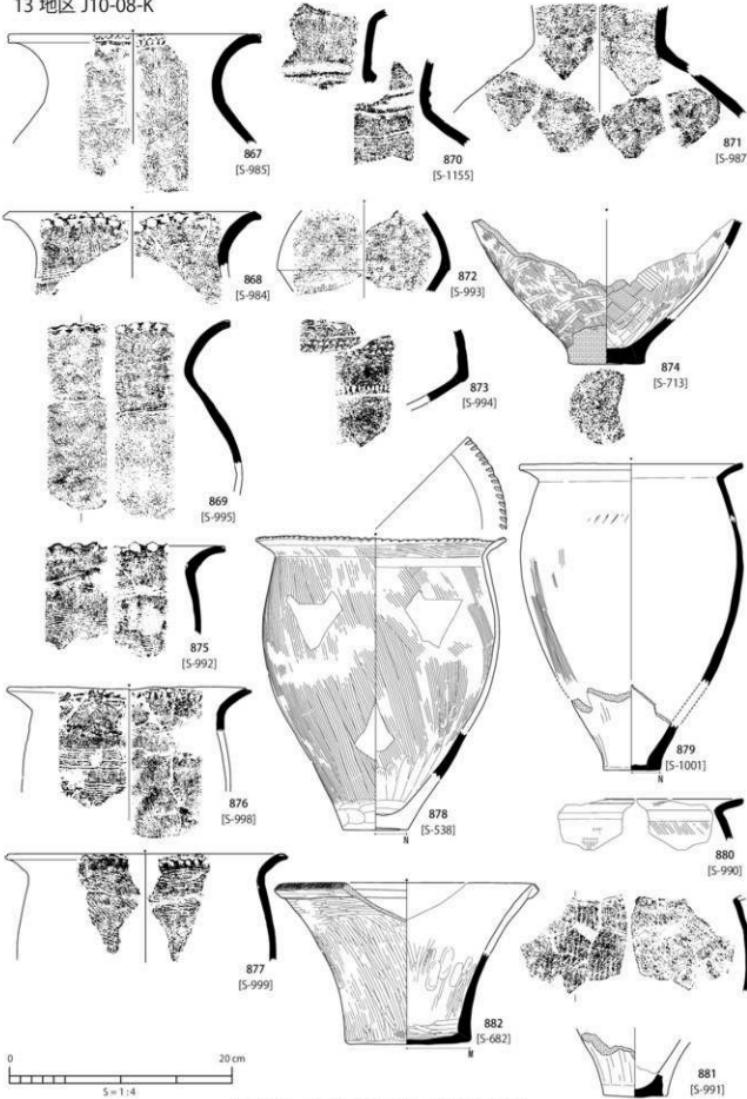


第 91 図 13 地区遺構出土土器 9(S=1/4)

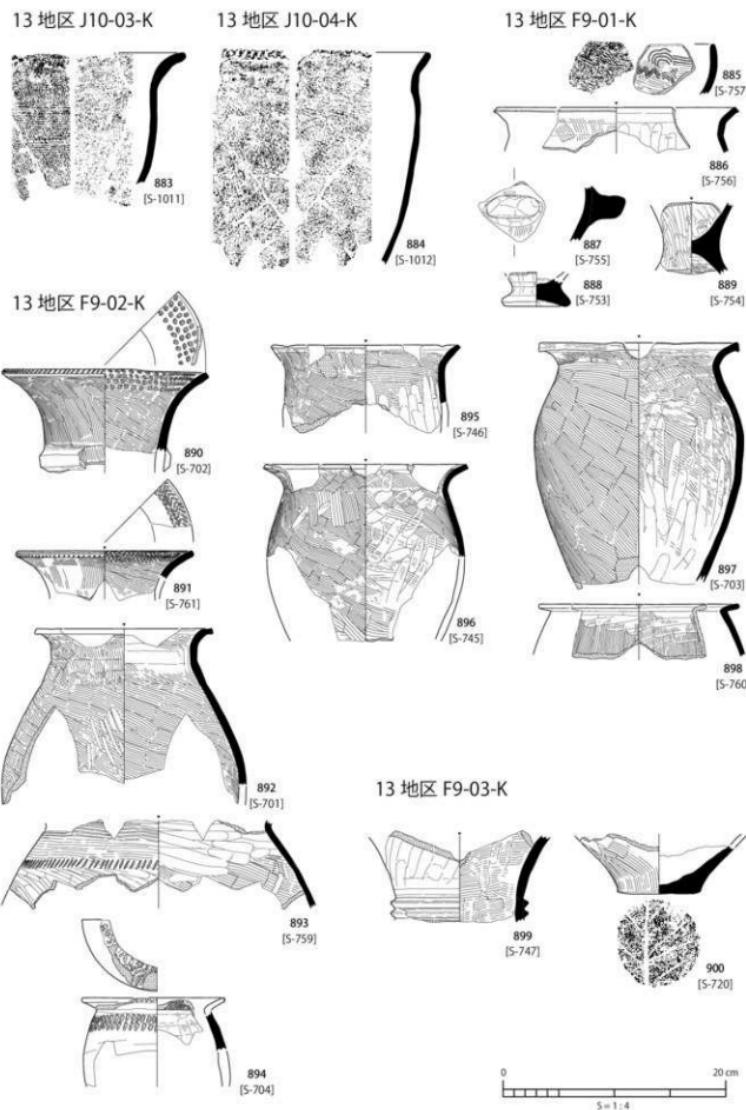


第 92 図 13 地区遺構出土土器 10(S=1/4)

13 地区 J10-08-K

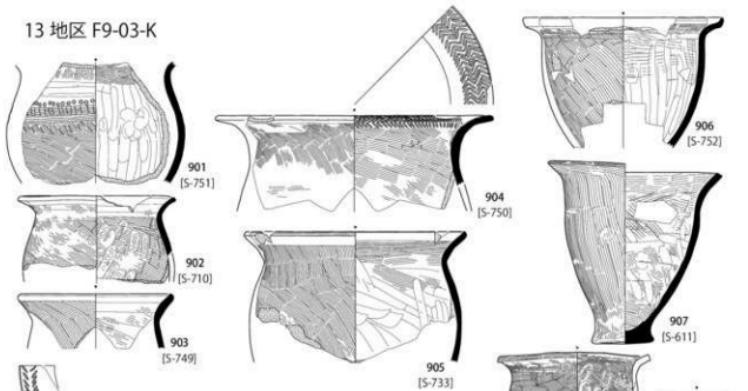


第 93 図 13 地区遺構出土土器 11(S=1/4)

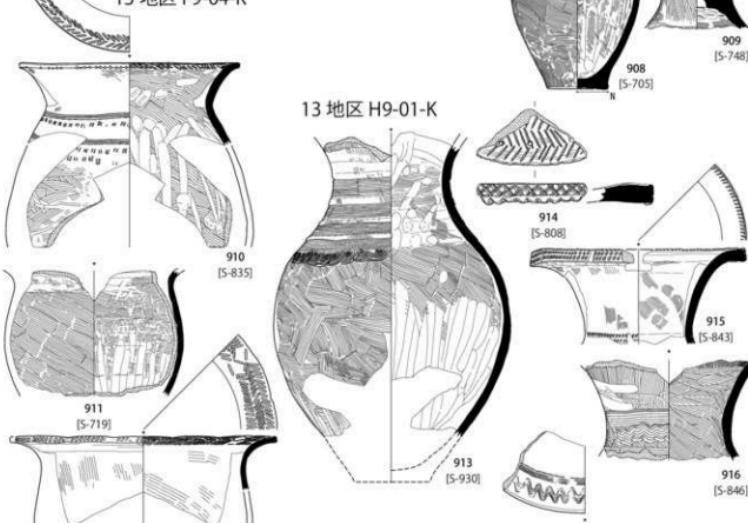


第 94 図 13 地区遺構出土土器 12(S=1/4)

13 地区 F9-03-K

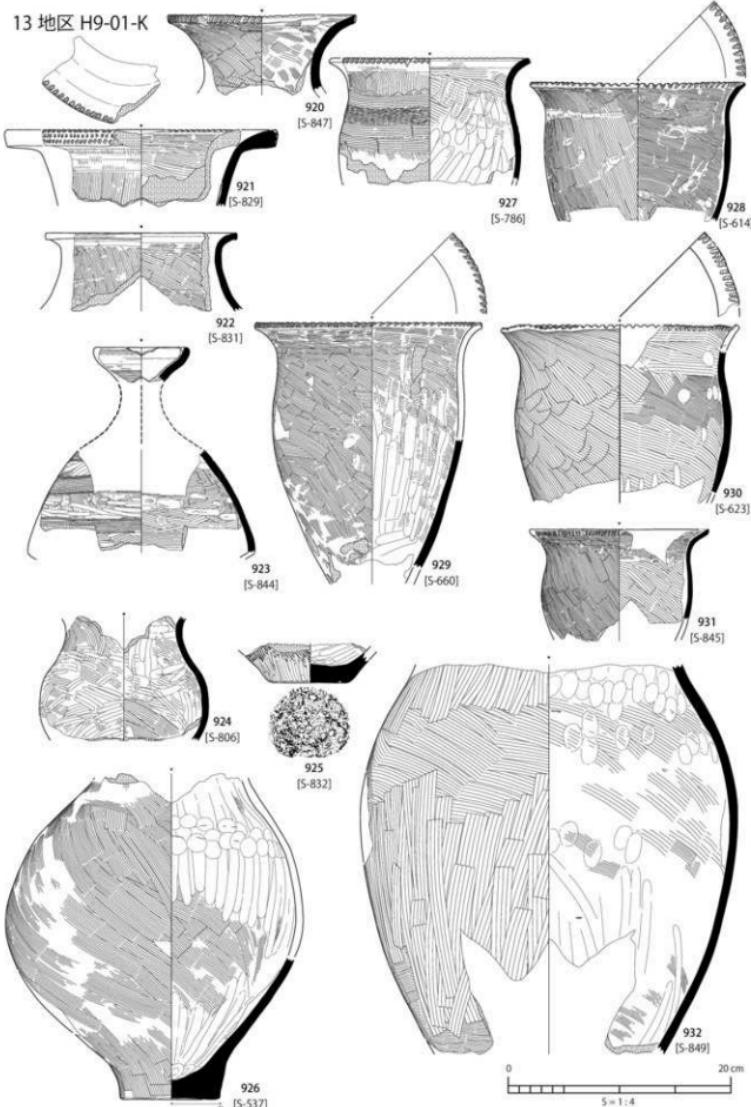


13 地区 F9-04-K



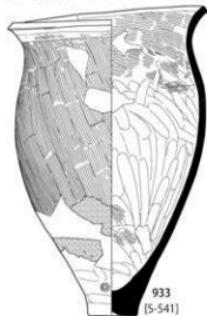
0
S = 1 : 4
20 cm

第 95 図 13 地区遺構出土土器 13(S=1/4)

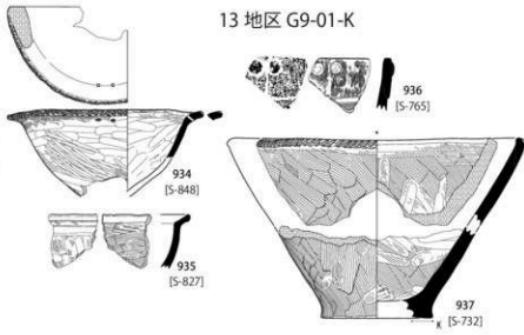


第 96 図 13 地区遺構出土土器 14(S=1/4)

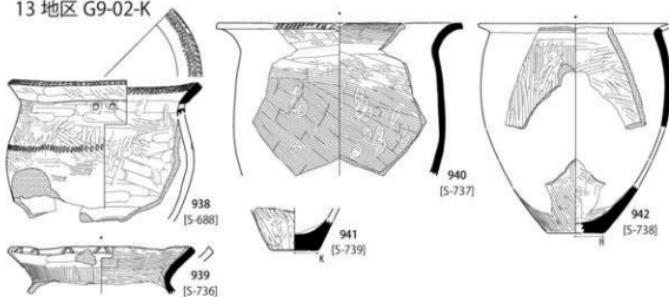
13 地区 H9-01-K



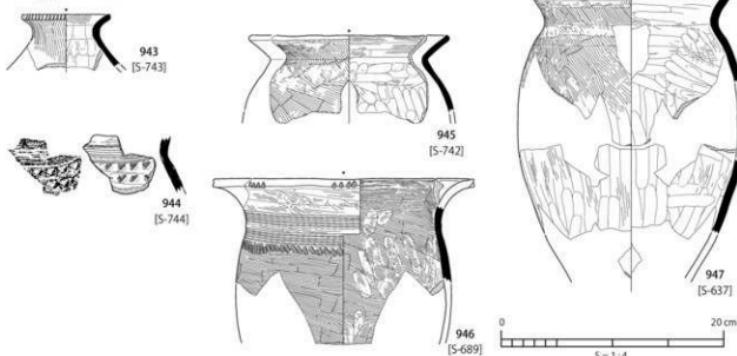
13 地区 G9-01-K



13 地区 G9-02-K

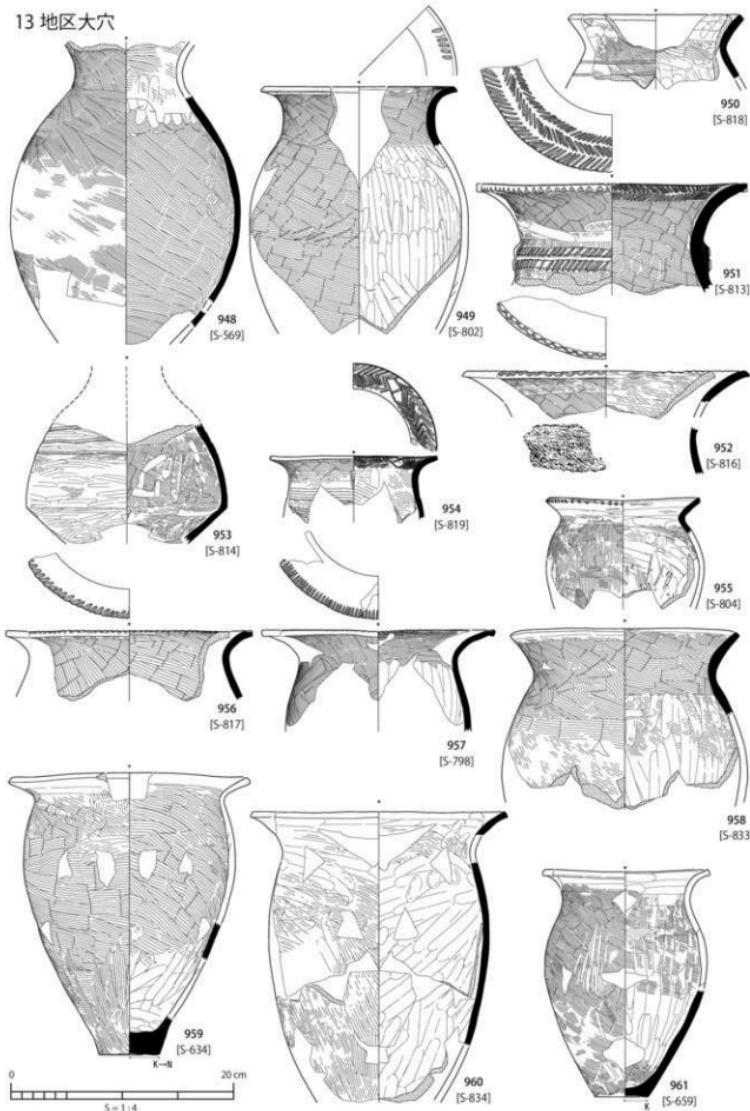


13 地区 G9-03-K



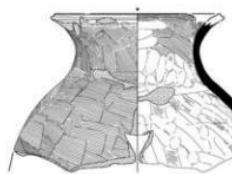
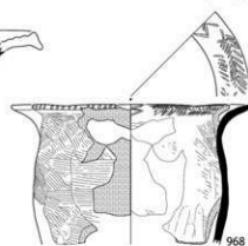
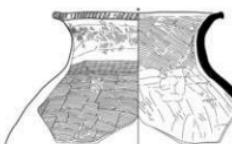
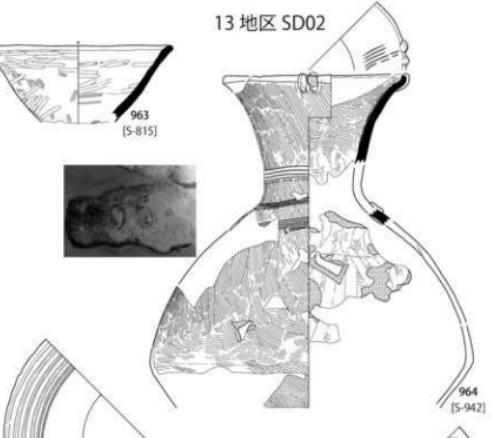
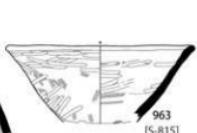
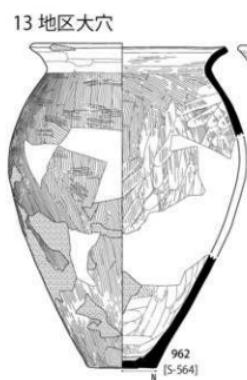
第 97 図 13 地区遺構出土土器 15(S=1/4)

13 地区大穴

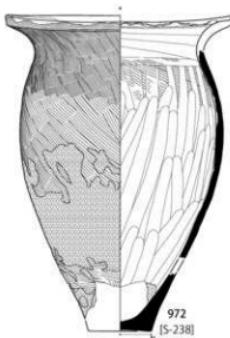
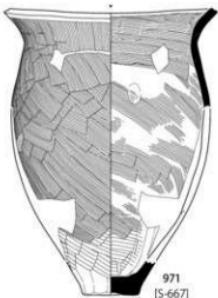


第 98 図 13 地区遺構出土土器 16(S=1/4)

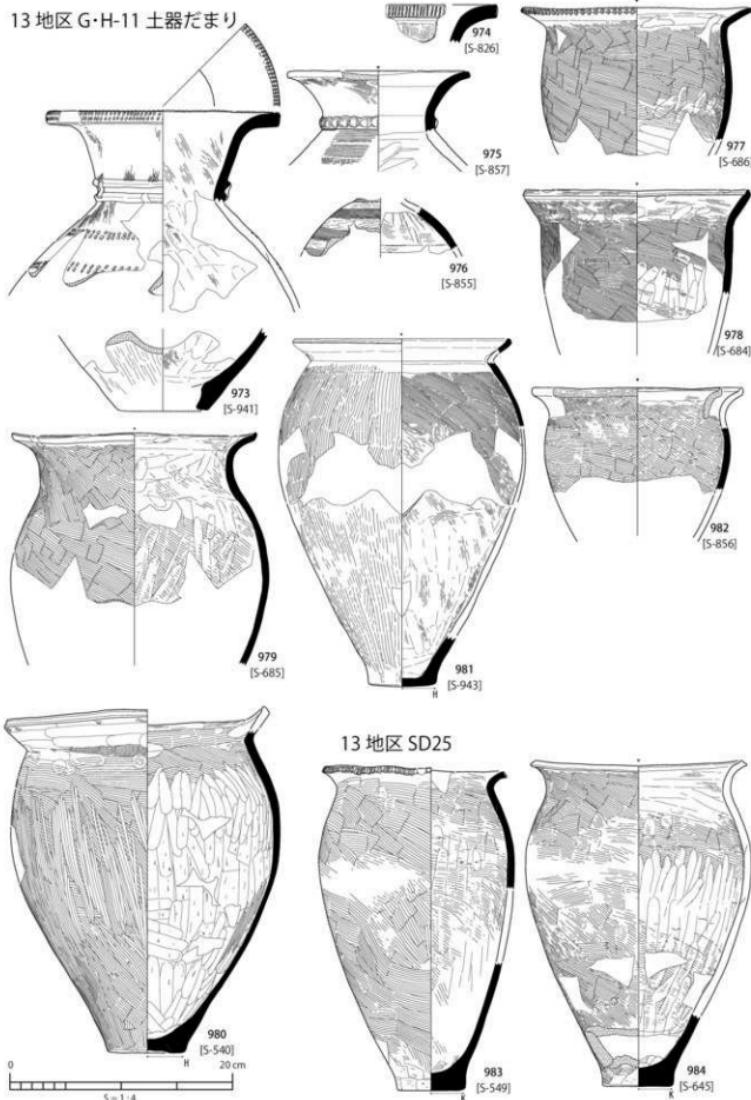
13 地区大穴



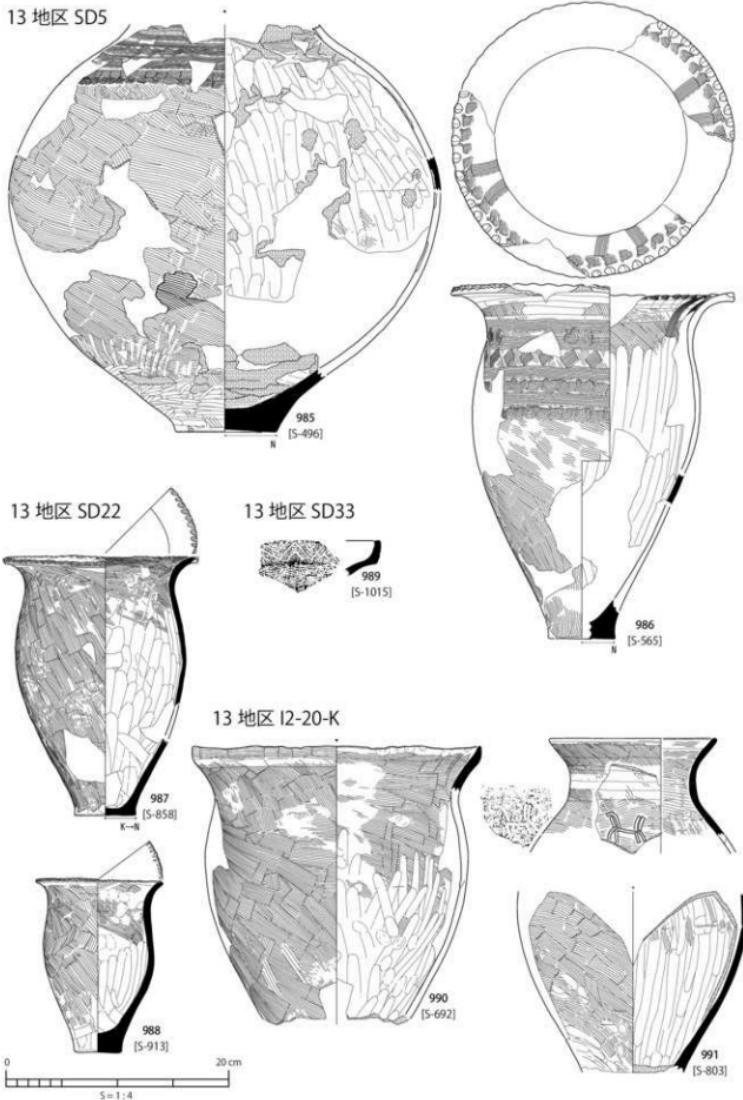
13 地区 G5-02-K



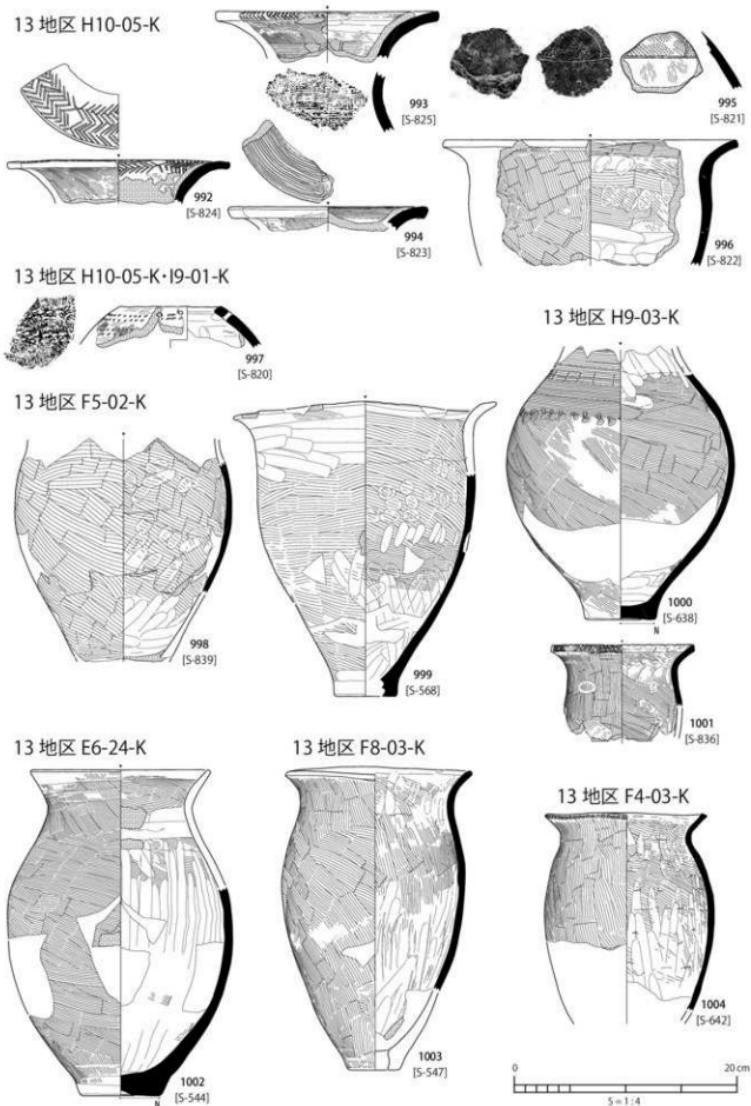
第 99 図 13 地区遺構出土土器 17(S=1/4)



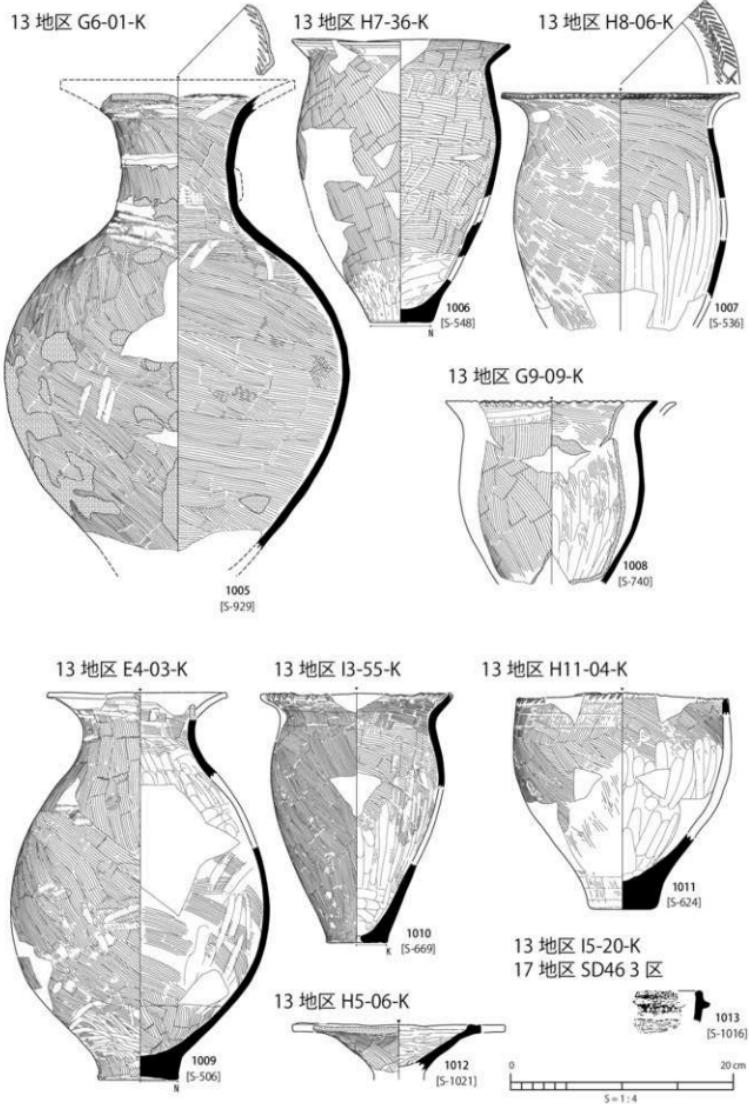
第 100 図 13 地区遺構出土土器 18(S=1/4)



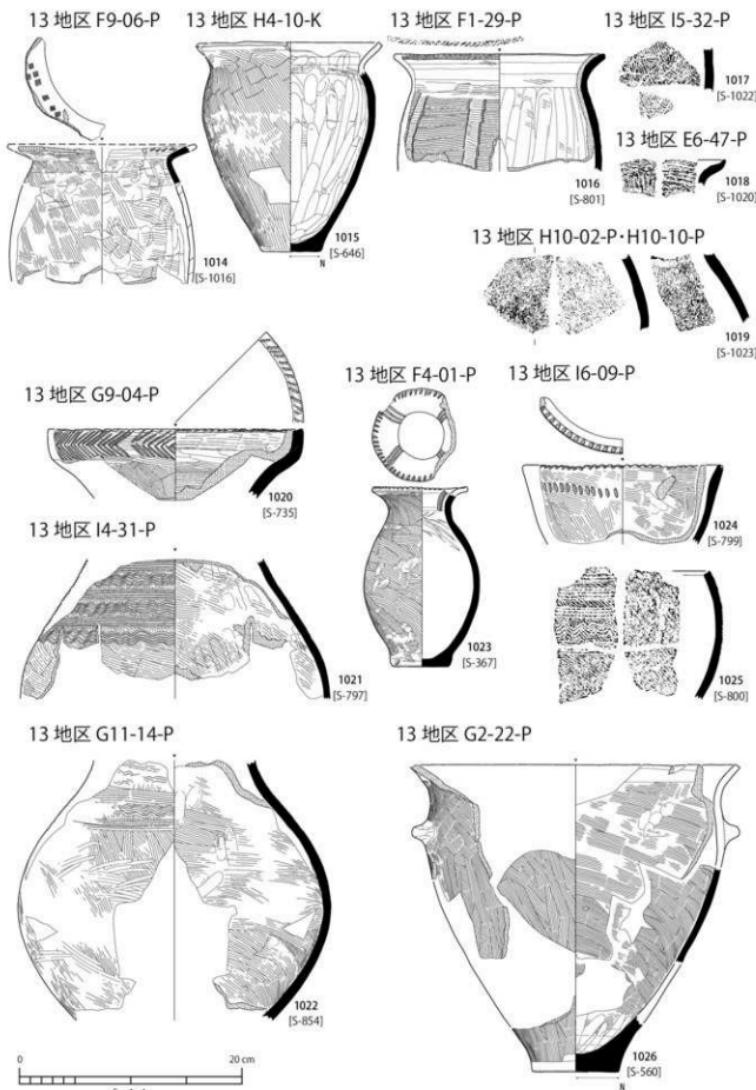
第 101 図 13 地区遺構出土土器 19(S=1/4)



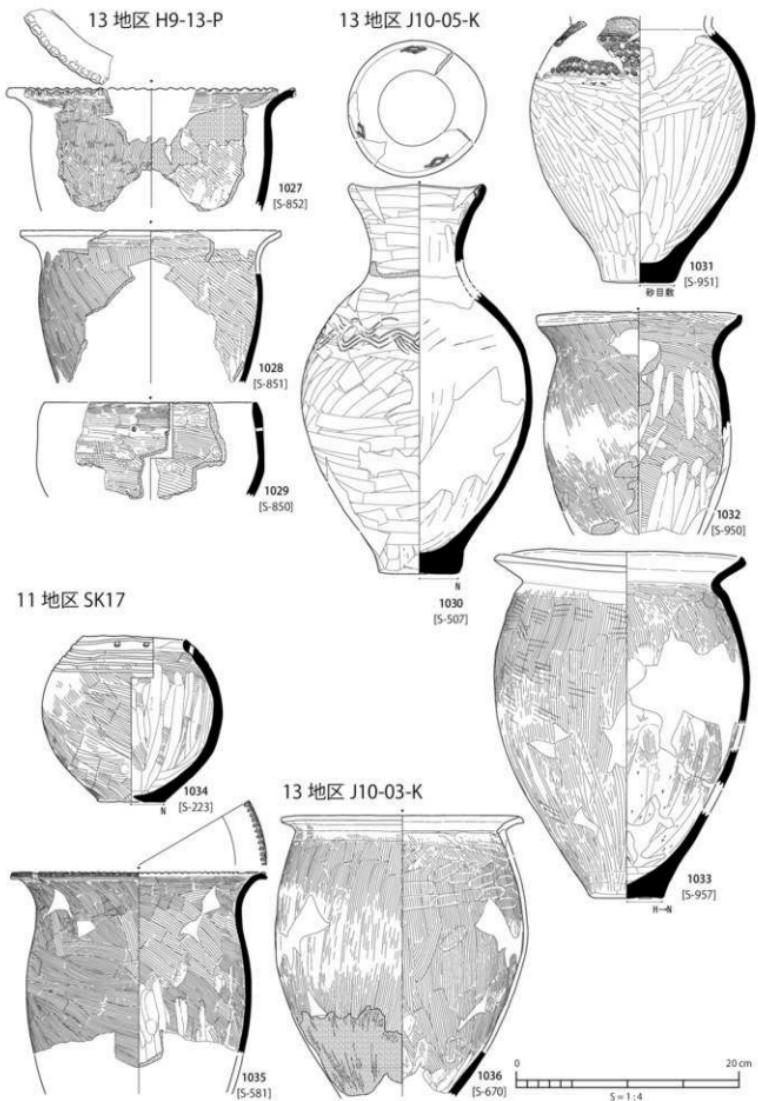
第 102 図 13 地区遺構出土土器 20(S=1/4)



第 103 図 13 地区遺構出土土器 21(S=1/4)

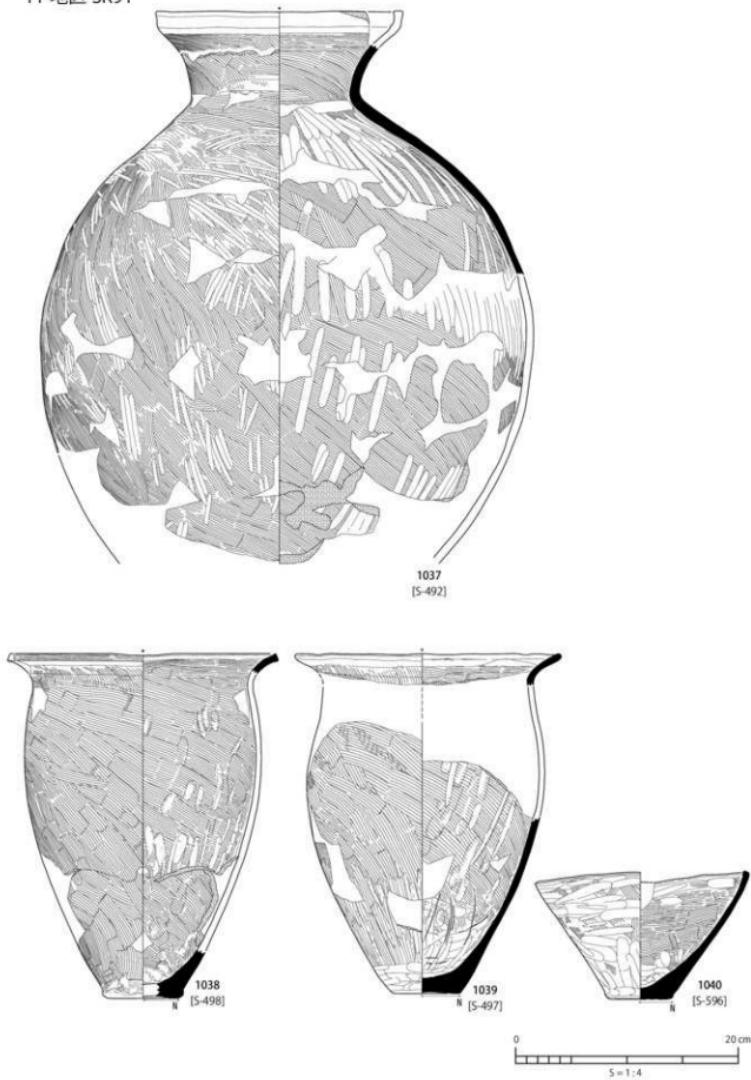


第104図 13地区遺構出土土器 22(S=1/4)



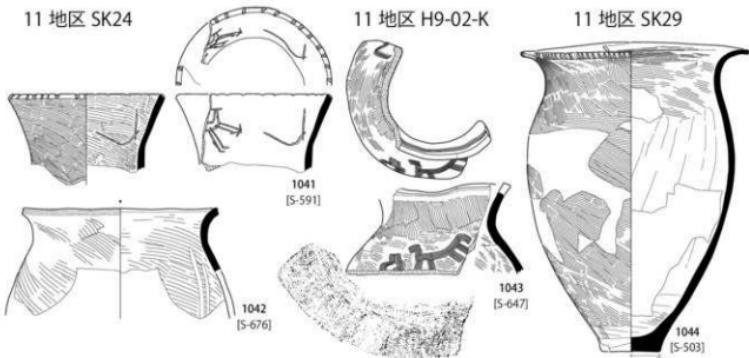
第 105 図 13 地区 ,11 地区遺構出土土器 (S=1/4)

11 地区 SK91



第 106 図 11 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

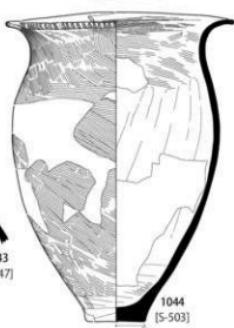
11 地区 SK24



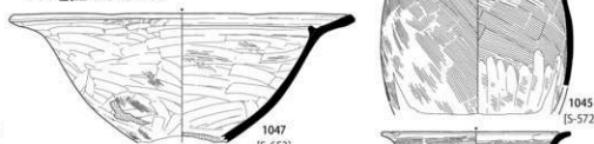
11 地区 H9-02-K



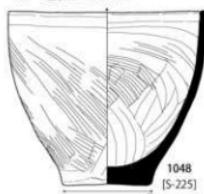
11 地区 SK29



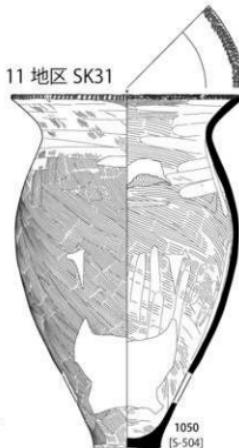
11 地区 N9-01-K



11 地区 SK130



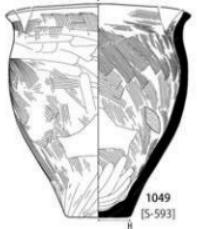
11 地区 SK31



11 地区 SD20



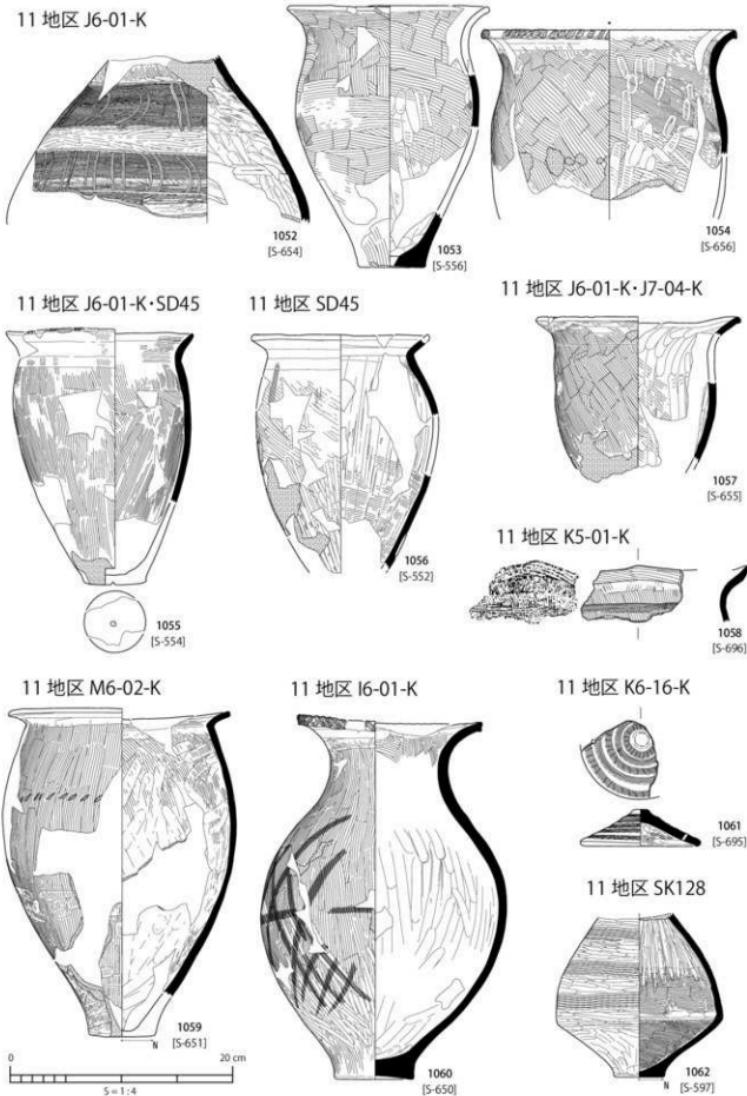
11 地区 SD4



20 cm

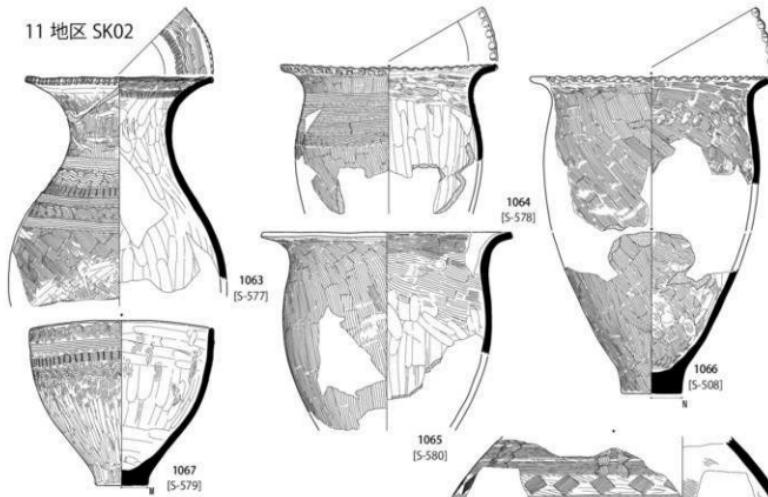
0
S = 1:4

第 107 図 11 地区遺構出土土器 3(S=1/4)

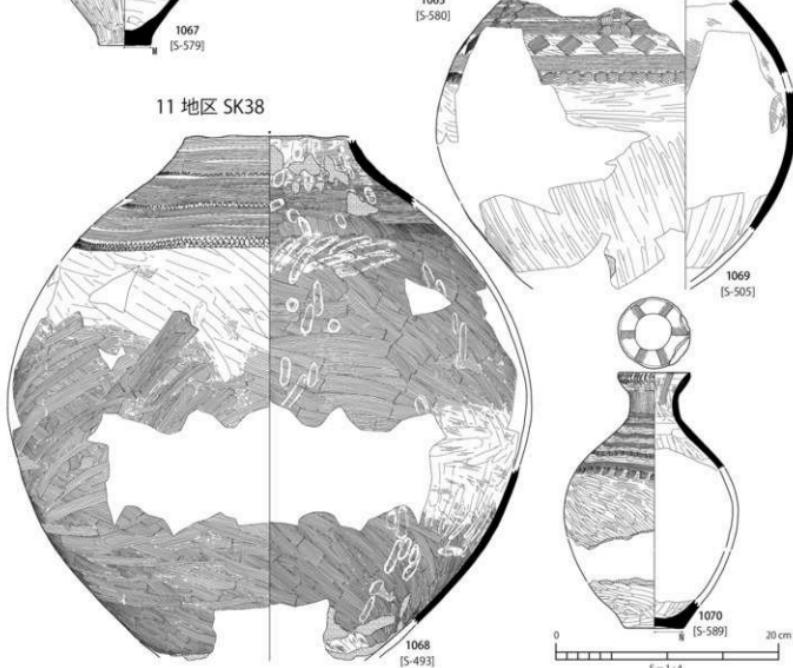


第108図 11地区遺構出土土器4(S=1/4)

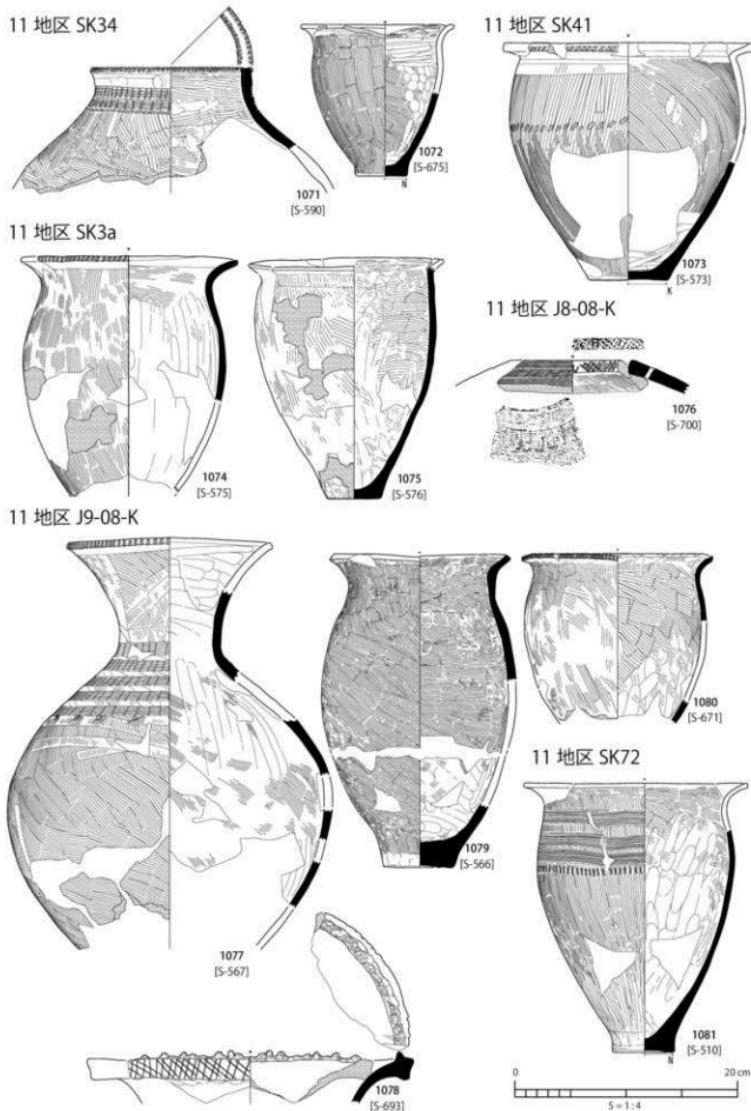
11 地区 SK02



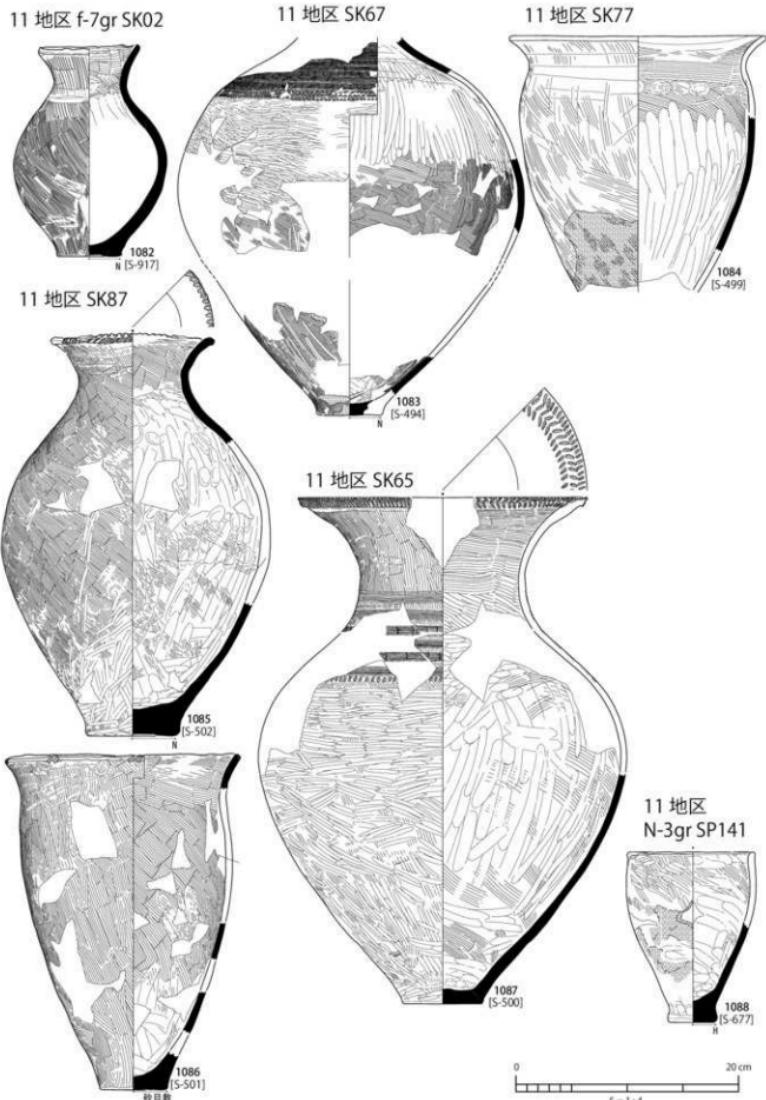
11 地区 SK38



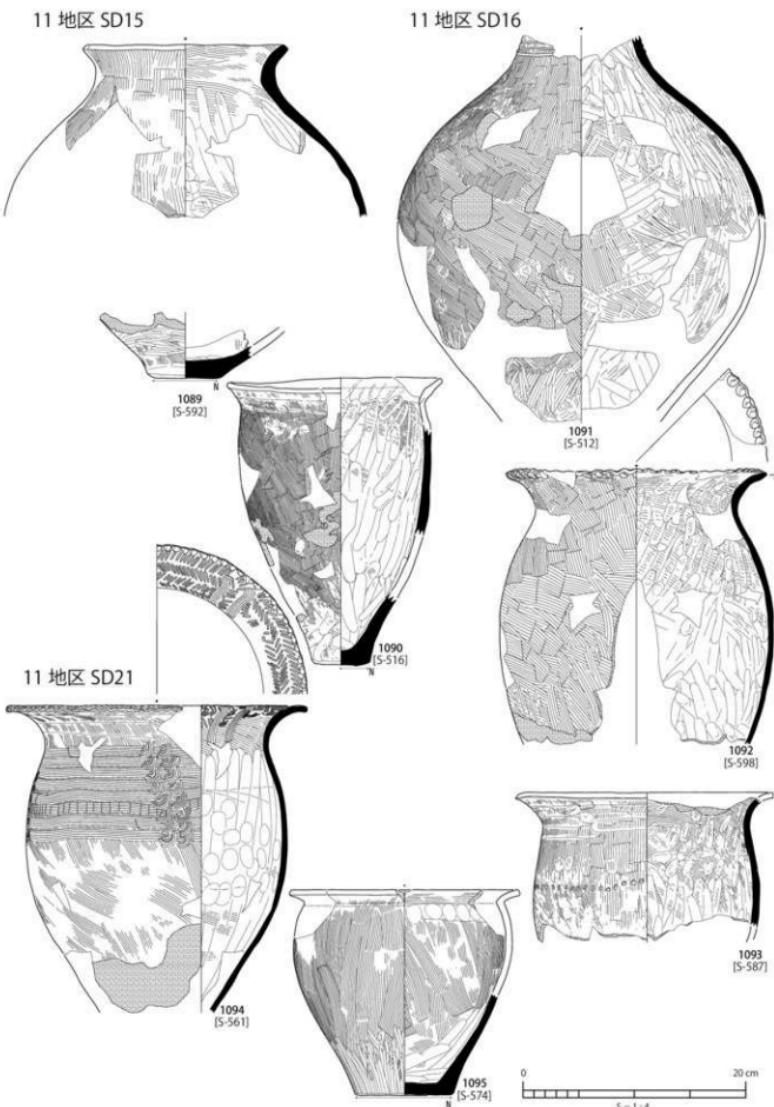
第 109 図 11 地区遺構出土土器 5(S=1/4)



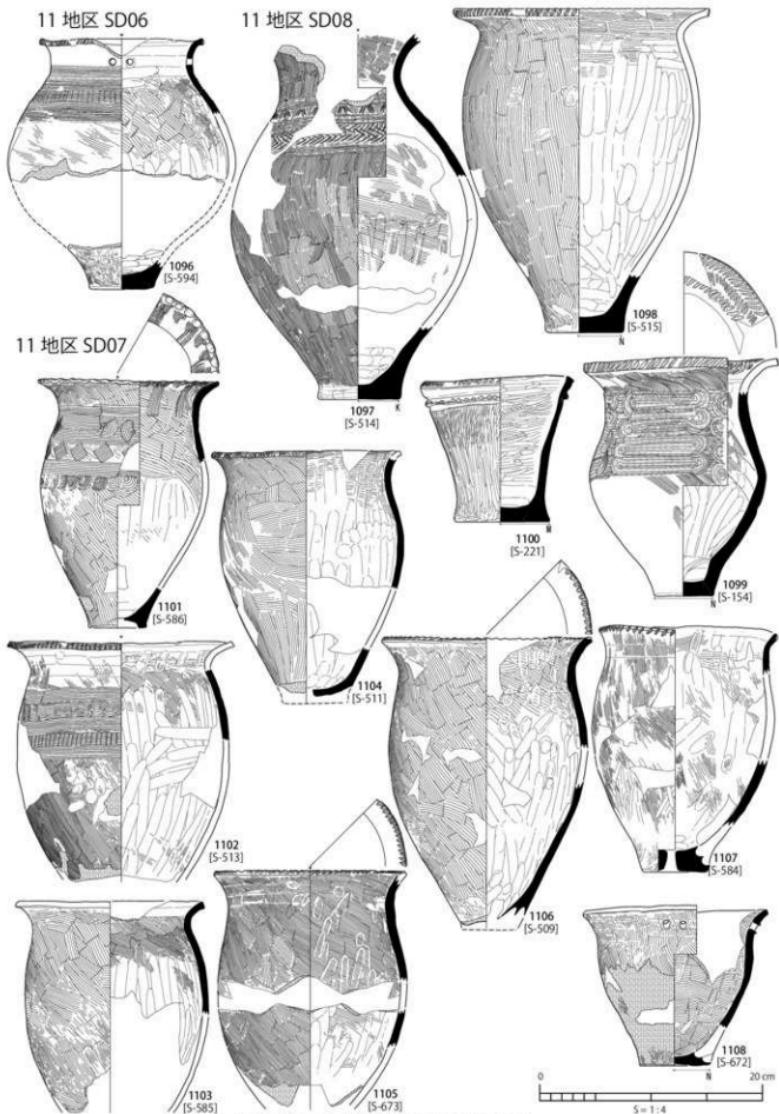
第 110 図 11 地区遺構出土土器 6 (S=1/4)



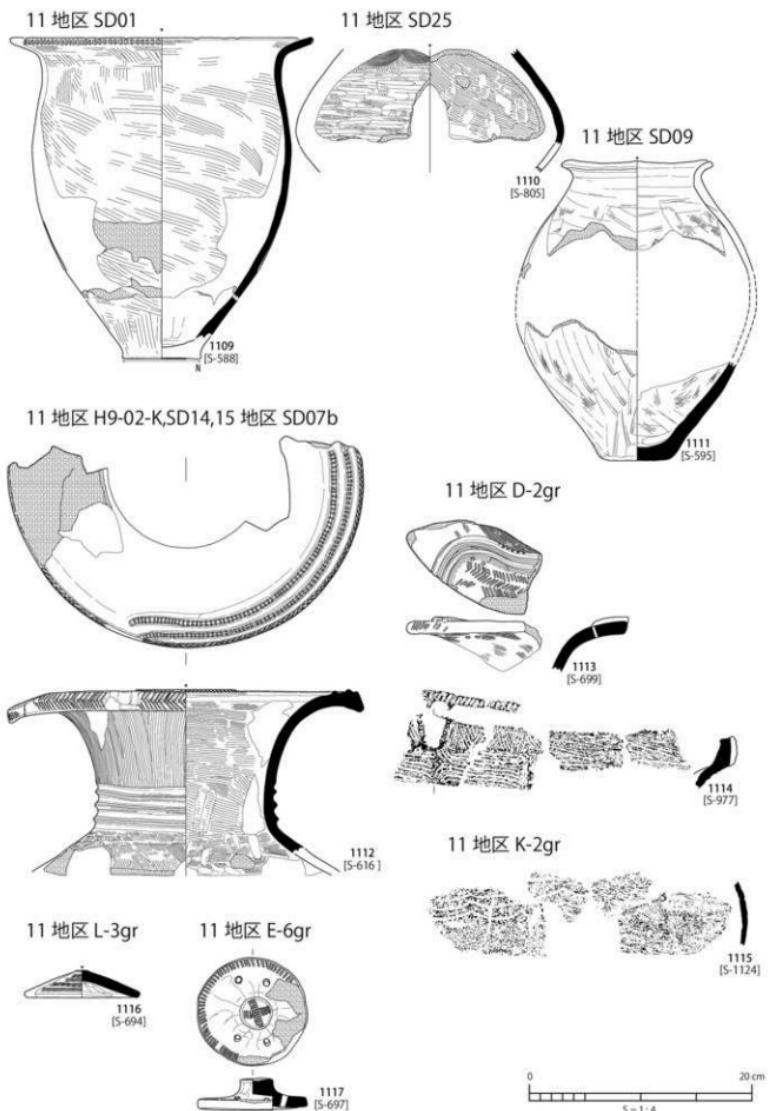
第 111 図 11 地区遺構出土土器 7(S=1/4)



第 112 図 11 地区遺構出土土器 8(S=1/4)



第 113 図 11 地区遺構出土土器 9(S=1/4)



第 114 図 11 地区遺構出土土器 10(S=1/4)

凡例

・分類：系統を記す。柳描文系無・有文(Ⅰ)、条痕文系無・有文(Ⅱ)、近江系(Ⅲ)、貝田町式・東海系(Ⅴ)、西日本系(Ⅳ)、沈線文系(Ⅵ)、四線文系(Ⅶ)、栗林系(Ⅷ)

・被熱：煮沸ないしは、二次被熱を受けたもの

・塗布：赤色ないしは、黒色、条痕文系特有の茶褐色系の塗布がみられるもの

・器種：壺、瓶、鉢に際しては、円盤充填法、円盤充填法を記載、高杯、台付き鉢は挿入法か円盤充填法、貼付法を記載

・調整：①直=直線文、波=波状文、簾=簾状文と省略する

②刃工具、二枚貝、柳状工具を記載、柳状工具に関しては分かれる範囲で、結束本数を記載

③ → は成形、調整の順序を示す

④調整(胴部)は頸部～胴部～底部側面までが対象、調整(口縁)は口縁部から口縁端部までを含む、底部は底面調整を指す

No.	寸削	窓理	分類	備考	被熱	塗布	波、簾等の 経緯	調整(外周)	調整(内周)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
1	5期以前	直	直	済益文系	無	無	—	波線で巻き包み	手	—	—	—
2	1期以前	直	直	直	無	無	—	横方向に細かい条痕	手	—	—	—
3	5-6期	直	直	東日本系か	無	無	—	ヨリカ一式脱一縫、斜め沈継	手	—	—	—
4	5期	直	柳描文系無文	無	無	無	円盤削除法	ヨリカ一式	ヨリカ一式方向切	手	手	手
5	1期以前	直	直	直	有	無	—	横方向	手	—	—	—
6	5期か	直	直	直	無	無	—	横	手	—	—	—
7	3期	直	直	栗林式か	無	無	—	横→沈継による直→波→直	手	—	—	—
8	9期	直	直	直	外	無	—	—	—	—	—	—
9	9期	直	直	直	有	無	—	横→ヨリカ一式脱一縫下部斜削法	手	ヨリカ一式方向切	手	手
10	5-6期	直	直	直	無	無	—	—	—	—	—	—
11	6期	直	直	直	無	無	—	—	—	3本1筋状条痕によくも切り替り、口縁部側面に横方向切	手	手
12	5-6期	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕、先端による横切	手	—	—	—
13	6期	直	直	直	無	無	—	波継によるヨリカ字形文→ヨリカ	手	—	—	—
14	6期	直	直	直	有	無	—	波継によるヨリカ字形文	手	手	手	手
15	5-6期	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕→ヨリカ→手	手	—	—	—
16	5期か	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕	手	—	—	—
17	5-6期	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕→3本1筋状条痕	手	—	—	—
18	5-6期	直	直	直	無	無	—	横方向に直状条痕、波状文→ヨリカ文、波継	手	—	—	—
19	5-6期	直	直	直	内面刮削	無	—	5本1筋状条痕削ね上げ文	手	—	—	—
20	5-6期	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕→波状文	手	—	—	—
21	5-6期	直	直	直	無	無	—	直状条痕、直状条文、直状文→直状	手	—	—	—
22	5-6期	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕、2本1筋状条痕	手	—	—	—
23	5期以前	直	直	直	無	無	—	横方向→5本1筋状条痕	手	—	—	—
24	5-6期	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕	手	—	—	—
25	5-6期	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕	手	—	—	—
26	6期か	直	柳描文系無文	無	無	無	内外面削除後	ヨリカ	ヨリカ	—	—	—
27	5期以前	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕	手	—	—	—
28	5-6期	直	直	直	無	無	—	斜め方向に細状条痕	横→斜めカ	—	—	—
29	5期以前	直	直	直	全面削除	有	無	ヨリカ→脱一縫	手	—	—	—
30	5期以前	直	直	直	無	無	—	横方向に細かい	横方向に目によると	—	—	—
31	5期以前	直	直	直	無	無	—	斜め方向に細状条痕(籠羽状)	手	—	—	—
32	6期	直	直	直	有	無	—	手から上に伏せ置き、13.5度回転、1.5倍の標準工具で直状文	手	—	—	—
33	6期	直	柳描文系有文	有	無	無	—	ヨリカ→5本1筋状条痕(直)直→波状文	手	—	—	—
34	5期以前	直	直	直	無	無	—	直状条痕	手	—	—	—
35	6期か	直	直	直	無	無	—	ヨリカ	ヨリカ	—	—	—
36	6期	直	柳描文系有文	無	無	無	—	ヨリカ→2本貼付直→5本1筋状条痕	手	—	—	—
37	6期	直	柳描文系有文	有	無	無	—	ヨリカ→横方向の	手	—	—	—
38	6期	直	柳描文系有文	有	無	無	—	ヨリカ→横方向の直→波状文	手	—	—	—
39	6期	直	柳描文系	有	無	無	—	ヨリカ→3本1筋状条痕(直)直→波状文	手	—	—	—
40	5-6期	直	直	直	無	有	—	ヨリカ→波状文による波状文	手	—	—	—
41	6期	直	直	直	無	無	—	横方向工具による横状	手	—	—	—
42	5期	直	直	直	無	無	—	横方向に細状条痕	手	—	—	—
43	6期	直	直	直	無	無	—	ヨリカ→工具による波状文	手	—	—	—
44	5-6期	直	柳描文系無文(D 型)	有	無	無	円盤削除法	ヨリカ→圓筒形	ヨリカ→大径横 方向切	手	手	手

No.	時期	種類	分類	備考	被熱	被布	式、脚部の 調整(外側)	調整(内側)		調整(口脚)	調整 (U脚内)	調整 (底面)
								内側の 脚部	外側の 脚部			
86	6期	直	柳葉文系無文		無	無	円盤脚置法	付けた→脚部口引け	付けた→部分的に 脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
87	6期	唐	沈款文系鏡、水型 (柳葉文系有文)		有	無	円盤脚置法	付けた→6本1組脚状工具(直 張+直+2×脚)	付けた→脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ→底+ 脚引け	ヨコナギ
88	6期	鉢	柳葉文系無文		無	無	円盤脚置法	ヨコナギ→脚	脚方向の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
89	6期	焼口脚部	小波紋口縁有文		有	無	脚引け→脚部口引け	4本1組 脚状工具(直+直+2×脚)	4本1組 脚状工具(直+直+2×脚)	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
90	5期か	焼口脚部	柳葉文系有文		有	無	—	ヨコナギ→5本1組直+直+波	ヨコナギ	ヨコナギ→板状上 脚による文字状脚引 け	ヨコナギ	ヨコナギ
91	6期	焼口脚部	柳葉文系有文		無	無	—	ヨコナギ→7本1組脚状工具(直 張+直+2×脚)	ヨコナギ→ヨコナギ	ヨコナギ→工具による 脚引け	ヨコナギ→ヨコナギ	ヨコナギ
92	6期	焼口脚部	波紋文系鏡(紙型 か)(鏡文)		有	無	—	ヨコナギ→13鏡文	ヨコナギ	ヨコナギ→板状工具に よる脚引け	ヨコナギ→13鏡文	ヨコナギ
93	6期	唐	柳葉文系無文		有	無	円盤脚置法	ヨコナギ→脚部、脚部側面2脚引け	付けた→脚方向の 脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ→脚部側面に脚 引け	ヨコナギ
94	6期	焼口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	脚引け→脚部口引け	細かいヨコナギ→脚 引け→脚部口引け	ヨコナギ→上から下 の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
95	6期	唐	柳葉文系無文		有	無	円盤脚置法	斜め→脚部	斜め→ヨコナギ	ヨコナギ→脚部に脚 工具の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
96	5-6期	焼口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→脚部に脚 工具の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
97	6期	唐	柳葉文系無文		有	無	円盤脚置法	ヨコナギ→底部脚部、脚部2脚引け	ヨコナギ→脚方向の 脚引け	ヨコナギ→ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
98	6期	焼口脚部	条文系無文		有	無	—	斜め→脚引け	ヨコナギ→ヨコナギ	ヨコナギ→ヨコナギに脚 工具の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
99	6期	唐	波紋文系承型無 文		有	無	円盤脚置法	ヨコナギ→脚部に斜め方向の脚 引け	ヨコナギ→脚部に斜 め方向の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
100	6期	焼口脚部	小波紋口縁無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚部下平 脚引け	ヨコナギ→1トからの脚 工具の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
101	5-6期	焼口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚部下平 脚引け	ヨコナギ→脚部下平 脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
102	6期	焼口脚部	波紋文系承型無 文		有	無	粗い斜め	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
103	6期	焼口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
104	6期	焼口脚部	柳葉文系無文	桜川流域	有	無	円盤脚置法	斜め→脚部下平 脚引け	ヨコナギ→脚部下平 脚引け	ヨコナギ→脚部下平 脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
105	2-3期	壺口脚部	条文系有文 (波入)、(波登か)	波山の日本式 波入(波登か)	有	無	—	ヨコナギ→3-13鏡文等、7本1組 脚状工具、脚部2脚引け	ヨコナギ→脚引け	波入によると状文2号 脚下端に指押さえ有	ヨコナギ	ヨコナギ
106	6期	波口脚部	柳葉文系有文 (波入)	波入か	無	無	—	ヨコナギ→3-13鏡文等、7本1組 脚状工具、脚部2脚引け	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→脚部に脚 工具の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
107	6期	6期	壺口脚部	柳葉文系有文 (波入)	無	無	—	ヨコナギ→6本1組脚状工具、(直 張+波引)→最大脚工具直+ 波引	ヨコナギ→脚部脚引 け	ヨコナギ→脚部に脚 工具による脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
108	5-6期	焼口脚部	柳葉文系有文		有	無	—	ヨコナギ→4本1組脚状工具直 張+直	ヨコナギ→4本1組 脚状工具直張	ヨコナギ→ヨコナギ 脚状工具直張	ヨコナギ	ヨコナギ
109	6期	焼口脚部	柳葉文系有文		有	無	—	ヨコナギ→5本1組脚状工具直 張+5-6条	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→13鏡面部に脚 工具による脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
110	6期	焼口脚部	柳葉文系有文		有	無	—	ヨコナギ→5本1組脚状工具直 張+直	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→13鏡面部に脚 工具による脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
111	5-6期	唐脚部	柳葉文系有文		有	無	—	ヨコナギ→5本1組脚状工具直 張+直	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→ヨコナギに脚 工具による脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
112	6期	焼口脚部	柳葉文系有文		有	無	—	ヨコナギ→5本1組脚状工具直 張+直	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→ヨコナギに脚 工具による脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
113	6期	質口土器 分	柳葉文系無文		無	無	—	脚引け→脚引け→側面に直線文	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→ヨコナギに脚 工具による脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
114	6期	唐	柳葉文系無文		無	無	円盤脚置法	粗い斜め→ヨコナギ→ヨコナギ →ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→脚部に脚 工具の脚引け	ヨコナギ→ヨコナギ 脚部に脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
115	6期	焼口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚部に脚 工具による脚引け	ヨコナギ→脚部に脚 工具の脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
116	6期	壺口脚部	条文系承型無 文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→ヨコナギ 脚部に脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
117	6期	焼口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚部脚引 け	ヨコナギ→ヨコナギ 脚部に脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
118	6期	焼口脚部	柳葉文系無文	逆L状	有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
119	6期	唐	柳葉文系無文		有	無	円盤脚置法	ヨコナギ	ヨコナギ→部分的に 脚引け→脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
120	6期	脚側底部	柳葉文系無文		有	無	円盤脚置法	ヨコナギ	ヨコナギ→底面周囲	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
121	6期	壺口脚部	柳葉文系無文(D 型)		無	無	—	ヨコナギ→脚部下平に批捺による 張り模様させ	ヨコナギ→脚部下平に 批捺させ	ヨコナギ→脚部下平に 批捺させ	ヨコナギ	ヨコナギ
122	5-6期	壺口脚部	柳葉文系有文		無	無	—	ヨコナギ→4本1組脚状工具(直 張+波引)	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→脚部に脚 工具による脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
123	6期	壺口脚部	条文系無文		無	無	—	ヨコナギ→3-2脚引 け	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
124	6期	壺口脚部	東夷系模倣	波入	無	無	—	ヨコナギ→5本1組脚状工具直 張+直	ヨコナギ→ヨコナギ →ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ→ヨコナギに脚 工具による脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
125	6期	壺口脚部	柳葉文系有文	内部表面刻文	無	無	—	3.条文部→板状工具の脚引け→ 模様文(5単位)1対	ヨコナギ→部分的に 脚引け	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
126	6期	唐	柳葉文系無文		有	無	円盤脚置法	ヨコナギ→脚部下平2脚引 け	ヨコナギ→脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ
127	6期	壺口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚引 け	ヨコナギ→ヨコナギ 脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
128	5-6期	焼口脚部	柳葉文系無文	外面部削離	有	無	—	板付→脚部口引け	ヨコナギ→脚引 け	ヨコナギ→脚引 け	ヨコナギ	ヨコナギ
129	5-6期	焼口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ→工具の脚引 け	ヨコナギ→ヨコナギ	ヨコナギ
130	6期	焼口脚部	小波紋口縁無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚引 け	ヨコナギ→ヨコナギ 脚引け	ヨコナギ	ヨコナギ
131	6期	焼口脚部	柳葉文系無文		有	無	—	ヨコナギ	ヨコナギ→脚引 け	ヨコナギ→工具の脚引 け	ヨコナギ	ヨコナギ
132	6期	唐	小波紋口縁無文	外面部剥離なし	有	無	円盤脚置法	ヨコナギ→脚引 け	ヨコナギ→脚引 け	上から下の脚引 け	小	ヨコナギ
133	6期	唐	柳葉文系無文		無	無	円盤脚置法	ヨコナギ→ヨコナギ	ヨコナギ→脚引 け	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	便布	底、腹部の 経路	調整(外側)	調整(内側)	調整(口側)	調整 (口側内)	調整 (外側)	
134	6期	遺伝部	縦条文系無文		無	有	9本1組縦条状底板	横→板分け	132件	132件	4本1組縦状工具	4本1組縦状工具	
135	6期	圓口側部	小波狀口縫文		有	無	一	付けか→直縫文	132件	132件	上方→上方からの指揮	上方→上方からの指揮	
136	6期	遺伝部	縦条文系有文		無	無	132件→4本1組縦状工具直	付けか	132件	132件	132件	132件	
137	5-6期	圓口側部	縦条文系無文		無	無	細かい糸縫→横割り糸縫	付けか→横縫	132件	132件	132件	132件	
138	6期	遺伝部	縦条文系有文	漁人	無	無	132件→5本1組縦状工具直	付けか→横縫	132件	132件	132件	132件	
139	6期	圓口側部	縦条文系無文	漁人	有	無	縫方向の縦条状底	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件	
140	5-6期	圓口側部	縦条文系無文		無	無	付けか→圓形縫合	付けか→部分的に縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件	
141	6-7期	圓口側部	縦条文系有文		有	無	97件→4本1組縦状工具直→斜	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件	
142	6-7期	圓口側部	縦条文系無文		有	無	付けか→4本1組縦状工具直	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件	
143	5-6期	圓口側部	縦条文系無文		有	無	付けか	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件	
144	7期か	直	縦条文系有文		無	無	円盤縫接法	132件→指付け→6本1組縫状	付けか	132件	132件	132件	
145	7期か	直	西日本式(くの字縫)	漁人か	有	無	円盤充填法	97件→最大径に沿工具の刺突→	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件
146	6-7期	直	縦条文系無文	直部に刺突な 成後成形部穿孔	有	無	円盤縫接法	97件	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件
147	9期か	圓口側部	凹縫条文系影響型 石縫	(漁人か)	有	無	付けか→圓形32件	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件	
148	6-7期	直	西日本式(くの字縫)	成後成形部穿孔 直	有	無	円盤充填法	97件	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件
149	6-7期	直	縦条文系有文		有	無	円盤縫接法	97件→9本1組縦状工具直→波→直→直	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件
150	7期か	直	縦条文系無文	2個1対の縫穴 直、表面剥離		無	無	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件	
151	6-7期	直	小波狀口縫文		無	無	円盤縫接法	付けか	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件
152	6期	遺傳部	縦条文系無文		無	無	97件	付けか→指付け	132件	132件	132件	132件	
153	7期か	直	縦条文系無文		有	無	円盤縫接法	97件	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件
154	6-7期	直	縦条文系無文	外縫孔部分別5 5孔	有	無	132件	付けか→縫方向の指揮	132件→132件による 2個1対の縫穴	132件	132件	132件	
155	7期	圓口側部	小波狀口縫文	柳川流域	有	無	付けか	付けか	132件	132件	132件	132件	
156	7期か	鉢	縦条文系無文		有	無	円盤縫接法	97件→32件→縫め込み	付けか	132件	132件	132件	
157	6-7期	廣式鉢	縦条文系無文	内面黒斑	有	無	円盤縫接法	付けか→縫方向の指揮	132件	132件	132件	132件	
158	7期	圓口側部	縦条文系有文	多孔孔付縫合 が、接着剤を用		無	無	97件→底部に直縫文	付けか	受け口、野口→2個 1対の縫穴(縫合部位), 2個1対の縫穴(縫合部位), 2個1対の縫穴(縫合部位)	受け口、野口→2個 1対の縫穴(縫合部位), 2個1対の縫穴(縫合部位)	受け口、野口	
159	6-7期	直	縦条文系無文		有	無	円盤縫接法	付けか	付けか→横割け	132件	132件	132件	132件
160	7期	圓口側部	凹縫条文系表裏付 (縦条文系有文)	外側縫接直しい	有	無	97件→4本1組縦状工具直	付けか→縫方向の指 付け	132件→上からの指 付け	132件	132件	132件	
161	7期か	遺傳部	縦条文系無文	外側縫接直しい	無	無	円盤充填法	97件	縫方向の指付け	-	-	-	-
162	7期か	直	縦条文系無文	内外面縫接直し 2個1対の縫穴	無	無	円盤縫接法	-	-	-	-	-	-
163	7期	直	縦条文系有文		無	無	円盤縫接法	97件→6本1組縦状工具直 1. 縫合直(7-7. 縫形4)	付けか→部分的に縫 付け	受け口、野口→2個 1対の縫穴(縫合部位), 2個1対の縫穴(縫合部位), 2個1対の縫穴(縫合部位)	受け口、野口		
164	7期	直	縦条文系有文		無	無	円盤縫接法	97件	付けか→縫方向の指 付け	132件	132件	132件	132件
165	6-7期	直	小波狀口縫文	底部外周摩滅	有	無	円盤縫接法	97件→部分的に有	付けか→部分的に 縫付け	132件	132件	132件	132件
166	6-7期	圓口側部	小波狀口縫文	摩擦後直被熱	有	無	97件→縫め込み	付けか→縫方向の指 付け	132件→上からの指 付け	132件	132件	132件	
167	7期	直	小波狀口縫文	成後成形部穿孔 直	有	無	円盤縫接法	付けか→縫状工具による縫合直	付けか→縫方向の指 付け	受け口、野口→2個 1対の縫穴(縫合部位), 2個1対の縫穴(縫合部位)	受け口、野口		
168	6-7期	直	小波狀口縫文	成後成形部穿孔 直	有	無	円盤縫接法	付けか	縫→付けか→縫 付けか→縫方向の指 付け	132件→下からの指 付け	132件	132件	
169	6期	圓口側部	縦条文系無文		有	無	付けか→圓形32件	付けか→部分的に 縫付け	132件	132件	132件	132件	
170	6-7期	直	縦条文系無文		有	無	円盤縫接法	付けか→縫合直→付けか→底部 直	付けか→縫方向の指 付け	受け口、野口→2個 1対の縫穴(縫合部位), 2個1対の縫穴(縫合部位)	受け口、野口		
171	6-7期	直	小波狀口縫文		有	無	円盤縫接法	付けか	付けか→縫方向の指 付け	132件	132件	132件	
172	6-7期	直	縦条文系有文	底部外周摩滅	有	無	円盤縫接法	97件→9本1組縦状工具直	付けか→縫方向の指 付け	132件→後底文→ 縫状文	132件	132件	
173	7期	鉢	縦条文系無文		無	無	円盤縫接法	付けか→底面部縫合直	付けか→縫方向の指 付け	132件→32件	132件	132件	
174	6期	直	縦条文系有文		無	無	円盤縫接法	付けか	底部付近、最大径部分 直	受け口、底面部縫合直 工具による刺突	132件	132件	
175	6期	遺傳部	縦条文系有文		無	無	円盤縫接法	付けか→5本1組縦状工具直	付けか→縫方向の指 付け	132件	132件	132件	
176	6期	直	縦条文系無文		有	無	円盤充填法	付けか→132件	付けか→縫方向の指 付け	132件	132件	132件	

No	時期	器種	分類	標考	被然	帶布	底	標的(内面)	調整(外面)	調整(内面)	調整(口端)	調整(口端内)	調整(底)	
177	8-9世紀	直	柳葉文系無文	SX13 供獻禮物	無	無	円盤削面法	サカハ→2本1組	カット→2本1組	カット	口端	口端	口端	
178	8-9世紀	直	柳葉文系無文	SX13 供獻禮物	有	無		サカハ→1部半上口端	カット→範の方向の指				口端	
179	6-8世紀	直	柳葉文系有文		無	無		サカハ→横一列→頭部に貼付穴開け→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部に工具の羽状刻文	口端	口端	口端	
180	6-8世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	斜め、カット→6本1組	サカハ→部分的に指	サカハ→部分的に指	口端	口端	口端	
181	5-6世紀	直	柳葉文系無文		無	無	円盤削面法	サカハ→2部2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部に側1討の羽状刻文	口端	部分的に	口端	
182	6世紀	直	柳葉文系無文	柳葉城塙	有	無	円盤削面法	サカハ→底部側面削け	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部下平底	口端	口端	口端	
183	6世紀	直	柳葉文系無文	円形鉢脚	有	無		斜め、カット→頭部2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部に工具の羽状刻文	口端	口端	口端	
184	5-6世紀	直	柳葉文系無文		有	無	斜削面法	斜め	サカハ→2本1組	サカハ→2本1組	口端	口端	口端	
185	5-6世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	サカハ→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部端に側1討の羽状刻文	口端	部分的に	口端	
186	5-6世紀	直	柳葉文系有文		無	無	円盤削面法	斜め、カット→5本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部端に側1討の羽状刻文	口端	口端	口端	
187	6世紀	直	柳葉文系有文		有	無		斜め	サカハ→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部端に側1討の羽状刻文	口端	口端	口端
188	5-7世紀	直	張紋柳葉型無文		有	無		小一頭状条痕による横羽状	サカハ→範の方向の指	サカハ→1本工具による羽状刻文	口端	口端	口端	
189	6世紀	直	柳葉文系有文		無	無	円盤削面法	斜め、カット→6本1組	サカハ→部分的に指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
190	6世紀	直	柳葉型		無	無	円盤削面法	サカハ→8本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
191	6世紀	直	柳葉文系有文		無	有	円盤削面法	斜め→頭部上半斜め→角削り突出→第2-第9本1組	サカハ→1部1討の羽状刻文	サカハ→1部1討の羽状刻文	口端	口端	口端	
192	6-7世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	サカハ→7本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部端に側1討の羽状刻文	口端	口端	口端	
193	6世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	サカハ→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
194	5-6世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	斜め→頭部上半斜め→2本1組	サカハ→2部2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部端に側1討の羽状刻文	口端	口端	口端
195	5-6世紀	直	柳葉文系無文	柳葉城塙	有	無		サカハ→頭部2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→頭部に側1討1本(部位半)1組	口端	口端	口端	
196	6世紀	直	柳葉文系無文		有	無	円盤削面法	サカハ→底部側面削け	サカハ→部分的に指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
197	6世紀	直	柳葉文系無文	外面部削離しい	有	無	円盤削面法	斜め	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
198	8-9世紀	直	柳葉文系有文		有	無	-	サカハ→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→1本工具による羽状刻文	口端	口端	口端	
199	8世紀	直	柳葉型		無	無	-	EDM、頭部下→3条並用→頭部下→側1討の羽状刻文	サカハ→2部2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端
200	8-9世紀	直	衛海系模倣	全面削離しい	無	無	-	直頭部→3条各1頭部	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
201	8-9世紀	直	柳葉文系有文		無	無	円盤削面法	サカハ→頭部上半斜め→角削り突出→第2-第9本1組	サカハ→1部1討の羽状刻文	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
202	6世紀	直	柳葉系無文		無	無	-	斜め→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
203	5-6世紀	直	柳葉系無文	柳葉城塙	有	無	-	サカハ→頭部2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→頭部に側1討1本(部位半)1組	口端	口端	口端	
204	8-9世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	サカハ→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→1本工具による羽状刻文	口端	口端	口端	
205	6世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	斜め	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
206	6世紀	直	柳葉文系有文	底部に縦字彫有	有	無	円盤削面法	サカハ→5本1組	サカハ→部分的に指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
207	6世紀	直	柳葉文系無文		無	無	円盤削面法	サカハ→底部削面	サカハ→2本1組	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
208	6世紀	直	柳葉文系有文	柳葉城塙	有	無	-	斜め	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
209	6世紀	直	柳葉文系有文	底部に縦字彫	有	無	-	斜め→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→1本工具による羽状刻文	口端	口端	口端	
210	6世紀	直	柳葉文系有文	底部に縦字彫	無	無	-	サカハ→5本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
211	6世紀	直	柳葉型	底部に縦字彫	有	無	-	斜め	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
212	6世紀	直	柳葉文系有文	外面部下削離	有	無	-	サカハ→本1組頭部下削離→直→直→平行	サカハ→2部2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端
213	6世紀	直	柳葉文系有文		無	無	-	サカハ→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
214	6世紀	直	柳葉文系有文		無	無	-	斜め、平行→4本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
215	6世紀	直	柳葉系無文	柳葉城塙	有	無	-	斜め→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
216	6世紀	直	柳葉文系有文	底部に未完透孔	有	無	円盤削面法	サカハ→5本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
217	6世紀	直	柳葉文系無文	柳葉城塙	有	無	円盤削面法	サカハ→5本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部にLR	口端	口端	口端	
218	6世紀	直	柳葉文系無文	(柳葉文系有文)	有	無	円盤削面法	斜め→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
219	6世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	サカハ→2本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→口端部	口端	口端	口端	
220	6世紀	直	柳葉文系有文		有	無	円盤削面法	サカハ→5本1組	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	
221	6世紀	直	柳葉型	底部に縦字彫	有	無	-	斜め	サカハ→範の方向の指	サカハ→範の方向の指	口端	口端	口端	

No	時期	器種	分類	備考	被熟	準	底、脚部の 経年	調整(外側)	調整(内側)	調整(口縁)	調節 (口縁内)	調節 (底)		
221	6期	圓口鉢形	灰陶文部鉢型 (繩文系有文)		有	無	一	付1→7本1組脚工具 開闊 付2→直+横(引文)	付1付2→指付け	32付1→端部に浅波紋	32付1			
222	6期	圓口鉢形	繩文系有文		有	無	一	付1→5本1組脚工具 直 付2→直+波	付1付2	32付1				
223	5-6期	圓頂部	繩文系有文		無	無	一	付1→6本1組脚工具 直 付2→直+波	32付1					
224	6-7期	廣	繩文系有文	表面に成後穿孔有	有	無	一	付1→5本1組脚工具 直 付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	付1付2→底面部分に 直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1		付なし		
225	6期	廣	繩文系無文	表面に成後穿孔有	有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→部分的に 直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	付なし		
226	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→最大直線方向の 角付け	32付1	秒目數		
227	6期	圓口鉢形	繩文系無文		有	無	一	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1				
228	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
229	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
230	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
231	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
232	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
233	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	付なし		
234	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
235	6期	廣	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	付なし		
236	6期	圓口鉢形	小波状口縁無文	直刃底部多く有	有	無	一	付1付2→圓盤振盪法	斜め-32付1	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
237	6期	廣	繩文系無文	直刃底部多く有	有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
238	6期	圓口鉢形	小波状口縁無文		有	無	一	付1付2→圓盤振盪法	斜め-32付1	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	付なし		
239	6期	圓口鉢形	小波状口縁無文		有	無	一	付1付2→圓盤振盪法	斜め-32付1	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
240	6期	圓口鉢形	繩文系無文	手千2方向	無	無	一	付1付2→圓盤振盪法	斜め-32付1	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
241	6期	疎	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→底部側面付	斜め-32付1	32付1	部分的に		
242	6期	疎	繩文系無文	手千1付の撇六	無	無	一	円盤振盪法	付1付2→底部側面付	斜め-32付1	32付1			
243	6期	圓口鉢形	衆条文系無文		有	無	一	付1付2→斜め離合条痕-32付1	斜め-32付1	斜め-32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
244	6期	圓口鉢形	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
245	6期	直口-底	繩文系有文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	秒目數		
246	6期	直口-底	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	秒目數		
247	8前か	廣	繩文系無文	直面に成後穿孔の 直面有	有	無	一	円盤振盪法	付1付2→底部側面付	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
248	6-7期	廣	小波状口縁無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→底部側面強な 直+直+直+直+直+直	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	板付け		
249	6期	疎	繩文系無文	内部剖面激しく 有	無	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法-32付1→ 圓盤振盪法-32付1	斜め-32付1	斜め-32付1			
250	6-7期	直口鉢形	小波状口縁無文		無	無	一	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	斜め-32付1	斜め-32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
251	6期	直口鉢形	繩文系有文		無	無	一	円盤振盪法	付1付2→7本1組脚工具 直+直+直+直+直+直	斜め-32付1	斜め-32付1			
252	6-7期	廣	次輪・直輪承型 (繩文系有文)		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→5本1組脚工具 直+直+直+直+直+直	斜め-32付1	斜め-32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	付なし	
253	6-7期	廣	小波状口縁有文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→6本1組脚工具 直 付3→直+直+直+直+直+直	斜め-32付1	斜め-32付1			
254	6期	疎	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	秒目數		
255	6期	疎	繩文系無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
256	6期	圓口鉢形	繩文系有文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
257	7期	廣	小波状口縁無文		有	無	一	円盤振盪法	付1付2→圓盤振盪法	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
258	8前か	廣	圓口鉢形	繩文系無文	有	無	一	圓盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
259	6前か	圓口鉢形	繩文系無文		有	無	一	圓盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
260	6-7期	疎	繩文系無文		無	無	一	円盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1			
261	6-7期	直口鉢形	繩文系有文		無	無	一	付1付2→7本1組脚工具 直+直+直+直+直+直	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1	付なし		
262	6期	直口鉢形	繩文系有文		無	無	一	円盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1				
263	6期	直口鉢形	繩文系有文		無	無	一	円盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1				
264	6期	直口鉢形	繩文系無文	内外面剥離激し 有	無	無	一	円盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1				
265	6期	直口鉢形	繩文系無文		無	無	一	円盤振盪法	付1付2→直+直+直+直+直+直 付3→直+直+直+直+直+直	32付1				

№	時期	施場	分類	備考	被熟	筆布	既・既用の 機器	調整(外曲)	調整(内曲)	調整(上口内)	調整(底内)	調整(底外)
266	6期	貴賀御前片	櫛描文系有		有	無	引手→木本1刷継状工具 直 直+直+波状	サカハ				
267	6期	貴(口)御前	小波江口御前右文		有	無	斜め、引手→木本1刷継状工具 直(直+直+直)	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押すかららの押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
268	7期以降	貴(口)御前	櫛描文系無文		有	無	斜め→指面ロゴ	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押すかららの押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
269	5-6期	貴(口)御前	櫛描文系無文		有	無	斜め	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
270	6期	貴	櫛描文系無文		有	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
271	5-6期	貴	櫛描文系無文	底部に棘子(くぼ か)川原底産	有	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
272	5-6期	貴	櫛描文系無文		有	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
273	6期	貴賀御前	西日本式 (木の葉型)	漬入か	有	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
274	6期	貴(口)御前	櫛描文系無文		有	無	円盤割離法	サカハ	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→	ロゴ	ロゴ→
275	5-6期	跡	西日本式 (櫛描文系有文)		有	無	円盤充填法	サカハ→木本1刷継状工具 直+直+直	サカハ→木の葉 充填	サカハ→木の葉 充填	サカハ→木の葉 充填	サカハ→木の葉 充填
276	6-7期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
277	6-7期	貴	櫛描文系無文	底部に棘子(くぼ か)川原底産	有	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
278	7期	貴	櫛描文系無文 (小波江式)	底部に棘子(くぼ か)川原底産	有	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
279	9期	跡-底	櫛描文系影響型 直	底部に済溝直鉄 直	有	無	円盤充填法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→裏方向の 斜め	ロゴ→裏方向の 斜め	ロゴ→裏方向の 斜め	ロゴ→裏方向の 斜め
280	9期	貴	櫛描文系影響型 直	底部に済溝直鉄 直	有	無	円盤割離法	サカハ→部分的に押さえ 直	ロゴ→部分的に押さえ 直	ロゴ→部分的に押さえ 直	ロゴ→部分的に押さえ 直	ロゴ→部分的に押さえ 直
281	6-7期	跡	櫛描文系無文		無	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
282	6-7期	直	西日本式 (櫛描文系有文)	底部に棘子(くぼ か)川原底産	有	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
283	6-7期	貴	櫛描文系無文	底部に棘子(くぼ か)川原底産	有	無	円盤割離法	サカハ	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→	ロゴ	ロゴ→
284	6-7期	貴	櫛描文系無文	底部に棘子(くぼ か)川原底産	有	無	円盤割離法	サカハ	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→	ロゴ	ロゴ→
285	6-7期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	無	-	サカハ後突刺有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
286	6期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
287	6期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
288	6期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
289	6-7期	貴(口)御前	直(木本 直+直+直)		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
290	5-6期	貴(口)御前	直(木本 直+直+直)		有	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
291	6-7期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
292	6-7期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
293	6-7期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	有	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
294	6-7期	直	櫛描文系有文	口輪打込欠き 直	有	無	円盤割離法	サカハ→木本1刷継状工具 直+直+直	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
295	6-7期	貴	櫛描文系無文		無	無	円盤割離法	サカハ→底部削面	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
296	6-7期	直	櫛描文系有文 直	成形時の円形剝 離	無	無	円盤割離法	サカハ→木本1刷継状工具 直+直+直	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
297	6-7期	貴	櫛描文系有文	底部に棘子(くぼ か)川原底産	無	無	円盤割離法	サカハ→木本1刷継状工具 直+直+直	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→	ロゴ	ロゴ→
298	6期以前	貴(口)御前	柾文系無文		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
299	6期以前	貴(口)御前	-		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
300	1-6期以前	貴(口)御前	柾文系無文		無	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
301	6期以前	貴(口)御前	柾文系無文		有	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
302	6-7期	貴(口)御前	櫛描文系有文		無	無	-	-	-	ロゴ→木本1刷継状工具 直+直+直	ロゴ→木本1刷継状工具 直+直+直	ロゴ→木本1刷継状工具 直+直+直
303	6-7期	貴(口)御前	-		有	無	-	二枚目による裏方向透達	横方向	二枚目による裏 方向透達	二枚目による裏 方向透達	二枚目による裏 方向透達
304	6-7期	貴(口)御前	日向式模擬		無	無	-	透達透底	透達透底	透達透底	透達透底	透達透底
305	7期	直	西日本式模擬 (櫛描文系有文)		無	有	円盤割離法	サカハ→木本1刷継状工具 直+直+直+直	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
306	6期	貴(口)御前	柾文系有文	川原底産	無	無	-	透達透底	透達透底	透達透底	透達透底	透達透底
307	6-7期	直	小波江口御前	無文	有	無	円盤割離法	サカハ→裏方向の 斜め	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す	ロゴ→口輪端部に 押す
308	6-7期	貴(口)御前	西日本式模擬 (櫛描文系有文)		有	無	-	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有	棘(さき)有
309	6-7期	貴(口)御前	沈屋式		無	無	-	成形後の削り直	成形後の削り直	成形後の削り直	成形後の削り直	成形後の削り直
310	6-7期	貴(口)御前	柾文系無文		有	無	-	範囲方向に削り直	範囲方向に削り直	範囲方向に削り直	範囲方向に削り直	範囲方向に削り直

No.	時期	種類	分類	備考	被熱	被布	式、開閉の 性質	調整 (外側)	調整 (内側)	調整 (口縫)	調整 (U縫内)	調整 (U縫外)	
353	7-8期	直頭部	織機文系有文		無	無	-	リカレーナー多孔性工具直頭部 5本1組成直頭部	リカレーナー繩方向の 直頭部	リカレーナー繩方向下方 に針工具による刺突	リカレーナー工具による羽状刺突文	リカレーナー	
354	7-8期	直頭部	織機文系有文		無	無	-	直頭部 リカレーナー2条孔式空心 直頭部 直頭部 直頭部 直頭部 直頭部 直頭部	リカレーナー				
355	7-8期	直頭部	織機文系有文		無	無	-	リカレーナー2本1組成工具直 頭部	リカレーナー後繩方向の 直頭部				
356	8期	猿	織機文系有文	有	無	無	-	リカレーナー2本1組成工具直 頭部 直頭部	リカレーナー				
357	9期	猿	四股文系影響型 直頭	有	無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー底部周辺 繩方向の切突	リカレーナー	リカレーナーなし		
358	9期	猿	織機文系	有	無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー	リカレーナー	リカレーナー	リカレーナー	
	7-8期	直頭部	織機文系有文		無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直			砂目敷	
359													
360	6期	直口部	織機文系有文		無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー繩方向の 直頭部	リカレーナー繩方向に沈 められた工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
361	7-8期	猿	織機文系有文	有	無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部下 部	リカレーナーU縫周辺に化 継へ上方から下工具の 刺突	リカレーナー2本1組成 直頭部	リカレーナー	
362	7-8期	直口部	多孔文織成形織 機文系有文		無	無	-	リカレーナー直頭部上平工具による 織成形	リカレーナー繩方向の 直頭部	リカレーナー上方からの直 頭部	リカレーナー6本1組成直頭部 直頭部	リカレーナー	
363	8期	猿	織機文系無文	有	無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部下 部	リカレーナーU縫周辺に直 頭部に上方から下工具の 刺突	リカレーナー	リカレーナー	
364	8期	猿	小枝工具無文	有	無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー繩方向の 直頭部	リカレーナー直頭部に下方 に小枝状	リカレーナー	リカレーナー	
365	7-8期	直頭部	織機文系無文		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー底部周辺				
366	7-8期	猿	東海系統織		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直	リカレーナー	リカレーナー	リカレーナー	
367	7-8期	猿	沈枝文系織(織 機文系有文)	近底糸剥離進しい	無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー4本1組成工具 直頭部 直頭部	リカレーナー→工具の直 頭部	リカレーナー→工具の直 頭部	リカレーナー直頭部文	
368	7-8期	猿	西日本系(安倍 絹)		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部→各工具 の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
369	8期	猿	織機文系無文	内きこぼれ直頭	有	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
370	8期	猿	織機文系無文		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の斜刺突文	リカレーナー	リカレーナー	
371	6-7期	直頭部	織機文系無文		無	無	-	リカレーナー	リカレーナー直頭部	リカレーナー部分的に直 頭部	リカレーナー	リカレーナー	
372	7期	直	織機文系		有	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
373	7期	直口部	小枝工具無文		有	無	-	リカレーナー	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
374	8-9期	猿	織機文系無文		無	無	-	リカレーナー直頭部下22号キ	リカレーナー直頭部下 部	リカレーナー直頭部に沈 められた工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
375	9期	猿	織機文系無文	櫻川流域産	有	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー一部分に 直頭部	リカレーナー→工具の直 頭部	リカレーナー→工具の直 頭部	リカレーナー工具の直 頭部	
376	6期	猿	織機文系有文	内部剥離進しい	無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突→沈められ た直頭部	リカレーナー	リカレーナー	
377	6期	直口部	織機文系無文	内部剥離進 しい	無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
378	6期	直口部	沈枝文系織型 織機文系無文	底部糸剥離進 しい	有	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
379	9期	猿	織機文系無文		無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
380	9期	猿	織機文系無文		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
381	9期	猿	門限文系影響型 直頭		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
382	9期	直	織機文系		有	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
383	9期	猿	織機文系無文		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
384	9期	猿	織機文系有文	2個1対の二穴	有	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部による羽 状刺突文	リカレーナー	リカレーナー	
385	9期	猿	門限文系影響型 直頭		無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
386	9期	猿	門限文系影響型 直頭		有	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
387	9期	猿	織機文系無文	有	-	1	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部 下方から下工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
388	9期	猿	織機文系無文		有	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー最大径33号	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部下方 に各工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー
389	9期	猿	織機文系無文		有	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部の 直頭部	リカレーナー	リカレーナー	
390	9期	猿	門限文系影響型 直頭		無	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部による羽 状刺突文	リカレーナー	リカレーナー	
391	9-10期	猿	門限文系影響型 直頭		有	無	-	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部 直頭部	リカレーナー直頭部による羽 状刺突文	リカレーナー	リカレーナー	
392	9期	直	門限文系影響型 直頭		有	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
393	9期	猿	門限文系影響型 直頭		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
394	9期	直口部	門限文系	S-63に類似	有	-	-	リカレーナー	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー	リカレーナー	
395	9期	直口部	門限文系		有	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	リカレーナー	
396	9期	猿	門限文系影響型 直頭		無	無	-	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部	リカレーナー直頭部に各 工具の刺突	リカレーナー	砂目敷	

No	時期	沿革	分類	備考	被継	使用	底盤の 種類	調査(外側)	調査(内側)	調整(上端)	調整(下端)	説明(上端)	説明(下端)	
397	0 前	歴	四輪車系影響型 在地	無	無	円盤振幅法	カホル→一輪車→二輪車→三輪車→四輪車	カホル→一輪車の指	カホル	33カド	-	-	-	
398	9 前	歴	四輪車系影響型 在地	有	無	円盤1号車 左前	カホル→一輪車による走行 車2台	カホル→一輪車下平取付 車2台	33カド	33カド→33カド	33カド	-		
399	8 前か	歴	東海系根拠	無	無	円盤充填法	カホル→一輪車→一本車直 接装着(直)→一本車直 接装着(直)→一本車直 接装着(直)→一本車直 接装着(直)	カホル	33カド→一輪車端部に倒 伏	33カド→カホル側充 充	33カド	-		
400	8 何か	跡	樹脂系無文	無	無	円盤充填法	カホル→一輪車→二輪車と有る 樹脂系無文	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
401	7-8 期	歴	樹脂系有文	無	無	円盤振幅法	カホル→一輪車→二輪車と有る 樹脂系有文	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
402	8 何か	歴	樹脂系無文	無	無	円盤振幅法	カホル	カホル	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
403	7 前断	歴	樹脂系有文	無	無	円盤振幅法	カホル→一本車直接状工具 直接装着(直)→一本車直 接装着(直)→一本車直 接装着(直)	カホル→一輪車端部上部に倒 伏	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
404	8 期	歴	樹脂系無文	有	無	円盤振幅法	カホル→一輪車→二輪車と有る 樹脂系無文	カホル→一輪車→二輪車と有る 樹脂系無文	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
405	8 期	歴	樹脂系有文	有	無	円盤振幅法	カホル	カホル→一輪車→二輪車と有る 樹脂系有文	カホル	33カド	33カド	33カド	33カド	
406	7 前断	歴	樹脂系有文 外由有機物の付 着	有	無	円盤充填法	カホル→一本車直接状工具 直接装着(直)→一本車直 接装着(直)	カホル→一本車直接状工具 直接装着(直)	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
407	7-8 期	跡	樹脂系無文	無	無	円盤振幅法	カホル	カホル	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
408	8 期	歴	樹脂系無文	有	無	円盤振幅法	カホル	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
409	8 期	歴	樹脂系無文 方舟開溝車 入り人字型	有	無	円盤振幅法	カホル→一部部分に倒 伏	カホル→一部部分に倒 伏	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
410	7-8 期	跡	樹脂系有文	無	無	円盤充填法	カホル→一本車直接状工具 直接装着(直)→一本車直 接装着(直)→一本車直 接装着(直)	カホル→一部部分に倒 伏	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
411	9-10 期	歴	四輪車系 2個1対の避穴	有	無	円盤振幅法	カホル→一本車直接状工具 直接装着(直)→一本車直 接装着(直)→一本車直 接装着(直)	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
412	8 前断	歴	小波紋直根拠	無	無	円盤充填法	カホル→8-1前断状工具 直接装着(直)→一本車直 接装着(直)	カホル→一輪車端部に倒 伏	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
413	9 何か	歴	樹脂系無文	有	無	円盤振幅法	カホル	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
414	9 期	歴	四輪車系影響型 表面の荒れ廻し	無	無	円盤振幅法	カホル→一部側面(左)→二 輪車	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
415	8 期	歴	奥1脚部 小波紋直根拠	有	無	円盤充填法	カホル→一部側面(左)	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
416	8 期	歴	奥1脚部	無	無	円盤振幅法	カホル→一部側面(左) (5単位)→一部下部33カド	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
417	7-8 期	跡	樹脂系無文	2個1対の避穴	有	無	円盤振幅法	カホル→一部側面(左) →一部下部平取付状工具	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド
418	9 期	歴	樹脂系無文	無	無	円盤振幅法	カホル→一部側面(左)	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
419	9 期	歴	樹脂系無文 底部中央にくぼ み有	無	無	円盤振幅法	カホル	カホル→一部に指 押さえ有	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
420	9 期	歴	樹脂系無文	有	無	円盤充填法	カホル→底部側面33カド	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
421	9 期	歴	樹脂系無文 底部の離塵化 い	有	無	-	カホル	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
422	7-8 期	歴	奥1底部 樹脂系有文	(供試土路)	無	無	円盤振幅法	カホル→一輪車→底部側面33カ ド→一部側面(左)	カホル→一輪車端部に倒 伏状工具の刺歎	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド
423	9 期	歴	樹脂系無文	無	無	円盤振幅法	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
424	9 期	歴	樹脂系無文	-	-	円盤振幅法	カホル→板	カホル→一部側面(左) →底部側面33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
425	9 期	跡	樹脂系無文	日輪打ち空きか	-	棒入法	カホル→33カド	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
426	6-7 期	歴	名残多支型樹 脂系影響型	-	-	-	斜め23度	斜め→23度	斜め→23度	斜め→23度	斜め→23度	羽列柄炎3段	-	
427	7 期	歴	樹脂系有文 (小波紋直根)	無	無	円盤振幅法	カホル	カホル→一輪車端部に倒 伏状工具の刺歎	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
428	6-7 期	歴	樹脂系無文	-	-	円盤振幅法	カホル→板	カホル→一部側面(左) →底部側面33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
429	9 期	歴	東海系根拠	無	無	円盤充填法	カホル→一部下平取付状工具 直	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
430	9 期	歴	樹脂系影響型 歓か	有	無	円盤充填法	カホル→一部側面(左)→一本車直 接装着(直)	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
431	9 期	歴	東洋林根拠か	無	無	円盤充填法	カホル→一部側面(左)→一本車直 接装着(直)→一部側面(左)	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
432	9 期	歴	東洋林根拠	内面剥落激しい	無	無	円盤振幅法	カホル→一部側面(左)	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド
433	9 期	歴	四輪車系影響型 不規則圓面、供 給工具	有	無	円盤充填法	カホル→一部側面(左)→一部側面(左)	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
434	9 期	歴	四輪車系影響型 歓か	有	無	円盤振幅法	カホル	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
435	9 期	歴	奥1脚部 樹脂系影響型	吸こぼれ有	有	無	棒入法	カホル→33度→底部側面	カホル→33度→底部側面	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド
436	9 期	歴	奥1脚部 樹脂系無文	有	無	円盤振幅法	カホル→一部側面下平取付33カ ド	カホル→一部側面(左) →底部側面33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
437	9 期	歴	奥1脚部 古文系影響型	有	無	円盤振幅法	カホル→一部側面33カド	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
438	1 期以前	歴	日輪1絆	浮脚網状文	無	無	円盤振幅法	カホル→33カド	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド
439	6 期	歴	奥1脚部 樹脂系有文	有	無	円盤振幅法	カホル→7-本車直接状工具(直 +波)	カホル→7-本車直接状工具(直 +波)	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
440	6 期	歴	各車承水器 樹脂系有文(人)	無	無	円盤振幅法	カホル→7-本車直接状工具(直 +波)	カホル→7-本車直接状工具(直 +波)	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
441	6 期か	歴	奥1脚部 樹脂系無文	無	無	円盤振幅法	カホル→一輪車の指	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	
442	5-6 期	歴	樹脂系有文	無	無	樹脂状文	カホル	カホル	33カド	33カド	33カド	33カド	33カド	

第	時期	種類	分類	備考	被熱	被布	式、形態の 種類	調整（外側）	調整（内側）	調整（上部）	調整（下部）	調整（底部）
443	6 期	腰口胸部	織文系無文		有	無	斜め	斜め→一概方向の指げ	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→ヨリテ	
444	5-6 期	腰口胸部	織文系無文	（関遺 03 資料混 入）	有	無	斜め	ヨリテ→概方向の 指げ	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→ヨリテ	
445	6 期	腰口胸部	小波状横縫文		有	無	斜め→頭部ヨリテ	ヨリテ→概方向の 指げ	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→一概方向の 指げ	ヨリテ→ヨリテ	
446	6 期	腰口胸部	織文系有文人	（関遺 03 資料混 入）	有	無	斜いサカナ→直縫文	斜いサカナ→一概方向 の指げ	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→ヨリテ	
447	6 期	腰口胸部	多文系縫型無 文人	（関遺 03 資料混 入）	有	無	斜め方向の織状模様	斜め→	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	
448	6 期	腰口胸部	信州系		有	無	斜め→一本木組織状工具 直	ヨリテ→一本木組織状工具 直	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→ヨリテ	
449	5-6 期	腰口胸部	近江系	人	有	無	斜いヨリテ	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→ヨリテ	
450	5-6 期	腰口胸部	-		無	無	ヨリテ→二腹筋	ヨリテ→二腹筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→ヨリテ	
451	9 期	腰	小波状横縫文		無	無	斜いヨリテ→底部側面ヨリテ	ヨリテ→一部下トヨリテ	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→口縫端面に内 側の胸筋	ヨリテ→ヨリテ	
452	9 期	腰口胸部	四段文系影響型 在地		無	無	斜いヨリテ→底部側面ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
453	9 期	腰	四段文系影響型 在地	布接首肩有	無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→横・斜め	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ
454	9 期	腰	四段文系影響型 在地	織文系有文人	無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ
455	9 期	腰	四段文系影響型 在地	底部、底面縫合 直し	有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→底部側面、頭部ヨリテ	ヨリテ→	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
456	9 期	腰	織文系無文		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→横・斜め	ヨリテ→一部部分に 沿う	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
457	9 期	腰	織文系有文	製部下トヨリ成 後穿孔有	無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→4 段・相應狀具 直 →直 12 →直→頭部、側部 ヨリテ	ヨリテ→一部部分に 沿う	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ
458	6-7 期	腰口胸部	織文系有文人	（関遺 03 資料混 入）	無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→一本木組織工具 亂 →直 2 →直 2 →直 2 →直 2 →直 ヨリテ	ヨリテ→一概方向の 指げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
459	9 期	腰	四段文系影響型 在地	此如四段	無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→頭部縫合ヨリテ→頭部ヨリテ	ヨリテ→指げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
460	9 期	腰	四段文系影響型 在地		無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→底部側面ヨリテ	ヨリテ→一概方向の 指げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
461	9 期	腰口胸部	織文系無文		有	無	斜め	ヨリテ→	ヨリテ→一概方向の 指げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
462	9 期	跡	織文系無文		無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→ヨリテ→放射状ヨリテ→3	ヨリテ→一部部分に 沿う	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテなし
463	9 期	腰	四段文系影響型 在地		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→斜め→頭部ヨリテ	ヨリテ→指げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
464	9 期	腰	四段文系影響型 在地		有	無	円盤形横縫文	斜いサカナ→底部下伏状の板 縫合	ヨリテ→斜め→底部下伏状の板 縫合	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ
465	9 期	腰	四段文系影響型 在地		有	無	円盤形横縫文	斜いサカナ→底部側面縫合ヨリテ →頭部ヨリテ	ヨリテ→底部側面縫合ヨリテ →頭部ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ
466	9 期	腰か跡	四段文系影響型 在地		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→底部縫合ヨリテ	ヨリテ→底部縫合ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ
467	9 期	跡	織文系無文		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→ヨリテ→底部側面ヨリテ	ヨリテ→一概方向の 指げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテなし
468	9 期	腰	四段文系影響型 在地		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→頭部上平板糸→底縫合	ヨリテ→一概方向の 指げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
469	9 期	腰	四段文系影響型 在地		無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→頭部縫合方向の指げ	ヨリテ→	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
470	9 期	腰胸底部	織文系無文		無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→底部側面ヨリテ	ヨリテ→底部側面ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
471	9 期	腰口胸部	四段文系		有	無	斜め	ヨリテ→頭部ヨリテ	ヨリテ→底部縫合ヨリテ →頭部ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
472	9 期	腰	四段文系影響型 在地		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→ヨリテ→ヨリテ→頭部ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
473	9 期	腰	四段文系無文	吹きこぼれ有	有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→頭部ヨリテ→頭部ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
474	9 期	腰	四段文系影響型 在地（越後文化）		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→底部側面ヨリテ→頭部ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
475	9 期	腰	四段文系影響型 在地		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
476	9 期	腰口→胸 近江系影響型在 地			有	無	斜め	ヨリテ→ヨリテ	受け口口縫端部ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
477	9 期	腰口胸部	四段文系影響型 在地		有	無	斜め	ヨリテ→	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
478	9 期	腰	四段文系影響型 在地		有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→頭部ヨリテ→下放射状糸ヨリテ →頭部ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
479	10 期	腰口胸部	四段文系	人	有	無	斜め	ヨリテ→底部側面ヨリテ→頭部ヨリテ	ヨリテ→底部側面ヨリテ →頭部ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
480	9-10 期	腰	四段文系影響型 在地		有	無	斜め	ヨリテ→底部側面ヨリテ	ヨリテ→指げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
481	6-7 期	腰胸底部	織文系無文		有	無	斜め→頭部近ヨリテ	ヨリテ→	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
482	5-6 期	腰口胸部	近江系横縫	人か	有	無	斜いサカナ→直縫文	斜いサカナ→頭部ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
483	6 期	腰	織文系無文	底部に傍成後空 縫合縫合資料品 人？	有	無	円盤形横縫文	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
484	7-8 期	腰	織文系無文		無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→ヨリテ→底部側面ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
485	7-8 期	跡	織文系無文		無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
486	9 期	腰	近江系（カ ケマ文）		無	無	円盤形横縫文	ヨリテ→頭部ヨリテ	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
487	9 期	腰口胸部	織文系有文		有	無	斜め	ヨリテ→	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	
488	9 期	腰口胸部	織文系無文		無	無	斜め	ヨリテ→	ヨリテ→一概方向の指 げ	ヨリテ→ヨリテ	ヨリテ→ヨリテ	

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	使用	底、側部の 類型	調整(外側)	調整(内側)	調整 (工具)	調整 (底)		
489	9期	鐵	四瓣文系影響型 在地		有	無	円盤充填法 か	けいせき→底部側面ヨコギ ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付→32付	付	
490	9期か	鉢	西日本系 漁入か		無	無	円盤充填法 か	けいせき→底部側面ヨコギ ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
491	9-10期	器	四瓣文系影響型 在地		無	無	円盤充填法 か	けいせき→底部下平付ヨコ ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
492	9-10期	器	柳葉文系無文 2個1対縫穴有 多面部複雑化		有	無	円盤充填法 か	けいせき→底部側面ヨコヨコ付 ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付→32付	付 付	
493	8-9期	器	柳葉文系無文		無	無	円盤充填法 か	けいせき→底部側面ヨコヨコ付 ヨコギ	けいせき→側面下平 ヨコギ	32付	32付→32付	付	
494	8-9期	鐵口側部	小波口縫無文		有	無	けいせき→側部下平付状態ヨコ ヨコギ	けいせき→側部下平 ヨコギ	けいせき→側部上方に 指揮	32付	32付	付	
495	9期	器	柳葉文系無文		無	無	円盤充填法 か	けいせき→底面ヨコギ	けいせき→指付	32付	32付→32付	付	
496	9期	鐵	柳葉文系無文		無	無	円盤充填法 か	けいせき→底面側面(下→上) ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
497	9期	器	近江器型齊 地		無	無	けいせき→側面直線ヨコヨコ付 ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付		
498	9期	鐵口側部	四瓣文系影響型 在地		無	無	けいせき→	32付→側面下平 ヨコギ	32付	32付→32付	付		
499	9期	鐵	柳葉文系有文 (横文)	外側脚部下平付 複雑化	有	無	円盤充填法 か	一端部ヨコヨコ付、底部側面ヨコ ヨコギ (下→上) ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付→一端部端面にLR 横文	32付→32付	付	
500	9期	器	四瓣文系影響型 在地		有	無	円盤充填法 か	けいせき→側部ヨコヨコ付	32付→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付→32付	付	
501	9期	高杯	水平付		無	無	円盤充填法 か	けいせき→底面ヨコヨコ付→脚部ヨコヨコ付	けいせき→ヨコギ	32付	32付	付	
502	8-9期	鐵口側部	柳葉文系有文 騎士接合複縫合		無	無	けいせき→一端部ヨコギ	けいせき→指付	けいせき→一端部端面にLR 工具の刺突	32付→32付	付		
503	8期か	鐵	西日本系 (くの字型)		有	無	円盤充填法 か	けいせき→底部側面ヨコギ ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
504	8期	器	柳葉文系無文		無	無	円盤充填法 か	けいせき→側面ヨコヨコ付、頭部側面 頭部ヨコヨコ付	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付→一端部端面上方 に今工具の刺突	32付	32付	付
505	9期	器	小波口縫有文		無	無	けいせき→底部側面ヨコヨコ付、頭部側面 頭部ヨコヨコ付	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付→上方から の指揮	付		
506	9期	鐵口側部	四瓣文系影響型 在地		有	無	けいせき→	けいせき→側部下平 ヨコギ	32付	32付	付		
507	9期	鐵	四瓣文系影響型 在地		有	無	円盤充填法 か	けいせき→側部ヨコヨコ付→底部 側面ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
508	9期	器	四瓣文系影響型 在地		有	無	円盤充填法 か	けいせき→	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
509	9期	鉢	柳葉文系無文		無	無	円盤充填法 か	けいせき→	32付→底面周辺 ヨコギ	32付	32付	付	
510	4期	鐵口側部	柳葉文系無文		有	無	円盤充填法 か	斜め方向のヨコギ	斜め方向の指付	32付→32付	32付	付	
511	8期	鐵口側部	柳葉文系有文		有	無	けいせき→	けいせき→指付	けいせき→工具に する指揮	32付→32付	付		
512	8期	鐵口側部	柳葉文系有文		有	無	けいせき→	けいせき→底面ヨコギ	けいせき→一端部端面下方 に今工具の刺突	32付→32付	付		
513	9期	鉢	柳葉文系無文 1個縫穴有		無	無	円盤充填法 か	けいせき→	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
514	9期	器	柳葉文系無文		無	無	円板充填法 か	けいせき→側部下平付ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
515	9期か	鐵口側部	柳葉文系無文		無	無	けいせき→	けいせき→一端部ヨコヨコ付	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
516	8-9期	鉢	柳葉文系無文		無	無	円盤充填法 か	けいせき→側面ヨコヨコ付	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
517	8-9期か	鉢	柳葉文系無文 後部付近難離		無	無	円盤充填法 か	けいせき→底面ヨコヨコ付	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	-	
518	7-8期	器	柳葉文系有文 2個1対の縫穴 有		無	無	円盤充填法 か	けいせき→けいせき→32付	けいせき→斜め側面 ヨコギ	32付→32付	32付	付	
519	7-8期	器	柳葉文系無文		有	無	けいせき→	けいせき→底部側面部分的に	けいせき→底部側面部分的に ヨコギ	32付	32付	付	
520	9期	鐵製逆鉢	四瓣文系影響型 (粘土器底厚)		無	無	円盤充填法 か	けいせき→底部側面ヨコギ	けいせき→側部下平 ヨコギ	32付→32付	32付	付	
521	9期か	器	四瓣文系影響型 在地		無	有	円盤充填法 か	けいせき→32付→底面ヨコギ	けいせき→横方向の ヨコギ	32付	32付→32付	付	
522	9期か	鐵	四瓣文系影響型 在地		有	無	円盤充填法 か	けいせき→側部ヨコギ	けいせき→側部上工 ヨコギ	32付	32付	付	
523	9-10期	鐵口側部	柳葉文系無文		無	無	けいせき→	けいせき→	けいせき→側面下平 ヨコギ	32付→32付	32付	付	
524	10期	鐵	四瓣文系影響型 在地		有	無	円盤充填法 か	けいせき→底部側面ヨコヨコ付 ヨコギ	けいせき→側部下平 ヨコギ	32付→32付	32付→32付	付	
525	9-10期	鐵口側部	四瓣文系影響型 在地(横み)		有	無	けいせき→	けいせき→	けいせき→工具の刺突	32付	32付	付	
526	9期	鐵	柳葉文系有文		無	無	けいせき→底部側面ヨコヨコ付 ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付		
527	9期	鐵口側部	栗林系 表面に燒成底 彩有		無	有	けいせき→	けいせき→	けいせき→工具の刺突	32付	32付	付	
528	9期	鐵口側部	栗林系 表面に燒成底 彩有		無	無	けいせき→	けいせき→	けいせき→沈殿による山 形文	32付	32付	付	
529	9期	鐵口側部	四瓣文系影響型 在地		無	無	けいせき→底部側面ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付→32付	32付	付		
530	9期	鐵口側部	柳葉文系影響型 在地		有	無	けいせき→	けいせき→	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付	32付	付	
531	9期	鐵	柳葉文系無文		有	無	円盤充填法 か	けいせき→側部下平付ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付→32付	32付	付	
532	9-10期	鐵口側部	柳葉文系有文		有	無	けいせき→	けいせき→	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付→32付	32付	付	
533	9期	鐵	柳葉文系影響型 在地		有	無	円盤充填法 か	けいせき→底部側面ヨコギ	けいせき→底面ヨコ ヨコギ	32付→32付	32付	付	

No	時期	系種	分類	備考	被削 有無	塗布 有無	底、開部の 種類	調整（外側）	調整（内側）	調整 (工具内)	調整 (底部)
534	9期	虎口剥脱	凹陥文系影響型 在地		有	無	付け付	付け付→部分的に削け付	付け付	33付→33付	
535	9期	虎口剥脱	凹陥文系無文	2個本貫道の穴 有	無	無	付け付	付け付→部分的に削け付	付け付	33付	
536	9期	剥	凹陥文系無文		無	無	付け付	付け付→部分的に削け付	—	—	13付→13付
537	9期	剥	凹陥文系無文		無	無	円盤充填法	付け付	—	—	13付
538	9-10期	剥	凹陥文系無文		無	無	付け付→削け付	33付→削け付	—	—	13付
539	9-10期	虎口剥脱	凹陥文系無文		無	無	付け付	—	33付	—	—
540	9期	剥	凹陥文系無文		無	無	円盤充填法	付け付→削け付	付け付	33付→33付	13付→13付 底面付
541	10期	虎口剥脱	凹陥文系有文		無	無	付け付→彌部に斜削突起2箇(1 側)付付→3箇(1側)の工具 剥突	33付→後削多 し	33付→33付	33付→工具の 削突固定3	
542	10期	虎口剥脱	凹陥文系影響型 在地		有	無	付け付	付け付→魔力方向の 削け付	付け付	33付→33付	
543	10期	虎口剥脱	凹陥文系影響型 在地		有	無	付け付	付け付→魔力方向の 削け付	33付→33付	33付	
544	10期	虎口剥脱	凹陥文系影響型 在地		有	無	付け付→削け付下干縦(↓上) 2付	付け付→彌部下干縦(↓上) 2付	33付	33付	
545	10期	剥	凹陥文系		有	無	円盤充填法	底部側に底方のツリ→彌部3 側の削け付下干縦付	彌(トド)ツリ 3付→3付 側付	33付→33付 3付	3付
546	10期	虎口剥脱	凹陥文系影響型 在地		有	無	彌付→付け付下干縦に 斜削突起付	付け付→部分的に 斜削突起付	付け付	33付→33付	33付
547	10期	虎口剥脱	凹陥文系有文	桿川流域か	無	—	付け付	付け付→板状工具 直付	付け付	33付	
548	8-9期か	虎口剥脱	凹陥文系有文	内面削耗底 底地	無	無	付け付→6本→直 2付→直→2→直	付け付→魔力方向の 直付	33付		
549	9-10期	剥	凹陥文系影響型 在地		無	無	円盤充填法	付け付→取抜30付→底部側 2付	付け付→魔力方向の 2付	33付	
550	9期	剥	凹陥文系影響型 在地	梯子江原付 有	有	無	円盤充填法	付け付→彌部最大33付、底部 側付33付	付け付→魔力方向的 直付	33付	3付
551	10期	虎口剥脱	凹陥文系影響型 在地		有	無	付け付→彌部最大33付	付け付→魔力方向的 直付	33付	33付	
552	10期	虎口剥脱	-		有	無	—	付け付	33付→33付 底面付	33付	33付→33付
553	9-10期	虎口剥脱	-		無	無	円盤削除法 2付	付け付→削け付	付け付	—	
554	9-10期	虎口剥脱	-		有	無	円盤削除法 2付	付け付	付け付	付け付	
555	9-10期	虎口剥脱	-		無	無	円盤削除法 2付	付け付→底部側面削け付→削け 付	付け付→魔力方向的 直付	付け付	付け付
556	9-10期	虎口剥脱	-		無	無	円盤削除法	付け付	付け付	—	—
557	9-10期	虎口剥脱	底部に燒成窯 化有		有	無	円盤削除法	付け付	削け付	—	—
558	9-10期	虎口剥脱	-		有	無	円盤削除法	付け付	付け付	付け付	付け付
559	9-10期	虎口剥脱	-		有	無	円盤削除法	付け付	付け付	付け付	付け付
560	10期	虎口剥脱	-		有	無	円盤削除法	付け付→底(トド)ツリ	付け付→彌部指付	—	—
561	9-10期	虎口剥脱	底部に燒成窯 化有		有	無	円盤削除法 板付	付け付→底(トド)ツリ	底付	—	—
562	9-10期	虎口剥脱	-		无	無	円盤削除法 2付	付け付→底付、底部側面削け付 2付	付け付	—	—
563	10期	虎口剥脱	近石系影響型 在地		有	無	付け付→彌部上直彌文底33 条	付け付→魔力方向的 直付	33付→13付 底付	33付→工具の 削突	3付→3付
564	9期	虎	東北系直彌	桿川流域か。内 面部分に彌付	無	無	付け付→彌付→削け付、底部側 面焼付	付け付→魔力方向的 直付	付け付	—	—
565	9期	虎	近石系影響型 在地	底部に燒成窯 化有	有	無	円盤充填法 2付	付け付→彌部に彌付 2付	削め→2付→直 2付	33付→13付 底付	付け付
566	9期	虎	凹陥文系無文		有	無	付け付	付け付→指さえ 直付	付け付	工具による削 突	
567	9期	虎	江干系影響型 在地		有	無	円盤充填法 2付	付け付→彌部に33付、底 部側面削け付	削め→33付 直付	33付→13付 底付	付け付
568	9期	虎口剥脱	兜体系	櫻入	有	無	付け付→7本→直彌文工具 燒成窓付→彌部下に工具の削突 付	付け付→彌部下上 直彌文工具の削突 方向の削け付	33付→13付 底付	33付→工具の 削突	33付→33付
569	9期	虎	凹陥文系影響型 底部下干縫隙 底地		有	無	円盤削除法	付け付	付け付	付け付	付け付
570	9期	虎	西日本系	(木子腹)	有	無	円盤削除法	付け付→彌部下好付手	付け付→彌部付手	付け付	付け付
571	9期	虎口剥脱	凹陥文系無文		有	無	付け付	付け付→彌部下手付	付け付	33付→13付 底付	33付→13付 底付
572	8-9期	虎口剥脱	凹陥文系有文		無	無	付け付→彌部上手付	付け付→2付	付け付→魔力方向的 直付	33付→13付 底付	33付→33付 底付
573	8-9期	虎	凹陥文系無文		有	無	円盤削除法	付け付→彌部、底部側面削け付	付け付→魔力方向的 直付	33付→13付 底付	付け付
574	8-9期	虎	凹陥文系無文		有	無	円盤充填法	付け付→底部側面削け付	付け付→魔力方向的 直付	付け付	付け付
575	8-9期	虎	西日本系模倣	底部くぼみ	有	無	円盤充填法	底部上半33付→付け付→底部側面 付	付け付→彌部下平付	付け付	付け付
576	8-9期	虎	西日本系模倣		有	無	円盤充填法	付け付→彌部付手	削め→付け付	付け付	付け付
577	8-9期	虎口剥脱	凹陥文系無文		有	無	付け付	付け付→彌部方向の 直付	付け付	付け付	
578	8-9期	虎	凹陥文系影響型 底地		有	無	円盤充填法	底部下彌付→彌部付手→最大 底付	付け付→底部底付 方向の削け付	33付→13付 底付	33付→13付 底付
579	7期以前	虎口剥脱	凹陥文系無文		有	無	付け付	付け付	付け付→底部底付 方向の削け付	付け付	付け付
580	8-9期	虎	小笠江系無文		無	無	円盤削除法	付け付→底部下手付の削け付→ 底部手上に連続削突2段	付け付→魔力方向的 直付	付け付→3付 直付	付け付
581	8-9期	虎	西日本系模倣		有	無	円盤削除法	付け付→彌部下手付の削け付→ 底部手上に連続削突2段	付け付→工具の 削突	付け付	付け付

No	時期	基盤	分類	備考	被熱	導有 底板	底板の 種類	調整(外側)	調整(内側)	調整(上端)	調整(下端)		
625	7-8期	唐口側部	小被状口縫無文		無		付加→頭部付け	付加→部分的縫 方向の指掛け	付加→下から指 掛けえ、小被状	付加→付加			
626	6-7期	唐	織文系有文(D型)		有	無	円盤割離法	縫→付加→板状工具による直 角+縫、直+山文	縫→直+縫方向の指 掛け	縫→工具による指 掛け	付加→付加		
627	7-8期	唐	織文系有文		無	無	円盤割離法	付加→6本1組被状工具直 角+縫、直+直+2個1対の 縫(単位)	付加→縫方向の指 掛け	付加→工具による刺 突	付加→付状文3 文字		
628	7-8期	唐	小被状口縫無文		有	無	円盤割離法	付加→底部側面、頭部付け	付加→縫方向の指 掛け	付加→17種端部に直 角+縫方向の指 掛け	付加→付加	なし	
629	7期	唐口側部	近江系か	搬入か	有	無		付加→5本1組被状工具直 角+縫、工具による被状	付加→直+縫方向の指 掛け	付加→17種端部に直 角+縫方向の指 掛け	付加→付状文		
630	9期か	唐	織文系無文		有	無	円盤充填法	付加→底部側面3付加	付加→指掛け	付加→17種端部に直 角+縫方向の指 掛け	付加→付加	付加	
631	7期	唐口側部	近江系か		有	無		縫	付加→3付加	付加→17種端部に直 角+縫方向の指 掛け	付加→付状文3 文字		
632	8-9期	唐	織文系無文		有	無	円盤充填法	付加	付加→縫方向の 指掛け	付加	付加→付加	付加	
633	7-8期	唐口側部	小被状口縫無文		有	無		付加	付加→直角下平 縫方向の指掛け	付加→下から指 掛け	付加→付加	付加	
634	7期か	唐	小被状口縫有文		無		円盤充填法	付加→側部上平に工具の設 置文3条	付加→縫方向の指 掛け	付加→下から指 掛け	付加→付加	なし	
635	9期	唐側部	凹縫文系影響型 在地		有	無		付加	付加→縫方向の指 掛け	付加	付加	付加	
636	6期以前	唐口側部	織文系無文		無			付加	付加	付加	付加		
637	7期	唐	織文系無文	内外面磨耗加工	無	無	円盤割離法	付加	付加→側部下平 縫方向の指掛け	付加→17種端部に刺 突	付加	付加	
638	9期か	唐	凹縫文系影響型 在地	内部消耗が激しい	無	無	円盤割離法	縫→側部上平+付加+側部に 直路有り	付加	付加	付加	付加	
639	7期	唐	織文系無文	ひずみが激しい 有り	有	無	円盤割離法	縫	付加→直角付け	付加	付加	付加	
640	9-10期	唐	凹縫文系影響型 在地		無		円盤充填法	付加→側部下平(ドードー)テ テリ+直角充填法	付加	付加	付加	付加	
641	7-8期	唐	出舟台 (近江市)	搬入	無	無	円盤充填法	付加→直角文→3付加1組被 状工具直+縫+二角	付加	受け付、口縫端部 に直角文→下部に刺突	付加	付加	
642	8期	唐口側部	織文系無文		無			付加	付加→側部下平 縫方向の指掛け	付加→17種端部上方 に工具の刺突	付加→側接接着板		
643	7-8期	直側部	織文系有文	内部剥離產生し	無	無		付加→付加+縫→8本1組 被状工具直+縫+二角	付加→縫方向の指 掛け				
644	7-8期	唐側部	織文系無文		有	無	円盤割離法	縫	付加→部分的に 縫			付加	
645	9-10期	唐	織文系有文		無		円盤割離法	付加→部分的に縫	付加→縫方向の指 掛け	付加→4本1組 被状工具直+縫+二角	付加→付加	付加	
646	9-10期	唐	凹縫文系影響型 在地		無		円盤割離法	付加→底部側面縫→付加	付加→付加	付加	付加	付加	
647	9-10期	唐側部	近江系影響型 在地		有	無		縫→直角文端口	付加→側部下平 縫方向の指掛け				
648	9-10期	唐口側部	凹縫文系影響型 在地	表面消耗が激しい	無	無		付加	付加	付加	付加		
649	9期	唐	凹縫文系影響型 在地		有	無	円盤割離法	付加→底部側面強い縫方向の 指掛け	付加→縫方向の指 掛け	強い+付加	付加		
650	9期	唐	織文系無文		無		円盤割離法	縫→底部側面下部分に付 加	付加→縫方向の指 掛け	付加	付加		
651	9期	唐	織文系無文	内外面に消耗痕 有り	有	無	円盤割離法	縫→底部側面2付加	付加→縫方向の指 掛け	付加	付加	付加	
652	9-10期	唐	凹縫文系影響型 在地	内部に消耗痕 有り	無	無	円盤充填法	付加	付加→付加	付加	付加	付加	
653	9-10期	唐	織文系無文	底部に植物痕 有り	有	無	円盤充填法	縫かい+付加→底部側面 縫	付加→縫方向の指 掛け	強い+付加	-		
654	9期	唐	凹縫文系影響型 在地		有	無	円盤割離法	付加	付加→縫方向の指 掛け	付加→口縫端部に 刺突1箇	付加		
655	9期	唐側部	織文系無文		無			付加	付加→側部下平 縫方向の指掛け	付加			
656	9-10期	唐口側部	織文系無文		有	無	円盤充填法	付加→直角面2付加	付加→縫方向の指 掛け	強い+横付			
657	9-10期	唐口側部	織文系無文		有	無	円盤充填法	付加→直角面3付加	付加→縫方向の指 掛け	付加→付加	付加		
658	8-9期	唐側部	織文系無文		有	無		付加	付加→直角面の指 掛け	付加			
659	6-7期	唐	小被状口縫無文		有	無	円盤割離法	付加	付加→縫方向の指 掛け	付加→口縫端部に直 角+縫方向の指 掛け	付加	なし	
660	7期	唐	織文系無文	外曲面消耗 有り	有	無	円盤割離法	付加→底部側面2付 加+2個1対の縫 縫穴	縫→縫方向の指 掛け	付加	付加	付加	
661	7期前	鉢	織文系無文		無		円盤割離法	付加→底部側面2付加	付加→縫方向の指 掛け	付加	付加	付加	
662	7期前	唐	凹縫文系影響型 (織文系有文)	表面有り	無	無	円盤割離法	縫→本1組被状工具(直 角+縫+直+2角)側面→縫	付加→直角面の指 掛け	付加→付工具の 付加	付加		
663	7期前	唐口側部	近江系影響型 (織文系有文)		有	無		付加→6本1組被状工具直 角+縫+直+3-4対直+2個1 対の縫(交配4年6か)	付加→縫方向の指 掛け	付加→工具による刺 突	付加		
664	6-7期	唐口側部	織文系有文	内部剥離產生し	無	無		付加	付加	付加→工具の 引張刺突			
665	8期前	唐口側部	小被状口縫有文		無	無		付加→斜め2付加→12本1組被 状工具2+6本1組被状工具直 角+縫+直+2角+2組直+2 組斜面	付加	付加→17種端部下方 に直状文+直角面から指 掛け	付加		
666	8期前	唐	織文系無文	搬入(海綿骨付 有り)	有	無	円盤割離法	付加→直角面2付加	付加→縫方向の指 掛け	付加→付工具の 付加	付加		
667	8期前	唐	小被状口縫無文		有	無	円盤割離法	付加→直角面、底部側面2付加	付加→直角面の指 掛け	付加	-		
668	7-8期	唐口側部	織文系無文	S-34の影響受け る	有	無		付加→側部2付加	付加→縫方向の指 掛け+部分的に 縫	付加→口縫端部上方 に工具の刺突	付加		

No.	時期	器種	分類	備考	被熟	壁厚	底、側面の 寸法	調整(外側)	調整(内側)	調整(口縁)	調整 (洞縫内)	調整 (底)
669	7-8期	甕	内日本系 (「の」字縁)	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→斜溝 引けかき→底面、底部側面コロナ けかき→側面部コロナ	けかき→底方向の 指揮引けかき→底方向の 指揮引けかき→底方向の 指揮	327#	327#	327#	327#
670	8期	甕口1脚部	小底口付縁無文	有	無							
671	8期	甕口1脚部	柳編文系無文	有	無							
672	5期か	甕制鉢	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平 けかき→側面部コロナ	けかき→底方向の 指揮引けかき→底方向の 指揮引けかき→底方向の 指揮	327#	327#	327#	327#
673	5期か	鉢口1脚部	柳編文系無文	有	無							
674	6-7期	甕口1脚部	柳編文系有文 (縫添資料収入人、 周縁網目細かい)	無	無	91#→7本1組 3-文種類21#	けかき→側面部下平 けかき→側面部コロナ	327#→トドからの指 揮引けかき→底方向の 指揮	327#→底方向の 指揮引けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#
675	7期か	甕	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平 けかき→側面部コロナ	けかき→底方向の 指揮引けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#	327#
676	9期	甕	柳編文系有文 底部に燒成底穿孔 有	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平 けかき→側面部コロナ	327#→側面部下平 けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#	327#
677	9-10期	甕	柳編文系影響型 (在地)	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平 けかき→側面部コロナ	けかき→底方向的 指揮引けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#	327#
678	5-6期	甕口1脚部	柳編文系無文	有	無							
679	6期	甕	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	91#→7本1組 3-文種類21#	けかき→底面近 底方向の指揮	327#→底面近 底方向の指揮	327#	327#	327#
680	6期	甕	柳編文系無文	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平 けかき→側面部コロナ	327#	327#	327#	327#	327#
681	6期	甕口1脚部	柳編文系有文	無	無	91#→22#→8本1組 直底+平文	けかき→8本1組 直底+平文	327#→底方向の 指揮引けかき→底方向的 指揮	327#→底方向の 指揮引けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#
682	6期	甕口1脚部	柳編文系無文	有	無	10T-D005七脚 側面部穿孔有	けかき→側面部下平 けかき→指揮	けかき→底方向的 指揮引けかき→底方向的 指揮	327#→工具の手割 1利手側突(16单位)	327#	327#	327#
683	6期	甕	柳編文系有文	有	無	円盤鋤削法 か	91#→7本1組 3-文種類21#	けかき→部分的に 底方向の指揮	327#→底面近 底方向の指揮	327#	327#	327#
684	5期	甕	柳編文系無文	焼成底穿孔 有	有	円盤鋤削法 か	91#	327#→底方向的 指揮	327#→底方向的 指揮	327#	327#	327#
685	6期	甕	柳編文系有文	焼成底穿孔 有	有	円盤鋤削法 か	91#	327#→底方向的 指揮	327#→底面近 底方向の指揮	327#	327#	327#
686	6期	甕	小底口付縁無文	焼成底穿孔 有	有	円盤鋤削法 か	けかき→6本1組 直底+直+直+直+直 内側穿孔	けかき→部分的に 底方向の指揮	327#→1脚端部上方 に付工具の刺突	327#→底面近 底方向の指揮	327#	327#
687	6-7期	甕	柳編文系有文	有	無	円盤鋤削法 か	91#→底面部下平 けかき→底面部コロナ	けかき→底方向的 指揮引けかき→底方向的 指揮	327#→底面近 底方向的指揮	327#	327#	327#
688	4期	甕	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	91#→底面部横構 91#→底面部横構	91#→底面部横構 91#→底面部横構	327#→底面近に付 工具の刺突	327#	327#	327#
689	5-6期	甕	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	91#	327#	327#	327#	327#	327#
690	8期	甕	柳編文系無文	焼成底穿孔 有	有	円盤鋤削法 か	料印の32#→底面部側面凹 91#→底面部側面凹	327#→底方向的 指揮	327#→底面近 底方向的指揮	327#	327#	327#
691	9-10期	甕口1脚部	柳編文系有文	無	無	91#→4#→5本1組 直底+直+直	けかき→5本1組 直底+直+直	けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#	327#
692	9期か	甕	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平 放射状底穿孔	けかき→板付#	327#→1脚端部上方 に付工具の刺突	327#	327#	327#
693	6-7期	甕	柳編文系無文	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→部分的に 底方向の指揮	けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#	327#
694	6-7期	甕	柳編文系有文 底部に燒成底穿孔 有	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→6本1組 直底+直+直+直 直+直	けかき→部分的に 底方向の指揮	327#→1脚端部に付 工具の刺突	327#	327#	327#
695	6-7期	甕口1脚部	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	91#	けかき→底方向的 指揮	327#→底方向的 指揮	327#	327#	327#
696	7期	甕	小底口付縁無文	焼成底穿孔 有	有	円盤鋤削法 か	91#→底面部下平 けかき→底面部横構	けかき→底方向的 指揮	327#→下からの指 揮	327#	327#	327#
697	9期	甕	柳編文系影響型 (在地)	有	無	円盤鋤削法 か	91#→底面部コロナ	327#	327#	327#	327#	327#
698	8-9期	甕口1脚部	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	91#	327#	327#	327#	327#	327#
699	6-7期	甕	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	91#	けかき→部分的に 底方向の指 揮	327#→1脚端部に付 工具の刺突	327#	327#	327#
700	8-9期	甕	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→	けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#	327#
701	7期	甕口1脚部	小底口付縁無文	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→	けかき→側面部下平 底方向の指 揮	327#→下からの指 揮	327#	327#	327#
702	7-8期	甕口1脚部	小底口付縁無文	無	無		けかき→部分的に 底方向の指 揮	けかき→部分的に 底方向の指 揮	327#→1脚端部に付 工具の刺突	327#	327#	327#
703	8期か	甕口1脚部	柳編文系有文	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→底部+直 91#→直+直+直 直+直+直+直	けかき→底方向的 指揮	327#→1脚端部に付 工具の刺突	327#	327#	327#
704	9期	甕	柳編文系有文	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→底面部側面凹 91#→底面部側面凹#1-#2-#3-#4	けかき→部分的に 底方向的#1-#2-#3-#4	327#→1脚端部下ト 工具の刺突	327#	327#	327#
705	8期	甕口1脚部	小底口付縁有文	有	無	円盤鋤削法 か	91#	けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#	327#
706	8期	甕口1脚部	柳編文系無文	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平 直+直+直+直+直+直	けかき→部分的に 底方向的指 揮	327#→下からの指 揮#1單位	327#	327#	327#
707	10期	甕口1脚部	柳編文系影響型 (在地)	有	無	円盤鋤削法 か	91#→側面部下平 直+直+直+直+直+直	けかき→底方向的 指揮	327#	327#	327#	327#
708	9期か	甕口1脚部	柳編文系有文	有	無	円盤鋤削法 か	けかき→	けかき→底方向的 指 揮	327#	327#	327#	327#
709	9期	甕	柳編文系有文	無	無	-	けかき→工具による羽状刺突	けかき→側面部下平	327#	327#	327#	327#
710	8-9期	甕	柳編文系無文	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平 直+直+直+直+直+直	けかき→側面部下平 底方向的指 揮	327#→下からの指 揮#1單位	327#	327#	327#
711	9期	甕	(縫添資料)縫添 白土塗付縁無文	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平	けかき→側面部下平 底方向的指 揮	327#	327#	327#	327#
712	8-9期	甕口1脚部	柳編文系無文 二次被熟、破損 二次利用	無	無	円盤鋤削法 か	けかき→側面部下平	けかき→底方向的 指 揮	327#→1脚端部に付 工具の刺突	327#	327#	327#
713	10期	甕口1脚部	柳編文系影響型 (在地)	有	無	円盤鋤削法 か	327#	けかき→底方向的 指 揮	327#	327#	327#	327#
714	10期	甕口1脚部	近江系模様	2個1對の蓋穴 有	有	円盤鋤削法 か	けかき→直縁文様#3#1-#2#1#3#1#4#1#5#1#6#1#7#1#8#1#9#1#10#1#11#1#12#1#13#1#14#1#15#1#16#1#17#1#18#1#19#1#20#1#21#1#22#1#23#1#24#1#25#1#26#1#27#1#28#1#29#1#30#1#31#1#32#1#33#1#34#1#35#1#36#1#37#1#38#1#39#1#40#1#41#1#42#1#43#1#44#1#45#1#46#1#47#1#48#1#49#1#50#1#51#1#52#1#53#1#54#1#55#1#56#1#57#1#58#1#59#1#60#1#61#1#62#1#63#1#64#1#65#1#66#1#67#1#68#1#69#1#70#1#71#1#72#1#73#1#74#1#75#1#76#1#77#1#78#1#79#1#80#1#81#1#82#1#83#1#84#1#85#1#86#1#87#1#88#1#89#1#90#1#91#1#92#1#93#1#94#1#95#1#96#1#97#1#98#1#99#1#100#1#101#1#102#1#103#1#104#1#105#1#106#1#107#1#108#1#109#1#110#1#111#1#112#1#113#1#114#1#115#1#116#1#117#1#118#1#119#1#120#1#121#1#122#1#123#1#124#1#125#1#126#1#127#1#128#1#129#1#130#1#131#1#132#1#133#1#134#1#135#1#136#1#137#1#138#1#139#1#140#1#141#1#142#1#143#1#144#1#145#1#146#1#147#1#148#1#149#1#150#1#151#1#152#1#153#1#154#1#155#1#156#1#157#1#158#1#159#1#160#1#161#1#162#1#163#1#164#1#165#1#166#1#167#1#168#1#169#1#170#1#171#1#172#1#173#1#174#1#175#1#176#1#177#1#178#1#179#1#180#1#181#1#182#1#183#1#184#1#185#1#186#1#187#1#188#1#189#1#190#1#191#1#192#1#193#1#194#1#195#1#196#1#197#1#198#1#199#1#200#1#201#1#202#1#203#1#204#1#205#1#206#1#207#1#208#1#209#1#210#1#211#1#212#1#213#1#214#1#215#1#216#1#217#1#218#1#219#1#220#1#221#1#222#1#223#1#224#1#225#1#226#1#227#1#228#1#229#1#230#1#231#1#232#1#233#1#234#1#235#1#236#1#237#1#238#1#239#1#240#1#241#1#242#1#243#1#244#1#245#1#246#1#247#1#248#1#249#1#250#1#251#1#252#1#253#1#254#1#255#1#256#1#257#1#258#1#259#1#260#1#261#1#262#1#263#1#264#1#265#1#266#1#267#1#268#1#269#1#270#1#271#1#272#1#273#1#274#1#275#1#276#1#277#1#278#1#279#1#280#1#281#1#282#1#283#1#284#1#285#1#286#1#287#1#288#1#289#1#290#1#291#1#292#1#293#1#294#1#295#1#296#1#297#1#298#1#299#1#300#1#301#1#302#1#303#1#304#1#305#1#306#1#307#1#308#1#309#1#310#1#311#1#312#1#313#1#314#1#315#1#316#1#317#1#318#1#319#1#320#1#321#1#322#1#323#1#324#1#325#1#326#1#327#1#328#1#329#1#330#1#331#1#332#1#333#1#334#1#335#1#336#1#337#1#338#1#339#1#340#1#341#1#342#1#343#1#344#1#345#1#346#1#347#1#348#1#349#1#350#1#351#1#352#1#353#1#354#1#355#1#356#1#357#1#358#1#359#1#360#1#361#1#362#1#363#1#364#1#365#1#366#1#367#1#368#1#369#1#370#1#371#1#372#1#373#1#374#1#375#1#376#1#377#1#378#1#379#1#380#1#381#1#382#1#383#1#384#1#385#1#386#1#387#1#388#1#389#1#390#1#391#1#392#1#393#1#394#1#395#1#396#1#397#1#398#1#399#1#400#1#401#1#402#1#403#1#404#1#405#1#406#1#407#1#408#1#409#1#410#1#411#1#412#1#413#1#414#1#415#1#416#1#417#1#418#1#419#1#420#1#421#1#422#1#423#1#424#1#425#1#426#1#427#1#428#1#429#1#430#1#431#1#432#1#433#1#434#1#435#1#436#1#437#1#438#1#439#1#440#1#441#1#442#1#443#1#444#1#445#1#446#1#447#1#448#1#449#1#450#1#451#1#452#1#453#1#454#1#455#1#456#1#457#1#458#1#459#1#460#1#461#1#462#1#463#1#464#1#465#1#466#1#467#1#468#1#469#1#470#1#471#1#472#1#473#1#474#1#475#1#476#1#477#1#478#1#479#1#480#1#481#1#482#1#483#1#484#1#485#1#486#1#487#1#488#1#489#1#490#1#491#1#492#1#493#1#494#1#495#1#496#1#497#1#498#1#499#1#500#1#501#1#502#1#503#1#504#1#505#1#506#1#507#1#508#1#509#1#510#1#511#1#512#1#513#1#514#1#515#1#516#1#517#1#518#1#519#1#520#1#521#1#522#1#523#1#524#1#525#1#526#1#527#1#528#1#529#1#530#1#531#1#532#1#533#1#534#1#535#1#536#1#537#1#538#1#539#1#540#1#541#1#542#1#543#1#544#1#545#1#546#1#547#1#548#1#549#1#550#1#551#1#552#1#553#1#554#1#555#1#556#1#557#1#558#1#559#1#560#1#561#1#562#1#563#1#564#1#565#1#566#1#567#1#568#1#569#1#570#1#571#1#572#1#573#1#574#1#575#1#576#1#577#1#578#1#579#1#580#1#581#1#582#1#583#1#584#1#585#1#586#1#587#1#588#1#589#1#590#1#591#1#592#1#593#1#594#1#595#1#596#1#597#1#598#1#599#1#600#1#601#1#602#1#603#1#604#1#605#1#606#1#607#1#608#1#609#1#610#1#611#1#612#1#613#1#614#1#615#1#616#1#617#1#618#1#619#1#620#1#621#1#622#1#623#1#624#1#625#1#626#1#627#1#628#1#629#1#630#1#631#1#632#1#633#1#634#1#635#1#636#1#637#1#638#1#639#1#640#1#641#1#642#1#643#1#644#1#645#1#646#1#647#1#648#1#649#1#650#1#651#1#652#1#653#1#654#1#655#1#656#1#657#1#658#1#659#1#660#1#661#1#662#1#663#1#664#1#665#1#666#1#667#1#668#1#669#1#670#1#671#1#672#1#673#1#674#1#675#1#676#1#677#1#678#1#679#1#680#1#681#1#682#1#683#1#684#1#685#1#686#1#687#1#688#1#689#1#690#1#691#1#692#1#693#1#694#1#695#1#696#1#697#1#698#1#699#1#700#1#701#1#702#1#703#1#704#1#705#1#706#1#707#1#708#1#709#1#710#1#711#1#712#1#713#1#714#1#715#1					

No	時期	器種	分類	備考	被熱	使用 底	底の 調節(外側)	調整(外側)	調整(内側)	調整 (工具)	調整 (工具内)	調整 (底面)
716	10期	盞	繩文系有文		無	無	棒入法	棒入→4本1組織工具直 →直、直+直、直+直、直+直	付けね	32打→口縫端部両端 に刺突	32打→1-4本1組 織工具	付けね
717	10期	甕	近江系影響型在地	有	無	円盤形埴法	付けね→底部表面(「下」)付 けね	付けね→一箇方向の 削け	32打	32打	付けね	
718	9期か 水差し	繩文系有文	棒入法	無	無	—	付けね→4本1組織工具直或 直+直、直+直	32打	32打	付けね	付けね	
719	9期	齿制底	美林木桶底		無	無	—	既、圓文→既、圓文間に 既、圓文→同一工具による削突	付けね→32打	付けね	付けね	付けね
720	9期か 齿底	近江系影響型在地			無	無	付けね→既、圓文→同一工具の 削突	付けね→32打	付けね→一箇方向の 削け	32打	付けね	
721	10期	甕	門限文系影響型在地	かご内の跡有	無	無	—	—	—	—	—	—
722	8-9期	甕	繩文系無文	外曲面底部下平面 離離しない	有	無	円盤形埴法	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	32打→口縫端部下方 に刺突	32打	付けね
723	9期	甕	繩文系有文	既、圓文→既、圓文 既、圓文→同一工 具製作者か	無	無	円盤形埴法	離離→付けねに既、圓文離離 既、圓文→既、圓文に付け 既、圓文→既、圓文に付け	付けね→底部下方 離離方向の削け	付けね→底部下方 離離方向の削突	付けね	付けね
724	9期	齿制底	美林木桶底		無	無	円盤形埴法	付けね→2本1組棒入法 既、圓文→既、圓文に付け 既、圓文→既、圓文に付け	付けね→底部周辺 離離方向の削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね	付けね
725	9期	齿制底	近江系影響型在地		無	無	円盤形埴法	付けね→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね	付けね	付けね
726	9期	齿制底	近江系影響型在地		有	無	円盤形埴法	付けね→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね	付けね	付けね
727	9期	齿制底	「丁」の記号有	圓入か	無	無	付けね→4本1組織工具 直 32打→直+直+直	付けね→4本1組織工具 直 32打→直+直+直+直	付けね→一箇方向の 削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね	付けね
728	9期か 匂口頭部	繩文系有文		圓入か	無	無	4本1組織工具 直 32打→直+直+直+直	付けね→4本1組織工具 直 32打→直+直+直+直	付けね→一箇方向の 削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね	付けね
729	9期	齿底	繩文系無文		有	無	円盤形埴法	付けね→32打	付けね→32打	32打→口縫端部に付 工具の刺突	32打	付けね
730	7期か 匂口頭部	繩文系無文			有	無	付けね	付けね	付けね	32打	付けね	付けね
731	7期か	齿底	繩文系無文		無	無	円盤形埴法	付けね→底部部分的 削け	付けね→底部下平 部分的に削け	付けね	付けね	付けね
732	7期か	齿制底	繩文系無文	外曲面離離しない	無	無	円盤形埴法	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	32打	付けね
733	6-7期	齿制底	日本本邦系	S-1079と同じ か	無	無	—	付けね→洗削による済各々大き い	付けね	付けね	付けね	付けね
734	7期か	甕	繩文系無文	外曲面離離しない	有	無	円盤形埴法	付けね→一部分的に 離離	付けね→一部分的に 離離	32打→口縫端部上方 に付工具の刺突	32打	付けね
735	7期か	匂口頭部	繩文系有文	外曲面離離しない	有	無	離離	付けね→一箇方向の 削け	付けね→底部上方 に付工具の刺突	32打	付けね	付けね
736	7期	匂口頭部	小波紋口縫端		有	無	付けね→工具の横羽状	付けね→一箇方向の 削け	付けね→下からの指 削け	32打→口縫端部に付 工具の刺突	32打	付けね
737	7期	甕	小波紋口縫端		有	無	円盤形埴法	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	32打	付けね
738	6-7期	甕	繩文系無文	底部に模成窓孔 有	無	無	円盤形埴法	付けね	付けね→32打	32打	付けね	付けね
739	6期以前	匂口頭部	繩文系無文		有	無	付けね→底部32打	離離方向付け	付けね	32打	付けね	付けね
740	6期	匂口頭部	繩文系有文		有	無	付けね→5.本1組織工具 直+直+直+直	離→付けね→5.本1組織工具 直+直+直+直	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね	付けね
741	7期	匂口頭部	小波紋口縫端		無	有	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→4本1組織工具 直 直+直+直+直	付けね→底部下平面 離離方向の削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	32打	付けね
742	8-9期	甕	繩文系有文		無	無	円盤形埴法	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	32打	付けね
743	8-9期か	齿制底	繩文系有文		無	無	円盤形埴法	付けね→32打+32打	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね	付けね	付けね
744	7期か	甕	繩文系有文		無	無	円盤形埴法	付けね→底部離離面付け 最大径×刺突	付けね→一箇方向の 削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね	付けね
745	8-9期か	甕	繩文系無文	2個1対の窓穴 有	無	無	円盤形埴法	付けね→底部離離面付け 最大径×刺突	付けね→一箇方向の 削け	付けね	付けね	付けね
746	7-8期	甕	繩文系無文	2個1対の窓穴 離離	無	無	円盤形埴法	付けね	付けね→一箇方向の 削け	付けね	付けね	付けね
747	7-8期	甕	繩文系無文		無	無	(円盤形埴法)	付けね	付けね	32打→口縫端部上方 に付工具の刺突	32打	付けね
748	7期	匂口頭部	小波紋口縫端		有	無	付けね→底部32打	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	32打	付けね
749	9期	甕	近江系影響型在地		有	無	付けね→最大径に32打	付けね→一部分的に 削け	付けね→一部分的に 削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね
750	6期か	齿制底	繩文系無文	底部成窓孔 有 棚板成窓孔	有	無	円盤形埴法	付けね	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね→底部下平面 離離方向の削け	付けね	付けね
751	9-10期	甕	近江系影響型在地		有	無	円盤形埴法	付けね→底部底近く斜め付け→直 直+直+直+直	付けね→一箇方向に 削け	32打	32打→口縫端部 離離方向の削け	付けね
752	9期か	甕	繩文系有文	2個1対窓穴 有	無	無	棒入法	付けね→底部好→32打	付けね	32打→口縫端部に付 工具による削突	32打→32打	付けね
753	9期	甕	円盤文系		無	無	円盤形埴法	付けね→底部下平面放射状付け 直+直+直+直	付けね→一箇方向の 削け	32打→口縫端部に付 工具による削突	32打→32打	付けね
754	9-10期	甕	近江系影響型在地	繪土画	無	無	円盤形埴法	付けね→底部下平面	付けね→一箇方向の 削け	32打→底部下平面 離離方向の削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね
755	9-10期	甕	繩文系有文		有	無	円盤形埴法	付けね→3本1組織工具 直 直+直+直+直	付けね→一箇方向の 削け	32打→口縫端部に付 工具による削突	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね
756	6期か	齿制底	繩文系有文		無	無	円盤形埴法	付けね→7本1組織工具 直 直+直+直+直	付けね→一箇方向の 削け	32打→口縫端部に付 工具による削突	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね
757	10期	甕	繩文系無文	粘土接合痕跡有	有	無	付けね	付けね	付けね→一箇方向の 削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね	付けね
758	9-10期	甕	近江系影響型在地		有	無	付けね→32打	付けね→一箇方向の 削け	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	32打	付けね	付けね
759	9-10期	甕	既、口縫部 即、口縫部	近江系影響型在地	有	無	32打	付けね→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね→一箇方向の 削け	32打	付けね	付けね
760	9-10期	甕	既、口縫部 即、口縫部	近江系影響型在地	有	無	付けね	付けね→32打	付けね→32打	32打→既、圓文→既、圓文 既、圓文→既、圓文に付け	付けね	付けね

No	時期	器種	分類	備考	被熱	使用	底・部品の 特徴	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整 (口内)	調整 (底)
761	9-10世 紀	唐口鋸部	柳編文系無文		有	無	底→付口→32丁	付口→32丁	32丁→J1縁端部下方 に刺繡	J1縁端部下方	N→32丁	
762	10世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型 在地		有	無	付け口	付け口	J1縁端部つまみ上1ヶ タハク→32丁	J1縁端部つまみ上1ヶ タハク→32丁		
763	9-10世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型		有	無	付け口→4ヶ	付け口→4ヶ	32丁→4ヶ	32丁→32丁		
764	10世 紀	唐口鋸部	近江系影響型左 在地		有	無	付け口→下平→直縫文風口→32 丁、斜め下平→直縫文風口→32 丁	付け口→部分 斜め下平	32丁→4ヶ部分 32丁→4ヶ	32丁→4ヶ部分 32丁→4ヶ		
765	9-10世 紀	唐口鋸部	柳編文系有文		有	無	付け口→頭部ロゴ	付け口	32丁	32丁→J1縁端部		
766	9-10世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型左 在地		有	無	付け口	付け口→頭部に指 押立え模	32丁	32丁→32丁		
767	9-10世 紀	高杯	唐人か		無	無	拂入法	カ一縦(上→下)32丁→28丁	カハク→32丁	32丁	N→32丁	
768	9世 紀	唐口鋸部	(輪廻土基)	不規則縫、内外 側面糞糞	無	無		ハタナゲ	32丁	32丁		
769	10世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型 在地		有	無	付け口	付け口	32丁	32丁		
770	10世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型 在地		有	無	付け口→頭部32丁	32丁→最大径以 下横32丁	32丁	32丁		
771	10世 紀	唐口鋸部	柳編文系無		有	無	付け口	付け口	32丁	32丁		
772	9世 紀	唐口鋸部	栗林系	唐人か	無	無	付け口→32丁	32丁	J1縁端部→山 形文	J1縁端部→山 形文		
773	9-10世 紀	唐口鋸部	柳編文系		有	無	付け口→頭部32丁	付け口	32丁→J1縁端部に附 属1条	32丁		
774	9世 紀	唐口鋸部	柳編文系無文		有	無	付け口→頭部32丁	付け口	32丁	32丁		
775	9-10世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型 在地		有	無	付け口	付け口→頭部32丁	カハク→32丁	32丁		
776	9世 紀	唐口鋸部	柳編文系有文		有	無	付け口→32丁	付け口→32丁	32丁→1条の 組合せ文と15.5 mmによる刺繡 (J1縁端部に附 屬)	32丁→1条の 組合せ文と15.5 mmによる刺繡 (J1縁端部に附 屬)		
777	10世 紀	唐	柳編文系影響型 在地		有	無	円盤割離法 か	付け口→頭部下平縫方口→32 丁	付け口→32丁	32丁	N→32丁	
778	8世 紀か	唐口鋸部	柳編文系有文		無	無	付け口	付け口→32丁	32丁→J1縁端部 上部のX字刺繡	32丁→J1縁端部 上部のX字刺繡		
779	9-10世 紀	唐口鋸部	柳編文系無文		無	無	付け口	ハタナゲ	ハタナゲ方向の 筋	32丁	32丁	
780	9世 紀	唐口鋸部	近江系	唐人か	有	無	付け口→直縫文風口→32 丁、3本1組組合工具、垂下 口	付け口→指子	J1縁端部→口 縁受口、J1縁端部	J1縁端部→口 縁受口、J1縁端部		
781	10世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型 在地		有	無	円盤割離法 か	ハタナゲ下平縫 方口(上→下)	32丁	32丁		
782	8世 紀か	跡口鋸部	西日本系		無	無	1丁→兩穴突起3段→尖間に刺 空	1丁→兩穴突起3段→尖間に刺 空	1丁→兩穴突起3段→尖 間に刺空			
783	10世 紀	唐口鋸部	柳編文系無文		無	無	付け口→32丁	付け口	32丁→次解4条	32丁		
784	10世 紀か	唐口鋸部	柳編文系無文	2個1対の複合 内部に複数 の粘土筋附着	有	無	32丁→部分的に付 け目	32丁→部分的に 付け目	32丁→部分的に 付け目	32丁→32丁		
785	10世 紀	唐口鋸部	柳編文系	唐人か	有	無	付け口	口縁端部に附 属2条	32丁	32丁		
786	10世 紀	唐口鋸部	近江系影響型左 在地		有	無	付け口→直縫文風口→3条→付 け口による刺空	付け口	J1縁端部に附 属	J1縁端部に附 属		
787	9-10世 紀	水差し	拂入法		無	無	円盤割離法 か	ハタナゲ	32丁	32丁		
788	9世 紀	蓋鉢部	栗林系檢査		無	無	一	懸垂文	32丁	32丁		
789	8世 紀か	蓋	小波口縫無文		無	無	付け口→生口	付け口→指子	32丁	32丁		
790	8世 紀か	唐口鋸部	柳編文系有文		無	無	付け口	32丁→部分的に付 け目	32丁→部分的に 付け目	32丁→32丁		
791	7-8世 紀か	蓋	近江系か	唐人	無	無	カハク→3本1組組合工具 頭部直6、鋸部直3	カハク→3本1組組合工具 頭部直6、鋸部直3	32丁	32丁		
792	8世 紀か	蓋鉢部	柳編文系有文		無	無	付け口	32丁→複数方向の 指子	32丁	32丁		
793	8世 紀か	蓋鉢部	柳編文系有文		無	無	付け口→頭部に直縫文風口	付け口→複数方向 指子	32丁→J1縁端部に附 属1条の刺繡	32丁→32丁		
794	9世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型 在地		有	無	付け口	付け口→複数方向 指子	32丁→J1縁端部に附 属1条の刺繡	32丁→32丁		
795	8世 紀か	唐口鋸部	柳編文系無文		有	無	付け口	付け口→複数方向の 指子	32丁→J1縁端部に附 属1条の刺繡	32丁		
796	8世 紀か	唐口鋸部	柳編文系		有	無	付け口	32丁	32丁→J1縁端部に附 属1条の刺繡	32丁		
797	9世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型		有	無	斜め→37→直縫文風口	付け口→複数方向の 指子	32丁→J1縁端部上方 に刺繡	32丁		
798	9世 紀	唐口鋸部	柳編文系無文		有	無	付け口	付け口→複数方向の 指子	32丁→J1縁端部上方 に刺繡	32丁→32丁		
799	8世 紀か	唐口鋸部	柳編文系無文		有	無	付け口	付け口→側面下平 縫方方向の指子	32丁→J1縁端部に附 属1条の刺繡	32丁		
800	9世 紀	唐口鋸部	柳編文系影響型 在地		有	無	付け口	付け口→複数方向の 指子	32丁→J1縁端部に附 属1条の刺繡	32丁→32丁		
801	9-10世 紀	唐	柳編文系影響型 或部端後存丸		有	無	円盤割離法 か	付け口→複数方向の 指子	カハク→32丁	32丁	N→32丁	
802	9世 紀	唐口鋸部	柳編文系無文		有	無	付け口→頭部32丁	付け口→複数方向の 指子	32丁	32丁		
803	9世 紀	唐口鋸部	柳編文系無文		有	無	付け口	付け口→複数方向の 指子	32丁→J1縁端部に附 属1条の刺繡	32丁		
804	9世 紀	跡	全体的に磨耗痕 なし		有	無	付け口	付け口→複数方向の 指子	32丁→J1縁端部に附 属1条の刺繡	32丁		
805	9-10世 紀	唐	柳編文系無文		有	無	円盤割離法 か	カハク→32丁	32丁			

No	時期	器種	分類	備考	被然	帶布	革	綱の 種類	調整(外側)	調整(内側)	調整(口側)	調整(口側内)	調整(底部)
899	7 前か	鹿角頭	柳根文系有文		無	無		斜方型指子	頭部に三角 形孔	△→羅方向の指 子			
900	7 前以前	鹿角頭	柳根文系	木葉山跡文化に 有り、山出鶴鹿	無	無		円盤調節法	斜→平行	△→羅方向の指 子			
901	8 前	鹿角頭	(沈銘文系解呂型 (柳根文系有文))		有	無		斜→頭部ロゴ→円盤調節 斜→平行	斜→羅方向の指 子				
902	9 前	鹿口頭	柳根文系無文		有	無		斜ロゴ→頭部32°	斜ロゴ→羅方向の 指子	△→32°		△→32°	
903	9 前	鹿口頭	四輪文系解呂型		有	無		斜ロゴ	斜ロゴ→32°	32°		32°	
904	8-9 前	鹿口頭	柳根文系有文		有	無		斜ロゴ	斜ロゴ	32°			
905	9 前	鹿口頭	四輪文系解呂型 瓦面		有	無		斜ロゴ→頭部32°	斜ロゴ→32°	32°		32°	
906	9 前	鹿口頭	四輪文系解呂型 瓦面		有	無		斜ロゴ→頭部32°	32°→羅方向の 指子	32°		32°	
907	9 前	鹿	柳根文系無文		有	無		斜ロゴ	斜ロゴ→部分的に 頭部	32°		32°	
908	9 前	鹿	四輪文系解呂型 瓦面		有	無		斜ロゴ→頭部ロゴ	斜→羅方向的 指子	32°	32°→32°	32°	
909	9 前	高杯脚柱 品			無	無		斜ロゴ	斜				32°→斜
910	9 前	鹿口頭	柳根文系有文		無	無		斜ロゴ→本 1 和彌狀工具 直 2 線孔直縫頭・直・斜・斜行彌狀 工具	△→部分的に 羅方向的指子	△→直	△→直	△→直	△→直
911	9 前	鹿脚頭	柳根文系無文		有	無		斜ロゴ→頭部32°	△→羅方向的 指子				
912	9 前	鹿	柳根文系有文	・反転復元	有	無		△→32°	32°			32°→32°	32°
913	7 前か	鹿	柳根文系有文	・反転復元	無	無		斜→頭部下平付子・頭部 上平行・10 本 1 和彌狀工具 直 4・扇形	△→頭部下平 羅方向的指子 頭部ロゴ				
914	7 前	鹿口頭	柳根文系有文			無	無						
915	7 前	鹿	(西日本系、 (柳根文系有文))	全面磨削激しい	無	無		斜ロゴ→強部に彌狀工具によつ 2個 1 ロゴ斜頭	△→部分的に 頭部	32°	32°→132°	32°	32°
916	7 前	鹿脚頭	柳根文系有文		無	無		斜ロゴ→直	△→直				
917	7 前	鹿口頭	西日本系		無	無		斜ロゴ	△				
918	8-9 前	鹿口頭	柳根文系無文		無	無		斜→羅方向の指子	△→直	32°			
919	6 前	鹿口頭	柳根文系無文		無	無		斜ロゴ→32°	△→直	32°			
920	7 前	鹿口頭	柳根文系		無	無		斜ロゴ→工具による彌狀 工具	△→工具による彌狀 工具	32°			
921	7-8 前	鹿口頭	(西日本系、 (柳根文系有文))		無	無		斜ロゴ→羅方向の指子	△→直	32°→132°	32°→132°	32°→132°	
922	6 前	鹿口頭	柳根文系無文		無	無		斜ロゴ	△→直	32°			
923	7-8 前	鹿口頭	日田町式規範		無	無		斜→頭部下平付子・文部斜線 直 4	△→部分的に 頭部	32°	32°→直	32°	
924	7-8 前	鹿脚頭	柳根文系無文		無	無		斜→頭部下平付子・文部斜線 直 4	△→部分的に 頭部	32°	32°→直	32°	
925	6 前	鹿脚頭	柳根文系		底部に斜江頭有	無	無	円盤調節法	斜→直	45°			45°直
926	7-8 前	鹿	柳根文系無文		無	無		△→羅方向的 指子・彌狀工具	△→直				
927	7-8 前	鹿口頭	柳根文系有文		有	無		斜→8 本 1 和彌狀工具 直 2 線孔直縫頭・直・斜・斜行彌狀 工具	△→部分的に 頭部	32°→132°→羅方向 工具による彌狀 工具	32°→132°	32°→132°	32°→132°
928	7-8 前	鹿口頭	柳根文系無文		有	無		斜ロゴ	△→直	32°	32°		
929	8 前	鹿	柳根文系無文		有	無		斜ロゴ	△→羅方向的 指子	32°	32°→132°	32°→132°	
930	7-8 前	鹿口頭	柳根文系無文		有	無		粗いかけロゴ	粗いかけロゴ 直 2 線孔直縫頭・直	32°→132°	32°→132°	32°→132°	
931	7-8 前	鹿口頭	柳根文系無文		有	無		斜ロゴ	△→工具による彌狀 工具	32°→132°	32°→132°	32°→132°	
932	7-8 前	鹿	柳根文系無文	種子正直	有	無		細かいかけロゴ→粗いかけロゴ 直 2 線孔直縫頭・直	△→工具による彌狀 工具	32°→132°	32°→132°	32°→132°	
933	8-9 前	鹿	柳根文系無文		有	無		斜ロゴ→直	△→直	32°	32° (直)	32°→直	
934	7-8 前	高杯脚柱 品		2 箔 1 对の透穴	有	無		△→2 箔 1 对の透穴	△→直	32°→32°			
935	8-9 前	鹿口頭	西日本系	搬入(能作か)	無	無		斜ロゴ→直	△→直	32°			
936	7 前	鹿口頭	柳根文系有文		無	無		直頭文	△→直			△→直	
937	7 前	鹿	柳根文系無文		無	無		斜ロゴ	△→直	32°→132°	32°→132°	32°→132°	
938	9 前	鹿口頭	-	2 箔 1 对の透穴	有	無		△→2 箔 1 对の透穴 による刺突	△→直	32°→132°	32°→132°	32°→132°	
939	9 前か	鹿口頭	柳根文系有文か		有	無		斜ロゴ	△→直	32°			
940	9 前か	鹿脚頭	柳根文系無文		有	無		△→羅方向的 指子	△→羅方向の指 子	32°	32°→132°	32°	
941	9-10 前	鹿底部			有	無		△→羅方向の指 子	△→羅方向の指 子	32°	32°→132°	32°	
942	9 前か	鹿脚底頭	(西日本系、 (「くの」裏))	搬入か	有	有		△→強部斜面複数 2 →放狀 斜行彌狀工具	△→直	32°→32°			
943	7 前か	鹿口頭	柳根文系無文		無	無		斜ロゴ	△→羅方向的 指子	32°	32°→直	32°	
944	8 前	鹿脚頭	柳根文系有文		無	無		斜→5 本 1 和彌狀工具 直 2 斜行彌狀工具	△→直				

No	時期	器種	分類	備考	被施 有無	望 有無	底、脚部の 基盤	調整（外側）	調整（内側）	調整（口縁）	調整 (口縁内)	調整 (底)	
945	10期	匱口鉢部	柳編文系影響型 在地		有	無	サカタ→縦張口付	サカタ→縦方向の 筋付け	サカタ→部分的に 筋付け	楓付	327#→327#		
946	9期	匱口鉢部	柳編文系有文		有	無	327#→頭部口付→5本1組 工具→直・横・斜・直・直・直	327#→部分的に 筋付け	327#→部分的に 筋付け		327#→327#		
947	10期	匱口鉢部	柳編文系影響型 在地		有	無	サカタ→縦方向の筋付け	サカタ→縦方向の 筋付け	サカタ→縦方向の筋 付け		327#	327#	
948	9-10期	匱	柳編文系影響型 在地		有	無	サカタ	サカタ→縦方向の 筋付け	サカタ→縦方向の 筋付け		327#→部分的に ハト工具による筋 付け		
949	9-10期	匱口鉢部	柳編文系影響型 在地		有	無	サカタ	サカタ→縦方向の 筋付け	サカタ→縦方向の 筋付け		327#→部分的に ハト工具による筋 付け		
950	9-10期	匱口鉢部	柳編文系影響型 在地		無	無	サカタ→沈縫2条	サカタ→縦方向の筋 付け	サカタ→縦方向の筋 付け	ヨリ→327#	327#→327#		
951	7期	匱口鉢部	柳編文系有文		無	無	91#→頭部端付突起2段→工具 目録突起	91#→工具による筋 付け	91#→工具による筋 付け	327#→327#	327#→327#	327#→327#	
952	7期	匱口鉢部	小波紋口縁有文		有	無	111#→8本1組横状工具 直 横斜	111#→8本1組横状工具 直 横斜	111#→8本1組横状工具 直 横斜	127#→111#横端部上方 かたに筋付け			
953	9期	匱	東海系横縫		無	無	ヨリ→327#→頭部端上に沈縫3 条	ヨリ→部分的に 筋付け	ヨリ→部分的に 筋付け				
954	7期	匱口鉢部	柳編文系有文		有	無	サカタ→327#→5本1組横状 工具 直・横	サカタ→部分的に 筋付け	サカタ→部分的に 筋付け	ヨリ#	327#→327#→327# ヨリ#→工具による筋 付け		
955	9-10期	匱口鉢部	柳編文系無文		有	無	91#→327#→頭部327#	91#→327#→頭部327#	91#→327#→頭部327#	327#→327#	327#→327#	327#→327#	
956	8期か	匱口鉢部	柳編文系無文		有	無	サカタ	サカタ→327#→頭部端上 方にハト工具による筋 付け	サカタ→327#→頭部端上 方にハト工具による筋 付け				
957	8-9期	匱口鉢部	柳編文系無文		有	無	サカタ→ハト工具による筋伏状	サカタ→筋伏状	サカタ→筋伏状	127#→111#横端部上方 かたに筋伏状	327#		
958	9-10期	匱口鉢部	近江系影響型在地		有	無	サカタ→頭部最大径に直縞文3 条	サカタ→縦方向の筋 付け	サカタ→縦方向の筋 付け	ヨリ→327#	327#→327#		
959	9期	匱	柳編文系影響型 在地		有	無	ヨリ→頭部下平段削状跡3条	ヨリ→頭部下平段削 状跡3条	ヨリ→頭部下平段削 状跡3条	ヨリ→327#	327#	327#	
960	9-10期	匱口鉢部	柳編文系影響型 在地		有	無	斜め→斜→頭部上・下3分	斜め→縦→斜め	斜め→縦→斜め		327#		
961	9-10期	匱	柳編文系影響型 在地		有	無	円盤削込法 が	ヨリ→部分的に斜3#付	ヨリ→縦方向の筋 付け	127#→111#横端部つま み付	327#	327#	
962	9-10期	匱	西日本系 (その子孫)	斜付	有	無	円盤削込法	ヨリ→頭部上・下斜付3#付	ヨリ→縦方向の筋 付け	127#→111#横端部つま み付	327#	327#	
963	9-10期	高輪杯 か			無	無	サカタ→327#	ヨリ→327#	ヨリ→327#		327#	327#	
964	8-9期	匱	東海系横縫		無	無	縦・サカタ→5本1組横状工具 1對の斜縫付	サカタ→縦縫付	サカタ→2個1對斜縫 付文(4個位)	サカタ→直縫付	327#		
965	10期か	匱口鉢部	柳編文系有文		無	無	327#→頭部327#→6本1組横状 工具に直直縫	327#→縦方向の筋 付け	327#→縦端部の工 具の筋伏	327#→327#	327#→327#		
966	10期	匱口鉢部	柳編文系影響型 在地		無	無	サカタ	サカタ→縦方向の筋 付け	327#→327#	327#→327#	327#→327#		
967	10期	匱口鉢部	四縫文系	表面剥離多し	無	無	91#→頭部に沈縫5条	91#→縦方向の筋 付け	91#→縦方向の筋 付け	327#	327#	327#	
968	10期	匱口鉢部	柳編文系有文		有	無	サカタ→頭部最大径3#付	サカタ→縦方向の筋 付け	327#→111#横端部にハ ト工具の剥突	327#→111#横端部にハ ト工具の剥突	327#→111#横端部にハ ト工具の剥突		
969	10期	匱	柳編文系無文		無	無	91#→底部削出彫刻#1#	91#→部分的に 斜め	91#	327#	327#	327#	
970	9-10期	匱	柳編文系影響型 在地		有	無	円盤削込法 が	ヨリ→頭部#2付	ヨリ→指付	127#→111#横端部つま み付	327#→327#	327#→327#	
971	9期	匱	柳編文系影響型 在地		有	無	円盤削込法	ヨリ→斜#2付→縦かく#2付	ヨリ→斜#2付→縦かく#2付	ヨリ→斜#2付→縦かく#2付	327#	327#	
972	9期	匱	近江系影響型在 地		有	無	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→327#	327#	327#	
973	7期か	匱	西日本系		無	無	円盤削込法	ヨリ→木目斜#2付に直す斜#2付 彫刻#2付、脚部下斜付#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
974	7期	匱口鉢部	西日本系 (柳編文系有文)	全体的に摩耗が 重い	無	無	サカタ		ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
975	7期	匱口鉢部	(柳編文系有文)		無	無	頭部に斜#2付+脚部#2付→8 木1組横状工具 直・横・斜	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	327#	327#	
976	7-8期	匱鉢部	日川町式横縫		無	無	日本式 基盤形状 1直・1横 斜削付+直・直・1形崩壊・文様 削付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	327#	327#	
977	8-9期	匱口鉢部	柳編文系無文		有	無	斜め→3#付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	327#→111#横端部上方 にハト工具による剥突	327#→111#横端部上方 にハト工具による剥突	327#→111#横端部上方 にハト工具による剥突	
978	10期	匱口鉢部	近江系影響型在 地		有	無	ヨリ→頭部327#付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	327#→111#横端部つま み付	327#→111#横端部つま み付	327#→111#横端部つま み付	
979	10期	匱	柳編文系影響型 在地		有	無	サカタ	サカタ→斜#2付	サカタ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	327#	327#	
980	10期	匱	四縫文系		有	無	円盤削込法 が	ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付 ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付	ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付 ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付	ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付 ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付	327#→327#	327#	
981	10期	匱	四縫文系		有	無	円盤削込法 が	ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付 ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付	ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付 ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付	ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付 ヨリ→斜#2付下(上→上) 3#付	327#→327#	327#	
982	9-10期	匱口鉢部	柳編文系影響型 在地		有	無	ヨリ→頭部上平直縞文彫刻#3#付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
983	9期	匱	柳編文系無文		有	無	円盤削込法	ヨリ→底部側面彫刻#3#付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
984	9期	匱	柳編文系影響型 在地		有	無	円盤削込法	ヨリ→底部付近彫刻#3#付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
985	7-8期	匱	柳編文系有文	底部内部直縞文 (柳編文系有文)	無	無	円盤削込法	ヨリ→底部付近彫刻#3#付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
986	7-8期	匱	(柳編文系有文)		有	無	円盤削込法	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
987	8期	匱	柳編文系無文		有	無	円盤削込法	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
988	8期か	匱	柳編文系無文		有	無	円盤削込法	ヨリ→底部側面彫刻#3#付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	ヨリ→斜#2付	
989	9期	匱口鉢部	栗林系横縫		兩面 看り	無	—	—	ヨリ→327#	ヨリ→327#	ヨリ→327#	ヨリ→327#	

No	時期	基準	分類	備考	被熱	塗有	底、側面の 柄及び 輪郭	調整(外側)	調整(内側)	調整(口縫)	調整(工具内)	調整(底)
990	9期	唐	近江系忍野型在地		有	無	付けね	付けね→側面下部付けね 底方向の指げ	付けね→側面下部付けね 底方向の指げ	33付	33付	
991	9期	唐	近江系忍野型在地	絵画土彌	無	無	付けね→側面下部部分的に付けね 斜め→付けね・縦 方向の指げ	斜め→付けね・縦 方向の指げ	33付	33付		
992	7期	唐口彌部	櫛文系有文	内面剥離激しい	無	無	付けね		33付		33付	33付
993	7期	唐口彌部	櫛文系有文		無	無	付けね→6本1組彌状工具直2 斜2付けね	付けね→6本1組彌状工具直2 斜2付けね	33付	33付	33付	
994	7期	唐口彌部	櫛文系有文		無	無	付けね		33付	33付	33付	33付
995	7期	造か	-	日没擬穀文か 個人	有	無	付けね→交文→北端による弧線	付けね				
996	7期	跡	櫛文系無文		無	無	付けね	33付	33付	33付	33付	
997	7期	唐口彌部	西日本系	2個1対巻穴有	無	無	付けね→木科彌工具2個1対巻 穴直2付けね	付けね→木科彌工具2個1対巻 穴直2付けね	33付	33付		
998	9期	唐	近江系忍野型在地		有	無	重いかけね	付けね→一部部分的に 指げ	付けね→一部部分的に 指げ	33付	33付	33付
999	9期	唐	近江系忍野型在地		有	無	底め→付けね→底部側面付けね、 底方向付けね	付けね→一部部分的に 指げ	付けね→一部部分的に 指げ	33付	33付	33付
1000	7期	唐側近部	櫛文系有文		無	無	付けね→5本1組彌状工具直2 斜2付けね→直2・直2・組形文、底 方向付けね	付けね→底方向付けね 底方向の指げ				
1001	7期	唐口彌部	櫛文系無文		有	無	付けね	付けね→側面に付 けね・頭	付けね→側面に付 けね・頭	33付	33付	33付
1002	9期	唐	門附文系忍野型在地	底部中央くぼみ有	有	無	円盤彌法	付けね→側面下部トナリ放射状付けね 底部側面ロコロ	付けね→側面下部トナリ放射状付けね 底部側面ロコロ	33付	33付	33付
1003	9期	唐	櫛文系無文		有	無	円盤彌法	付けね→底部側面ロコロ	付けね→底部側面ロコロ	33付	33付	33付
1004	9期	唐口彌部	櫛文系無文		有	無	付けね		付けね→側面下部トナリ放射状付けね 底部側面ロコロ	33付	33付	33付
1005	9期	唐	櫛文系有文	外有り	無	付けね→部分的に付けね、頭部に點 付交渉複有	付けね→部分的に付けね、頭部に點 付交渉複有	底め→付けね・頭 上半に部分的に 付	33付	33付	33付	
1006	9-10期	唐	門附文系忍野型在地		有	無	円盤彌法	付けね→底面側面曲面方(トナリ) トナリ	付けね→側面下部トナリ放射状付 けね・部分的に付けね	33付	33付	33付
1007	9期	唐	櫛文系有文		有	無	付けね	付けね→側面方の指 指げ	付けね→側面方の指 指げ	33付	33付	33付
1008	7-8期	唐口彌部	小波口彌無文		有	無	斜め→付けね	付けね→側面方の指 指げ	付けね→側面方の指 指げ	33付	33付	33付
1009	7期か	唐	櫛文系無文		無	無	円盤彌法	付けね→側面下部トナリ付けね	付けね→部分的に付 けね	33付	33付	33付
1010	7期か	唐	櫛文系無文		有	無	底め→付けね	付けね→側面方の指 指げ	付けね→工具による 直角的な彌文	33付	33付	33付
1011	7-8期	跡	櫛文系無文		有	無	円盤彌法	付けね→側面方の指 指げ	付けね→工具による 直角的な彌文	33付	33付	33付
1012	9-10期	高井村部	水平干縫		無	無	一	33付				
1013	9-10期	唐口彌部	櫛文系有文	粘土結合痕明顯	有	無	付けね	付けね→部分的に付けね 頭部とえ	付けね→部分的に付 けね・頭部とえ	33付	33付	33付
1014	6期以前	唐口彌部	沈縫文系		有	無	一	船付穴帶有、沈縫に縫有	33付			
1015	10期	唐	門附文系忍野型在地		有	無	円盤彌法	付けね→付けね	付けね→側面方の指 指げ	33付	33付	33付
1016	7期	唐口彌部	美林系か		有	無	一	33付→4本1組彌状工具直 横彌(単位か)、頭部33付	付けね→側面方の指 指げ	33付	33付	33付
1017	7期か	唐	櫛文系		無	無	一	33付→4本1組彌状工具直 横彌(単位か)、頭部33付	付けね→側面方の指 指げ	33付	33付	33付
1018	9期	唐口彌部	近江系	搬入	有	無	一	斜め→付けね	斜め→付けね	33付	33付	33付
1019	7-8期	唐口彌部	西日本系		無	無	一	付けね→彌状工具か・刺突有	付けね→彌状工具か・刺突有	33付	33付	33付
1020	7-8期	唐口彌部	櫛文系有文		無	無	一	付けね	付けね	33付	33付	33付
1021	6期以前	唐側近部	櫛文系有文		無	無	付けね→5本1組彌状工具(直 波)	付けね→側面方の指 指げ	付けね→工具による 直角的な彌文	33付	33付	33付
1022	5期か	唐	櫛文系有文	全体剥離激しい	無	無	付けね→付けね→2付けね→6本1組 彌状工具直・波・直・波・直・波	付けね→部分的付 けね	33付→部分的付 けね			
1023	7-8期	唐	櫛文系有文		無	無	円盤彌法	付けね→底部側面ロコロ	付けね	33付	33付	33付
1024	5-6期	跡	櫛文系有文		無	無	付けね→側面下部に平行に付けねによ る斜め刺突	付けね→側面下部に平行に付けねによ る斜め刺突	33付	33付	33付	
1025	5-6期	歯かく部	櫛文系有文		無	無	付けね→5本1組彌状工具 直 直・波・波・直・直	付けね→部分的付 けね	33付	33付	33付	
1026	5期か	跡	櫛文系無文	糊塗有	有	無	円盤彌法	付けね→底部側面ロコロ	付けね→底部近く	33付	33付	33付
1027	6期か	唐口彌部	小波口彌無文		有	無	付けね	付けね	付けね→付けね	33付	33付	33付
1028	6期か	唐口彌部	櫛文系無文		有	無	付けね	付けね	33付	33付	33付	33付
1029	6期か	脚口彌部	-	2個1対の巻穴	有	無	底め→付けね→33付	付けね	33付	33付	33付	33付
1030	9-10期	唐	櫛文系有文	内面剥離激しい	無	無	円盤彌法	横方向の板げ→側面に3本1 組彌状工具	付けね→直	33付		33付
1031	9-10期	唐側近部	櫛文系有文		無	無	付けね→直・頭部・直・波・直・波・波 直・波・直・波	付けね→直・頭部・直・波・直・波・波 直・波・直・波	33付		33付	
1032	9-10期	唐口彌部	近江系忍野型在地		有	無	付けね	付けね→彌方向の指 指げ	付けね→彌方向の指 指げ	33付	33付	33付
1033	10期	唐	櫛文系	付けね縫合取り付け刺突	有	無	円盤彌法	付けね→側面下部付 けね・放射状付けね	付けね→側面下部付 けね(トナリ)付けね	33付	33付	33付
1034	9-10期	唐	門附文系忍野型在地	底部に横成寄室孔有、2個1対	無	無	円盤彌法	付けね→側面下部直付けね4条	付けね→側面方の指 指げ	33付	33付	33付
1035	8期	唐口彌部	櫛文系無文		有	無	斜め→33付					
1036	7期	唐口彌部	西日本系(くの子彌)	搬入	有	無	付けね	付けね→底部周辺 付けね	付けね	33付	33付	33付

No	時期	沿革	分類	圖考	被熟	布帛	底(腰帶)	調整(外側)	調整(内側)	調整(口縫)	調整(口縫)	調整(底)	調整(底縫)	
1037	9期	直口制頭	四瓣式無		無	無	サカホー部分に「丁」	サカホー部分的に「丁」	サカホー部分的に「丁」	サカホー部分的に「丁」	33才	—33才	—	
1038	9-10期	唐	四瓣式系影響型在地	有	無	円盤振幅法	サカホー	サカホー部分的に「丁」	サカホー部分的に「丁」	サカホー部分的に「丁」	33才	—33才	—	
1039	9期	唐	四瓣式系影響型在地	有	無	円盤充填法	サカホー→底部平下垂→扇形 か	サカホー→底部平下垂→扇形 か	サカホー部分的に「丁」	サカホー部分的に「丁」	33才	—33才	—	
1040	9期か	鉢	柳葉式系無文	無	無	円盤振幅法	サカホー→底部平下垂→扇形 か	サカホー→底部平下垂→扇形 か	サカホー→底部平下垂→扇形 か	サカホー→底部平下垂→扇形 か	33才	—33才	—	
9期	直口制頭	四瓣式系影響型在地	駕馬土器 シカ と胸乳状面	無	無	サカホー	サカホー→一部	サカホー→一部	サカホー→一部	サカホー→一部	33才	—33才	—	
1041	9期	唐	四瓣式系影響型在地	有	無	サカホー	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	33才	—33才	—	
1042	9期	唐	四瓣式系影響型在地	水差し	柳葉式系有文	駕馬土器	軸脚付→脚部部分「丁」→扇形 か	軸脚付→脚部部分「丁」→扇形 か	軸脚付→脚部部分「丁」→扇形 か	軸脚付→脚部部分「丁」→扇形 か	33才	—33才	—	
1043	9期	唐	柳葉式系無文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	33才	—33才	—	
1044	9期	唐	柳葉式系無文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	33才	—33才	—	
1045	9期	直口制頭	四瓣式系無文	有	無	サカホー	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	33才	—33才	—	
1046	9期か	直口制頭	四瓣式系無文	有	無	サカホー	サカホー→横方向の割け	サカホー→横方向の割け	サカホー→横方向の割け	サカホー→横方向の割け	33才	—33才	—	
1047	9期	高杯持杯	水平目縫	無	無	サカホー	サカホー→横方向の割け	サカホー→横方向の割け	サカホー→横方向の割け	サカホー→横方向の割け	33才	—33才	—	
1048	9期か	鉢	柳葉式系無文	無	無	円盤振幅法	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	33才	—33才	—	
9-10期	直口制頭	四瓣式系無文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	サカホー→底部側面部分	33才	—33才	—		
1050	9期	唐	柳葉式系有文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	
1051	9期	唐	柳葉式系有文	底部に焼成後空 孔、外側表面	有	無	円盤充填法	サカホー	サカホー→底部平下垂 部分の指摘	サカホー→底部平下垂 部分の指摘	サカホー→底部平下垂 部分の指摘	33才	—33才	—
1052	7期	直口制頭	只山町式横縫	無	無	サカホー	ハニカム状、鉛工具、直縫文4 ×2才、本1才、2才、2.5才、 直縫文鉢底部、直縫文間隔3才	ハニカム状、鉛工具、直縫文4 ×2才、本1才、2才、2.5才、 直縫文鉢底部、直縫文間隔3才	ハニカム状、鉛工具、直縫文4 ×2才、本1才、2才、2.5才、 直縫文鉢底部、直縫文間隔3才	ハニカム状、鉛工具、直縫文4 ×2才、本1才、2才、2.5才、 直縫文鉢底部、直縫文間隔3才	ハニカム状、鉛工具、直縫文4 ×2才、本1才、2才、2.5才、 直縫文鉢底部、直縫文間隔3才	33才	—33才	—
1053	7期	唐	柳葉式系無文	底部に焼成後空 孔、直縫文	有	無	円盤振幅法	サカホー	サカホー→底部平下垂 部分の指摘	サカホー→底部平下垂 部分の指摘	サカホー→底部平下垂 部分の指摘	33才	—33才	—
1054	7期	直口制頭	柳葉式系無文	底部に焼成後空 孔、直縫文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—
1055	7期	唐	柳葉式系無文	底部に焼成後空 孔、直縫文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—
1056	9-10期	直口制頭	四瓣式系影響型在 地孔有	有	無	サカホー	横(トトロ)→丁→斜→扇形 か	横(トトロ)→丁→斜→扇形 か	横(トトロ)→丁→斜→扇形 か	横(トトロ)→丁→斜→扇形 か	33才	—33才	—	
1057	7期	直口制頭	柳葉式系無文	有	無	サカホー	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	
1058	8期	直口制頭	漁人	有	無	サカホー	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	
1059	7期	唐	柳葉式系無文	有	無	円盤充填法	サカホー→横縫文2才	サカホー→横縫文2才	サカホー→横縫文2才	サカホー→横縫文2才	33才	—33才	—	
1060	6期以前	唐	柳葉式系無文	六つ口縫有脣	無	無	円盤振幅法	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	33才	—33才	—
1061	7期	唐	柳葉式系有文		無	無	5才、本1才組合工 具直+直	5才、本1才組合工 具直+直	5才、本1才組合工 具直+直	5才、本1才組合工 具直+直	33才	—33才	—	
1062	8-9期	直口制頭	東夷系横縫	有	無	円盤振幅法	サカホー→2才→3才→6本1組合 工工具直+直	サカホー→2才→3才→6本1組合 工工具直+直	サカホー→2才→3才→6本1組合 工工具直+直	サカホー→2才→3才→6本1組合 工工具直+直	33才	—33才	—	
1063	7期	直口制頭	柳葉式系有文	無	無	サカホー	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	33才	—33才	—	
1064	7期	直口制頭	小波纹口縫有脣	有	無	サカホー	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	33才	—33才	—	
1065	7期	直口制頭	柳葉式系無文	有	無	サカホー	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直、直+直	33才	—33才	—	
1066	7期	唐	小波纹口縫無文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	33才	—33才	—	
1067	7期	唐	柳葉式系有文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	33才	—33才	—	
1068	7-8期	直口制頭	柳葉式系有文	無	無	円盤振幅法	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	
1069	8期	直口制頭	柳葉式系有文	無	無	サカホー	11才本1組合工 具直+直、直+直、直+直	11才本1組合工 具直+直、直+直、直+直	11才本1組合工 具直+直、直+直、直+直	11才本1組合工 具直+直、直+直、直+直	33才	—33才	—	
1070	8期か	唐	柳葉式系有文	有	無	円盤振幅法	サカホー→5才1組合工 具直+直、直+直、直+直	サカホー→5才1組合工 具直+直、直+直、直+直	サカホー→5才1組合工 具直+直、直+直、直+直	サカホー→5才1組合工 具直+直、直+直、直+直	33才	—33才	—	
1071	6-7期	直口制頭	奈良式横縫型 柳葉式系有文	無	無	サカホー	4才→4本1組合工 具直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直	4才→4本1組合工 具直+直、直+直	33才	—33才	—	
1072	6-7期	唐	柳葉式系無文	有	無	円盤振幅法	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	33才	—33才	—	
1073	9期か	鉢	西日本式	無	無	円盤充填法	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	サカホー→底部平下垂	33才	—33才	—	
1074	7期	直口制頭	柳葉式系無文	有	無	サカホー	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	
1075	7期	唐	柳葉式系無文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	
1076	7-8期	直口制頭	柳葉式系有文	無	無	サカホー	ガ→1才本1組合工 具直+直	ガ→1才本1組合工 具直+直	ガ→1才本1組合工 具直+直	ガ→1才本1組合工 具直+直	33才	—33才	—	
1077	7-8期	直口制頭	柳葉式系有文	在地	無	サカホー	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	33才	—33才	—	
1078	7-8期	直口制頭	柳葉式系有文	無	無	サカホー	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	サカホー→部分的に「丁」	33才	—33才	—	
1079	9期	唐	柳葉式系無文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	
1080	7期	直口制頭	柳葉式系無文	有	無	サカホー	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	
1081	7期	唐	柳葉式系有文	有	無	円盤振幅法	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	サカホー→底部面部分	33才	—33才	—	

